

震災遺児
インタビュー内容

プロフィール

| 本人-1 | | |
|------------------|----------------|---|
| 項 目 | 内 容 | |
| 訪 問 | 面接日 | 平成23年2月7日(月) |
| | 面接対応者 | <input type="radio"/> 本人 <input type="radio"/> インタビュアー <input type="radio"/> インタビュアー補助者 |
| 基本属性 | 性 別 | 男性 |
| | 年齢(調査時) | 31歳 |
| | 保護者との関係 | 子(長男) |
| 被災状況 | 被災場所 | 神戸市東灘区本山中町 |
| | 家屋被害 | 全壊 |
| | 家族の状況 | <input type="radio"/> 両親が1階、3兄弟(本人当時15歳、妹14歳、弟7歳)が2階で就寝中に被災。 <input type="radio"/> 1階部分がつぶれ、父が死亡。 |
| 主 な 発 言 | 進学・就労の状況など | <input type="radio"/> 高校卒業が目標ではあったが、勉強にあまり熱が入らず、なんとなく奨学金をもらいながら通っていた。 <input type="radio"/> 進学、就職において震災遺児であることで困ったことはない。 |
| | 震災遺児への支援で必要なこと | <input type="radio"/> とりあえず住むところが大事。次に食事。 <input type="radio"/> 仮設住宅は希望のところが当たらなかった。 <input type="radio"/> 父が亡くなったが、遺体を保存するドライアイス一つにしても、公的な機関が有事の時に備え、考えられる手助けするしくみを作っておくべきである。 <input type="radio"/> 震災の経験をしゃべる(伝える)ことは、震災を経験して今残っている者の役目である。 |

震災遺児等 インタビュー ①

日時:平成23年2月7日

(被災前の状況)

震災の時、私は15歳で高校1年生でした。被災した場所は神戸市東灘区で、今の住まいもほとんど同じ場所で、番地が違うだけです。家自体は古かったのですが、地震が起きたのは、引っ越して来て半年ぐらい経った頃でした。来て間がないということもあったんですが、隣組のようなものはなかったです。

私は長男で、年子の妹と八つ離れた弟がいます。弟は7歳ぐらいで、小学一、二年生でした。

父は神戸市交通局のバスの運転手をしていました。

(被災状況)

家の被害状況は、よく見かけた、1階がペチャンコになった状態です。全壊でした。地震は早朝でしたから、ぐっすり寝ていました。家がつぶれて気がつきました。その時は、とにかくびっくりしました。何かすべるような感じがしました。家が、多分スツと横にスライドしてつぶれたと思います。子供は3人とも2階で寝ており、親2人は1階で寝ていたの、母は、コタツで寝ていて、その上に何かが落ちたんですが、直に自分に物が落ちてこなかったということで助かったと聞きました。

私や兄弟は、特に大したケガはしませんでした。その時は必死で、何が起こったか分からず、窓を開けると真っ暗でしたが、(2階で寝ていたのに目の前に)道があるので「あれっ」て感じでした。

隣近所みんな誰か死んでいるっていう状態でした。家族全員死んだとか。古い家はつぶれていましたから。

地震当日は、昼頃までは、どうしていたのか(記憶がはっきりしません)。母もまだ埋まったままで、とりあえずは、行く所がなかったの、芦屋の祖父の家まで歩いて行きました。母は近所の人に多分出してもらったと思います。

芦屋に行く途中に、たまたま土建屋している親戚に会ったんです。そこで無理やり連れて行って、その日のうちに父を出してもらったと思うんです。それで、父と母は小学校の、いわゆる安置所みたいな状態になっている所で二日目の晩までおったと思うんです。

(被災直後の生活)

祖父の家にしばらくいて、その後マンションを借りました。芦屋では最初水が出ませんでした、しばらくしたら出ました。比較的恵まれていたかもしれませんが、学校にはいつから行ったのか全然覚えていません。

神戸では父を焼くにも焼けないということで、親戚が来てくれて、「連れて行く」と言って、姫路に持って行ったんです。行く時に、父の友達がたまたま坊さんをしていたので、一応寄って拜んでもらったり、その帰りに学校へ寄ったりしました。

祖父の家にいる時に仮設住宅に入ろうとしたようですが、最初は十分に仮設住宅が建っていなかったの、なかなか入れなかったようです。応募もしましたが当たらず、当たって入れる所は、山の向こうとか、そんなのぼっかりだったと思う。

当時のことを聞かれると、被災直後の三日間ぐらいのことは鮮明に覚えています、その後どうしていたかが全然はつきりしないんです。思い出そうとしても思い出せない。

最初は何が何だかわからない状態でしたが、気持ち落ちついたというか、切り替えられたのは、父を火葬場の釜に入れた時です。そこからは別にもう何も変わってないです。

(遺児となって困ったこと)

当初は、「これはえらいことや」と思いました。実際、その時は、僕もまだ15、6歳なので、「できることは何とかしないといけない」とは思いますが、実際は、大人の立場で何に困っていたかというのは、ちょっと分かりかねます。母親には聞きもしませんでした。

父が亡くなって僕自身はこれといって困ったなという事はなかったんです。父が亡くなって、もともと父方の親戚とはつき合いがそんなにある方ではなかったんですけど、プツリ切れました。それは何でなのかよく分からないんですけど、宗教的なものがからんでいたような話も聞きましたけど、葬式で会ったきりですね。当時の子供には分からないことです。

困ったことで強いて言えば住む所です。最初の三日間は、幾らお金があってもどうにもならなかった。ただ、住む所、食べる、水、とにかく水ですよ。自衛隊の方がタンク引っぱって来ていましたけれど、あれ運ぶのも、若い僕らでも大変でしたからね。あれ、高齢者の方は多分大変だったと思います。

高校もそのまま、通っていた高校に行かせていただきましたが、ある意味、奨学金などいろいろいただいて、残り3年間は何かそれをもろうために行っているような状態になっていた気がします。勉強にもあまり熱が入らなかったです。何か卒業が目的みたいになってしまっていました。勉強に熱が入らないのは、震災を体験したからかどうかは分かりません。とりあえずそこに入りたいということで入った学校ではあったんですが。

進学とか、就職でも、それはもう全然関係なかったです。どっちかというもう学校辞めて働こうかと思っただけです。それでも母に「高校だけは出る」と言われて高校に行っていたという感じです。

現在も生活していくうえで別に困ったことはないです。

当時は、「何をしておしかなかった」とかいうより、もう「死ぬか生きるか」という感じだったんですが、今はもうとりあえず子供が成人になるまでは何とか生きないといけないという感じなんです。

(父への思い)

大人になってから「父親がいてくれたらいいのにな」って思うことは多々あるんです。当時は、思春期の難しい時期を越えて、もうちょっとしたら父から見ても一応大人として扱えるレベルになろうとしていた頃です。たとえば、酒を飲みながらしゃべれるぐらいにはそのうちなつたでしょうし。実際に社会に出て、働くようになったらやっぱり、聞きたかったこともあったかなと今は思います。大人になって、子供もでき、それで初めて父親の気持ちが分かるってところもあります。

生きていたら、ほんまにいっぱい謝らないといけないと思います。

結局、子供は育てられたようにしか育たないと思うんです。だから、最近、「この時にこう思っていたのかな」とか感じることは多々あります。

今のところつまずいてはいないと思いますが、今結婚して子供がいるのが、震災があったからだだと思います。多分、父がいたら一緒に遊びまくっているんじゃないかなと思うところがあるんです。今はそんな気がしますね。もし父が生きていたら、(結婚に対して)「そろそろどないかせなあかんのとちやうか」って言うてたんじゃなかなって思います。

(震災の話題について)

高校時代、友達の中にも震災でいろんな被害を受けた者もいましたが、震災の話はほとんどしませんでした。震災についての話題は、どちらかという、したくないです。本当に同じ目にあつた人間でないと気持ちは分からないと思うんです。

(被災地と被災地外の違いについて)

被災地と被災地外の違いで驚いたのは、甲子園かな。風呂入りに行って何にもなっていないのを見て、普通に「どうなってんねや」と思いました。雰囲気は何も変わってないですよ。生活が全く違うんですよ。今まで通りの生活をしている所とそんなに地域は離れていないのに、その違いがすごく大きいのは驚きました。

(自分の人間形成への影響)

個人的に失うものは大きかったですけど、得たものも大きかったかなと思います。

「いつ死ぬか分からない」と、震災後は考えるようになりました。「人なんか簡単に死んでしまうんだ」と思いました。震災直後と16年たった今でも気持ちは一緒です。それは一貫して、なってしまったものは仕方ないって感じです。

いつ何が起きるか分からない。人生観というほど大それたものではないですが、「今できることは明日しない今する」などと思います。「やらないで後悔するより、やって後悔しろ」みたいなことは周りにも言います。「明日できることは今できるやろう」と。そこが震災を経験して、自分が成長したと感ぜられるところになりますかね。

今、子供がもう一人いて、(この場に連れてきている子より)もうちょっと大きいですが、そいつらには、「勉強しろ」とは言わないんです。「勉強はしな

くてもいいが、何かあつた時に生き残らないとだめだ」というようなことは最近時々言います。何か、こいつらの勉強は極端に言ったら大人になつてからでもできると思うんです。僕も事あるごとによく説教されていたんですが、今思えば何かそのような意味のことを言われていたのかなって思います。ただ、その時はもう「うるさいな」と思っていました。座れと言われて何か言われていたんですけど。その時に言われていたことは全然覚えてなくて、「そんなこと言っていたのかなあ」という感じですが。そうじゃなかったら、地震の時にそんな機転を利かして動けたとは思えないんです。いろいろあつたんですが、よくあんなことしたなつて思います。父の友人がお坊さんをしていて、そこに寄つたというのも、「何で思いついたのかな」と思うんです。

最初の三日間、どうやって食料を確保したかなとか。でも、多分、何か食べていたのは食べていたので。三日間何も食べないでいれないと思うんです。寝てもいなかつたけど食べていたと思うんです。どのようにして食料を確保したかとか、その時の記憶は余りない。でも、サバイバル状態で生き残っているのは事実なんです。

僕自身は今もしっかりしていると思わないんですけど、当時子供にしては冷めていました。今も何か冷めた物の見方をしていることが多いです。もう「どうしていいか分からなくて、パニックになつてしまつて前に進まない」というのはないです。余りオロオロするっていうのはないです。

震災の時も「どうしよう、どうしよう」とかは思つてなかったです。「何をしないといけないかなあ」とずっと考えていました。

きっと、成長しているところはあります。父がもう死んでしまつていっているというのがその場で分かっているんで、それをどうこう言っている場合じゃなく、次どうしたらよいかと考へないといけなかつた。

今考えたら、周りに恵まれたつていうものもあります。すぐに姫路とかから親戚も来てくれたんで。その時に、その人らも機転の効く人らやつたんで、何だかんだ持つてきてもらいました。

(現在の生活)

被災地は現住所から見えるぐらいの所です。そこは今の僕にとっての実家になつていて、そこには母が住んでいます。あの辺は、あんまり変わってないです。つぶれた家は立て直されていますけど。駐車場も増えていますが、昔からある家もそのまま残っている所もあります。

妻は岡本に住んでいたんで、しんどい目はしているけど、「家がつぶれて」とかそんなのはないです。すぐ下の妹は高校を出て、大学からアメリカに行つて、そのまま出づっぱりで住んでいます。帰つても来ないし、会いもしないんで、震災のこととか話しません。結婚はしていないようですが、向こうで食つてるとい感じます。

弟は実家暮らしで、のらりくらりとしています。こちらとも、震災の話は全くしません。兄弟多くてもこんなバラバラななかつて言われるぐらいバラバラ

な兄弟です。

(被災経験の継承について)

今後、私たちが経験したことは、みんな忘れていくでしょう。実際もう忘れていだろうし、近所には、もうでっかいマンションが建ち、また向かいにも今建てているんです。「そんなんでいいのか」とは思いましたけどね。

でも、「忘れさせない」ということが大事です。一人でできることってしれてるんです。こういう機会を作っていただけるのであれば、できるだけしゃべれることはしゃべらないといけないと思います。高齢の方が亡くなったりして、震災を体験された方がだんだん減ってきますから、伝えていくことは、残されたものの役目になるんですかね。

高層マンションに住む人は絶対よそから来た者か、何もえらい目に遭っていない人やと思うんです。あんなえらい目にあっていたら、絶対あんな所には住めないですよ。「何かあったらどうするの」という感じです。つぶれはしないでしょうけど水を20階まで持って上がるのか。

(今後の災害対策への要望)

これからの災害対策への要望としては、本当にみんなが困っている時に、公が助けられるような仕組みを作らないといけないだろうと思うんです。この区役所なんかもうムチャクチャで話にもならなかったんでね。芦屋はまだ何やかんやしてもらえたんですけど。でも、それでも神戸市民だということでも断られることがあったんです。

たとえば、あの時は、人が死んでそのままにされていたんです。冬やったからよかったですけど、夏場やったらもう大変なことになっていますよ。ドライアイス一つにしても、この辺ではもらえなかったです。僕は芦屋でもらいました。

今後は、有事の時に考えられる手だてをできるだけしておかないと、また二の舞になるんじゃないかと思います。

私はずっと、「絶対地震がまたあるぞ」と思っているんです。南海地震とか東南海地震まではなくても、もしかしたら豪雨とかで水が上がってくるかもしれないです。うちはハザードマップにかかっているんです。僕が家におったら、多分何かすると思うんですけど、仕事から夜家を空けることが多いので、その時に嫁、子供がちゃんとできるかなと心配はしています。いろいろ話はしているんですけど、なかなか性格の問題もあり、何かあっても、今ならできないだろうなって、心配はしています。

(自分の将来に対する気持ち)

将来に対しての気持ちとしては前向きです。生き残らないといけないです。こんなに景気の悪い世の中なので、食っていく面でも生き残れないといけないです。

実際、失業率が何%とか言われていますけど、「それやとあんたあかんわ」って思う人いっぱいいますよ。「いい大人でそんなこと言っていたら、そり

や仕事もないでしょう」というケースも見受けられる。自分の子供らがそんなことにならないようにはしないといけないなという思いもあるし、自分も当然食いぶちは何とかしないとけないと思います。

あと、「とりあえず何かできることがあるのではないか」というのはずっと思い続けているんです。でも僕自身、いかんせん何かむちゃくちゃ忙しくてなかなかできないんです。子供が大きくなるに従って、休みの日でも、一日に三つも四つもこなさないといけないものが多いです。

近所にレインボーハウスがあるので、何か手伝えることないかなと思ったんですけど、結構あれもハードル高いんですよ。何か、講習を受けなあかんとかあるみたいです。手伝う程度やったらあるのかもしれないんですけど、忙しい中、中途半端にするのもあれかなと思ったりして、結局それも何もしていません。僕自身は何も関わってはいませんが、弟は一時何やらかんやら行っていました。

プロフィール

| 本人-2 | | |
|------------------|----------------|---|
| 項 目 | 内 容 | |
| 訪 問 | 面接日 | 平成23年2月9日(水) |
| | 面接対応者 | <input type="radio"/> 本人 <input type="radio"/> インタビュアー <input type="radio"/> インタビュアー補助者 |
| 基本属性 | 性 別 | 女性 |
| | 年齢(調査時) | 24歳 |
| | 保護者との関係 | 子 |
| 被災状況 | 被災場所 | 芦屋市茶屋町 |
| | 家屋被害 | 全壊 |
| | 家族の状況 | <input type="radio"/> 両親と本人(当時7歳)の3人がマンションの2階で被災。特に怪我なし。 <input type="radio"/> 避難所生活3か月ほどで父を病気で失う。 |
| 主 な 発 言 | 進学・就労の状況など | <input type="radio"/> 生活していく上でこんな・不便は感じなかったものの、収入の少なさが大きかった。 <input type="radio"/> 大学は、経済的に仕送りとかに頼れないので近くにした。 <input type="radio"/> 男親がいないと真面目に育つのかと一部偏見を持って見られた。当時、少し引け目を感じていたが、高校生になってから自立の意志が芽生えてきた。 |
| | 震災遺児への支援で必要なこと | <input type="radio"/> 親がいないことで進学できない、あるいは将来が不安と思っている子どもに金銭面、精神面で支援してもらいたい。 <input type="radio"/> あしなが育英会や企業の種奨学金はかなり助かった。 <input type="radio"/> 避難所では、主に年頃の女性に対するプライバシー(着替えスペース、洗濯場など)にも考慮してもらいたい。 |

震災遺児等 インタビュー ②

日時:平成23年2月9日

(震災前の生活)

震災が起きた時、私は小学校2年生、7歳でした。父と母と私の3人で、芦屋市の茶屋之町のマンションの2階に住んでいました。最寄りの駅は阪神芦屋駅で、阪神線よりは北なんですけれど、線路沿いです。

父は、結構高齢だったんですけど、はっきり覚えていません。一般の企業に勤めていました。母は48歳でした。

(被害状況)

被害を受けた時は、一緒の部屋で川の字で寝ていました。下から、ドーンとつき上げるような縦揺れで全員飛び起きて、次、横揺れに変わるんですけど、何が何だか分からないまま玄関まで出た、走ったっていうのを覚えています。住んでいたマンションが、2階が1階に、グジャッと全壊になったんです。マンションは4階建てでした。

家族全員その時は助かりました。完全につぶされたわけじゃないので、1階に住んでいた方も何とか助かったんですけど、ドアの形がフニャッとなってしまって、出れないので、窓を割って救出してました。私らの所はドアがちょっと曲がってしまったんですけど、階段か何かで下へ降りました。

その時は地震かどうかも分からない、何があったのか分からずにびっくりしていたという状況です。関西は地震は来ないと言われていた中でそういう準備をしていた人は、本当にごく少数ですね。私のマンションには、懐中電灯その他もろもろ持ってらしたのは1人だけでした。その人が、「これは地震だ」と言ったんで、「地震なんだ」ってやっと分かったような状況でした。住民全員がいるかどうか分かったのは人数確認の時です。マンション内の人間関係ができていたんですね。

ケガとかは特になく、お父さんも体に何か当たったというようなことはないです。直接的に何か落ちてきて、それが原因でというわけでもないです。

火災とかも茶屋之町はなかったんですけど、私の友達が住んでいた津知町は、東灘寄りの方はひどくて、同級生が2名亡くなったんです。

近くに県立芦屋高校があったので、とりあえずそこにみんな身を寄せ合うというか、「行きましょう」ということになりました。その日は食べる物がなくて、誰かが家に戻って、炊飯器の中のご飯を持ってきたりしました。体育館では、避難してきた人で皆寄せ集まって一杯なんで、すし詰めでしたね。余震のため、すぐには戻れないんですけど、家からは様子を見て毛布とか必要なものを持

ち寄ってました。みんなで協力しないといけないので、うちも何かとってくるというふうに、マンションに戻っていたと思うんです。

お父さんの職場には、通信手段とかもないので、連絡もとれないという状況でした。

体育館には、大分長い間いたように思います。仮設住宅に移るまでの間、そこにいました。

(同級生の死)

学校は3週間ぐらいなく、2月に入ってから始まったと思います。小学校も避難所になっていたんで、なかなか授業は進められなかったと思います。

その頃、担任の先生が、クラスメートの無事を確認しないといけないので、一軒一軒探しに来てくれたんです。同級生が亡くなったので、「最後に顔を見に行こう」ということで、最後のお別れに行きました。同級生が亡くなったことを聞いて、やっぱりエエツと思いました。けれども、顔は見せてくれなかったですね。小さな子供には、同級生の亡きがらを見せるのは心理的にストレスを与えるんじゃないかと、先生も配慮されたみたいで。浜風小学校が遺体の安置所になっていたんで、そこまで先生に連れられて行ったんですけど、対面はしませんでした。同級生で来れる子だけ行きました。家が大変で来れない子とかもいました。最初は遺体が安置されていることを知らなかったんで、まずは同級生のおうちに行きました。行っても、もう焼け野原なので。東灘の方は、ほとんど火災で皆さん亡くなったみたいでした。

小学生の時って、自分らの年の子が死ぬということが、想像できないじゃないですか。それが一気に、「私らの年にもそんなことってあるんだ」みたいな一種の何というんですかね、衝撃ですよ、その前日が日曜日だったんですかね、「来週また遊ぼう」みたいなことを言っていたのに。亡くなったのは、友達だったんです。学童保育から一緒だったんです。その友達が亡くなったのは子供心に結構衝撃でした。

(避難所での生活)

それで、仮設住宅に移るまで、体育館から小学校に通うことになったわけです。集団で登校するようになっていました。

避難所では、周りに人が一杯いるので、親も一応安心できるし、自分も寂しくはないです。段ボールが仕切りでやっていたんですよ、ドアを作ったりとかして。男性は夜ちゃんと見回したりして、秩序はできていて、私が避難していた県立芦屋高校の高校生も協力してくれて、配給物資を配るとかしてくれていたんで本当に過ごしやすい環境でした。海外でハリケーンが起こったりしたら、我先に物資を取ろうとしたり、もめたりというような報道はありますが、リーダーシップというか、指導されなくても「子供、女性を先に、体弱い人を先に物資を行

き渡るようにしましょう」という感じでした。二次災害みたいな不安はなかったですね。

母にしても、避難生活の時は、2人だけだけれども周りにたくさん人がいることで支えられた感じがあったのかもしれないですね。同じ年ぐらいの子もやっぱりいたので、あの頃は退屈はしなかったです。老人でちょっと体調が悪そうだったら、声をかけてコミュニケーションがとれる状態だったので、孤立したりとか、それで何か病気になったりとか、そういうことは多分余りなかったと思います。着替えの時とか、プライベートは全然見えますけど、お風呂は精道小学校に自衛隊のお風呂が来ていたので、何とかしていました。

(父の死)

避難所から仮設住宅に移ってすぐに、父親は亡くなってしまったんです。詳しい死因は余り分かっていないんですけども、避難生活が始まってしばらくして、体や足がむくみ始めて。持病で糖尿病があったんです。でも、治療も受けられないですよ、ほっておいたんですね、ケガしている方とか、すごいので大変な方がもちろん優先なので、自分がむくんだぐらいで何とかいうわけにもいなくて。痛みもそんなになかったんでしょうけど、「むくんできたな」というふうなことをお母さんとしゃべったりしているのを聞いていたんです。足をさすったりしてました。糖尿病の薬は服用していたみたいなんですけれど、震災後は多分飲んでなかったと思います。

むくみがひどくなってきて、顔がパンパンになってきたので、さすがに「これはおかしいな」ということで、その時に自衛隊のお医者さまがどこかの避難所に来てらして、「調子が悪い方は診ますよ」というので、診てもらったところ、「これはおかしい」ということで、入院を勧められたんです。それが3月から4月かです。

食べれるだけでありがたいんで、避難生活で食べるものに「ああだこうだ」は言えないんですけども、最初はまず菓子パンと乾パンと、あとはソーセージです。やっぱり栄養状況というのが良くない。食糧が来たら、「ああよかった」って感じだったんで栄養を補えるかといったら、ちょっと疑問です。父は、食事状況が悪かったのかもしれないですけど、急激に体調を崩して、そのまま入院することになりました。

はじめは、「そんな大したことはないんだろうな」と私は思っていました。周りには大変な人、一杯いるので。特に倒れたわけでもないし、すごい痛がっているわけでもないんで、すぐ退院するだろうと思っていました。自衛隊のお医者様にカルテを書いてもらって、滋賀県の近江八幡の病院に入院したんですが、しばらくして意識がなくなっ

って昏睡状態になりました。その頃には電車も復旧してましたので、お見舞いにはできるだけ毎日、お母さんも私も一緒に行きました。さすがに寝たきりになって、意識がもうろうとしている時には、「何でかな」と思いました。病状が進むのが早かったんで、亡くなったのが5月27日なんですよ。危篤状態に陥ったのも急だったので、死に目には会えなかったです。

父の葬儀は滋賀県でやったと思うんですけども、火葬も滋賀県だった気がします。あとは金沢の父の故郷に納骨したんです。

(仮設住宅での生活)

入居した仮設住宅は芦屋市の川西町という所で、野球のグラウンドがあるんですけど、そこに設置されたと思います。建物の数は多かったと思います。

仮設に移る時には、もう父親は入院していて、母と2人で引っ越し作業をして、入居してしばらくして父は亡くなりました。

仮設住宅の入居には、抽選があるんですけども、体が弱い人とか大変な人が先に入っていくので、同じような地区の人がいるとは限らないです。私が入居した仮設住宅は、いろんな所から来た人が住んでいて、顔見知りではない人ばかりなので、最初はどのような人がいるのかなど不安でした。仮設に入ったら、今度は1人でいないといけないので親も不安だったと思います。おもちゃとか、行事はありましたね。

母は「よくここまで来たな」と最近も言っていますけども、当時いきなり大黒柱にならざるを得なかったんで、母はパートで仕事を始めました。それまでは一回保険の販売員か何かをやっていたみたいなんです。母が何とか就職先を見つけて仕事を始めたのは、仮設に行った頃からです。長期のパートタイムというのは、その頃からですね。結構朝早くから夜遅くまで残業があつてやっていたので、私はかぎっ子で育ちました。3年生になって学童も行ってました。

川西の仮設から1回伊勢町の方の仮設に移ったんです。呉川町と伊勢町の間ぐらいに、芦屋温泉があるんですよ。その横に今ハナミズキという老人介護施設ができていますんですけども、当時そこが更地だったので仮設住宅を建ててました。仮設ができてそっちに移り住みました。最初の仮設は、小学校3年生の冬ぐらいまでいたと思うんです。小学校4年生から呉川町の方に移ったはずですよ。

そこも結構規模は大きかったので、また新しい人間関係ですよ。でも、前の茶屋之町と近かったんで、知り合いと会えないことはない。元の所の校区だったので、小学校はもうずっと同じ学校に行っていました。隣近所は変わったかもしれないけれども、友達と遊ぼうと思う範囲ではあったわけです。遊べることは遊べるんですけども、まだがれきが残っているような時は、危ないんですよ、先のとがった木とか釘と

かも出ていますし、だからなるべく外では遊ばないようにはしていました。その時は「敷地内、学校の敷地内や避難所の中で遊びましょう」とは言われていたんですけども、退屈ですよ。

呉川の仮設に行ってから、結構長くて、市営住宅が建てられて、抽選に当たるまでなので、6年生になるぐらいに引っ越しましたので2年ほど生活してました。夏は暑く冬は寒いというプレハブ小屋、でも、住めば都です。お年寄りが多くて、子供は本当に私ともう一人ぐらいだったので、かわいがってはもらったんですけども退屈でした。高齢者の方を優先というのがあったので、そういうことになっていたんでしょうね。

2年間ほど母はパートで、ほとんど毎日行っていました。その影響でかぎっ子で、自由奔放に育ってしまったんです、一人っ子なんです。図書館が近かったので、勝手に呉川町の仮設から行ってました。図書館に行っている間は退屈しなかったですね。放課後、友達なんかとは遊びますしね。

仮設住宅はユニットバスですね、トイレとお風呂が一緒くたになっているので、冬はつらいです。お金はかかるんですけども、お年寄りの方とか、私たちも隣の温泉にお風呂に入りに行っていました。

(市営住宅での生活)

その後、市営住宅に入りました。県営と市営が同じように並んでいるんです。県営との交流は、ないですね。市営住宅では、なかなか交流というのは、ないわけです。でも市営住宅に入って、ちゃんとしたおうちに住めたというので、ちょっとは安心しました。

でも、小学校6年生なので、進学とかもあるし、6年生になって転校するのは面倒くさいようなふうになって、小学校は転校せずにそのまま卒業して、中学校は潮見中学校の方に行きました。市営住宅に入ってからはそのままちょっと遠い所の小学校へバスで通っていました。卒業まではちょっとみんなと違うみたいな状態でしたが、嫌じゃなかったです。

(小学生の頃の自分)

小学生の時は、結構内向的でした。いろいろなことがあって、自分に自信が持てないとか、そんなところもありました。変化にはそんなに敏感になったということはないと思うんですけども、今考えたら結構転居したり環境は変わっているなというふうに思います。子供は結構環境になれるの早いので。急にプライベートのない段ボールハウスです。知らない人と一緒にの所に住むのって、自分の勝手なことは言えない、2畳ぐらいしかスペースなかったですし、3人なんで。何か大変だったんですけど、助け合いという

のかな、昔の大家族とか村みたいなのはありませんでしたね。

(中学校から大学までの暮らし)

中学校は新しい市営住宅に移ってその校区の中学校へ行ってました。母は仕事だけども、2人で助け合っただけで育てられた。母との仲は、反抗期もありましたけれど、最近は落ち着いています。

高校も芦屋市内の芦屋南高校です。今はもうなくなっちゃって、芦屋国際高校に名前が変わったんです。ちょっと外国語教育に特化したみたいな学校です。やっぱり家から離れると経済的にも仕送りとか余り頼れないので、大学も家から通える西宮の大学に行きました。就職も母がいるので、地元から通える所というふうに考えて就職活動をしました。

母もずっと仕事を同じところで続けてたんですが、私が就職してしばらくしてから、退職しました。男親がいないので、収入も他の家庭よりはもちろん少ないんで、大学を出せるかどうかというのももちろん怪しかったんですけども、そこは何とか貯めていただいて、行かせてもらった。

育英資金とかは、あしなが育英会の奨学金をいただいて大学の学費の足しにさせていただいたり、大学へ入ってからも、企業の奨学金をいただきました。企業の奨学金は、大学から「こういうのがありますよ」というのは、みんなにお知らせがあって申し込みました。

(遺児になって困ったこと)

遺児になったことで困ったり、何か差があるとか感じたこととしては、今お父さんがいない家庭というのはそんなに珍しいものではないんですけど、私らの時代は父親がいないっていうのは、マイナスなふうに見られていました。それを自分で引け目に感じてしまったり、授業の時とか、「あなたのお父さんは何しているの」と聞かれて、皆さんの前で「亡くなりました」とは言いにくい感じでした。だから、「会社員です」というふうに偽ったりとかしました。年配の方だと、「父親がいない子というのはちゃんと育つのかしら」というのは、時々言われたりはしていたみたいなんですけどね。ご年配の方からしたら、「母子家庭だから教育も余りいい教育は受けられないんじゃないの」とか、「就職も苦労するんじゃないの」とか言われました。

でも、時代というか、今は違うんで、離婚されたり、死別されたりするご家庭もありますので、そんなことを言うことは余りなくなってきたとは思っています。

実際就職するときには何か困ったことは、特になかったです。特に家族構成とか、余り最近では聞かれないです。「聞いてちゃいけないよ」というふうなことになったみたいで、一切

聞かれませんでした。

生活していく上で、困難とか不便とか感じたことは、収入面が少ないというのが一番ありましたね。中学生の時とか、反抗期ではないんですけども「周りに合わせたい」とか、そういう気持ちがあるんで、「どうしてうち」かと思いました。

(母への思い)

母は、一応行動で示していく方なのかなどは思います。私も「何で私の家は他の家よりも収入が少ないの」とか言いながらも、それで悪の道へ進むとかは、なかったし、何だかんだいって、「親は自分のために働いているんだな」というのはあって、もうそれ以上心配かけるのも、子供としてちょっと、と思ったので。

母は、朝早いですし、夜も遅いときで8時になりますし、そこからご飯作って、後片づけしてくれてたんです。そこでちょっと親思いな子だったら、ご飯作って待っとくとかするはずなんですけれども、私はそこはちょっとね、気が回らなくて。でも、母にとっても、娘がいるということで、励まされるとか、やっぱり「一人前にしないと」「大学行くまではちゃんとしたい」というのはあったみたいです。おばあちゃんとかおじいちゃんとかは、私が生まれたぐらいには亡くなっていたので、親類を頼るといっても余りできなくて。大学が私学だったので、親には苦勞かけたなと思います。何とか仕事も見つかってよかったです。

(現在困っていること)

今現在で、困難とか不便とか感じられることは、特にはないですね。自分の力でお金を稼げるようになって、住む所もあるので困難というのは特段見受けられないんです。

(友達の死の影響)

小学校の頃に同級生が亡くなったせいで、「どうせ人は亡くなるんだ」みたいな考え方が植えつけられたと言うか、斜に構えて見てしまうとか、「みんなどうせ死ぬんだし」みたいな考え方がどこかにあるのかなというの思います。例えば、自分の後輩が高校3年生で病死してしまったんですが、それでみんな衝撃を受けるじゃないですか、18歳で、まだこれからなのに。皆さんすごい泣いてるんですけども、私はどうしても涙が出てこない。どこか遠くから自分が第三者として見てるところがあって、身近な人の死なのに涙が出てこない。自分の父親が他界した時も、全然涙が出てこなくて、どこか自分自身のこととして考えていないみたいなところがある。それは、ひっかかっていますね。「自分に情がないのかな」とか思う時もある

んです。どうしても冷めて見てしまう。人の死に直面したら、普通悲しんだり泣いたりするはずなんですけれど、引いた感じですね。「何でだろう」と。

後輩のお葬式に行くまでは、そこまで意識してなかったんですけども、お葬式に参列して、周りの対応と自分の反応が違うので、感情とか、すごい違うなとか、目の前に後輩の亡きがあるのに、冷めて見てしまっているような自分があるみたいな感じで。「どうせ人は死んじゃうんだみたいな考え方がどこかにあるのかな」と思いました。

小学校2年ぐらいまでは、将来のために勉強も一応楽しみながらやっていたんですけども、「頑張っても人は死んじゃうんだ」みたいな考え方が、自分の中でできて、小学校高学年、中学校、余り自分の将来を考えてなかったですね。高校に入ったぐらいから、「自分の人生、自分で何とかしないと。自分でやるんだ」みたいな考えがやっとなってきて。中学校ぐらいまでは地に足がついていないという感じです。

(震災に対する心の変化)

心理的なダメージへのサポートは、例えば陶芸家の方がワークショップを開いてくれたり、美大の方が絵の具で自由にかいてみようみたいなワークショップを開いてくれたんで、そういう点ではよかったです。子供のケアはすごいしてくれてたと思います。

子供だからみんな周りにいて、プライバシーもなくても平気というのはあったんですが、やっぱり中学校、高校ぐらいの人にとっては、きついところもあったかもしれないかなとは思っています。その時思春期だった人が、今、働き盛りの世代なんで、時々話とか耳にしますけど、受験もいろいろ大変やったというのがありますし。赤ちゃんは夜泣きですね。机もないし、段ボールで何とかやってましたけれども。救援物資でノート、鉛筆、もろもろは助かったので。

母はどこかに相談行ったりとか、カウンセリング受けたりとか、そういうことは特別なかったです。でも、精神的に弱い方だと、うつ病になってしまったりとか、そういうこともあるかもしれないかと、今考えたら思います。家にずっといたら、かえってめいってしまうかもしれないですね。

中学、高校、思春期の頃は、「いろんな人に根掘り葉掘り聞かれるのは嫌」みたいなところがあって、あんまり震災の話は自分で触れられないようにしていたというところもあるんです。でも、高校3年生の時に追悼式のあいさつのお話をいただいて、「今、自分にできることがあるならさせていただきます」みたいな感じでお受けしました。高校3年生で自分の将来のことも考えないといけない時期ですし、高校はいろんな国の人があるような高校だったので。

もともと結構英語教育とかに特化していて、

外国人の方が勉強に来たりするんで、いろんなバックグラウンドのある人がいる高校だったので、多様性があったわけです。自分の父親がいないとか、そういうのも、恥というわけではないし。逆に知ってもらうことで、「こういうふうになくなった」「小学校2年生でまだ未来も一杯あるけれども、急に地震があって命奪われてしまった人もいるんだよ」みたいなことを知ってほしいというのもどこかにあって、話を受けさせていただいたんです。

中学校までは、その地域みんなの同じような家庭状況が普通で、そうじゃない人はマイノリティーみたいな面があったんですけど、高校の3年間は多様性みたいなのがあったんで「目を背けてても始まらない」というか「進歩がない」ということに気づいて、「自分の人生は自分で何とかしていかなきゃ」みたいな、意志みたいなものが出てきたのかもしれないですね。

高校は、その当時の成績で行ける所を選んだというふうな状態だったんですけども、中学校2年生の時に、川崎重工の支援で海外派遣にオーストラリアに2週間ぐらい行って、狭い視野だったのが、ちょっと広がったというのがあります。高校もそうですよね。「おじいちゃんの世代が政治的にいろいろあって」っていうような子もいましたし、「スペインの何々政権のもとで内戦があって」みたいな、スペインの人とかも留学に来ては、何カ月かで帰っていった人もいましたし、それぞれバックグラウンドが違う。

(次の災害に備えて必要なこと)

被害を受けたらやっぱり1人ではやっていけないです。私も、育英会の支援があったからこそ高校も出れたし、大学も出れたので、そういう支援のおかげで今までやってこれたと思っています。奨学金の支援というのは、とても大事だなということは思います。長期的な視点でしていくべきなのかなとは思いますがね。

学生時代、若い頃は、地震の日というのとはりたてて見ないように、追悼式典とかもできるだけ見ないようにして生きてきたんです。今ではそのこのモニュメントの方に足を向けようかなとか、足を向けて、「あれから10何年たったのか」とか、向き合うというか、そういうふうなことができるようになってきたのかなと思います。あとは自分から話せると。被害を受けたから、テレビであの日になったら大々的に放映されるけれど、それは被災者にとっては余り気持ちよくないことだけでも、逆に私たちも世界でいろいろ災害があって、他人事と思っているところもあるんじゃないですか、その辺も改めていかないといけないというふうな気持ちにはなり

ます。

実際に自分は何ができるかという、大したスキルがあるわけでもないですし、人を助けるための技術があるわけでもないし、自分、「何なんだろう」と思う時はありますけれども、自分らが被災者であった時は、世界中から物資が来て、お手紙付きでティディベアとかもらいました。英語なんで分からないですけど、お手紙付きでおもちゃをもらったり、本当に聞いたこともないような国から支援物資が来ていたんです。私らは逆に外国の被災者に十分な支援ができているのかな、とか一瞬思ったりすることはあります。支援を受けた実感があるから同じようにしてあげたらという感じがするんです。

「絶対私らは大丈夫」とか、そういうふうな考え方を持っている人、やっぱりいると思うんです。国内でも全然気にしていない人とかもいると思うんです。でもいつどうなるか分からないので、何かあった時のための連絡網が必要だと思います。あとは周囲の人との関係というか、そういうのを、一度全然関係ないと思っっているような人も考えておいた方がいいんじゃないかな。「全然他人事じゃ済まないことになるかもしれないよ」というのは、個人個人の人に伝えたい。

あとは行政、やっぱり何か起こった時に、すぐに情報発信できるようなのがあったらいいと思います。私らの時は携帯電話も普及してなかったし、やっぱり情報ツールみたいなものを整備できてたらなと思います。iPADとか、手の不自由な人でも声だけで情報を得る効率的なものがみんなに行き渡ったらいいな。そういう情報網と、個人個人がそういうネットワークを築いた方がいい。情報網が必要になるのは、地震が起こった直後とかですよね。

そこからの支援としては、私らの被災の時も、やっぱり行政の支援というのはしっかりしていたと思います。

あとは外国人の方とか、言葉が分からないような人がちゃんと避難できるようにしてあげる必要がある。何が起こったかも分からないし、周りで頼れる人もいない、誰か助けてくれる人もいないみたいな状況だったら、多分しんどいと思います。

(現在の気持ち)

自分はこれから、例えば結婚もするかもしれないですし、子供が生まれるかもしれないですよ。生まれてきた子供も、事件とか天災とか、世界でいろいろなことがあったら、他人事と思うんじゃないで、関心を持つだけでもいいんで、「どうなっているのかな」とか、考える人になってもらいたいなというのはあります。

あとは地元の企業、銀行で働いているので、神戸の経済は、地震があって、長田の靴のように、商売がだめになっちゃったということももちろんありますし、まだまだ課題がいっぱい

あると思うので、そういう所を銀行も融資をしたりすることで盛り上げていったりする必要があるなというのを考えています。船とか、港については、被災した後、こっちが使えないので舞鶴の方に行くじゃないですか、そこから戻ってこないっていうのがあるみたいですね。最近では、観光とか、先端技術みたいなのを誘致しているんですかね。神戸市はそれでどこまで持ち直せるのかなというの思います。

プロフィール

| 保護者-3 | | |
|-------|------------------|---|
| 項 目 | 内 容 | |
| 訪 問 | 面接日 | 平成23年2月3日(木) |
| | 面接対応者 | <input type="radio"/> 保護者:父親 <input type="radio"/> インタビュアー <input type="radio"/> インタビュアー補助者 |
| 基本属性 | 性 別 | 男性 |
| | 年齢(調査時) | 63 |
| | 本人との関係 | 父親 |
| 被災状況 | 被災場所 | 神戸市灘区 |
| | 家屋被害 | 全壊 |
| | 家族の状況 | <input type="radio"/> 母と2人の娘(高校生と中学生)が家屋の下敷き。 <input type="radio"/> 母が死亡。娘2人は無事 <input type="radio"/> 父は仕事で外出中(六甲トンネル内で被災)。 |
| 主な発言 | 遺児の養育など | <input type="radio"/> 当時、2人の娘は中学生と高校生。難しい年頃で父親1人で苦勞した。 <input type="radio"/> 次女が寝る時も消灯できない、トイレ使用時にドアを閉められない等最初はトラウマと気付かなかった。 <input type="radio"/> 2人とも震災の影響からか集中力、持続力がない。 <input type="radio"/> 母親のことは一切語らない。 <input type="radio"/> 上の子は何も言わず逆らわないが、下の子は文句は言うし口答えしていた。 <input type="radio"/> 進路を決めるにも大変苦勞した(やりたいことが二転三転した)。 |
| | 震災遺児への支援で必要なことなど | <input type="radio"/> 対象が、遺児であれ、保護者であれ、気軽に相談に行けるような敷居の高くないところがあればよい。 <input type="radio"/> こころのケアセンターは、最初は入りにくかった。 <input type="radio"/> レインボーハウスは遺児にとってよかった。 |

震災遺児等 インタビュー ③

日時:平成23年2月3日

(震災までの家族の状況)

震災当時は、娘が上が高校3年生で下が中学3年生で、僕はゼネコンの協力会社で神戸市の開発行政の山の土を海へ持って行く現場仕事をしてたんです。震災以前は家のことはすべて家内に任せて、仕事と、休みには自分の趣味だった魚釣りに行って、ほとんど子育ても家計も家内にすべて任せてたんです。今から思えば本当にええかげんな亭主だったと思います。

子供が小さい時は、一緒に遊んだり、魚釣りも連れていったりしていたんですけど、震災直前になると、下の子は高校受験で、上の子も前年の11月末頃、専門学校へ行くように決まっていたので、そんな機会もありませんでした。

僕は男の子が欲しかったものですから、「3人目を産もう」ということで、ちょうど結婚して10年目にできたんですが、その子は妊娠6カ月でへその緒が巻きついて亡くなってしまったんです。それから夫婦の中が溝ができたような感じになってまして、僕はほとんど休日も趣味の方に行っていたし、家内は家内で自分のボランティアとか、いろんな市民活動をしてました。ちょうど震災の年が結婚して20年目だったんです。後半の10年間というのは、お互い夫婦でありながらも夫婦でないような、家庭内別居みたいな形でした。僕は朝早く家を出ますので、僕だけ別の部屋で寝起きてたんで、夫婦間は冷めた状況で過ごしてたんです。3人目の子供を亡くした時に僕が一言言ったことが家内をすごく傷つけたみたいですね。「妊娠中にもうちょっと気をつけておけばよかったのを、横着してしまった」という僕自身の思いもあって、それを言葉に出してしまったんです。それが家内にしたら「自分を責められた」というふうにとったみたいで、ずっと引きずってたんです。

それで、子供の学校の進路のことなどの大事なことも、ほとんど僕に相談せずに、子供と家内とで相談して決めていったような状況で、このままの状態ではいけば、恐らく熟年離婚というか、子供がいなくなって二人きりになると、一緒にやっていけないなという家内の危機感があったんだと思うんです。

前年の秋に、休日にたまたま僕が釣りに行かず家でごろごろしてテレビを見てたら、僕、もともと40代に糖尿があって、家内がそのことを気をつけてくれて、「家でごろごろしてたんではいかん」ということで、新神戸駅から歩いてハーブ園へ行っただけです。自宅はその頃灘区の高羽にあっただけですが、自転車で新神戸駅まで行って、そこから歩いて

布引の滝を見て、ハーブ園まで行って、風の丘の所で座って休憩している時に、家内から老後の話が提案の形で出てきました。

僕はその何か月後に家内が亡くなるのは夢にも思いませんから、老後の話なんて先の話だから、ええかげんに聞いてたんです。その時に家内が、子供が成長して独立したら、家内の実家の広島県の田舎に引っ込んで、僕は趣味の魚釣りを一日やって、畑が実家にありますので、家内は趣味の園芸とかをしながらか、実家はちょっと住めないんで、家を借りて、そこを開放してデイサービスをやりたいと言うんです。

その当時、高齢者の「F」というのを国会議員のGさんがやってまして、家内はその設立時から関わっていました。当時は、まだ介護保険も始まってませんから、ヘルパーという言葉もなく、障害者の方とかを有償ボランティアでお世話をし、時間ボランティアで仕事をすれば利用者の方から交通費のような感じで1時間1,000円ぐらいをもらって、あとは時間の貯金をするんです。1時間働けば1時間貯金をして、自分が必要になったときに、その貯金の中から助けていただくというシステムを土肥さんが考えて、「F」という名前をつけて始めたんです。それをやったのもりですから、「デイサービスみたいなこともやりたい」という計画をそれ以前にも話していました。

「今の状態では年いっただらお互いに気まづくなってしまうので、もう一度やり直したい」という家内の思いがあったみたいで、老後の計画を持ち出してきて。僕にその話がしくて誘ったんだらと思うんですが、子供を亡くしたことで、お遍路、四国の88カ所巡りを二人で行きたいということと、「田舎へ引っ込んで、どれぐらい生きるか分からないけど、死ぬ時は一緒に死ねたらいいな」という約束をそれとなしにしたんです。

僕が55歳で定年退職して、子供が独立する間の5年ぐらいは神戸で頑張っ、それから田舎へ引っ込もうかという話をし、「まだ何年間を神戸で過ごすわけやから、もうちょっと夫婦で話し合っ、けんかをしてもいいから、お互いを理解し合おう」という話を家内がして、僕も「そうやな」ということで約束をして、ハーブ園で家内に食事をおごってもらって帰って来たんです。

そんな感じでしたのが、年明けたらこういう結果になってしまった。

その時に住んでた家が狭かったですから、「もうちょっと広い家に賃貸で変わろうか」という話をしたんです。だけど、「子どもは二人とも受験を控えてるし、進学先が決まらないと、引っ越しすることは無理やろう」ということで、延期したんです。そこで僕が、震災後に自分を責める一つの要因にはなったんですけど、その時に、もうちょっと強引にでも変わっれば、ひよっしたら状況が変わったたかも分からな

いというのが、あります。家を変わずに年が明けて、震災になってしまったんです。

(震災当日の状況)

震災の時も、土・日・月と3連休になってたんですよ。僕は、その時に話したんで、「老後は田舎へ帰って魚釣りするのだったら、ボート免許を持っていれば一人でボートで釣りに行けるな」と思って、3連休を利用して小型船舶の試験を受けに行っていたんです。だから、3日間はほとんど家にいなかったんです。火曜日の17日の朝も、ほとんど子供とも家内とも話をせずに、朝そのまま仕事へ出かけてしまって、地震が起こったという状況なんです。自分自身の身勝手なところがあったということも一つですし、壊れた家に自分がいなかったということも自分を責める要因でもあるので、家内を亡くしたことも、震災後は、すべて自分の中へ閉じ込めてしまって、「子供を安心して暮らせるようにしてやらないかん」という思いが強くて、とにかく子供の衣食住を整えることを先決で考えました。

その日は、車で通勤している途中、六甲トンネルの中で地震が起こったんです。トンネルの中では揺れはそんなに大きくはないんですけど、それでもハンドルをとられるぐらいの揺れで、急ブレーキ踏んで、一瞬トンネルの中の電気が全部消えて、しばらく止まってたんです。すぐに電気が点いたんですけども、ほこりがワッと舞ってました。その以前に、北海道でトンネルの崩壊事故が続きましてしょ。その時には地震なのか、このトンネルも、どっかで壊れたのか分かりませんでした。センターを抜けないとカーブもありますし出口が見えないじゃないですか。朝早いから、そんなに交通量はないんですよ。僕の前に1台、乗用車が走ってて、それもしばらく止まってたんです。道幅が狭いから、1回ではUターンできないので、Uターンしようかどうか迷っていたんですが、前の車が動き出したんで、ついて行ったらトンネルから出ることができました。出た途端に、頭ぐらいの岩が道路上に転がってきて、かなりの地震だったということに気づいて、唐櫃まで降りて公衆電話で家へ電話したんです。そうすると、呼び出し音は鳴ってるんですけども、誰も出てこないということで、胸騒ぎがして。

木津が現場で、いつも花山で同僚を積んで通勤していたので、「とりあえず同僚のどこへ行ってみよう」と思って、花山まで車走らせました。同僚の家は無事だったんですけども、道具や家具がみんな散乱してて、「えらい地震やった」と言っていました。そこも4人家族だったんですけども、全員無事だったんで、「家が心配やから帰るわ」と言って、す

ぐに引き返したんです。その間、そんなに時間は経ってないつもりなんですけども、結構、電話をかけたとか、トンネルの中で瞬間に動いたと自分では思うんですけど、何分間はやっぱり止まってたんでしょうね。その辺の記憶はもう薄れてしまっていて、ないんですけど、戻ってきてトンネルを出ると、もう夜が明けてて薄暗くなってるんです。料金所に人がいなかったのでも、いつも通ってるからチケットを置いて、クルッと回ってパッと視界が開けたら、後で気づいたんですけど、もう全然音がしなかったんですよ。普通なら山は、朝早くても木のざわめきとか、小鳥の鳴き声とか、窓を開ければ聞こえるんですけど、全くしてなかったです。車も上がってこないですからね、全く音がしなかったです。

視界が開けた時に、灘と東灘、芦屋ぐらいまでは見えたと。西の方は山で見えないんですけど、もう4、5カ所ぐらいから煙が上がってました。まだ完全には夜は明けてないですから、空と周りは昔の無声映画のニュースを見ているような感じのグレーで、そこからグレーの煙が上がってました。

道には段差ができたりしてたんですけど、そのまま降りていって、鶴甲あたりに来ると電気が点いてるんですよ。そんなに物が倒れてるとかはなかったんで、「そんなに被害はないのかな」と思って降りて来たんですが、神戸大学を過ぎた頃から電柱が倒れてるし、木も倒れてる。「やっぱり相当被害があるな」と思って、そこをずっと降りて高羽の交差点まで来ました。今、親和女学校ができてるんですけども、自宅はそこを入った所だったんですが、石垣が倒れていたんで、車を止めて走って自宅へ行ったんです。その時には、ご近所の方が表へ出てきて、「何が起こったのか分からない」といった様子で茫然として立ってるんです。本当に腑抜けたような状態の人が、そこらにずっと立っているんです。僕だけが一人走って、自分の家へ行ったんです。自分の家を見て初めて腰が抜けるような感じがしました。自分らが住んでいたのは昔の文化住宅で、下2軒、上2軒の一戸建ての家だったんですけども、1階が完全につぶれてました。そこでしばらく座り込んで茫然としました。

「三人がこの下敷きになってる」とハッと気がついて、「何とか助け出さないかん」と思って、長女の名前を呼んだんです。すると、返事が返ってきたんです。びっくりして声のする方へ行ったら、南の家の屋根の上に、2階に住んでいた神戸大学生と二人で座っていたんです。坂ですから、家が段々に造成されてるんです。だから、南側の家がうちより1段低くなって、全体に北側へ皆、倒れかかってきてました。長女が一番南の方に寝てみたいで、自力で脱出できたんですよ。でも妹とかは、まだ下敷きになってる。僕、仕事が土木作業ですから、防寒服を着てましたので、パジャマで座っていた娘

にそれを着せて、僕の履いてたくつを履かせて「もうすぐにお父さん助けるから、誰でもええから助けを呼びに行つてこい」と言って人を呼びに行かせたんです。近所の人が、ようけウロウロしてたから。

2階に住んでいた神戸大学生がいます、その人の道具を外に出せないと思ったんで、その大学生に「消防署へ助けに呼んできてほしい」と言って行かせて、僕一人で2階の大学生の道具を全部掘り出して、裏の家の方、屋根の方へ放り出して、畳をめくりました。床が昔の家だから、かなり根太が厚いんですね。で、1カ所割れてる所があるんですけど、手ではめくれないんですよ。くぎで打ってあるからね。それを不思議と自分、手でめくってるんです。今から思うと、昔から言う「火事場のばか力」みたいなものが出るんでしょうね、ああいう時には。それをめくって、厚い板を折って、一人入れる所を作って、下の自分たちの住んでた所に降りたんです。

「多分この辺に寝てるだろう」という所を一生懸命掘ったんです。つぶれた道具も重なってますし、壁が重なって壊れてるんですね。壁が昔の壁だから、竹を編んで、土壁を塗ってるんです。それを取ろうと思えば、その竹を一本一本抜いていかないと土がバラバラにならない。バラバラにしてどけて下の道具の壊れた物をどけて、やっと床のどこまでたどりつけたんです。その頃には、近所の仲よくしてもらってた若いご夫婦なんか手伝いに来てくださったんですけども、周り近所でも「助けて」という声一杯してるわけです。隣の奥さんたちも、下で寝てるんで、下敷きになってるわけですよ。そんなんは聞こえてるんだけど、やっぱり自分とこの方が先だから。うちは声かけても、返事も何もしないんですよ。娘の名前を呼んでも、家内の名前呼んでも、返事も何も来ない。2時間、3時間経つと、自衛隊とかマスコミのヘリコプターの音とか、救急車とか、サイレンの音でやかましかったのも事実なんですけども、娘の声は全く聞こえなかった。真冬で布団をかぶって寝て、一瞬で布団を頭からかぶっちゃったんでしょね。そこへ物がかぶさって崩れますから、防音みたいになって、僕の声も届かないし、下の子が「声は出したんだけど、全然聞こえなかったみたい」という状態だったんです。3時間経ち、4時間経ちしても見つからないんです。後から気がついたんですけど、家は土台ごと1メートルぐらい北へずれて、それから家が北向きに、クシャッとつぶれてるんです。そうすると、実際に埋まっていた場所は、僕の感覚で「この辺に寝てるやろうな」という所から、1メートル位ずれた所だったんです。僕は大きな体してますから、すき間に入れる所は限られてる。必死で入れる所を作るのに時間がかかってました。

4時間ぐらい経った時に、神戸大学のラグビーをやってるグループが10人ぐらいで自分たちの学友の安否を気遣って回って来たんです。周りに学生アパートが結構ありましたので。その子たちが「お手伝いしましょうか」と言って声をかけてくれたんです。「まだ二人、生き埋めになってるんだけど、そんなたくさん手伝ってもらっても入れないし、隣も一杯助け呼んでるから、分かれて手伝ってくれるか」って頼んだんです。その中にラグビー部にしては中学生ぐらいの体の小さい子がいて、「僕ならこのすき間に入れますから」と言って、クラブのヘルメットみたいなもんをかぶってたので、中に入ってくれたんです。余震が続いてるから、「危ないから上のもんどけていこうや」と言うてたんですけど、「いや、大丈夫です、入れます」と言って入って、娘と家内の足を見つけてくれたんです。娘の方は「触ったら反応があります」って言ってきて、その子に下から、上にいる僕に「もうちょっと右の物をどけてください」とかいう指示を出してもらったんです。でも、また竹を一本ずつ抜いて、壁の土をどけて、順番にしていけないと物がどけられない。そこから約2時間ぐらいかかって、ようやく娘を引き出しました。

その時は、「もう家内はだめだ」というのを、学生が合図してくれてたんで、娘だけ先に救出して、お姉ちゃんを側につけてA病院へ運びました。すぐ引き返して家内の遺体を引き出して、病院へ運んで、それからまた隣近所の、救出しないといけない所をお手伝いして、夕方暗くなるまでみんなで救出作業をしました。「ほぼ全員助けたなあ」ということで、他の人は小学校に避難して、私は娘を運んで気になってたから、すぐに病院へ帰りました。

病院もそれこそ、ごった返してますからね、ロビーも全部、ケガした人やらで、僕が遺体を運んだ時は、病院の死体安置所に家内入れて三人寝かされてたんです。夕方帰って娘に「先生に診てもらったんか」と聞くと、「まだや」と言うんで、先生に問診と触診で診てもらったら、「まあ大丈夫だと思う」ということでしたが、歩くこともできなかつたし、どこも行く所がないので、入院ということになりました。

入院手続をさせてもらって、すぐに家内の死体安置所へ行ったんだけど、もうそこには遺体がないんですよ。看護婦さんに聞いたら、「遺体が増えてどうしようもないんで、広い部屋に運びました。」ということで、見に行ったら30遺体ぐらい並んでましたね。その時は晩の7時ぐらいでした。

隣には、春に結婚予定だった娘さんとご主人が亡くなって、奥さんだけが助かった方がいました。娘さんの遺体だけは何とか引き出せたんですけど、ご主人の遺体がピアノの下敷きになって、どうすることもできなかつたそうです。娘さんだけ遺体安置施設に運び込んで、そこに

お母さんが、もう普通じゃない状態でおられました。慰めようもないんです。声もかけられずに、手を握り合って、涙を流していました。すぐに病室の方へ帰って、僕らは次女がベッドで寝かせてもらってるその周りで一夜を過ごしました。その間にも、10何時間ぶりに助かったという、3つか4つの子供さんが運び込まれたけど、結局、何も手当てできずに朝方亡くなったりとか、病院の中でもいるんなドラマがありました。

中学3年生になったら、おやじなんて煙たい時期ですし、その直後ですから、僕も家内が亡くなったことは娘には言葉では言えないんです。それでも娘も、家内が亡くなっているのは感じてますから、僕の手を握って、その晩は一睡もすることができなかつたんです。震災の日の晩は、僕の車に積んでいた釣り用のランプを持ってきて、まくら元に照らしていたんですけども、2日目にようやく病院に電気が点いて、「よかった、よかった」と喜んだんです。でも、病院は晩になって寝る時には電気を消さなければいけません。娘は、それが怖くて電気を消せないんです。仕方ないから、病院に「まくら元の電気は点けていいですよ」と言ってもらって、5日ぐらいは僕の手を握ったまま震えて、ウトウトしてるだけで、ほとんど晩も熟睡はしてなかつたです。

(被災直後の行動)

つぶれた家のことも気になるので、見に行つたんです。近所の方は物を取り出していましたけど、僕は全然そういう気も起こらないんです。娘たちはパジャマのままですんで、「とにかく何か娘たちが着るものだけでも」と思ったけど、何も取り出せないんです。仕方ないんで、ご近所の若夫婦の奥さんの物を、「申しわけないけど貸してもらわれへんやろうか」と頼んだら、「いいよ」言って、下着からみな貸してくれて、何とか過ごしました。

警察の検視をしないと遺体も動かせないということで、4日目に検視が終わって、病院で「どうぞご遺体、引き取ってもらっても結構ですよ」言われたんですが、葬儀することもできないし、どうしたらいいか分からなかつたので、大阪の僕の兄に連絡しました。私は、10人兄弟で、戦争で2人亡くしてるんで、8人兄弟の末っ子だったんですが、芦屋とか、尼崎とか、大阪におりました。尼崎の斎場の知り合いに聞いてもらったら、「今すぐは葬儀はできないんですけども、傷むこともないと思うから、遺体は預かっときますよ」と言ってくれたんです。「簡単な葬儀でよければ、2週間ほど待ってもらったら、できると思います」ということで、明るる日に引き取ってもらって、結局、葬儀したのは26日

でした。尼崎の平安祭典という所で、普通なら控室みたいな部屋に簡単な祭壇を組んで、お寺さんに来てもらって、読教してもらって、簡単に終わって、尼崎の火葬場で荼毘に付したんです。

遺骨を病院へ持って帰るわけにはいかないんで、尼崎の親戚の家へ預けて、僕らは病院へ帰ってきたんです。下の娘は最初は全然歩けなくて、車いすでトイレなんかも行かせてたんですけど、その頃になると、歩けるように若干はなつてましたんで、病院も通常の患者さんもおられるし、震災でけがをされた方も大勢おられるし、「できたら退院してほしい」ということだったので、退院しました。

下の娘は、頭から背中、足、全体が圧迫されていて、背中とかほとんどの所が、青ではなくてアザみたいに真っ黒になってました。髪の毛を長く伸ばしてたせいもあると思うんですが、髪の毛が円形脱毛みたいに抜けてました。女の子やから、僕には言わずに、お姉ちゃんに言って、普通にしてたら髪の毛で分からなかつたんですけども、お姉ちゃんが「円形脱毛みたいになっている」と先生に言ったら、「そら7時間も生き埋めになつたストレスで抜けることもあるやろう」ということでした。髪の毛は、何カ月かして元に戻りました。

(住居の変遷)

退院した時に、高羽小学校がすぐ近くだったので、そこに避難しようと思ったんですけども、体育館も教室も、全部避難されてる方で一杯でした。皆さん一人ダンボールで半畳ぐらいのところを囲って避難されてるわけです。先生は「何とか空けてもらいますから」と言ってくれたんですけども、その状況で空けてもらうのは申しわけないんで、大阪の三国の、僕の兄貴の家に避難させてもらったんです。

そしたら、大阪は普通の生活してるんです。1月28日やったかな。大阪の人は大阪のせかせかしい生活をしてて、僕ら三人が茫然としてるような状況でした。子供たちは借りたままの服で着の身着のままですから、着替えもないので、まず子供たちに着る物をそろえてやらないかんと思って、兄貴にちょっとお金を融通してもらって、近所のスーパーに買い物に行つたんですけど、普通の生活をしてるので本当にびっくりしました。

子供の入院していたA病院では、まともな検査も全然受けてないんで、大阪へ行って病院で二人とも検査をしてもらったんですが、どこも異常はなかつたです。

兄貴の所に1週間ほどいさせてもらったんですが、大阪にいと、全く神戸の情報が入ってこないんです。もちろん、中学校は避難所もなってるし、授業なんてできる状況ではないとは思いますが、下の子は高校受験がありますから、情報が入ってこないんで、どうしてい

いか分からない。電話もなかなか通じなかったですからね。「こんなことしとったらあかん」ということで、何とか神戸へ帰る方法はないかなと思っていたら、たまたま下の子の同じクラスの、同じ高校を受験する仲のいい友達のお母さんが「うちで預かりますから、一緒にうちの子と受験勉強したらどうですか」と言ってくださったんです。娘に聞いたら、「そうする」ということだったので、下の子を引き取ってもらいました。その家は、家具なんかは壊れたんですけど、家は無事で、すぐに住めるようになってたんです。

僕と長女は、別の兄貴の子供が多聞の団地にいたもんで、そちらにお世話になりました。そこは奥さんの出身が沖縄で、震災の年の5月に初めての子供を出産する予定で正月に沖縄に帰っていたんです。それで地震が起こったもんですから、「こっち帰って来ても難しいから、そちらで産め」ということになって、その団地が空いてるから「使っていいよ」ということで使わせてもらったんです。僕はゼネコンの協力会社に勤めてましたので、「がれきの撤去の仕事があるので、会社へ出てきてほしい」ということになったんで、垂水から会社に通うということになりました。垂水には2月6日ぐらいに引っ越しました。

垂水で4月まで住んでいたんですが、下の子は何か希望の高校進学できるようになって、垂水から通ったんです。だけど、朝一番の市バスに乗って舞子駅へ行って、舞子駅からJRに乗って、その当時、灘駅までJRが通じたのかな、そこから、また代替バスで住吉駅まで行かないといけない。そこから歩いて学校へ行くということで、それを1週間ほど続けたんですが、「よう通わん」と言って音を上げてしまっただけ。「朝一番のバスに乗っても学校は遅刻や、何とかしてくれ」と言うので、急遽また学校へ通える所に家を探すことになりました。

応急仮設住宅も、灘区とか東灘区の所を5回申し込んだんですが、どれも当たらずで、最終的には「鹿の子台なら空いてる」ということでした。鹿の子台へ行っても高校には通うことができないんで、自力で家を探したんですが、不動産屋さんに飛び込んで相手してもらえなかったです。「震災で無事な所は、もう人がみな入ってしまったるし、壊れた所は修理するか、建て直すかしないと入れない」と言われて、あちこちツテを頼って探したんです。たまたま、ずっと通ってた家の近所の散髪屋さんが仮設で散髪を営業しますということで、僕も2カ月も髪の毛がボウボウに伸びてましたので、「散髪でもしようか」と思って行って、「大変やったな」というような世間話をしていると、「自分とこの娘がすぐ近くでマンション借りてるけど、部屋ようけ空いてるよ」と言う話がありました。

不動産屋に聞いてもらったら、空いてるんだけど、そこも壁なんかは道具で当たって傷がついたりとか、水道が破裂して直す必要があるということで、今すぐには入れない。「何とか今すぐ入れるようなとこないやろうか」と聞いたら、「1部屋だけあるんだけど、ちょっと値段が高いですよ。」ということでした。それも仕方がないなと思いました。阪神電車の石屋川の車庫が壊れた、線路の北側にある、マンションで、比較的新しくて無事に残ってたんです。そこからなら歩いてても下の娘の学校まで10分もあれば行けるし、娘も「ここならええ」ということでしたので、そこに入ったんです。

最初に見た、散髪屋さんのお嬢さんが入ってるマンションの修理ができたなら、そっちへ変わるつもりでした。そこの方が家賃が安いし、前に住んでた家の近くで、友達もいるんで、空いたらそっちへ変わるという条件で移ったんです。ところが阪神電車の車庫が、突貫工事で24時間工事してるんです。音とか、ほこりとかがすごいですよ。それでも「辛抱せなしゃあない」って言って、生活していたんです。女の子だから娘とは別の部屋で寝てましたので、その時は僕も、娘がトラウマとかPTSDで、夜中に真から眠れないという状況になっていることに全然気がつかないままだったんです。

2ヶ月ほどしたら最初に見た所が、「変われますよ」と言ってくれたんで、娘に聞いたら「そっちへ変わりたい」と言うんで、そちらに引っ越して、そこで1年ほど生活しました。

でも、それもまた引っ越すことになるんです。というのは、マンションの隣が結構大きなお宅だったんですが、基礎がやられてて、建て替えるということで、解体工事が始まったんですよ。そしたら建設機械が入ってくるでしょ。機会が動くたびにマンションが震度3とか4ぐらい揺れるんです。僕は朝早く出て晩しか帰ってこないから、全然気がつかないんだけど、娘は学校から帰って来て勉強しようと思ったら揺れるから、怖くて家にいられない。解体工事が済んで、建て替えのための基礎工事が済んで土を掘り返していたんですが、その際に自分たちのマンションの基礎が見えたんです。基礎にザーッとクラックが入って割れているんです。だから機械が動くたびにこちらのマンションが揺れているんですよ。「また震度5や6の余震があっても不思議じゃない」と言われていた時なので、「こんな所において、また被害があつたら、もうそれこそ取り返しがつかない」ということで、急遽また不動産屋に行き、「とにかく変わりたいんだけど」と言ったんです。

不動産屋では、「もう賃貸は高いし、空きはないですよ」と言われました。「中古のマンションやったら、家賃以下でローン払うていけるから、買ったらどうですか」と勧められたので、銀行へ行って相談すると、その時はまだ48歳でしたから、僕の年収と年齢では、2,0

00万円の20年ぐらいのローンなら組める。2,000万円を借りて手持ちのお金と足して買えるような所を不動産屋に聞いたら、2,3カ所あって、ようやく今住んでる所に変わることになりました。その当時は、子供がとにかく安心して住める状況にしてやらないかんという僕の思いが強くて、そこへ引っ越ししました。

今住んでいるマンションは、若干壁がペケ印の被害はあったようなんですけども、それも補修して大丈夫だということでした。耐震の制度上の設計にはなっていないんですけども、「まあ大丈夫だろう」という不動産屋の専門家の意見を信用して、そこへ変わって、そこからまた新しい生活が始まりました。

(子供達のトラウマ)

ここ2、3年は治まってきたんですけど、それまでは下の娘は寝る時も電気を消せないですし、大きな娘なんですけど、家でトイレを使う時にも、ドアを開けとかないと使えないという状況でした。

後で気がつくんですけども、その高校3年間は、僕は仕事柄、朝早く出かけるし、お姉ちゃんは専門学校へ出かけますから、家に残るのが下の娘一人なんです。熟睡できないから、不眠のようなものが続いている、集中して眠れないんです。だから、朝起きれないんですよ。僕が現場や会社から携帯電話で電話して、遅刻しないように起こすんですけど、すぐには起きなくて、結局遅刻して。でも学校には休まずに行っていました。一人で家にいるのは怖いんです。学校へ行けば友達が一人居るでしょう。気も紛れるということで、遅刻しても学校には行っていたんです。

僕は最初、それがトラウマとか、PTSDでそうなってるということに気がつかなくて、「震災に負けていたんでは、この先あかんやろう」というので、割と下の子には厳しくしたんです。家のしつけも、「自分が母親がわりにならな」という思いで厳しくしました。家のことも、できもんことを必死になってやって。仕事が終わったらサッと帰って、食事の用意したり、家の用事をしたりしたんです。上のお姉ちゃんも手伝ってくれたりしたんですけど、上の方は、逆に今度は、今もまだそうなんですけども、震災のことも母親のことも一切口に出さないで自分の中に閉じ込めてしまっているんです。自分が一人、逃げ出したという、責任みたいなものを感じたり、自分が母親を殺したような思いを持ったりするのがあるんだと思うんですけども、一切口に出さないです。「自分が母親代わりになって妹の面倒を見ないかん」というような思いを抱いて、今もやってくれてるんです。

震災の時は、家が狭かったもんですから、僕が別の部屋を一つとってしまってたんで、

お姉ちゃんとお母さんと下の娘とは、親子三人がいつも一緒に川の字になって寝てたんです。たまたま家内が、多分真ん中に寝て、両方に娘が寝てたんでしょうね。救出した時には、もう7時間以上経ってましたから、若干、家内の体の厚みと次女の厚みが違うので、家内が乗っかっている物を、死後硬直で支えてたんでしょうね。先生は「内臓も破裂しているし、肋骨もほとんど折れている状況だから即死に近かったでしょう」と言ってくれたんですけども、家内の形相が、般若の面、ああいう形相だったんです。その顔を見た時に、僕の中で、バーッと何か凍りつくような感じで、「本当に申しわけない」という気持ちになりました。このことは、去年、NHKの番組で取材を受けた時に初めて言ったんですけど、それまでは僕の心の中にずっとしまっていたんです。

お姉ちゃんは、「一緒に並んで寝てたのに一人助かった」という気持ちもあって、そういうのを閉じ込めちゃったと思うんです。

性格的にその感情をパッと出せるタイプの子ではないから余計なんだろうけども、耐えてるといのが分かりますので、「何とか吐き出すことができる状況を作ってやらないかん」と思って、いろんな所へ相談に行ったりしました。

真珠貝に真珠の核として入れるプラスチックの玉は、真珠貝にとっては異物ですよ、でも、真珠貝はそれを異物とせず、自分の中で悪さをしないように優しく包み込んで、自分が気がつかないうちに真珠という宝石を作るじゃないですか。ある先生から、「人もそういうタイプの人もありますよ。だから、上の娘さんにとって、お母さんを亡くしたことは本当につらい、自分の中で異物だろうけども、それを吐き出すことができなくても、大事に大事にして、いつかはきっとそれを克服できるようになりますよ」と教えていただいて、それで救われたようなところがあるんです。だから、すごいその先生には感謝してるんです。その人は針の先生なんですよ。

僕、神戸空港の埋め立てが始まる時に、8カ月くらい仕事が空いた時があるんです。その時は、僕らは契約社員みたいになってますんで、失業保険をもらって自宅待機していたんです。その時に介護保険が始まって、ある人から勧められてホームヘルパーの養成学校の授業を受けたんです。

僕は家にいる時は、テレビつけているんですけど、画面が頭に入っていないんです。悪い方、悪い方ばかり考えるんです。娘のことも、自分のことも。

その時は、下の娘は高校を出て岡山の大学へ行って、僕と長女だけだったんです。長女はもう専門学校を卒業して社会人になってましたから、ちょっと肩の荷はおりてるんですけども、家で一人でテレビ見てしてても、うつ状態です

よ。不安ばかりで、「仕事が本当に始まるんだらうか」とか、「この先どうしたら自分は生きていけるんやろうか」とか、「娘が岡山へ一人、大学には行ってるけど、どないやろうか」とかね、そういうことばかりが頭にあったもんだから、それを心配して知り合いが、ヘルパーの講座を自分が受けて「よかったよ」と言うんで、僕も受けたんです。

そこで「こんな世界があるんや」と思うことがありました。要するに、「尊厳ある死を迎えようと思ったら、尊厳ある生き方をしておかないとだめだ」というようなことを習って、自分が今そういう状況で生きてるのかな、という気づきがあったんです。

今後の、子供のこともそうなんですけども、自分自身のことを考えて、またいろいろ悩みが出てきて、「自分の老後はどうなるんや」と。老後の備えなんか全然できてないですからね。生活再建でローン抱えてますから、老後のための蓄えもない。で、今もう年金もらって生活してるんですけども、年金もその当時、社会保険庁へ行って計算してもらったら、「こんだけしかない」というのが分かるでしょ。「これじゃあ生活もできないし」というような不安がいっぱい募ってきて。経済的な不安が大きかったですね。

ヘルパーの資格は取ったんですけど、神戸空港の埋め立て工事が始まったので、また元の仕事に就けたんです。せっかく資格を取ったので、これを何か有効に使いたいと思って、その養成学校の先生に聞いたら、「ボランティアをしたら」と勧められたので、区役所の福祉課へ行って相談して紹介してもらって、老人ホームへ、土曜日のデイサービスのボランティアに行かせてもらったんです。そこで、たまたま針の先生がおられて、僕を見て、何か悩んでる、そういう背中だったみたいです。それで声をかけてくださって、「実はこうこうなんや」とって言うと、いろいろ相談に乗ってくださって、そういうアドバイスをくださったんですよ。「なるほど、そういうこともあるのかな」というのがあってね。お姉ちゃんも、ふだんの生活の中ではね、元気にしてくれてるんで、「そんなに心配することもないのかな」というふうに、「ちょっと一安心」というか、ちょっと救われた感じでした。

ただ、娘二人に共通しているのは、集中力が低いということです。何かをするにしても、忍耐力がないというか、続かないんです。すぐにしんどくなってしまうというのか、注意力が散漫になるんです。例えば、食事の後片づけに食器を洗うと、食器を落としてしょっちゅう割るんですよ。僕もたまには割ることもありますけど、そんなに割ることはない。本当に、うちの家にはそろいの食器がないんです。皆ばらばらです。全部割ってしまう。

二人ともそうなんです。

ある先生に聞いたら、「それは確かにあるんですよ。逆に、ストレスを解消するのに、割ってもいいような食器、安い食器を置いてあげてください。自分から割ってもいいじゃないですか。それである程度、ストレスを解消できることもあるんですよ」と言われて、「ああ、なるほどな」と思ったんです。本人は、ストレス解消のために割ってるわけではない。注意力がやっぱり散漫なんです。洗っても、やっぱり地震の方に頭が行ってるんです。「今、地震が起これたら自分はどうしたらいいのか」とか、そういうことばかり気にしてるわけです。ようやく最近ちょっとそれがましになりましたけど、震災直後から7、8年ぐらいいまでは、ずっとそんなことがありました。

(下の娘の成長)

下の娘は、高校時代苦労したけれども、いい友達に恵まれて、友達が家へ一緒に来てくれたりとか、学校帰りに寄ってくれたりとかしてくれました。僕が帰るまで一人でおることなしに、友達の家へ行って過ごしてしたりして、一人にしないようにしてくれました。それで助かりましたね。友達がいてくれたおかげで、本人も救われたし、僕も救われた。そうはいつでも、僕自身はその当時はまだ、「何とか生き延びたい」という思いがある。次女は、ふだんの生活の中で甘えて育て、家事が何もできないんです。僕がやらないかんでしょ。すると、衝突するわけですよ。

上の娘よりも下の娘と衝突することが多かったです。お姉ちゃんは何も言わないし、黙ってる方ですから、僕が頼めば逆らうことはしないし、頼んだことはしてくる。下の方は文句は言うし、口答えはする。

次女は、高校は割と進学校でしたんで、国立なら神戸大学とか阪大とか、京大とかを狙ったり、私立でしたら、関関同立を狙って、3年の夏までは友達同士で塾にも行ってたんです。中学校で入学式に入学生総代であいさつをしたぐらいの、成績もそれなりにできた子で、中学校も10番目ぐらいに入ってた子供だったんで、高校も公立の進学校に行かせてもらって、そういう大学を目指して勉強してたんですが、高校3年の夏になって、模擬テストをやったら、やっぱり集中力がなくて、晩に眠れてないんで、ザッと成績が落ちていったんです。学校の成績のことは、僕には一切言わないんです。僕も聞いてやると「かわいそうや」というのがあるんで、余り聞かなくて、本人に任せていたんですけど、本人は成績が落ちているのが自分で分かりますよね。それで、友達と一緒に大学は無理だというのが分かったんで、3年の夏になって急遽、美術系の大学へ行きたいと言い出したんです。もともと絵を描くことが好きで、小学校、中学校でも代表でポスターに入展したり、

中国の子供たちと絵の交換の何かに選ばれたりとかしてたんです。「今からそんなことで行けるのか」と言ったんです。美大の受験用の絵の塾というのがあるんだそうですが、自分のクラスで、あと二人、美大を目指してる生徒さんがおられて、その子たちとも仲よくしてたから、その子たちに「自分はもうこういう成績だし、美術の方へ行きたい」って相談したら、「自分たちが行っている塾へ一緒に行こか」ということになって、夏休みにそこの塾に変わって、それから必死で頑張ったんです。

美大も9学部、7校ぐらいかな、あるんです。東京とか、名古屋とか、仙台とか受けて、唯一通ったのがB大学の美術科なんです。東京の多摩美術が補欠だったんです。友達二人は京都芸大に通ったんで、うちの一人が滑って挫折感を味わって、何としてでもその東京の多摩へ行きたいんだと言って頑張ったんだけど、補欠の順番を学校に聞いたら、「ギリギリのところだ」と言われたので、とりあえず岡山の大学に入学手続きしとかなないと行けなくなっちゃうから、「入学手続きだけしとこか」と言って手続きしたんです。結局、多摩はだめで、僕は「1年浪人して京都芸大だったら行ってもいい」と言ったんだけど、次女は「岡山の方がいい」と言って、そちらに進学しました。後で本人が言ってましたが、僕から逃げたいというのが一つあったみたいです。高校3年間、ふだんの生活の中でもそうだし、大学を受験を変わるといふところもそうだし、いろんなことで僕と葛藤があったもんですから。

それで、岡山に下宿させて、二重生活になったので、大変でした。その時に、あしなが育英会の授業料貸与を受けたんです。アパートを借りて、生活費を送らないかんからね。授業料は借った奨学金で何とかいけても、美大ですから、授業料以外の材料費とか何かがいっぱい要るんですよ。本人も「アルバイトをしながら頑張る」って言うんだけど、女の子やからね、生活費稼ぐようなアルバイトできないですから、こっちから送らないといけない。4年間、金額にしたら1,000万以上の金が別に要りましたからね。

美術系の大学に行ったけど、デザイナーになるのには厳しいじゃないですか。だから4年の前期まで受けたところで進路を迷って、「とりあえず休学したい」と言い出して、まともめたんです。「何がしたいんや」と聞いたら、これも震災の影響だと思ってるんですが、「心理学を勉強したい」って言うんです。「じゃあ、心理学勉強するんだったら、どうしたらいいんや」と聞くと、自分でインターネットで調べてました。国公立大学からは国公立大学へは編入ができないんです。大学院なら行けるんでしょうけど。私大になると、

やっぱりお金がかかる。一からまたでしょ。「悪いけども、会社もこういう状況になってるし、多分神戸空港が4年か5年で工事が終わってしまったら、あとは仕事がないんで、お父さんはそんなに負担はできないよ。」と言ったんです。自分で負担して行ける所を探しても、ないですよ。

「じゃあ、心理学をやめるわ」と言って、次に目標にしたのが報道カメラマン。デザインの方でカメラの授業もあって、カメラにも若干触れるんで。「報道カメラマン言うても、素人にはなれんのやで」と言って、また調べたら、やっぱりそれもお金がかかるんです。専門学校へ行こうと思ったら、心理学に要るぐらいのお金がかかるんです。

僕は「子供のケアのために何か勉強になったらいいな」と思って、深江にあるあしなが育英会のレインボーハウスでファシリテーターの養成の講座を受けたんです。アメリカの有名な施設の講師が日本に来て教えるということで、通訳として僕と同じ名字のCさんという方が来られてたんです。その方は、関学を出て、結婚されて、すぐに親子でアメリカへ移住されて、アメリカで日本の観光客専門の通訳とか、観光案内するエージェントを長いことされている人でした。その時には、そういう仕事は引退されて、あしなが育英会の留学生を自宅の部屋に下宿させて、アメリカの専門のケア施設で勉強する支援をしていたんです。たまたま「僕と同じ名前だから」というので、職員さんに紹介してもらって、いろんな話をしたところ、Cさんのご両親が芦屋に住んでられて、震災後日本へ帰ってきた時に、友達から「同じ名字で親しくしてた人の奥さんが亡くなったんですよ」という話を聞いたことを、ふと思い出されたんです。確認をとったら家内に間違いはないということでした。その方の関学の同級生で、西宮に住んでいる女性の友達が、無農薬野菜とかの共同購入の世話役をされて、家内がたまたまその人と一緒にグループで活動してたんですよ。「変なところでつながってるな」って話して、「娘が悩んでる」と言ったら、「一遍、アメリカへ来させたら」と言ってくれたんです。娘とは面識がなかったんですが、「お母さんとのつながりもある人なんだ」と話したら、娘も「行く」と言うので、お世話になったんです。ちょうど9:11の事件の年です。アメリカまで飛行機代2万円でいけるんですよ。「(テロは)大丈夫かな」と思ったんですけど、「1回そういう事件が起こったら、アメリカの飛行機会社も徹底して調べるから大丈夫やで」とCさんが言ってくれたんで、「じゃあ行かそうか」と決心しました。オークランドに住んでおられるんですけど、アメリカの施設との関係で活動してるから、ケアの仕方というのを知ってるんですよ。「好きな所に行って来なさい。その代わり、帰って来て夕食が済んだら、1日あったことを報告し

なさい」と、毎日娘を自由にさせたんです。それを2週間繰り返しているうちに、本人が落ちついてきた。「自分が今一番何がしたいか」ということを、よく考える。Cさんには、「震災も何も関係なく、続けてできること、自分が続けてやりたいことを見つけなさい」というふうに言ってもらった。娘は、帰って来ていろいろ自分で探してみたいね。

これも事後報告で僕のとこへ言ってくるんですけど、「やっぱり自分は歌が好きや」ということが分かって、「歌を勉強したい」ということになった。僕は「もう援助はできない」と言っているから、「援助なしで勉強できる方法はないか」というのをインターネットで調べて、店を手伝いながらジャズの勉強ができる、大阪のライブハウスみたいな所を探してきて、行くことに決めてから僕のとこに言ってきた。

家内は学生時代からずっとブラスバンドやオーケストラでフルートをやって、僕と結婚してアパートに住んでる時、休日に吹いてくれたんです。それがあんまり大きな音で、僕は「これはちょっとアパートやからご近所に迷惑やから、やめとけ」というて怒ったんです。それから一切、僕の前ではフルートを吹かなくなった。でも、僕は全然知らなかったんですけども、子供が小さい頃、僕がいない時に、フルートで音楽を、多分、ポピュラーなクラシックの曲を吹いて、子供に「どういう感じを受けたか」ということを質問したり、「この曲はだれが作って、どういう状況の音楽や」ということを説明して、そういう教育をしていたみたいなんです。そんな影響があって、下の子も、小さい時から鼻うたで、歌を歌ってたんです。

そうになったら反対することもできなくて、「とにかく、そういうのもやるのはいいけど、それを仕事にするというたら、すごい厳しい世界だから、よっぽど根性据えてやらんとできんよ。今までみたいにフラフラしたような考えでやるんやったらやめときなさい。やるんなら、一流を目指してやらないかん。お父さんは、応援はするけど援助はできないよ」と言ったんです。「こういうような世界は水商売だから、やめといた方がいいと思うけどな」とも言ったんだけど、本人はもう決めてるからね。反対しても行くのは分かってましたから。

「とにかく大学だけは卒業してしまいなさい。それから歌の勉強したらいいから」と言っただけで、4年の前期まで行ってたので、もうほとんど単位も終わってるし、美大だから卒業制作とか論文とかあるんですけど、もう1年行かせて、その後は本人がやってるんです。

下の娘はそんな状況で自分の好きなことをやって、もう5年、6年になるんですかね。今はピアノラウンジみたいな所で契約して、

歌ってはいるみたいですけど、それで生活できるような収入ではないですからね。今も、先ほど言った家内がやってたFのホームヘルパーを昼間やっています。

娘も何とか頑張ってはくれてるけど、ただ、歌の方の勉強でもね、持続できなくて、結局、中途半端になってしまうんです。本当なら週に何回か行かないかんとところでも、つつい先延ばしになって、行きにくくなってやめてしまうとか、そういうことがあるんです。僕はお姉ちゃんから聞くんですけどよ。本人は言わないからね。灘のボイストレーナーの先生の所へ行行ってたって、また変わったとこへ行ってるんです。普通ならある程度は自分が納得するまで行くじゃないですか。ところが、この間そう言ってたかなと思ったら、もう別な所へ行ってるのかという状態なんです。結局、自分でその進路を絶ってしまってる。その辺はやっぱりどうしても、性格なのか、震災の影響なのか、辛抱というのか、持続力とか、持久力とか、その辺がちょっとないのかなというのがあります。

「ここはちょっと違ったから、ちょっと他も行ってみよか」という、目的とか動機があるかもしれないですけどね。そこの所の考えを聞くんですけど、ブイと怒って、「要らんこと聞くな」というような感じでね、相手にしないですからね。

本当に難しい。特に、女の子というのは。

(上の子供の生活ぶり)

お姉ちゃんの方は、兵庫工業高校のデザイン科を出て、専門学校でインテリアデザインを勉強したもんですから、デザインをやりたいということでその方面に就職しました。会社も2、3変わりましたがね、まあ落ちついて、設計の図面をCADで描くような仕事をしています。

(娘たちの結婚について)

上の子は今年で35歳になるのかな。下は32歳でしょ。なかなか口に出しては言えないけど、僕は二人とも結婚してほしいなと思うんです。でも、やっぱり家庭を持つのは怖いんでしょうね。家庭持って子供を作っても、「自分みたいな寂しい思いをさせるのは怖い」というか、「かわいそう」というか、それがやっぱりひっかかっているのかもしれないし、僕のことも気になっているのかもしれない。

震災後は、「家族というのはやっぱり大事なやな」ということを僕自身も思っていますし、子供たちもそれは感じてと思うんで、その辺は大事にするでしょうけど、ただ、「子供に自分らのような思いをさせたくない」というのが、どっかにあるのかもしれない。

上の子が27、8歳ぐらいまでは、僕の兄弟なんか写真を持ってきて勧めよったけど、最近はとんとないです。

(子供に対する今の気持ち)

今思えば、震災の後遺症みたいなものが僕には理解できてなかったんです。震災後にそういうことが言われ出したけど、娘がまさかそういう状況になってるとは思ってなかったですから、「悪いことしたな」と思っているんです。

やっぱり7時間生き埋めになって、即死に近いっていても、たぶん何分間かは母親の断末魔を側で聞いているわけですからね。その後、自分の死との闘いでしょ。「自分も母親と同じように、このまま死んでしまうんじゃないか」という恐怖心みたいな思いが、僕には全然分からなかった。

僕は、最初は家内の死を無駄死やとは思いたくないというのがあって、親戚なんかが来たら、「子供たちを守って死んでくれたんや」ということを、みんなに言っていたんです。それが逆に子供を責めてたんです。子供は、「自分たちを守るためにお母さんは亡くなった」というふうにとらえて自分を責めるわけです。僕は「母親の死は無駄じゃなかったんだ」ということを自分で思いたい気持ちがどっかにあるから、子供たちの気持ちに気づかなかったんです。ある時、娘が大学へ行っている間に部屋を片づけてた時に日記を見て、「しもた」と思ったんです。下の子が日記にそういうことを書いてあるんですよ。

ふだんなら何でもない、ちょっとしたことなんですけど、子供たちにとってはそれが負担になったり、傷に塩を塗るようなことをしてたとか、そういうことがいっぱいあるんですよ。

(相談機関の必要性)

今でもそうなんですけど、こういう状況の時に、敷居が高くなく手軽に相談できる機関とかがあればいいと思うんです。県立こころのケアセンターも、震災後8、9年経って、ボランティアで関わるようになって初めて知ったんです。それ以前に、震災直後にそういう所で相談しながら子供と生活ができたなら、また違ったんじゃないかなという思いはあるんです。本を見たり、講演を聞きに行ったり、必死でやりましたけど、結局、具体的な方法が分からないんです。

ヘルパーの講座を受けに行ったりとか、自分でできることはいろいろしたけども、結局それは自分自身の癒しにはつなげてたみたいなんですけど、子供には役に立たなかったかもしれないです。

子供は誰かに相談したかったと思うんです。下の子は自分で心療内科へかかったりしてます。お姉ちゃんは一切分からないです。言わないですし、そういう証拠みたいなものも残さないので、親に気づかれないようにやっていますから。それとなしに、雰囲気でお

かります。「今こういうふうで悩んで、どっかへ相談に行ってるんやな」という感じはあるんです。

だから、気がねなく相談に行ける所があれば、違ってんじゃないかなと思います。県立こころのケアセンターもそうなんですけど、僕でも今でもちょっと敷居が高くて行けないというのがありますから。

普通の医院とはまた違うでしょ。「どういうふうな形で行って相談したらいいのかな」という不安があるし、きっかけみたいなものがないと行きにくい。僕は本格的に自分の治療を受けたことはないんです。受けておられる遺族の方もおられますからね。

だから、子供らでも行けるような、子供連れてでも行けるような雰囲気のある所があれば、本当にいいと思うんです。

あしなが育英のレインボーハウスなんかは、そういう雰囲気のある所なんですけども、あそこは遺児対象の事業しかしてないでしょ。だから、ちょっと門が狭くなってるんですね。遺児なら相談に行って、遺児の家族で我々も行きや相談には乗ってくれるんですけど、そうではない遺族は対象ではないですから。ああいう所で、震災だけではなく、事件や事故の遺族の方でも誰もが行けるような所があればいいかなと思うんですけどね。

僕は行政とか、それ以外の所へ相談したこともないです。先ほど話した針の先生に、ずっと相談はしてましたけど。その先生は女性なんですけど、心理学の資格も持ってますし、ケアマネジャーの資格も持ってますし、すごい方なんです。臨床的に経験積んでますからね。ただ、残念なことに、3年前にご主人の仕事の関係で鎌倉の方に引っ越されたんです。メールで今でもやりとりはしてるんですけどもね。

家内が共同購入で出会った方とか、いろいろありますので、今こうして過ごさせてもらってるのは、すべて家内の導きや思ってるんです。震災以前の僕なんかやったら、こういう世界で人とめぐり会うということは、まずないですからね。狭い範囲の交際で、知り合いといたら現場の同僚と、あと魚釣りのメンバーぐらいでしたから。

魚釣りは、震災後1回も行っていないです。行けないですね。行く気にならなかったです。最近、ようやく「またやってみたいな」という気持ちになってきたんですけど、なかなか魚釣りもお金がかかるんです。ゴルフ以上にお金がかかるんですよ。なので、まだ行ってません。

(震災に関する会話)

今でもまだ、下の娘が生き埋めになっている時のことは、娘も話さないし、僕も聞けないです。お姉ちゃんも、やっぱり震災のことは一切しゃべらないんで、逆に聞いてやるとかわいそうかなというのが自分の中にあるんです。お互

いに気を使い合っているということもありますね。それも「しゃあない」と思います。そうやっていかないと、やっぱりしんどいところも出てくるし。

母親の思い出話とかは、娘は一切しないです。僕が居間で一緒にテレビ見ている時にかこつけて、「お母さん、ああやったな、こうやったな」って話を振るんですけど、乗ってこないですね。僕一人が、こうやって思い出みたいにして話をするんですけど、「あの時は、お母さんと行ったんやで」って言っても、返事もしないです。まあ、笑ってそういう話ができるようになったら、お互いに癒されてるのかなというふうに思うんですけどね。まだ無理ですね。こればかりは、焦っても仕方がないんで、待つしか仕方がないかな。本人が乗り越えていかないとね。僕も親として「代わってやりたい」と思っても、それは無理な話ですからね。

いいお友達もいてそういう出合いを大事にしてもらったら、いろんなことに気づいていくとは思いますがね。僕がそうですからね。いろんな人と出合って、いろんなことを気づかせてもらってというのがありますんで。だから、それを大事にしてほしいなとは思っています。そういうことは常々言うんですけどね。それが説教調になると、スーッと逃げていきますけどね。

意外と家族というのは、「自然に」というのがね、なかなかうまくいなくて。難しいですね。

(現在の心配)

今、一番、僕が心配してるのは、自分自身のことです。子供に迷惑をかけないように歳をとりたいたいなと思っているんです。家内は、亡くなった時のままの姿でしょ。40数歳の時のままでしょ。自分は毎日、鏡見ればどんどん歳老いていくので、やっぱり恐ろしいんですね。歳とるとというのが、できていたことができなくなるとか、実感として日々感じるじゃないですか。兄貴が心筋梗塞で倒れて、今はD病院に入院しているんですけど、身近でそういうことがあると、自分自身の将来が不安になる。「そんなことを考えても仕方がないな、最終的にはなるようになるやろ」というようなところへ落ちつかすんですけど、心配といえば、それが一番です。娘たちも、心配は心配ですよ。早く守ってくれるような相手を見つけてもらいたいし、孫も早く見たいしという願いはあるんですけど、それは娘たちに任さな仕方がないんで、今は一番自分のことが心配です。70歳までローンが残ってますから、経済的にもしんどいですし。

年金でのんびり暮らすわけにはいかないんですけど、5年前からそういう状況で、仕事の方も無理できなくなってしまって、今は仕

事してない状況なんです。何かアルバイト程度でも仕事しないとやっていけないんです。今は、長女に経済的に負担かけてます。僕の年金はローンで消えてしまいますから。お姉ちゃんも黙って頑張ってるから、余計に「自分の老後ぐらい何とかしないとイケない」と思ってるんですけどもね、こればかりはなんともならない。若い人が就職難で、高齢者は働き口がない。

ようやく、去年あたりから震災障害者の方たちにも手当が行くようになってきましたけど、我々の子供もそうですし、私もそうですけど、心の傷っていうのは目に見えないものでしょ。僕は、一種の障害だと思ってるんです。トラウマとか、PTSDとかいうのは心の障害やと思ってるんです。そこへの手当が、なかなか進まないですよ。遺族もそうですけど、遺族でなくても、被災した方で喪失感を持ってる方、一杯おられますもんね。

でも気持ち、心があるから人間として、やっていけるんでしょう。この間も「がんばらない」の著者の鎌田実さんの講演を聞きにいったんです。日本の国自体もそうですけど、「強くて優しく温かい人、温かい世の中にしないといけない」ということを言っていました。「まさにそうやな」と思っています。国自体が弱くなって冷たくて、優しくない状態でしょ。気持ちぐらい、みんな温かくないとね。

でも、僕なんかは、家内亡くして財産もなくしたことは負の遺産ですけど、逆に、今まで自分が知らなかった世界を見せてもらって、いろんな人と出合って、いい出合いを与えてもらったなと思ってるんです。新聞記者の方たちとかも、取材を受けたりすることがあって、最初は「嫌やな」と思ったんですよ。でも、中でもいい人が一杯おられて、取材抜きにして我々の気持ちを聞いてもらったりとか、相談に乗ってもらったりとか、してくださる人がたくさんおられたりするんです。こうやって一つの出会いかからいろんな出合いが繋がっていったるんです。

(現在の生活)

おととしに、家内と約束したお遍路も一人で行ったんですよ。1年かけてバスのツアーで回る分しかよう行かなかったんですけどね。歩いて行きたかったんですけど、体調が悪かったもんですから、バスで行ったんですけど、そこでもまたいい出合いがあって、今同じ地区からバスに乗っていくメンバーが7人ぐらい、仲よしグループみたいなんができたんです。月に1回、食事会をするようなメンバーができて、おつき合いさせてもらったり、いろんな所にいるんなグループとめぐり会って、そこでも別に震災の話をするわけではないんですけども、いろんなことや悩みなんかも聞いてもらっただけで、ほっとするところがあるじゃないですか。「いいめぐり会いがあって、よかったな。これもすべて

家内がそういうふうに通じてるんやろうな」
と思ってるんです。

男っていうのは、ええ格好しいとか、照れ屋とかいふのがあって、面と向かってね、話はしにくい。お酒でも入れれば、ちょっと違うんでしょうけど、僕はあんまりお酒飲めないんです。グループで行くと、おつき合い程度のお酒を飲んで話をするんですけどね。歳いくと、男は余計頑固になりますんで、いろんな男性同士の出会いで、いいこともあると思うんですけどね。

今NPOとか、ボランティアグループがいっぱいできてるでしょ。もっとネットワークを作れば、もっと活動できるのになと、いつも思うんです。男は自分がその主になってやったやつは、感わされたくないというのがあって、女性の方が、やっぱりその辺は強いですね。

僕も今、語り部みたいなこともさせてもらってるんです。それで飯が食えたらいいんですけど、それは難しいんですが、結構あちこちで震災の話をします。ハード面の防災の関係のことは大学の先生に任せて、僕は自分が体験した、遺族とか被災者としてのソフトの面の震災の話をしに行ってるんです。そこから防災につなげて、結論的には子供たちに、命の大切さとか、生きる力をどうつけていってもらおうかというところを勉強してもらっているんですけど、何か広がる方法はないかなと思って考えているところです。今の小学生は、震災を知らない人たちが多いですもん。半分以上ですもんね。1歳で経験した人は、もう高校生でしょ。1歳いうたら、全然意識はないだろうけれどもね。

防犯の方も、土木の仕事終わってから警備会社で防犯の勉強させてもらって、アドバイザーみたいなこともやってるんです。今は退職してるんですけど、神戸市のスクールガードリーダーで、各幼稚園、小学校、中学校に防犯教室の講師として行かせてもらってました。

今はNPOJ会という民間の教育機関で活動しています。今年度で設立35周年過ぎたところかな。不登校とか、ひきこもりとか、家庭内暴力とかなんかで暴れてた子供さんを、神奈川県山北町って丹沢山系の山の奥で共同生活をして、勉強は一切教えないんですけど、生活のリズムを正していく。1日の生活をキチンとしたリズムで生活をしていくと、子供は自分の力で立ち直っていくんです。そういう教育をやってる会なんです。そうやって立ち直った子供さんを家庭へ返すと、1週間もせんうちにJ会生活舎へ帰ってくるんですけど、やっぱり親御さんに問題がある。家庭に問題があって、「子供を立ち直らすにはまず親を教育し直さないかん」という問題があるので、その辺をやっぴいこうという団体

なんです。神戸でその会を開くときには、先生を神奈川から来てもらってやってるんです。

とにかく、全部子供は肯定してあげて、受け入れてあげると、自然に自分で伸びる能力を持つてるんですよ、生まれた時から。それをつぶしてるのは社会であり、親であり、大人であるわけで、社会や親や、大人が、価値観とか考え方をやっぴい変えてやれば、子供はどんどん伸びていくんです。

娘も今のところは元気でやっぴいしてもらうのが一番かなと思ってます。それぞれ抱えるもんはあるでしょうけど、それにひっかかってたんでは、なかなか前へ進めないんでね。徐々にでも、一歩ずつでも前へ進んでもらったらいいかなと思ってます。

親がやっぴい頑張らないとね。

プロフィール

| 保護者-4 | | |
|------------------|------------------|--|
| 項 目 | 内 容 | |
| 訪 問 | 面接日 | 平成23年2月17日(木) |
| | 面接対応者 | <input type="checkbox"/> 保護者:父親の弟 <input type="checkbox"/> インタビュアー <input type="checkbox"/> インタビュアー補助者 |
| 基本属性 | 性 別 | 男性 |
| | 年齢(調査時) | 60歳 |
| | 本人との関係 | 叔父 |
| 被災状況 | 被災場所 | 神戸市東灘区御影本町 |
| | 家屋被害 | 全壊 |
| | 家族の状況 | <input type="checkbox"/> 両親と子供3人(長女、長男、二男)が家屋の下敷きに <input type="checkbox"/> 長男、二男は、洋服ダンスの下敷きになるも、ダンスの扉が開き助かる <input type="checkbox"/> 両親と長女が死亡 |
| 主 な 発 言 | 遺児の養育など | <input type="checkbox"/> 2人の遺児は、当時、中学生と小学生で、父親の弟が2人を引き取る。 <input type="checkbox"/> もともと、実子が5人おり、2人を加えた7人の子供を大学まで行かせた。 <input type="checkbox"/> 遺児 2 人は実子ではないことから、同じ事を言っても実子とは受け止め方に差が生じ、しつけには大変苦労した。 |
| | 震災遺児への支援で必要なことなど | <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会が遺児を支援する海外旅行を震災の翌年に行ったが、その体験が大変よかったのか、生まれ変わったように元気になった。 <input type="checkbox"/> 奨学金に対しては感謝している。 <input type="checkbox"/> 震災時の車両規制、生活用水の確保に配慮してほしい。 |

(震災被害と救助の状況)

被災した場所は、御影本町です。阪神御影駅のすぐ下で、県の養護学校とかがあつたあたりです。あれよりも筋一つ北側になるんです。国道43号線から下は何も被害はない。不思議やね。国道43号線から国道2号線、JR線までの間が一番被害がひどかった。特に国道2号線沿いの家屋はみんなバタバタ倒壊でしたよ。山手幹線から上は被害余りなかったです。

被災したのは僕の実の兄なんです。兄夫婦なんです。年は一つ上なんですけど、娘、息子、息子と子供が3人おつたんです。その時娘が中3です。ちょうど高校受験やつたんです。それと中1と小学校4年生の息子がいました。

私の家は灘区の山手でしたから、17日は自分とも精一杯でした。三宮の京町で商売やってましたから、店のことも心配。あの辺もビルの被害がひどかったんです。17日の晩に「兄だけは連絡とられへん」となって、それで僕が、おやじから「おまえちょっと行つたつてくれ」と言われて、18日の朝に兄の家に行つたんです。すると、家がペシャンコになっていて、近所の人に聞いたら、お兄ちゃん2人は助けられて御影中学におることが分かつたんです。兄貴の方は下敷きになつたままで、ずっと返事しとつたんやけども、18日の夕方に最初はレスキュー隊を止めて、「済みません、助けてください」と言うたら、「生きてますか、死んでますか」と聞かれて、「生きてると思います」と言うたら、「ほんならもうしゃあないな」という感じで車を降りてきはつたけど、あの時のレスキュー隊員さんは、もう疲労困憊の状態。兄貴の遺体を引き出してくれた後「もう日没になるんで、二次災害になりますので、私らはここまでしかできませんけども、引き継いで明日(19日)自衛隊が来ますから。」ということでその日はレスキュー隊は引き上げて、僕らはその日は帰つて次の日19日の朝一番に行つたら自衛隊が来て、遺体を出してくれたんです。姉、それから娘と。

もう1日早く出しとつたら兄貴は、生きてる可能性はありましたね。自衛隊の要請が遅かつたのが、返す返すも残念です。もう1日早く要請して18日朝に行動しとつたら、かなりの方が助かつたと思いますよ。そら即死の方もおられますけど、すき間に挟まってずっとそのままで息絶えた方もおられると思う。

うちの兄貴なんか絶対そうやと思います。すぐ対応しとつたら、犠牲者のうちの2割3割は、助かつていたと思います。あの時ほんまにはらわたが煮えくり返りましたけどね。知事のプライドか何か知らんけど、最高責任者やから、危機管理いうんですかね、もうちょっと意識があつたらなと思いますね。16年と歳月がたちま

したから、気持ちは大分薄れましたけど、それは当時、ムカムカしましたですよ。

(父親の死亡状況)

兄は結局家具で挟まって動けなかつたんですけど、倒れてきた家具の間にすき間があつたみたいなんです。だんだん圧迫されたみたいな感じでした。だからほとんど顔も何も傷ない。ガラスとか土がかぶつていて、それは払いましたけども、打撲とかは何にもなかつたです。ガレキの下から出されても、まだ顔色もあるし、ほんま眠っているような状態やつたです。死んでからまだ12時間経ってないような感じでした。

(母親と娘の死亡状況)

お姉さん(奥さん)は、地震の時起きてるんです。地震やからパツと起きた。起きてなかつたら別に、すき間があつて助かつたかもしれん。慌ててパツと起き上がったところへ建物が倒れたから、押しつぶされてそのまま亡くなった。自衛隊の方が来て、兄貴が先に出されて、あと誰が埋まっているのか聞かれたので、「娘さんとお母さんです」と言うたら、「どっちが背高かつたですか」「娘さん背、何ぼぐらいでしたか」と聞くので、「そんなに背は変わらへん、1m55ぐらいですよ、2人とも」と言うたら、「足だけで見てもらえますか」ということでした。足見たら違いますわね、46歳と16歳ですから。それで靴下とかそんな見たら、「ああ、こつちがお母さんですわ」という感じで確認しました。娘の方はまあ普通に亡くなつたんですが、姉の方はこの辺なくなつてますから、見せられへん感じやつた。地震にびっくりして起きたんや思いますわ。飛び起きてそのままガアツと家屋が来て、ベチャツといつてしまった。娘は窒息死やと思います。ぜんそくぎみやつたから余計やと思います。

(遺児の救助の状況)

そんなに大きくない、台所と3間の文化住宅に住んでましたから、子供が大きくなつたらあかんからということで、家を買つて変わる予定やつたんです。物件探してる最中やつたんです。向こうの親からも出資してもらつて、自分の貯金と合わせて買おうと、物件を見にいってる最中やつたんです。その年の秋ぐらいから5軒か6軒か見て、大体どれにするか決める最中やつたんです。

被災した家はそんなに広い所じゃないから、全部の音が聞こえるんです。2人の弟が言うには、「姉の声も聞こえとつた。姉の声は早いこと聞こえなくなつた、おやじは自分ら引き出されるまでずっと聞こえてた」と言うてました。

17日の昼ぐらいいに、近所の人が安否を確認し合うたんでしょね。そしたら「あそこの子おれへんのとちゃうか」ということになって、ガレキの下で「子供の声が聞こえてる」という

ことで、声だけ皆かけ合っていました。明け方から9時かね、確かに自分とこの家だけでも精いっぱい真っ暗でしたからね。それでまだ子供同士の情報の方が早いですね。子供同士は学校とかで遊んでいるだけに、「だれだれちゃんおれへんわ」「あそこにおる」とかいうようになってきて、探してくれたみたいです。その日の昼前に皆出してくれた言うてました。洋服だんすが倒れてドアがあいて、その間におったんです。ドアが開あかなんでそのままやったら完全に圧死してます。たまたま開いて、ちょうど手でカバーしてくれるのと同じような状態になったんです。

(遺体の安置)

遺体を運ぶにしても、車は渋滞でガチガチで動きもせえへんです。遺体安置所は、本来御影公会堂だったんです。家からすぐなんです。遺体が見つかった時、持っていくんだけど、何時間かかるか。持って行ったら「満杯だからあきません」と言われたんです。それで今度深江の小学校へ行ったら、そこも一杯やったんです。最終的にその前の商船大学(現神戸大学)に安置しました。遺体を安置していたのは教室やったんですけど、僕らが行ってほとんど満杯でした。その時はもう夜近かったんです。そやから慌てて、「隣の教室使わなあかん」ということで、職員の方が右往左往して机とかイスを全部出して、とりあえず遺体を全部並べていくんです。あの辺の被害もすごかったです。

(遺体の火葬)

19日に遺体が見つかって、東灘区役所に行った時に、「神戸市として祭壇場、火葬場できませんから各自で勝手にやってくれ」という状態やったんです。うちの姉が加古川やから、「そういうような事情やったらしょうがない」ということで、加古川で火葬してもらいました。まだ神戸市から加古川とか近辺の火葬場に要請が行ってなかった時です。僕らが行った次の日に神戸市から要請があって、その近辺の火葬場が全部、震災の犠牲者の遺体を焼けるようになったんですけど。

軽四で三つ棺桶積んで、遺体を加古川に持っていったんです。棺桶を積めるもんは軽四しかなかったんです。それも加古川の姉から借りてきたんです。木箱を全部持ってきて、「各自で皆棺桶持って行ってください。」と言われました。遺体を棺桶にいれるのは、自分ら身内でやるんですよ。職員の方が組み立てたてるのを持ってきて、皆打ってね、それで棺おけつくってくれました。「棺桶できました。皆各自で持って行って入れてください。ドライアイスも置いてますから、距離離れてる所だったらドライアイス持って行ってください。」と言うから、持って行って運んだんです。

(被災地の外の印象)

結局運び出したんが20日やった。校区から運んでいったんですけど、須磨を通過して明石に行ったら被害は何もあらへん。あれはショックやったですよ。震源地は明石海峡でしょう。須磨の天神橋を越えてずっと行ったらね、垂水ぐらいやったらまだブルーシートだけです、倒壊している家はそんなにないんです。須磨の天神橋の辺までは家もつぶれてました。そこから須磨駅を通過しても被害は何にもあらへん。明石に入ったら何もあらへんですよ。あれは「何や」と思いましたよ。明石に入って喫茶店入ってトイレ行かせてもらいました。あの時の解放感はたまらんかったです。トイレに入ってちゃんと自分で水流せた、今まで普通だったことがこんなに大変なことかと思いました。結局、腹立ったです。明石は被害が何にもないです。震災から4日後ですよ。トイレもちゃんと使えるし、エーと思つて、ショックでしたね。おかしいですよ。

1カ月経ってから今度大阪へ行った時はもっとショックでした。大阪から帰る時、涙流して乗ってました。まだ阪急電車が開通してなくて、西宮北口からバスが出てた時です。西宮北口から大阪方面は電車に乗れたんですけど、帰ってくる時、西宮からバスですね。国道2号線の家つぶれたところを通らなあかん。ほんま涙出ましたね、「何でやねん」という感じがしました。大阪なんかほとんど変わりましたもん。行った時はびっくりしたけど、今度帰りに西宮北口で降りてバスに乗って帰ってきた時に、家がつぶれたままですわ。あれ見て泣けて泣けて。情けなかったです。

それと、僕らはそうないですけど、神戸から大阪へ勤務された方なんか、「神戸の人間臭い」と言われたんです。みんな。風呂に入れないですから。つらかったろうと思います。

(父親の職業)

兄の勤めは、三宮センター街にあった、「C」いう舶来専門の商品売ってる店です。そこがお姉さんの一族になるんです。初めは違う所におったんですけど、縁故で「C」に勤めとったんです。20年ほど前まではまだ皆海外旅行行けなかったから、舶来品の店、それも大衆の舶来を扱ってました。このごろは海外旅行に行つて、皆買えるようになって値打ちがなくなりましたから、震災後、14年か5年ぐらいい前に廃業しました。兄が死んだということもあるんですけどね。

(震災遺児の引き取り)

それで、男の子二人を引き取った。うちとこも実子が5人おりますので、その時で計7人です。うちの長女が大学受験やったんです。高校3年ですわ。それで、高校2年、高校1年、死んだ兄貴のお姉さんが中3、うちの娘が中2、

その男の子が中1、そやから6人そろろうとったんです。小学校4年とうちの娘が小学校2年生でおるんです。そやから2人引き取ってもちょうど真ん中に入るんです。

以前から正月とかには必ず実家に帰って、子供同士でいつも接してましたからよかったと思います。あれが今みたいなの、疎外的な親戚やったら、急に来てもひっつかないですけど、僕らの時代、昔やったらやっぱり実家へ帰って、親と兄弟で飲んだり、子供は子供同士で遊んでという感じでずっときてましたから、すぐ入り込めまし、年齢的にもちょうどうまく入れました。

(震災直後の苦労-トイレ)

食べるだけでも大変ですが、風呂とか洗濯、トイレはもっと大変でした。トイレを1回使うことによって、一番大きいポリバケツ30Lぐらいの水を全部使う。僕はそれを全部入れかえる。うちここはBの本家の近所です。あの時は本家に井戸があって、「B」と書いた大きいポリバケツを買っていただいて、それで近所の住民に水をくれたんです。けどそれが水洗便所用になった。みんな子供に取りにいかして、渡す時にバケツを使うなら「持ってきてや」言うてました。そんな絶対持ってこな。あれは助かってました。飲み水とか関係ない、ほとんど要らんです。米炊くとか食事にする水なんて知れてます。ボトルで十分ですよ。風呂はまだガスが絶対無理やから、問題はトイレですよ。トイレは我慢できませんもの。まして子供7人、家族全部で9人ですよ。大変ですよ。家はもともと子供5人やからトイレ2つ、2階と1階に造ってましたからよかったですけど、トイレの水だけは一番大変。

東灘署も捜索願いに行ってもトイレに盛っただけですもん。入ってすぐ奥からトイレのにおいがプーンとしてくるんです。あの頃はずっと新聞置いてましたね。水が流されへんから上に盛っていくんですが、エチケットか何か分からへんけど、自分のウンチの上にティッシュか何か置いて、またその上にしてティッシュ置いてという感じでした。食べるもとお風呂は我慢できるけどトイレだけは我慢できませんから、どうしようもなかったですよ。そのうちだんだん御影小学校とか御影中学とかのプールの水とか、池の水とかが使えるということになって、プールの水をくんできて、汚いんですけど冬場やから使うてました。

(銭湯でのボランティア)

銭湯が先にちょっと開けてくれて、みんな順番並んで入られたんですが、大分時間がかかりました。家の近所の風呂屋で、息子と2人でボランティアしとったんです。それだけ大勢の人が入ってこられたら、風呂屋の夫婦だけでは風呂の掃除ができないんです。息子がまだ高1やったです。風呂屋の営業が終わってから12時

ぐらいです、男手2人とそこのご主人と、3人でダアッと掃除しました。それはもう見事ですね、銭湯でもあかが。脂。あれだけの人間の脂肪いうたらすごいですね。毎日電気ブラシかけて、洗い場とか全部、脂を落とすんです。3人で小一時間かかった。男湯と女湯でやるんでしたらね、3人でやったら大分違います。そんな大きな風呂じゃなかったんですけど、それでもこっち側30分、女湯も30分。でも女湯はお客さんが入っている時間がどうしても長いんです。男湯は割とパアッと切り上げてくれるんで、男湯から先にやるんです。女湯は完全に出るまで入れへん。男湯やったらそろそろ終わりになると、「済んません」言うて片づけできるけど、女湯だけはきっちり終わらなかつたらできんです。女湯も汚れがすごいですよ。大体12時半ぐらいに終わったんです。

ボランティアでやってましたから、大変です。その代わり、家族全部横から入れてくれた。うちこの家内とか、みんな助かりました。遺児の2人も。あの時はみんな行列で、1時間で入れたらいいところです。冬の寒い時に皆3時間、4時間待ってたんです。食事時で寝る前に、「9時に横から来てください」ということで、うちの家族は入らせてもらたんです。息子が高1でも結構大きいですからね。男やったからできるからね、ご主人と男3人でやったら大分違いますよ。だからご主人もったようなもんです。今だに言われますもの。「あの時誰もできない」言うてましたもの。ガスが出るまで3カ月近くやりました。ガスが回復したのは、灘区のある近辺で4月の中旬から下旬でした。

その風呂屋は震災の次の日からやれたんです。まだ営業してなかったですけど、「漏れとったら危険やから1回火つけてちゃんとさせて」ということで、お湯を沸かしてくれた。それでどこも漏れがなかったんで、お湯を捨てるのはもったいないでしょう。だからまず近所の人、僕らを入れてくれたんです。震災後3日目ぐらいから営業しているはずですよ。

ボランティアといっても結局心づけで1日当たり2,000円ぐらいくれました。「風呂入れてくれてるから十分や」という感じでしたが、そうはいかんみたいで、包んでくれました。その代わり風呂屋のお客さんの人数たるやすごいですよ。2カ月ぐらいは銭湯はどこも開いてなかったです。2カ月過ぎたぐらいから他の銭湯も修理したりして再開したんです。3カ月過ぎてから灘区のある辺もガスが通って、落ちついたんで、「ほんならもうよろしいですか」という感じで、やめさせてもらたんです。

(遺児2人を合わせ7人の子育ての状況)

子供たちは年齢が続いていたので、毎年受験でしたが、7人全部大学行かせました。一番下が今25歳で甲南大学を一昨年卒業して、全部終わりました。

上から流通科学大学、夙川学院短期大学、拓殖大学。男は絶対1回自分で自炊せえということで、「東京見てこい」という感じで行かせました。4番目の女の子が流通科学大学でした。引き取った男の子は追手前大学、次が男の子、これは野球好きやっただので野球で名古屋学院大学に行かせました。一番最後の女の子は甲南大学に行かせました。

震災後の、県とかにさせていただいたこともかなり助かりました。ほんま感謝します。長瀬とかそういう人の援助もいただいたような覚えがあります。名古屋もそうですね。名古屋は昔、伊勢湾台風でお世話になったということで、名古屋で集めたお金も遺児に分配していますということで、県の財団を通じて援助金をいただきました。あれは役に立ちました。全体に占める割合はそんなに大したことないけども、やっぱりないのとあるのと違いますよ。

(生活費の確保)

生活費は月100万円ぐらい要りました。一切ぜいたくしておりません。すべてやめました。もうすべて何もかも。前は車に乗ってたんですけど、震災後は乗ってません。車も乗れないですわ。そんな維持費とか他のすべてやめました。カレーなんかの時は8合炊きましたもんね、ご飯。男の子1人と男の子3人では食べる量が全然ちやいますよ。男の子1人と女の子4人の場合と、男の子2人増えた場合は全然違いますもん。あんなに食べても太らへんのですね。若いとやっぱり新陳代謝が激しいんで、すごいんでしょうね。

京町で喫茶店やってたんですが、あの時、店主のケガとか店の半壊とかで、飲食店も皆つぶれて、ビルが残ったのはうちの店だけでした。あの辺はビジネスの中心街やから、神戸の場合は、「早いことビルを復興せなあかん」ということで、かなりの作業員が来た。店がないからうちの店へ全部来たんです。あれで3年で倍ぐらい稼ぎができました。震災の時に長女が大学行き始めて、「これはあかん、皆は大学に行かされへんな」と思うんですが、それが一遍に急転してしまっただけです。

その代わり3年ほど、たまらんほど忙しかったです。3年後には高速道路が開通したんで、作業員はパッと帰りました。それまでは仕事するにも神戸に泊まりっ放しで仕事しとうから、食べるところがないんです。アルコールはなかったですけど、飲み食いはずっとやれたから、ラッキーやったです。それも運ですわ。店が残ってなかったらだめでした。

店があったのは、中央区京町通りです。市役所の西側。入江ビルというんですけど、損傷はなかったんです。中の事務所はかなり皆つぶれてましたけど、私の店は1階でしたから、被害は何もなかったんです。2カ月か3カ月ぐらい水道とか皆止まっていたって営業できなかったんで、

その間、片づけしたりしてました。銭湯のボランティアをちょうどやめたぐらいから、ガスも水道も全部復旧して、他の復旧工事も皆入ろうかいう段取りもついてきて、そこから店をスタートしたからよかったです。間合いも全部よかったです。

(支援に対する考え方)

何ぼ震災といっても、何もかも国が100%見れるわけではないんで、自己責任、自分でやるのが基本やからと思うんですけど、それでも援助いただいたのは、すごく助かりました。

でも最終的には自己責任でしょう。やっぱり自立せなあかんし自分でせんことにはどうしようもない。県とか役所、官の補助制度ができて、それに頼るのはないですわ。今の子ども手当もおかしいと思います。何もかもセーフティネットをつけ過ぎやと思います。親としての自覚とか親としてのファイトがなくなりますわ。

(子供たちの現況)

今子供は4人結婚してます。孫が3人おります。年齢的に皆近いですから、一番上が34歳で下が25歳。9歳違うだけです。正月にはいつも集まります。僕らはそうじゃなくても結局子供らが、僕らの世代に実家に帰って、いとこ同士だったんですが、あいつらは子供だけ集まった思い出が楽しいということで、正月は皆集まってきます。それで長男に音頭をとらせとんです。「おまえが長男で社長や、おれは会長や。親が采配する時代と違うから、おまえの世代やからこれから作っていくのは、長男がやれ」と言ってやらせてます。「これはお父さん続けなあかんで、ええことや」と思うたから、長男が皆子供の連絡とり合うたり、正月に集まったり、それで子供産まれたら祝い金何ぼにするとか、疎外にならんようにしてますわ。アドバイスはしてますよ。「誕生日の祝い金の額もちゃんと決めとけよ」「結婚祝いも決めとけよ」と言ってます。だけど孫ができたんで、もういいお爺ちゃんですわ。

7人の子供は、舞鶴に住んでいるのもおります。伊丹、金平町、西区にもおります。それから、引き取った男の子が1人名古屋に行ったままです。野球で帰ってこない。弟の方、小学校4年生やった子です。野球好きやいうんで神港高校の野球部に入って、写真で新聞に取り上げていただいています。そやから「甲子園に出れたら最高やったな」と言うとんですよ。出れる予定やったのに負けてもうたんです。あの時神港がもうちょっとやったら、選手はなれなんだけどもマネジャーで連れていってくれたらと思うますねん。絶好のマスコミが喜ぶ材料です。分かりやすいでしょう。「震災で親亡くして頑張っております」ということで。NHKなんか好きそうな話題です。兄さんは結婚して金平町に家を買って住んでいます。1人孫がいます。

みんなに「子供は最低2人作れ」と言うんです。そしたら一族が30人になるんです。「そうすると貸し切りバスが借りれるから、旅行に行こう」と言ってるんです。それはある程度夢ですね。ドンチャン騒ぎいうことはないですけど、親睦を兼ねてどっか温泉でも行きたいなと思うんです。そういう金の使い方したい思います。

(家族についての考え)

今、親戚との関係が気薄になってきたと言われてますけど、信念があればできることなんで、世の中こうなったから自分も気薄になるんじゃないしに、自分のスタンスは自分で持つべきやと思います。

役所がセーフティネットやいうて子供の手当何やかんや手厚くするので、だんだん親の値打ちもなくなるし、親のスタンスも薄れていくような環境を作り過ぎやと思います。

そやから、疎外にならんように、日本の伝統としてずっと正月に集まって賑やかにすること自体、自分の親に感謝します。僕らも自然にそうやっていっただけであって、それで自分らの子供はいとこ同士集まって、すごろくじゃ何じゃしとったんでしょね。ずっとつながりつつあったから、いとこ同士はむちゃむちゃくちや皆ええんです。うちの息子はあの時高1で、上の遺児が中1ですから3つ違う、それで下の遺児が小4やから、遺児の兄貴になるわけです。いとこには他に男おらなから、余計仲がいいんです。

(遺児への接し方)

だけど厳密に言うたら、遺児への対処の仕方は自分の子とは違いますよ。気を使いますよ。「自分の子と同じようにしている」と言うけど、違う。どっか引いてますよ。引くとこ引かなあきません。同じように怒るとたら違います。自分の子やったらバアッと怒れても、何ぼ同じいうても6か7、6で自分でブレーキかけますね。「同じようにする」というのは一応建前でも、それでないとうまいこといきません。どっか子供自体が分かりますからね。うちの子やったら10怒ったら11しかこたえへんけども、あの子らは10怒ったら20こたえる。だから6か7ぐらいでちょうどええ具合やと思います。それが10ぐらいに響いたんちゃいますか。そういうところが気を使いましたね。実の子と違うところです。同じようには絶対無理です。そりゃ実感しました。

(役立った施策)

県の福祉施設で海外旅行連れていってくれたのはよかったです。上筒井にある県の福祉会館で遺児を海外旅行に連れていってくれてるんです。帰ってからかなり変わりましたね。

あの時代に海外旅行連れていってくれたことによって、ごっつ明るくなった。かなり成長したな。子供心にも海外旅行いうたらやっぱり、飛行機で何時間も乗って、かなり違う非日常的な体験になりますでしょう。帰ってから見方がすごく大きくなったいうんかな、変わりますね。

応募したわけでも何でもないですけど、「遺児の方を海外旅行にご招待します」という手紙が来たんです。どっかから出資か何かしてくれたんやと思いますけど、「応募しますか」と言うから「応募します」ということになって、手続で「パスポートだけ取ってください」ということで、連れていっていただきました。5泊6日か6泊なんか、割と長いですわ。だから帰ってきても結構話をしてくれました。スイスとかイタリアとフランスとか、あの辺をずっと行ったみたいです。スイスの山岳電車がかなり気に入ったみたいです。スイスなんか特に山奥ですやん、そんなとこで皆生活してますやんか、山小屋で牧畜なんかして。「あんなとこでどうして生活するん」とか帰ってきて言うんです。日本の神戸の震災しか見てない子が、スイスの山に行った時に見た生活を比較することによって、「そんな所のことを思うたら日本なんかすごくいいな」とか、見方が変わったことも大事です。「やっぱりそれだけ違う考えになったな」とあの時思いました。

(当時必要だったこと)

あの場面で「これしてほしかった」「あれしてほしかった」ということはないです。別にそれを望まなかった。引き取るのは5人も7人も一緒やもん。

(遺児の保護者になった理由)

僕の兄弟は6人で、僕は兄弟の末っ子の、四男坊なんです。御影で死んだのは三男坊です。年は一つしか違わんです。それでその上が加古川に住んでいる姉なんです。僕もその時に結局引き取れる状況だったんです。僕の兄弟は、男の子が4人おるんですけど、長男は交通事故で亡くなりまして、次男は現在65歳になるんですけど、あの当時は五十何ぼやったけど独身なので、子供を引き取るのは無理です。三男が亡くなり、それで僕四男なんです。姉は2人おりますけど嫁に出ますから、実質見れるいうたら僕のとこしかないですやん。そやから別に「いや、僕が」とか言わんでも「自然にそうなるな、しゃあないな」と思いましたから、救助から帰ってきて、遺児が2人来た時に家内にはそない言いました。兄夫婦死んだ時に、家内に「流れとしては2人は引き取らなあかんようになるで」と言うてましたから、家内も「いいですよ」ということになった。あの時は皆特に震災ですごく打ちひしがれてましたからね。うちとこなんか家も被害もなしで、それでその日に兄

夫婦は2人とも亡くなって、子供2人だけ残されたから、まあこちらは子供が5人おるけどしゃあない、2人も引き取るということになりました。兄貴の奥さんも、お姉さんがおるんですけど、お姉さんは東京に行かれとるんです。そやから無理ですもんね。こちらの家に嫁に来てるんやから、こちらの家で見るのが筋ですしね、それは当たり前やから思うて、見ました。

(遺児の東京での生活)

兄貴の奥さんのお姉さんのご主人もすぐくええ方で、「今、神戸まだガタガタしとうから、落ちつくまで」いうことで、1年半ほど2人を東京へ連れて行ってくれたんです。向こうの厚意で「今、神戸は電気はついてましたけどガスもないし、そんな状態で生活7人も面倒見ると大変でしょう」ということで、とりあえず落ちつくまで東京へ連れて帰ります」ということで連れて帰ってくれたんです。1年半だから学校も向こうにおりました。

そやけどやっぱり2人は神戸帰りたいたい言う。親亡くしてあと残ったんは望郷ですからね。1年越したぐらいから、2人は「神戸に帰りたいたい」と言いだして、「どないですか、もう落ちつきましたか」と先方が聞くので、「よろしいよ」ということで、学年の変わりに帰ってきたんです。高校入試もありますからね。上は中1で被災したから、高校入試の前に中3は神戸におらないかんいうことで、中3になる前に帰ってきたんです。

せやけど、行き当たりばったりでやってませんで、「こうならなんたらこうなってるな」というもとでそれなりに行動してますよ。そやからうちとこは7人とも全部上野中学。中3の初めに早う帰ってこないかん。もう2年の終わりか3年の初めに帰ってこないかんのです。それで帰るんやったら帰るでちょうどええ時期やとていうことで帰したんです。

(今後の災害で必要なこと—交通規制)

震災で言いたいことがあるのは、自動車です。あれは今からちゃんと優先順位を決めて、ステッカーを張る準備をして、何時間かはそれ以外の車を絶対道路に通さんようにせな無理です。車がどれだけすべてを麻痺させたか。警察、医者、消防とか、必ず色分けして優先順位を決め、震災から3日とか七十何時間とかはステッカー張った車しか入れないように、絶対決めるべきやと思います。介護の人は介護のステッカーもつけてもええけど、それは震災4日後とか3日後にしか動かせませんというようにして。確かに年寄り1人で住んどうから心配ないのは分かりますよ。でもそれは72時間後に動けるとかいうようにして、「介護の対象者がおるんや」とかステッカーの色分けを決めるべきです。兄貴の遺体を出して、国道2号線までここへ帰るまでに、平時なら3分ぐらいのとこ2時間もかか

った。にっちもさっちも動かなかった。その間に後ろから救急車や消防やウーウー鳴っとるけど、どこへ飛んだんですかね、あれはすごいですわ。数珠つなぎです。そら車でも自家用車に4人でも乗っておけばいいですよ。気持ちは分かるけど、1台に1人ずつ乗って何するんや、並んでる車に乗っているのは皆1人ですよ。そんなことでは余計、震災の復興を早期にはできません。僕もそれを震災の時一番感じて、それだけは絶対言いたいなと思うとったんです。テレビでも何でも今からこの色の車は道路入れますというように区別して道路を空けるべきやと思います。

道路が麻痺したら何にも意味ないですから。車の方も絶対先にルールづくりをしとくべきやと思います。機能しませんもんね。

(今後の災害で必要なこと—水の確保)

それと水。井戸があるところは井戸から水を、川せきとめて入れるとかね。結局トイレだけの問題ですもん、あの時の水いうたら。飲料水なんかペットボトルで十分です。ご飯炊くにしても何にしても。夏場やったら洗濯、それからトイレ。間違いないです。

それからこの間見たんですけど、管からトイレ組み立てるやつ、それでちゃんとカバーできてね管に直結できて洋式のトイレになるやつがよろしいね。そのまま流せるんですよ。

風呂もそうです。内とこなんか合いで風呂入ってますやん、そやけど家の風呂に入った時「こんだけ疲れとるもんか」と思いましたわ。

(今後の災害で必要なこと—被害想定)

地震が起きるのも、新潟の山間部やったらいいですけど、大阪や東京やいうことになってきたら絶対大きな被害が出ます。東京なんか、地震の死者の推定人数を出してるけど、あんなもんで済む訳ないですよ。死者5,000人やなんて想定、「出すな」と思いますね。東京なんか怖くて行かれんですよ。地下なんかでパニックになったら、どないするんだろ思いますよ。あの人数で地下なんか入ってパニックになったら、何人死ぬんやろ思いますわ。街歩いて見たらビルなんか、ガラス抜けたらどないなるんやろうと思います。こんなにたくさんの方がいるのに、逃げ場所がないですもん。3年か4年前に学者が、東京直下型地震があったら死者が5,000人やそこらだと言うて、うそばかり。それでまた直して5万人になってましたでしょ。危険材料が何ぼでもありますもん。

(今後の災害で必要なこと—奨学金)

奨学金については、もっとくれりゃいいですけど、そんなこと言うたら切りがない。震災言うても結局自己責任ですからね。それにそれだけのもん援助して戴いたらほんま助かりました。

プロフィール

| 保護者-5 | | |
|------------------|--------------------------------------|---|
| 項 目 | 内 容 | |
| 訪 問 | 面接日 | 平成23年2月15日(火) |
| | 面接対応者 | <input type="radio"/> 保護者:父親 <input type="radio"/> インタビュアー <input type="radio"/> インタビュアー補助者 |
| 基本属性 | 性 別 | 男性 |
| | 年齢(調査時) | 58歳 |
| | 本人との関係 | 父親 |
| 被災状況 | 被災場所 | 西宮市南郷町 |
| | 家屋被害 | 全壊 |
| | 家族の状況 | <input type="radio"/> 父と2人の娘は自宅に居たが無事。 <input type="radio"/> 長男は新聞配達中だったが無事。 <input type="radio"/> 母は外出先の建物(全壊)で被災し死亡。 |
| 主 な 発 言 | 遺児の 養育な ど | <input type="radio"/> 当時、3人の子供(長男、長女、二女)は高校生、中学生、小学生。 <input type="radio"/> 長男は大阪の実姉のところから学校に通わせた。 <input type="radio"/> 2人の娘は、難しい年頃でもあったが、父親の実家(八鹿)に転校させる。1年後進学期に当たるため帰って来させる。 <input type="radio"/> 震災前は仕事ばかりで家のことは家内に任せていたため、女の子が成長したときどう対応しているのか悩んだ。 <input type="radio"/> 長女が不登校になったり苦勞をしたが、進路を決めていく際、学校の先生の薦めで看護師の学校へ進学する。 <input type="radio"/> 家の用事は、手分けしてやった。 |
| | 震災遺 児への 支援で 必要な ことな ど | <input type="radio"/> 天災時の電話の確保や水の確保、また、トイレなどの最低限のプライバシーだけは守れる対応策があればよい。 <input type="radio"/> 学費の支援については、あしなが育英会等の手続きがスムーズに出来たので、遺児、保護者にとってはよかった。 |

震災遺児等 インタビュー ⑤

日時:平成23年2月15日

(震災時の様子)

阪急夙川駅の東側の南郷町の北側に住んでいました。あのあたりはほとんどの家が倒壊しまして、三十数人亡くなられた。B酒造のC会長さんも近所におられて、お亡くなりになられました。私もそこから200メートルほど離れたところの、会社が借りてくれてた家でしたけど、東京から転勤して帰ったのが平成3年でしたので、4年目ぐらいでした。

家内は、阪急夙川駅の東にある、夙川集会所で「D」という、道徳の話し合いの場、Eに行っていました。そこで被災しました。長男は新聞配達をやってまして、高校2年生だったと思いますが、苦楽園口の方におりまして、マンションあたりで新聞配達してました。2人とも、私が5時過ぎ頃、朝の見送りをしたんです。

その後、もう一回2階に上がって寝たんですが、突如5時46分、地震に遭遇したということだったんです。次女は私と一緒に寝てまして、長女は中学生でしたから、別の部屋で寝てました。当時、そんな時間ですから真っ暗ですよ。

「どうしたの」ということになって、隣からもこっちからも家具は飛んでくるし、壁もぶち破られました。本当にすごい力でした。娘には「じっとしておきなさい」と言いました。ちょうど、たんすとたんすの間に挟まって、テレビが飛んできたりしまして、大けがするほどのこともなかったのですが、下の階に降りようと思ったら、階段が宙ぶらりんになっていて、降りられない状態になっていました。何とか降りて、靴だけ持って上がって、表と一緒に出ようとしたら、今度はドアが開かない。

たまたま私が借りてた家は、軽量づくりやっただけでしょうね、だから、両隣からはやられましたけれど、上からは、瓦じゃなかったもんだから助かりました。隣の家は土壁の焼瓦の家でしたから、見事にペチャンコでした。そこも真っ暗でしたけれども、7時過ぎぐらいかな、夜は明けました。

真っ暗の状態から、そのような感じでご主人が出てこられて、「妻が、妻が」って言ってましたね。奥さん、もうペチャンコですから。ご主人は2階で寝てまして、奥さんは下だったんでしょうね。血だらけになって出てこられて、近所をずうっと、私らも子供の友達の情報も聞いたりしてたんですけど、その間にトントンたたいたら音がしたり、こっちから大きな声出すと何か返ってくるから、奥さんがどうやら下におるというのが分かりましてね、その方は運がよかったですよ。たまたまレッカー車みたいな感じのトラックが通って、そこでがれきをとって救出ができたんです。娘の友達のおばあちゃんもそれで助けました。

ところが、うちの妻だけが帰ってこなかった。

そうこうしてるうちに、息子は帰ってきたんですけど。昼前後の頃、集会所に行ったら、妻の自転車だけがあって、姿が見えない。2階におったらしいんですけど、1階のともも見て、2階の所へずっと私も見に行っただけですけど、見当たりませんし、病院なんかもずっと回って見ましたけれども、妻のような人間はいなかったです。

近くの夙川の派出所に行きまして、捜索願を出しました。皆さんずっと来られて、同じように消息の分からない人の捜索願いをされてました。

数も多いものでしょうから、「お宅はあしたの朝の7時ですわ」という順番がありましてね。翌日の7時に、派出所から3分ほどですから、そこへ救出活動と一緒にいったんです。大した重機も何もありませんから、エッチラオッチラとやってましたら、2階から1階に下りる階段の所でドコンと屋根が落ちて、その間に上下挟まれてました。引きずり出しましたが、もう硬直状態でした。そこで亡くなったのは、うちの妻1人だったんです。子供さんが2人1階で、上では大人が話してるわけですから、その子たちは救出されたいらしいんです。

みんなで手組んで、「大丈夫、大丈夫」ってやったけども、結局は手を離さざるを得ない状態になったんでしょ、あんな状態ですから。結局、それぞれが、逃げるという、個々の考え方になってくるんでしょ。順番に開いた窓から皆さん出られたんでしょ。うちの家内だけは残ってしまいました。その時点では、みんな無我夢中でしょうね。結局は、取り残された状態で圧死という状態やったんでしょ。もう翌日のことですからね、24時間開いてますし。

(遺体の安置・火葬)

そんな経緯の中で18日に探し出しまして、18日の夜は西宮の中央体育館で仮安置しました。県立西宮病院行って、それから、またずっと、歩きですよ。遺体の方はパトカーが搬送してくれるわけなんです。だから、こっちは歩いて行って、迎えて、そこで死亡確認してもらって、遺体安置所の中央体育館まで行って。今度は警察の検案検視を受けて、それでまた半日とかずっと過ぎますよ。動きようがないわけですからね。そうこうしてるうちに、葬儀屋さんが動き出してきて、「こちら関東方面ですよ、北陸方面、九州方面ですよ」言うて、もう皆、一緒ですわ。2遺体、3遺体があそこで一つになって、そっちの方面に送られていくわけですよ。西宮市の満池谷の火葬場が倒壊してましたから、一番近い所では大阪でしょう。神戸は全然駄目ですから、遺体の処理は明石から以西でしょう。

1月20日に迎えに来てもらって、遺体を今の養父市八鹿という所に連れて帰りました。そ

れも普通やったら3時間ぐらいで行けるところが12時間ぐらいかかるんですよ。それまでに西宮で許可証をもらって、向こうで遺体を火葬したんです。

(子供の進学)

子供は当時小5と中2と高2でした。今度はその上の学校に行く準備がありました。休み明けぐらいには同時に転校の手続もとりました。みんなスムーズに受けてくれました。それは、学校が皆、仮設住宅みたいなものですから、学校に行こうにも行けないわけです。こっちも家がないわけですから、長男は大阪の私立学校でしたから、大阪の姉の所へやって、そこから高校に通わせました。

娘2人は小学生と中学生でしたから、田舎の高柳小学校と八鹿中学校に行きました。そんな、嫌なんて言ってるような状態じゃないですよ。お父さんに言われたとおりですわ。

学校に行けるようになってくれたんで、あとは電話でやり取りしながら、私はこちらへ来て、会社の独身寮に住んで、また通勤したんです。当時は携帯電話ってね、そんな普及してるころじゃなかったんですよ。それで連絡の手段が非常に苦しみました。「今、こんな状態、あんな状態」いうのを知らせるのでも、あの当時は近くの公衆電話に10円玉や100円玉を持って、ずらっと並んで待ってましたもの。それと、寒かったですね。寒いのと、食べること、それからトイレ。やっぱり人間の、我々、今、介護やってましたら、特に思います。食べることと、排せつすることと、睡眠とることがやっぱり一番苦勞します。仮設住宅ができて、仮設トイレができたり、携帯電話がなくて、電話ができなかったら連絡が取りづらかったという、つらい思い出があります。それから、それぞれ6年生、3年生、高校3年生となったんですけど、今度は進学の問題が出てくるわけです。西宮にまた帰ってこさせたのが連休明けでした。それぞれみんな、進級するでしょう。6年生と中学校3年生というのは修学旅行があるんですよ。今度は学校へ行かなくなっちゃいましてね。不登校というか、昔は登校拒否です。

上の娘が特に。下の娘も中学生のお姉ちゃんを追いかけて、不良行為をしたとかいって学校から会社に電話がかかってくるんですよ。「皆、やってくれるわ」と思って、仕事どころではなかったです。会社の方は非常に温かく広い気持ちで接してくれて、職員も協力していただいたんですけども、肝心の子供たちがそんな状態になるので、こっちも本当に「どうしようかな」という気持ちもありましたけれども、食べていくためには仕事はやめるわけにもいかないですし。

男が亡くなるよりも女が亡くなった方が家庭として経済的な問題は、いいんだなと思いました。私らあんまり、子育てしてきてないです。

もう仕事ばかりで、家のことは家内に任せてきたものですから、女の子がそれぞれ小学校6年生とか中学校3年生となってくると、いきなり「こんな大きくなってるの」という印象でしたからね。現実問題となってきた時、「どういうふうにして話を聞いてやろうか」とか、「どういうふうにして対応していったらいいのか」というのに非常に悩みました。

学校に行かせる事とか修学旅行に行かせるのには難儀しました。とにかく車でJRの西宮まで送って行って、「行ってこい」って言うんですけど、本人は「行きたくない」って泣いてるしね。

それでも、みんなと同じように学校に行ってもらいたいし、修学旅行も大きくなった時には思い出ともなるわけですから、「行ってこい」と無理やり行かしたのは覚えています。そうこうしているうちに、上のねえちゃんが、学校にあんまり行ってないもんやから、今度は地元の高校に行けなくなっちゃいましてね。下の子はまだ小学校6年生で、義務教育の段階ですからよかったですけど、上の子が行く学校がなくなっちゃって、さあ、どうしようかと困りました。

その時、たまたま他の先生が「看護師の道がありますよ」ということを教えてくださいましてね。兵庫県では日高にも看護科がありまして、新宮、今のたつの市にも看護科がありました。そこも見に行ったんですけども、なかなかそういう状態でしたから入るのに難しそうだったということで、岡山のFにG高校がありまして、ちょうど衛生看護科があったものですから、そこへ受験して入ろうということになりました。私の車で行って岡山まで行って、伯備線に乗って新見まで行って、それから学校へ一緒に行ったりしました、1泊してね。調べてたら、結構皆さん、いろんな事情を持つてる、家庭事情のある子供さんが多いということもありまして、「寮で生活することによって、いろんな悩みや思いを共有できる友達が、仲間ができるんじゃないか」と思いましてね。本人も「その方がいい」って言うものですからそこに進学しました。学期が終わるごとに寮から退出して、布団から着るものから皆持って帰らされました。毎学期送り迎えしました。3年間、3学期あるわけですから、9回は日帰りで行って来たということなんです。

准看ですけど、兵庫県と四国と和歌山県と通ってくれましたんでよかったです。

(子供達の現在の様子)

上の娘は明石に帰ってきて、ずっと看護関係の仕事をしています。もう結婚してくれて、31歳になります。一番下の子も、もう28歳ですから、2人目の子供ができますしね。お姉ちゃんも去年、流産しちゃったんですけど、今年また妊娠して、今のところおなかに入ってる

ようです。下の子は、早いって言うか、24、5歳で結婚したんです。

私はとにかく成人してくれるのが、まず一つの目標でしたよ。成人してくれて、結婚までしてくれたら、もう言うことないです。みんな結婚してくれたんで、私も5年ほど前に再婚したんです。仕事仲間で、たまたま向こうも1人やったので。

兄は、ひとり者です。今年で34歳になるのかな。高校2年生の時に母親を亡くしてるでしょう。引きずってる思いは強いみたいです。最初は強がり言ってね、がれきの清掃ボランティアなんかやったりしてましたけど。学校も横浜へ行きました。

サラリーマン時分は、向こうに長かったですよ、10年近くおりましたから、向こうに思いがあったんでしょうな、今から思うと。

帰って来て、私と一緒にこの仕事を始めるということになったんですけれども、やっぱりなかなかうまくいきませんでした。結局、今、奈良へ働きに行ってます。「1人で商売させてくれ」って、勤めてますよ。いい話があるみたいなんだけれども、やっぱり何か思い切れないみたいでね。「男やからいいやろう」と言ってるんですけど、できれば結婚して家庭を持ってくれれば親として、うれしいんですけども。兄の方は、学校は休む事なく普通に登校して卒業して、勤めだして、年を経るごとにそういう思いが強くなってきたみたいですね。私は、再婚までしてしまったわけですから、尚更なんでしょうね。男の子供というのはね、割に父親とは話さないんですよ。私もそうなんです。

年をとってからじゃないと話ができないのかもしれないですね。私の父親が87歳なんですけども、今でしたらよう話ができますよ。向こうもいつ、どうなってもおかしくない年齢ですし、こっちもやることやってきたわけですから、やれることだけ残りのこと、やるよと。お互いそれでいいだろう言うて、ほんとに一人間同士という感じで、話ができるようになりましたけど、子供のころは、父親の存在というのは怖い存在で、話なんてできませんでした。

震災までは、話したことがなかったです。母親とはよく話すし、子供の頃いうたら、それこそ、腹減った、飯食わせとかっていう形でね。娘たちは結婚してからでも、よく話すしね、家内とも話をする。女同士ですしね。今の女房ともよう話してくれますし。

父親っていうのは、そんな感じがする。私は今でも、あんまりたくさんのは息子とはしにくいです。「こんなこと言っても仕方ないだろう」とか、「これ以上言ったら甘やかしてしまうだろう」とか、「そんなことぐらい自分でちゃんと考えて処理しろよ」とかね。相手もそうなのかなと思ったりして。ベタベタとしにくいというのがあって、父と子供の関係ってそんなような気がしてるんです。

「もっとしっかりしてくれよ、できる応援しかなできないけども、お金の相談だけは乗れないよ」と。とにかく、しっかり頑張ってくれて、やってくれりゃそれでいいかなと思ってるんですけどね。女性の場合は子供を産むという大きな変化がありますから、全然変わります。父親に対しても、唯一の実際上の親ですから、やっぱり親に対しての思いというのは、男性とちょっと違う感じするし、こっちは「娘や、よしよし」と片方で思いながらも、「お随分成長したな」とかね。また、その変化が際立って分かるじゃないですか。だから、その変化に対して親は「こういうふうにして今度は対応の仕方を変えなくちゃいけないのかな」なんて、遠慮しながらその喜びを直接感じ取れる親子関係なのかなと思います。男の方は、あんまり変わらないわけですね。

孫の顔でも見せてくれりゃ、違うのかもしれないけれども、それにしても、自分の実の子から出てきた子供じゃないもんでね、どこまでどうなるかなと思いますね。娘に対してだと、「自分の分身がまた自分の体から子供を世の中へ出してくれた、すごいことなんやな」というふうな思いはするんですけどね。やっぱりかわいいものですよ。

下の娘が今たつの市御津町に住んでいます。綾部山梅林の近くです。ここから1時間ぐらいかかりますね。姉の方は、東加古川におります。勤めも大久保のインターのあたりですよ。しょっちゅう家にも寄ってくれるし、この職場にも看護師さんが足りない時はピンチヒッターで来てくれるんですよ。シフトでやってますから、毎月シフト組むでしょう。こっちの看護師さんが休まれた時に2人か3人ほどおるんですけども、どうしても都合がつかない時は、うちの姉が入ってくれるわけですよ。月に2回か3回ぐらいいですよ。で、一緒に仕事できるじゃないですか。バイタルをチェックしたりね。その程度のことでですけど、助かりますよ。

(現在の仕事について)

たまたま、私が退職した翌年から介護保険制度が始まるということやったものですから。子供たちは医療と介護の方面の勉強を始めた時分でしたんで。

それが自分自身の仕事になるのであれば、1年間ぐら最低限の勉強だけして事業を開始すれば、もうねえ、50前になって新しい仕事につくいても難しいような、世間の情勢になってきましたからね。それやったら、自分で何かをしなくちゃいけないのかなと思ってましたけどね。

同じやるんやったら、全く畑の違う仕事で、人に、少しでも役に立てるのであれば、仕事の選択しよか。

それも、本当にタイミングよくですよ。平成11年の5月、8月に兵庫県で説明会が

ありまして、そのとき、初めて私と、父親と一緒に話聞きに行きました。八鹿の但馬長寿の郷にまいりましてね。県庁の神戸のほうは、私、1人で行きましたけどね。いろんなことが重なり合っただけ、いい悪いは別として、何かを行動に移すときには、必ずそういうタイミングがありますね。

それに乗るか乗らないかで、後々のことはもう随分形としても変わってきます。それは私の人生の一つの大きなタイミング、震災以降の生き方を決める分岐点になったんでしょね。

(震災後の助け合い)

食事の面は、こっちに来てからとか、それから、震災後すぐとかはいろんな方々のお世話になりましたね。例えば親戚であるとか、友人であるとか、いろんな仲間が助けに来てくれたり、家内の姉が三木におりますので。私の職場の仲間も、女性連中であるとか、いろんな方が、うちに来てくれたり、姉は大阪におりますね。いろんな方の、本当にお世話で、明石に来るまでは、翌年の8月でしたけどね。ああいうことはあるんでしょね、人間。今回のエジプトのイスラム革命とかいわれていますけども、人間がぐっと集まる、団結するのかな、一丸となって一つのものに向かって走るといふ、そんなのを、震災後は特に感じましたよ。

仮設であるとか、ああいうような家がないときのころのね、生活苦をして、私も1人で久々の独身生活をやってきましたけれどね、酒造メーカーでしたから、井戸があるんです、宮水の。タンクローリーで水を出して、近所に配ったり。近所の方も自分たちの持っているものを私らの独身寮に持ってきていただいたり。皆さんが、生きていくっていうのかな、それぞれが物々交換みたいなものでね。

生きていくためにはこれが必要ですよ、あれが必要、うち、これがあるから、あんた持って行ってね。

例えばうちの、今の家にある、そこに持ってきてるテーブルなんかでも、会社の同僚がくれたものですしね、そんなもんが、少し残ってますよ。これが唯一残った書棚ですよ。無傷で。これは、本当に不思議なものでしたね。ガラスも割れずに。家がめちゃくちゃなのに、これだけは、そのまま、もちろん五、六メートル滑ってるんですよ。これは残ってたんです。これは東京に転勤したときに昭和58年に買ったものです。一番下の娘が生まれる年ですから28年やな。

これだけの量ぐらいの本が入ってたんです、当時も。それが全然無傷。下がね、滑るような床でしたよ。倒れずにね、滑ってるんですよ。ほかは、みんなむちゃくちゃですよ。

これは、だから、こちらあたりは傷がいつてましたんですけど。

自宅でやってるときもここへ置いて、私どもの部屋のときにもこれ持って行って。

30年近く一緒にやってるわけですから。本当に人の力とか、物の力とかね、天の力とか、いろんなことを感じる16年でしたですよ。だから、生きてるだけで、ほんまに幸せなんやと、自分で感じてますから。子供たちにもその話だけはしてました。別にお金は必要なだけあればいいわけでした。

(学費について)

教育費とかその分に関してはね、最近よく県から社協を通してお金を借りるとか、それがまた返済ができてなかったとかいう話聞くじゃないですか。私も実は県からとか、いろんなところから、当座の生活資金をお借りしたんですよ。当然それは、すべてお返ししてますけどね。

そんな支援策というのがあって、私ら、随分助かりましたですよ。子供たちの学費については、あしなが育英会。今でも肅々と皆、返してるんでしょけども、私も返せないときには共同責任があるから、幾分かはお返しさせてもらったり、集まりには年1回だけは「偲び話し合う会」が1月17日に開かれますけど、ことしも下の娘と孫と3人で行って来ました。いろんな支援策に対して、感謝してますよ。ですから、当然、それに報いなくちゃいけないし、本当にお金というのは必要な分だけあれば生きていくことができるわけだし。お金があるに越したことにないという思いは一方ではあるけれども、そんな必要だけあればね、幸せっていうのは感じることはできるわけですから。

私は総務関係のこともやってましたしね。ですから役所なんか行くと、制度があるっていうのはすべて情報として置いてあるじゃないですか。そういうのから情報を収集して、手続も自分でやって。

その点では恵まれていたんでしょ。

いつだったかに書きましたけども、震災のときの行政の対応、震災対策というものは非常にスピーディーでよかったということをお話してある新聞で取材を受けたというお話はしたことありますよ感謝してます。

(家族を亡くした方の思い)

あのとき以来ずっと私らと同世代の人たち、同じように妻を亡くして、子供を残されて、それを育てて成長させて、現在の自分があると、これは同じなんですけれども、私の場合、仕事のほうへ飛びこんだんですけども、それ以降ずっとボランティアばかりやってる人とかね。神戸の毎年1月17日なんですけど。

東遊園地のところでいつもおられますよ。同じようにあしなが育英会で知り合った人たちですけども、仕事もやめて、ボランティア一本やという方もいらっしやいますね。俳優の、Hさんでしたかね。あの方がやられてる仲間ですね、グループでやられてる方が、そういう長田の人と東灘の人や芦屋の人やらね。一番寂しかったのは、一緒に、父親の会いうのがありましてね。料理教室いうのを月に1回やってたところがあるんですよ。

その当時の仲間の人が、亡くなられました。

お姉ちゃんと弟さん2人、3人の子供を残されてね、あしながの子供たちの知り合いでしたけど。お母さんが最終的にこうなって、これも1人亡くなり、2人亡くなりして、子供さんも弟さんが1人亡くなり、2人亡くなり、最後お姉ちゃん1人だけ残って、幸い結婚されてましてね、子供さんが2人出来てよかったです。家族全員がみんな順番にね、亡くなっていったという話も聞きました。むごい話やなあいうて。子供たちもそれぞれ、きつい、つらい思いをしてきたんかなと思ってます。まだまだ頑張らないかなという思いがしますよ、そんな話を聞いてますとね。だから、私もいつどうなったっておかしくないんですけどね。

(今後の生き方)

まあ、何とか生き長らえてるということは、まだ死んでは駄目だぞということなのでしょう。実際そうですわ。

たくさん借金が残ってましてね、借金をみんなに迷惑かけないようにするためには、まず仕事を続けなければ駄目でしょう。仕事を続けるためには、第一自分自身の健康を保持していかなくちゃならないと。健康を保持するためにはどうしたらいいのかいったら、インスリンを常に1日4回打つことと、今までやってたお酒を極力慎むことであると。あとは畑仕事をするということとかね。畑を40坪ほど借りてましてね。夏野菜で、この間、ジャガイモを植えました。そこの駐車場、340坪ほど、そのうちの40坪だけは畑にしています。

もう6年になります。私はここでやりかけてジャガイモ3年目ですけども。大分うまくなってきました。これを続けることやなど、それは健康にいいですよ。

体を動かすと血糖値もぐっと下がって安定してくれますしね。

畑仕事はしたことなかったね。田舎の出ですけども、私も野球してましてね、田舎のほんとに弱い学校ですけど。野球ばかりしてましてね。

あそこに毛布とかありますでしょう、あそここの小さなバッグには注射と検査測定器が入ってるわけですよ。

いつも、ペン型でしてね。御飯食べる前に、朝、昼、夕方、寝る前とおへその周りに、順番に打っていくわけですよ。

(困ったこと)

今までで一番困ったときは、こっちに引越してきて、子供たちが何とか乗り越えてくれ上の子が高校に進学した時と、今度、下の娘が女ですから。いろいろと体の変調が出るじゃないですか。

あれが困りましたね。私もどうしたものやろって思うてね。そんなんで、紙に書いてもらって、私がスーパーに買いにいったとかね。そんなようなことがありましたね。今、言うと、そんなん言わんといてって言われますけども、やっぱり、男性としてはね、非常に難しい問題でしたね。

子供がちょっと横道それかけたこと、それに対して、学校に行って親の役割をしなくちゃいけないですから、ねえ。家内がおれば行って、話を聞いてくれるんでしょうけども。その役目も私がしなくちゃいけないもんですから。母親の役は、まあ大したことできなかったですけども。周りの人たちの、協力で、それこそすべて5時過ぎぐらいでしょう、仕事が終わるのが。すぐ帰っていいですよいうことで4年間ほどずっと許してもらってたですね。だから、JRのどこに行ってもらって、25分ほど歩いて、帰ってきたら、もう6時40分ですよ。近くのスーパーで買い物かごを下げてずっとまた。その時分は、もう娘、中学上がってくれてましたんで、食事つくったりして、交代でね。

洗濯は、もう女のほうがりしと。みんなでやるよりも、女性のことやりなさいと。手分けしてね、やりました。

子供達は、みんな、そんな嫌がりませんよ。

ただ、万引き事件というのはありましてね。

それから、放浪事件。これは姉ちゃんのほうがね。寂しい思いやら、あつたんでしょいうね。岡山の学校行ってるときに、倉敷のほうで。朝の6時ごろですわ。「Aさんいうのはお宅のお嬢さんでしょうかね」と、倉敷警察署です。実はこうこうこうと。

放浪いうのか、寮生活なんで脱走というか。

「補導しました、すぐ引き取りにきてください」と言われるんですけど、こっちも仕事があるもんですから「ちょっと待ってください、学校へ電話して、学校の先生に行ってもらってください」と。私も会社に一回出かけて、それから向かいますと。G高校まで220キロぐらいあるのかな、ずーっと走りましてね。迎えに行くと、「こら、あんた」って言って。しばらく謹慎だ言うて。

それは、もう周りの友達も同じような悩み、

寂しい思いを。離婚家庭や、親亡くしたとか、そういう人が多い学校でしたから。同じような、思いを持った子たちが何人かで寮を脱走して。その辺を放浪してたと。あるときは地元のスーパーで万引きしとるんですよ。だれだれさん、すぐ引き取りに来てくださいと。こらって、またしかって。万引きいうのはね。行って、会って、そのままレジを通して「お金を払えば、今回は許しますよ」と言うていただいたんですけど、「二度とすんなよ」と。もちろん、二度とはしてませんけども。そんなことがありましたね。

やっぱり、いろいろと寂しい気持ちの中から、そんなことをさせてしまったのかなと思って、そのときはしかりますけどね。

そんな思い出やら、つらいこともありましたね。その点ね、ですから、何の問題もなかった息子がね。現在一番おまえが親不孝もんや言うて。妹らはいろいろと面倒かけてくれたけど、見てみ、みんな親孝行してくれとるやないか。そんなもん知るかい言うて笑って。

お兄ちゃんなりに、自分はしっかりしないとだめって思ってるんでしょね。だから、この間も17回忌の集まりのときは、ちょっと熱が出たいうて、結局、参加しなかったです。加古川で食事会しましてね。

(納骨)

12月中にお寺のほうには、私の田舎のお寺にたまたま知り合いの同級生が住職をしておりますから。そこのお寺さんに、同じ宗派でしたし。私は帰れなかったんですよ。皆、私が長男なもんだから、そのときは両親もね、田舎のお墓に入ればいだろうと。八鹿で、もうね、火葬してお骨も揚げたわけですから。そこに入るべしや思ったんですよ。ところが、檀家衆が、お兄さんはもう出た人ですから、長男さんでもこの累代の墓には入れませんと。さあ、行く場所、持って帰るとこないぞなんて言って、独身寮におったんで、田舎のほうの仏間のほうへ一たん置かせてもらって、友達から話あったからね、養父市の高照寺っていうお寺に世話になって、ちょうどあいてましてね、お墓のほうも。そこへ墓建てて、年に3回は参ってるんですよ。死んだ家内の家族の人たちも参りやすいじゃないですか。島根のほうですからね。三木にも姉が一人おりますからね、そこへ同じようにお彼岸とお盆には参ってくれているみたいです。それもできてますからね。

あとはもうね、こっちにつくった家のローンを払い終えるまでが私の役目です。死んだらね、棒引きっていう保険に入ってますから、いいんでしょけどね。

だから、行き場所はこれで決まるとるわけですし、仕事の居場所はこれであるし、こ

れを一生懸命続けることによって健康も。農業もしないといけない。言うことないんじゃないですか。そういうふうに、開き直って生きていかないと。また、孫のね、顔見せてもらって、成長を見るのが楽しみですよ。人間、やっぱり考えていかないと、残された子供たちがかわいそうですね。どうせ、親としての苦勞をしていかなくちやいけないわけですから。

そんな思いですね、今はね。

(震災時にあれば良かったと思うこと)

ほかに、今各所でね、天災事変があった場合、対処されてますけれども、電話ですよ。あの当時は電話が本当になくて、仮設のところに行っても、そんな設備はありませんでしたし、ですから電話とか、ああいうインフラで水、水のタンクね、それからトイレはやっぱり必要ですよ。プライバシー云々という話はきりのない話ですからね。それは、それぞれがみんな対応、トイレだけは、どうしても辛抱できないわけですから、食べなくちや生きていけないし、生きていく以上食べて、食べるとやっぱり排せつをしなくちやいけないしということですから。最低限のプライバシーだけは守れるような対応策を盛り込んだらいいんじゃないかなと思う。

防災で避難所とかいうのはね、それぞれ大分掲示されて、こころあたりはあそこですよとかね、学校なんかでやられてますけども。あとは道路行政難しいところですね。道路がそれまでにええかげんな状態で道路が先行、つくられた状態のまま放置されたところが多かったですよ。

したがって本当にでこぼこ、段差が生じてね、自転車で走ろうにも走れないとか、電柱が倒れて電線がぶら下がって、そこを縫って我々はしたわけですけども、そりゃあ、事故の程度によって大きな違いはあるかとは思いますがね、道路の拡張いうのか、あの辺はきっちり今後も。

こころあたりでもそうですよ、まだ未整備な道路、段差の多い道路であるとか、歩道であるとか、多いです。

やっぱりあの辺は単年度方式じゃなくて、3年とか5年とか中長期的な、考え方のもとに道路整備計画をつくってやっていかないかんじゃないかと思えますよ。今でも、このシーズンになってくると工事が多いじゃないですか。道路工事って。年に一遍に予算使い切ってしまうんでええのになと思って。メイン通りなんかでも工事してね。こんな雪の降ってねえ、渋滞が予想されるのにね、そのときまでも工事やっとなですよ。そんなときは、もうちょっと臨機応変に考えてもいいんじゃないのってね。ましてや、大きな震災であるとか、あるいは、

こないだの噴火であるとかいうときこそ、そっちのほうへ集中的にね、やってもらえれば。そういう動きがかなりできてはきてるんでしょけどね。そんな感じはしますよ。電話も、集中してやると、今度はもう、つながらないでしょうね。

あのあたりは今後ね、ここまでいろいろなことが開発されてきてるんやから、できてくるのかなと思いますけども。経済的な問題がなかなか難しいでしょう。

個々に差がありますし、特に昨今、いろんな、制度によってそれをうまく活用すると同時に、それに今度はまつわる犯罪というものも出てきてるようですね。少なくとも震災のときにはね、阪神淡路大震災のときには、やくざなんかでも、私ら同じここに安置されてましてね。みんな素直に動いてましたよ。

感心しましたね、やっぱり同じ人間やなど。

でも、数日たってくると、やっぱり略奪行為であるとか、泥棒行為とかいうのがちょこちょこあったですね。民間パトロールで見回り隊とかいうのが出てきましたよ。それは、もう人間である以上ね。世界各国そうでしょう。略奪やらね、泥棒やらなんか、また変なことやったりとか。

あのときは意外に、僕もつとあるのかなと思っただけど少なかった。

そのあたりのところは感心しましたし。こういうことを私も話をしていきますけどね。県やら教育機関でも子供たちにそんなことを伝えてあげて、そういう子供たちが、そういう大人になるように成長してもらえればなあという思いはしますね。

(今後の活動希望)

新聞のインタビューとか受けたりしてますね。何かのときはね。個々にはね、そんな対応してるんですけども。よく言われます。語り部さんでもないのに、将来的にはなられたらどうですかみたいな。そんなんより、慰問活動するよ言うて。漫談でもね。今の家内と2人で、ボランティアで。そんなんでも回ろうかな思って。農業を通して何か活動するとか。慰問活動してみたいな思ってます、生きてる間はね。しよかなという、思いはしてますし、夢になるかもしれないけれども。この仕事を通じて。仲間と一緒に。私もね、ボランティア、人にしてあげるとか、そういうのはあんまり、苦手なほうなものでね。こんなんしてるぞなんていうのは。

やっぱり、生きるということは、食べていけなくちゃいけないし、食べていくためには最低限のお金が必要。最低限のお金が必要ことは自分で働いて、それを稼がなくてはならない。稼いでいくのが僕は務めであるし、人間であって、国民である義務であるという思いでおりますから。それが、しいてはうまく

言えば、地域に貢献することになるんじゃないかなと思いますけどね。共助いうのか。助け合っていく。私は友愛というのを、あそこに張ってます仲間のね。仲間に対する愛で。まあ、そんなことを極力忘れないように。私も頑張りますので。

いつも感謝しております。いつも県民局の方にお世話になってるんですよ。県民局の係長さんも障害をお持ちの方でね。もう長いですよ、あの方も。

私がスタートしたときですから、もう10年前になりますね。平成11年、ちょうど今時分に。最初はね、県庁に行ってたんです。後からですからね、県民局が、加古川に移ったのは。あれは健康課か何か、健康推進課か何かというのあって、兵庫県の県庁、上のほうです。そこが最初の窓口やったんですけどね。指定を受けるためのね。健康保健課か健康福祉……生活衛生……介護保険課というのがあるんです、別に。当時は、介護保険課がなかった。まあ、介護保険もどうなっていくんだろうと国会見とったら、今後どうしようかな、あかんわ。

プロフィール

| 保護者-6 | | |
|-------|------------------|--|
| 項目 | 内容 | |
| 訪問 | 面接日 | 平成23年2月10日(木) |
| | 面接対応者 | <input type="radio"/> 保護者:母親 <input type="radio"/> インタビュアー <input type="radio"/> インタビュアー補助者 |
| 基本属性 | 性別 | 女性 |
| | 年齢(調査時) | 50歳 |
| | 本人との関係 | 母親 |
| 被災状況 | 被災場所 | 芦屋市津知町 |
| | 家屋被害 | 全壊 |
| | 家族の状況 | <input type="radio"/> 両親と子ども2人(当時小学1年生、3歳8か月)が賃貸住宅で被災。 <input type="radio"/> 父は死亡。母は頭に15針縫う傷、腰は圧迫骨折し2ヶ月間入院(湯村温泉)。 <input type="radio"/> その間子供二人は、避難所にもなっていた父方の実家のキリスト教会の一室にて祖父母が養育。 <input type="radio"/> その後1年半、そのままキリスト教会の一部を借りて生活。 |
| 主な発言 | 遺児の養育など | <input type="radio"/> 今まで子供には、隠すことなく真実を伝える、現実を見据えるという姿勢で接してきた。 <input type="radio"/> 追悼式などには、子供は小さいなりに何か感じるがあると思って、意識的に出来る限り子供も連れて参加した。 <input type="radio"/> 教会住まいをしていたため、兄は、友達を連れてこれられないなど窮屈な思いをしており、チック症状が出たりしていた。 <input type="radio"/> 妹は当初、閉所、暗所恐怖症であったが、3年くらいたって小学校へ入る頃には良くなり、何回も海外でボランティア活動をするなど、今では積極的に出て行くようになった。 |
| | 震災遺児への支援で必要なことなど | <input type="radio"/> 遺児育英資金や奨学金の支給などで経済的には助かった。 <input type="radio"/> あしなが育英会やロータリークラブの集まりなどで同じような境遇の人が集い、励まし合ったり出来たのは力になり、支え合う集まり等は励みになる。 <input type="radio"/> 子供が小さかったので、レインボーハウスのような見てくれるところが必要。孤立しないように見守ってやる、相談するところ、集える場を持って、分かり合えるという場を作ることが必要。 |

震災遺児等 インタビュー ⑥

日時:平成23年2月10日

(震災の被害)

同級生が亡くなっているんです。上の子らと父親もですけど同じ建物の中で本当に兄弟みたいに、上の子は10月に生まれた子と、亡くなった子は12月に生まれて、本当に前の文化住宅の中で兄弟みたいに育て、1年生まで一緒におった子も亡くなったので寂しくて。私も震災で腰の骨を折って3月まで入院していて。

(震災直後の状況)

入院している間は、夫のお父さん、お母さんが交代に子供を見てくれてたんです。

夫の実家がこの近くでキリスト教会をされていて避難所に登録しているんです。私の実家にも母はいるんですけど、湯村温泉なので、年に1回か2回しか会わないおばあちゃん、一回連れて帰ってきたんですけど、けがしたときにもっとひどい人が教会にいて、私も頭を切っていたんですよね、救急車が一回夜中に来たんですけど、道も通れるわけじゃなくて、芦屋市の津知公園の西側の通りが一番この辺だったら広い通りだったんですけど、この辺は電信柱とか家で通れない状態で、もっとひどいけがの人を連れて行って、救急隊の人が「必ず来ますから」と言っただけですけどそれきりです。主人の妹(22、3歳だった)が次の日の朝に消防署まで呼びに行ってくれて、息子がね、前の日から熱出してたんです。それと私がけがしてたけれども、おんぶして行きました。A病院に連れて行ってきて、でもそこもパニックです。腰を診てくれなくて、頭を15針糸がないからと、ホッチキスみたいなのでとめて、帰りは送ってくれなくて、母がついてきてくれてたんですけど、近所の信者さんが車で送っていきますと連絡とってくれて、JRの辺までしかおきてこれなかったです。そこから毛布かぶって連れて帰ってきてくれたんです。でも腰は診なくて痛いし、自分もパニックになって、こんなけがしているけど折れていると思わなかったんです、圧迫骨折で、打ったわけじゃなくて、全体が骨の一つにいったのでつぶれて、3日目ぐらいに大阪の私のおじが尋ねてきたときに熱が出て、多分けがの熱じゃないかなと思ったけど、おじが「ほっとかれへん」と言っただけど、夫の火葬が待てなかったんですよね。夫は震災の夜に検死しないといけなからといって、潮見中学校に連れていったんですけど、「自分で探して火葬していただいてもいいですよ」と言われた。私は動けなかったから、お父さんが「待ちますと、教会が避難所になっているし、自分たちも身動きとれないから」と言って、それで、大阪から来たおじが見たときに、熱出していたからほっておけないけれど、火葬も終わってないといって。そのころになったら避難所の教会に発信電話がついたん

です。

次の週の月曜日に火葬が決まったので、「火葬が決まりました」と田舎とか私の実家に電話したら、火葬の終わった次の日に実家の母と兄と大阪のおじが来て、私と子供たちを連れ去るようにして大阪のおじのところに連れて行って、大阪の病院で検査してもらったら折れていた。でも大阪のおじも自分の娘が臨月であったので、そこで入院して預かるわけにいかないからと言って、じゃ私の実家のある日本海の方へ行くことにして。

田舎の病院でいとこが看護婦をしているので「入院させてくれ」って言って、通常4時間のところを8時間かかって帰って、入院したんだけど、私はね、子供も平和なところに連れて行きたいと思ったから、入院する気はなかったのに、入院しないといけなくて、そしたらおばあちゃんもなれてないしと言っていたら、学校の再開が2月2日に決まったんです。それを受けて芦屋の夫の両親が迎えに来てくれて。

子供たちは芦屋に帰ってきて、私も病院に入ったので、2カ月間離れ離れになって。

腰は、何ともなかったですね、田舎の病院がB医大の関係の病院で、B医大の先生が月に一回ぐらい、診に来る日があって、その先生が、うまく折りましたねと言われました。背骨ってすごい神経が走って、抹消神経、脊髄損傷とかになるような神経が通っているんだけど、後ろにつぶれていたら神経圧迫したりしているけど、うまく前につぶれたから後遺症もなく。

普通に歩いてコルセットみたいな硬いのを2カ月ぐらいはめていたので、普通ですし、硬いかなと思うんですけどね、その間、柔軟でもなかったし、そのあとも怖がってしないし、「柔軟性はない」と先生もおっしゃるんですが、後遺症もなく「帰ってから電気治療行ってください」と言われて2、3回行ったんですけど、余りに人が多くて閉口しました。

(震災直後の生活)

ここ(芦屋市津知町)に引っ越してきた。うちはね、キリスト教会だったし、ロータリークラブの(関係者)だから、私3月末まで入院していて、帰ってきてちょっとしてから、学校を通して里親に、自分たちでロータリークラブで里親に交流して奨学金申し出があったから教育委員会の方でどうですかと言われて、そのときはまだ退院してすぐやし、どうやって生活していこうかという、家もないし、と思っていたときだったので、夫の両親がせかくの申し出やし、お金は要るに決まっているから、一時貸してもらって、そのときに娘も連れて行っていたんです。3歳だったから、そしたら息子の方の大阪の方のロータリークラブが手を挙げてくれていたんですけど、芦屋側のあれが窓口になって、「こんなちっちゃい子がいるんだしたら、この子(娘)も探します」と言って、また違う

大阪のロータリークラブが手をあげていただいで。

(人とのつながり)

娘は、幼稚園の3歳8カ月で震災に遭って、最初、私仕事もないし幼稚園に申し込んでいたんですけど、何か母が募集案内を見間違えちゃったんですけどね、違う教会の信者さんが雇われるクリーニング屋さんに募集が出ていたというので、行ってみたら募集じゃなくて多分C屋だったん違うかなと、そのお店の人が言うんですけど、せっかくなので、来てくださいといって雇っていただいて、それがもう1年後でしたね。

息子は小学校1年生になって家族の家系みたいな、お父さんが仕事に行っている家とか、自分の家はどうやってお金が家にきて、どうやって生活しているかみたいな学習をしたみたいで、お父さんが仕事をしているというのがわかってきたところやったのに、「仕事する人がいなくなったから、お母さんどうするの」と、退院して帰って来てからでも言っていたし、震災後病院にも行ってない教会で横になっているときに言われましたね。小学校1年生の考えだから、お父さんいない、それは衝撃的だったらしくて、「どうすんの」といって、「お母さんが元気になって働くから」と言ったんですね。

私が入院中にはじいちゃん何か仕事に行っても今だったらそんなようなことを言わない。私が退院してからもそう言うから、あとはそうやってクリーニング屋さんに雇っていただいて、個人経営のお店だったので、年金もあったから食べていけるだけあったらいいかなと思っていたんですけど、震災7年ぐらいになって母の方がちゃんと年金がついて、保険がついたところを探したらどうなんと言うけど、こっちから無理してお願いしたところやからとクリーニング屋さんがやめられない状況になって、どうしようと思っていれば、タイミングよく区画整理が入ったからね、そのお店を移転するためには一回閉めて、工場もやっていたんだけど、やめないといけなから解雇ですと言われて。

私、Dに独身のとき勤めていたので、そしたら、また都合良くDで人を求めていると言われて、妹もいまだに正社員でいるんですけど、「4時間のパートしか雇ってないよ」と妹が言うから、行ってみたら、「ブランクがあるんだけど経験者で、教えなくていいし、7時間で来てください」と、パートの一番大きい枠で行かせてもらえることになって、いまだにDにいるんですけど。

その都度誰かが言ってくれて、職が見つかって、私も素人でDに入ったわけじゃないから、Dの制度を利用して、結局、去年から契約社員で月給制に変わりました。

何か不思議な、縁があります。私が入院中に子供の記事を見て、大阪和泉の人で、その方は奥さんが亡くなった家庭に後妻で入って、自

分は子供を生まずに2人の子供を育てた人が、「父死亡、母は入院中」と子供の写真を見て、自分が連れて帰るぐらいの気持ちで、新聞だけを頼りに尋ねてきてくれて、その人が娘とすごい相性が合ったんですね。尋ねて来たらおばあちゃんとおじいちゃんが見ていたというのがわかったんだけど、避難所になっているからと言って、私が退院するまで週に1、2回、2時間ぐらいかけて子守に来てくれていて、その方とも人の縁とかがつなげられているんですね、いまだにつき合いです。自分が育てた子供は本当のお母さんが亡くなった、お姉ちゃんの方は元気なんですけど、本当のお母さんが亡くなった同じ病気で、子供が生まれない。

下のお嬢さんは、この前4歳で初めて結婚して、だから自分の孫がいないんです。それでうちの娘をものすごくかわいがってくれていて、運動会には来てくれるし。

いまだに家族ぐるみのような関係です。

そのご主人が亡くなっているって、すぐに飛んで行ったんですけどね、そういう方もいらっしやるし。

また、2年後に豊田市の方ですけど、突然小包が来たんです。あしなが育英会が震災直後に学生募金を全国でしたんです。震災の日のために募金をしたときに、みんなこんなで頑張ってくださいみたいな全国から集まったはがきが、神戸に集まって、遺児家庭に5、6枚ずつ配ったんですよ。うちに来た中に住所がちゃんと書いてあるのが何通かあって、母が返事を書いたんです。

その1通が豊田市に行って、その方は1月17日が成人の日やって、成人式の誕生日の娘がいて、その人はすぐに返事を書けなくて、2年後に小包を送って来た人がいまだにつき合いです。

名古屋にいますので地球博のときに行って。もう大きくなったからいいよと言うのに、神戸に遊びに来られたときも会ってお話したり、名古屋の家にも1回行かせてもらって、お誕生日のときは大きなプレゼントを送って来てくれたりして、親戚以上のつき合いの方が何人もいらっしやいますね。そういう点では私は恵まれていました。

また、あしなが育英会の学生が私が退院して帰って来たら教会に直接来て、何かしてほしいことないですかと言われたので、父は牧師で教会で子供を亡くしたお母さんやお父さんたちを集めて、1回集会というか、何か孤立しちゃうし辛い思いを抱えたままだから、私のお父さんも子供を亡くしたという立場なので、教会という場所もあるから、そういう集まりをしてくださという声があがって、集まりがあったんです。

そこに私ともう一人私のお友達で家族が亡くなってない人が、お茶ぐらいお手伝いしようと思っ行ってたんですけど入れなくて。

気持ちが違うというか、私は、家族亡くなっているけど、子供さん亡くなった人はもう辛い、ただ、お友達なんか、あなた何でいるのみたいな、いや輪の中には入っていかなかったんです。

お茶をお入れするという手伝いぐらいと思って最初は行っていたんですけど、かわいそうぐらい私らが入っていける雰囲気じゃないという立場で、そのときに、亡くした人で違うんやと思って、私は子供を亡くしてないけど、でも私には気持ちはわからないけど、この人たちの気持ちも私にはわからないと思った。

間に男性が来て、「何かしてほしいことはないですか」と言うから、「じゃ親を亡くした子供を育てている親の集まりをしてください」と、あしなが育英会にお願いしたんですけど、すぐやってくれて、6人ぐらいですけど集まったんですけどね、その中に一人、独身のときに働いていたDの同僚がいたんです。

長田で被災してだんなさんが亡くなった。

その子とは、同じように夫を亡くしてという、びっくりしましたわ。あしながの職員もびっくりしていましたけどね。

一緒に仕事をしているときはそうでもなかったんですけどね、こうなると仲良しになるんですね。

(震災後の住まい)

両親は、芦屋市津知町で被災しました。

親がどうにか、今は元気やけど何かあったら私と夫の妹がちゃんとしないといけないというのはどこかにありますけどね。それと家を探したりが大変でしたね。

仮設は考えになかったんですよね、2カ月間入院していたので、2カ月たってから仮設を探していたら、この津知町を基準にしたら遠いところしかなかったの、親のところは居候をさせてもらって、その近辺で探すいうのもあったので、だけど家を決めることとか、相談はするけど決断は自分でしないとけないから、それがしんどかったですね。何もかも。

(同じ立場の友達)

不動産屋さんには町内でも知り合いの方やっただからね、よくしてもらったけど、前は夫が夫がと言っていたらよかったけど、全く変わってしまっただけ、それが今思えばしんどかったですね。ここでの友達もそうだったから、その子たちと励まし合いながら、同じ立場の友達ができたのはすごいですね。

震災の年の6月か7月に再会というか、仕事をしていたのは、あの子はお菓子屋で、独身のときに私が20とか22歳とかのときに一緒に仕事していた1級か2級下の方がおられますけど、それから地震までは9年、10年ぐらいあいているのかな。

あしなが育英会の親の会に行ってみたらいた方です。

うわっこんなちっちゃい子を連れて大変やなと思った子が、そのとき私は親がね、子供を置いて行きなさいと言って、そんなんでゆっくり話をしたらいいからと言ったけど、彼女は預ける相手もいなかったから、1歳半の子供を連れてきていて、今思ったらとてもちっちゃいんですけどね、今はこの年になった。あのときは3歳は大きいなと思っていたぐらい小さかったから。その後も同じ家を探すこととか。

もう二人で大変やけどなどか言いながらしたんです。

これは大きかったですね、彼女は生後3カ月で親と生き分かれて、お父さんに育ててもらった子だったんです。それでお父さんとだんなさんが亡くなってたんです。だんなさんは宝塚の奥の方で一人っ子のだんなさんが亡くなったんです。彼女も自分の身内がいなくなって、だんなさんの義理のご両親と行き来しながら子育てをしていたので、お互い励まし合っていないといけないという。

彼女がまず車の免許を取りに行き、私もそのとき夫の父しか運転手がいなかったの、だんなもいなくなったし、私が免許取らなあかなと思ってたけど、取らずにいたら、結局、娘が小学校1年生になってお父さんから言われて、取りに行ったりして、だからお互いあれしなあかんね、これしなあかんねと言いながら、相談する相手がいたのはすごい強みでしたね。

しんどかったのとあつかましいのと、今になったらそれも育児日記のように残っているんですけどね、いっぱい。

(娘の震災の心理的影響)

娘も、最初は真っ暗がだめで、あとトイレが閉めてだめ、閉所恐怖症、暗所恐怖症。典型的です。

保育所へ入って小学校に入るまでによくなったぐらいです。

映画とかね、プラネタリウムとか、こっちは行かないけど、お知り合いになった人たちが連れて行ってくれたり、ボランティアで、プール女学院からね、アメリカの英語の先生がボランティアで子守に来て、その人も震災がきっかけで牧師になって、今、和歌山で牧師をしています。行くチャンスはあったんですが、行くたびにもう閉所恐怖症で大変でした。

トイレは別について行かなくてもいいけど、開けてしてましたね。

でも、ああいう時期なので先生たちも理解してくれて、落ちついて。

夜も電気つけたまま。

(息子の心理状況)

帰ってすぐそういう時期がありましたけれども、それは大分早くによくなったんですけど、息子はそんなんは余り、でもチックが出ていました。公文の先生が、すごいチック症状が出て

いるねと言うて、よくなったのはアパートに出
てからです。

親のところ、キリスト教会だったんですけど、
平日目いっぱい学校で遊ぶというか勉強行って、
私もそうだったんですけど、土日が教会は忙し
い。日曜日に礼拝するところで、だから、土日
が落ちつかないんですね。でも住むところも、
そこしかないから私たちも頑張っていたんです
けど、私も気がつかないけど公文の先生が「息
子さんすごいチェックが出ているけど、落ちつか
ないのと違うかな」という話から、よく考えたら
それかなと、本人も意識してないし、日曜日は
楽しいんだけど、ずっとごそごそとしている
ような生活環境の中で、友達も呼べないし自分
の家じゃないし、芦屋市の津知町で仮設ぐら
いの6畳と4畳半のアパートが空いたので、そこ
に行かせてもらったら落ちつきましたが、こ
っちが大変でしたね。

そのときは、毎日でも友達連れてくる、教会
のとき連れて来れなかったから、毎日いっぱい
友達連れて来て、土日も友達が来る。

本人は楽しかったみたいやけど、自分の家や
みたい。私はもう、嫌いな加減にしてくれと
いうふうに、1年半ぐらい続きましたですね。

子供にしたら、1年半友達を呼べるというの
もうれしかったんですけども、教会は、どこ
かでやっぱりおじいちゃんの家やという、自分
たちの家じゃないというのがわかって暮らして
いたので彼なりに気を使っていたんやろうと思
います。

おふろに入ったときだけ聞いてきましたね、
教会にいたときはおふろを一緒に入っていて、
そのときだけおじいちゃんたちに気づかっ
ていたのかしらんけど、家はどうすんのかね、聞
いてきたりして、そんな話はおふろしか言わな
かったです彼は、年が上だけに、いろんなこと
を彼なりに心配していたのがありましたね。

(震災後の子供達の小学生時代の生活ぶり)

私が働いている間、お兄ちゃんが妹を見ると
かいうことは、余りなかった。おばあちゃん
ともあったし、レインボーハウスがやって来た
んです。

すぐ近くに、あれもありがたかったですね。

親にしたら、おじいちゃんのところもあるし、
お向かいの家もね、すごい仲良しの家だったで
すけど、子供同士。そこにもおばあちゃんがい
るから、教会がだめやったらその家でもいいし、
レインボーハウスもあるから、どこかに行く
ところがあったんです。私も安心して、それは
すごいありがたかったですね。

最初は私の考えとしたら、働きに出ないとい
けないのでお父さんのところから離れると私が
しんどいと思ったんです。子供だけでは留守番
がしんどいと思って、そこの近くを考えてい
たんですけど、仲良くなったお友達が教会の向
かいの家の同級生の子供、おばあちゃんたちも

仲良かったし、レインボーハウスがやって来た
んです。

ここから5分もかからないです。この道二筋
向こうぐらいです。神戸市に入っすぐなので、

妹は小学校の低学年で、一人で行けるんです。

ただ、車の免許を取りに行ったときに、おば
あちゃんところがだめでそっちに行ったら一人
では帰って来れない。まだ小学校の低学年で、
お兄ちゃんが迎えに行ってくれたりするのはあ
りましたけどね。

妹はよく行っていましたね。毎日みたいに行
っていたと思います。

お兄ちゃんは別に寂しくもないしと言ってい
ましたね。一人で留守番も怖くないけど、彼女
は毎日みたいに行っていました。ありがたかつ
たですね。

(子供への接し方)

それから、あしながで知り合ったほかのお母
さんも、二通りあったのよ。私と友達の彼女は
隠さない、子供に事実を伝える。あるお母さん
は余りにもかわいそうだからね、子供には、親
が亡くなったのを絶対言わなかったんです。

あれは、今になったらだめですよ、やっぱり。
その子たちが高校生になっているんですけど、
隠してきた方がお母さんがうそをついていたと
か。

だから私らが正しかったかどうか、私は隠し
切れなかっただけで、子供に正直に伝えていた
んですけど、あしなが全体もそういう考え方の
ので、隠すのは絶対よくないということで、それ
を隠していたって隠しようがないし、ほかの人
から入ってきたら親は言っていないからもっと傷
つくし、でも言っていないのにあそこに連れて来
るものやから、何で僕はここに来るのとか言う
ような子が大きくなって今そんなんです。だか
ら、やっぱりうそはつきたくないね。

親は、うそを言っていないのはわかって
いたのかもしれないけど、息子はぼわんとした
子なので、中学校の1月16日に、1月17日
に何か特別授業をやっているんですけど、担任
の先生に明日何があるのと聞いたりするやつで、
先生がおまえが言うかと思つたのと、それをあ
ともう一回家でいっぱい亡くなったというのが
頭にあるんです。いっぱい。そういう性格の子
なんですよ。6,400人じゃないんです。
たくさん亡くなったという頭はあるんです。
「400人ぐらいかな」と中学生のときに言う
から、「馬鹿じゃ400人は芦屋市や」と。

だけどいっぱい亡くなられたってわかってい
るだけでいいん違います。でも、中学生がちょ
っと恥ずかしいよというような子でしたね。だ
から一生懸命真実を伝えても、受け取る方がそ
んなんですけど、うそとは思っていないかなぐら
いな感じです。私、その仲良し、親とも共通し
ているのは、向こうは特にちいちゃかったん
です、1歳半だったけど、一人の人間として家族

の中で、例えば、決まっていなくても家を引っ越しするとか、そういうことは子供だから言わないとか、決まってから言うとかじゃなくて、案が出てくる段階で、こういうことを考えているとちゃんと言おうというのは、共通していましたね。

おじいちゃんらに言えば、一緒に住んでいる中では、この子供しかいないので、そういう話もちゃんとしてきましたね。

私、仕事しながら免許取りに行ったので、こういうことをするので夜いかなかったり、おじいちゃんところに行ってご飯食べなあかんかったりすることがあるとか、そういうことも思っているんやけどとか言う、大体決めているんやけど、決めてない振りして相談したり、それはずっとしてきた。

今、父たちと言うのは、震災がなかったら子供たちも、また違う人間ができていたんだろうなど。

きょう、息子は来ていただくのに逃げて出て行きました。休みなんですけど。

(子育ての状況)

この16年は、あつという間ですね。キリスト教会の中の震災後すぐにご主人をがんで亡くされた信者さんが、亡くなって10年たった方が励ましに来てくれたので、10年って、長い長い10年と思ったんですけど、あつ10年ってもう必死の10年、気がついたら10年になっていたなと思うし、16年ってね、こんな日が来るのかなと思っていただけ、友達と、ああたったねと言っているときに、みんな年をとってというのと、女は強いなと思いましたね。

一番傷ついたのは、いつも言うんですけど、「あなた頑張ってるね」と、これでとめてくれたらいいのに、何人かいらっしやる。「私は無理やわ、私にはできないわ」と言われる人がいるんです。その一言は要らないんじゃないですか。あなただっただけ頑張るしかないあんたもするやろうと思うんです。

しないとしようがないし逃げられないから、みんなそうしてやってきたんであって、あの言葉はちょっと傷つくかなと思って、いまだにいますね。そこでとめとったらいいいのにね。

(娘と松山選手とのつながり)

レインボーハウスに行っていたら、松山選手とも仲良くなってね、毎年来てくれるんですけどね。

初めて星野さんが招待してくれて、選手の方が募金したのを渡すときに、松山が選手会長だったんですけど。

松山から渡されたものやから、もう松山さんを見たい、大ファンになっちゃって、毎年来てくれるから仲良くなって星野さんより松山が好きになって、私は仕事柄で行ったことないんですけど、娘はもう「ひいちゃん」と言ったら、

「みいちゃん」と呼ばれて、すごいです。一回娘の許可を得ず断ったんですけど、松山選手、あしながを通してね、「父親参観に行かせてくれ」と言われて、でも事件になるからね、学校が。それは丁重にお断りして。

すごいです。彼が36歳のときに私たちは忘れていたのに、松山がお兄ちゃんのお父さんを僕のこの年で、そんなところが松山選手の子供が3歳とかそんなものだったですね。子供を残して逝って、あら何とかかんとかで新聞に書いてあるんですよ、松山の記事で、いやあ、すごいです。同じ年やったんやと思ってやね。

僕何も格好よくないよとか娘に言って。

(学資の支援、ロータリークラブからの支援)

奨学金も毎月いただいていたので、私はその点では恵まれていました。芦屋ってね、遺児の奨学金もあったんです。

18歳までであったからね、だから経済的には裕福ではなかったですけど。ロータリークラブっておつき合いも大変でしたけど、あいさつに行ったり、呼ばれたら行ったりしてロータリーの会の方々とは、年に1回とか2回とかお会いするんですけど、子供達の成長を喜んでくれたり大きくなったねと声かけてくれたり、あれは振り返ってみたら、私たち家族だけで子育てしているんじゃないなというのはすごいありましたね。

親にしたら場違いなホテルとかで、職業的には社長さんとかだったので、絶対お会いできないような方々にお会いして、行くとなると何か気が重い感じがしたけど、お会いしてみたら、普通の子育てをしてこられた方々ばかりやっだし、振り返ってみたら毎年会うごとに声かけてくれて、子供たちもどこかで曲がったところへいったらあかんと思ったのか、二人ともそうならずに育ちました。

一回娘が大きく記事になったことがあって、そしたら、夜すぐロータリーの会員の方が電話かけてきてくれて、「見たよ」と言うて、だからすごい見てくれているんやなというのがあとになってから、一番大変なときはしんどいだけで、でもおつき合いやからといって、年に1回クリスマスとか呼んでくださったりしたら行っていたんですけど。

(子供の学生時代の状況)

お兄ちゃんは、家から通えるところですけど社会の荒波にもまれて。

東京のあしなが育英会のスタッフに、神戸っ子は、神戸から出たがらないと注意受けました。大学もすごい東京を進められたんです。でも本人はここから通えるし、自分の高校から、息子は推薦で行けるところというたら、高校を中心にしたら関西の大学を受けて、だけど、あしながのスタッフにしたら東京だったらもっと選肢が広がるし、もっと社会が広がるのに、神戸

の子は出たがらないと言って。だけど私みたいな田舎育ちの子は別に家から通えるところの大学はいっぱいあるんやからいいやんと思ってる。そう思う人もいる。

お金かかって。

あしながの塾が東京にあるから、あそこからだと安く通えるからと言ってくれるんです。

あしながはね、寮のようなところで月1万円です。食費も何も要らないんです。そのかわりボランティアさせられる。バイトができないぐらいボランティアをさせられる。自分たちの奨学金は自分で募金させて、読書感想文を月に2冊、寮の中で講義を受けてレポート出さないといけないとか、それで鍛えられるんですけどね。

娘もここでええんちゃうんと二人ともいます。

(現在の状況)

同じ立場で話したり、遊びに行ったり、今はもうほとんど遊びですけどね。Dの方といいながら遊びに行ったり。

今も付き合っているのは、Dの同僚だった彼女だけです。

ほかの人も知っているけど、おじいちゃん、おばあちゃんとかが多いから。親が亡くなっておじいちゃん、おばあちゃんが引き取っているという、母親は私と彼女だけです。

そういう出会いもありましたしね。

さっきのロータリークラブもそうですけど、全然孤立してなくて、みんながかわいがってくれて大きくなったなと思いますね。

私なんか同じような遺児がある中で、マスコミに報道されていて、あれ出るのは嫌いなんですけど見るのはね、いつも言うんですけどね、同じように震災に遭ってどうやって過ごされているのかなどというのは、子供たちもそれは積極的に見ている。出れない見たくないという気持ちもわかるし、もう辛くて見られないという気持ちも間違いじゃないと思うけど、震災後隠しようもないし、親がないのも事実やし、強くなってもらうしかないし、父たちがすぐにカウンセラーの勉強に行ったんですね。牧師だから自分たちも含めて必要やと思って、そしたらそれは隠したらだめやという教えがきた、正直に向きあって、追悼式も子供は退屈で嫌がるんですけど、芦屋市の追悼式も行ける限りは、行ったら4歳なり5歳なりに感じるものはあるだろうと思って行きましたね。それは母や父とも意識して地震の話も聞いていようが聞いてまいが、仲間に入ろうが入るまいが話は豊富にするし、幼稚園で遊んでいても、どこかで聞こえてたりするので、それはこそこそ子供には聞かせたくないとかじゃなくて、言える範囲で親も辛いんやということもしゃべって。

(息子のマスコミ嫌いの理由)

息子は、小学生の時震災取材でしつこく追いかけてられてマスコミが嫌になったんです。マス

コミ大嫌い、マスコミイコール震災イコール嫌と言って、いまだにそうです。

だから、毎年11月ぐらいになったら、学校からとあしながからも直接電話がかかってくるんですね、マスコミから電話がかかってくる、結局、私が断り役で、どうしても断れないというか、「小学校の追悼式を撮らせてください」とかね、「そんな勝手に撮って勝手に記事にしてください」と言うのでも、一応、本人には言わないといけなかったから、そしたら、もう拒絶反応、ふてくされるし、それはしんどかったですね。

(マスコミ取材)

でもあの子の気持ちもわからないでもないんです。嫌な思いもしますからね、出たら友達が「出ていたね、出ていたね」と言われるし、本人の意思で出てないのに、「いいなあ」って言う子もいるし。

そんなテレビに出られるというチャンスもないし、それから前、星野監督から甲子園に招待してもらえて有名人やとか、やっぱり子供なので、思うまま言うのすごいです。

それから、最初にNHKに追っかけられたのもあって、NHKが追っかけた日も市役所に避難していた近所の男の子、仲のいい子がお母さんたちに連れて来てもらって教会で初めて、震災前は毎日グループで遊んでいた子が遊べなくなって、震災後初めて遊んだ日だったらいいです。

その日にNHKが来て、私たちも震災が起こるまではマスコミになれてないから、断っていいことか断ったらだめか判断がつかなくて、お父さんたちもその日を機に子供に関することは断っていいんやと思っただけなんですけど、楽しんで遊んでいる横でがわってカメラが回っているし、最後は教会の2階で中から二人でかぎかけちゃったらしいです。

そこにずっと大人が追っかけてきて何かもう、それとあしなが育英会の取材は、自分たちが活動しているところを、宣伝もしないと募金も集まらない。でも彼にしたらか利用されているだけだと、マスコミ、あしなが育英会に利用されているだけやという見方をするし、全部が悪い方に悪い方に。

新聞もね、記事になって残っているから、今になって思えばよかったけど、マスコミ交渉をするのがしんどかったですね。何年かたってちゃんと調べて来られる方もいらっしやるし、全く何を取材に来てんのというような人もいますからね。

だからやったことのないマスコミ対応とかは、その中でマスコミの人と仲良くなった人もいるけれど、結局、何でも人と人ですね。

本人は出ていくのはしんどいけど、しんどいなりにいろんなつながりができて。だからその調整が難しいです。

兄妹で違うので、息子はマスコミのことをぼろかすに言うんです。私は妹が頑張っているから、「私の前で言うのはいいけど本人の前で言ったらあかんよ」と、「わかっている」と言うんです。

(マスコミとの関係)

関西テレビさんがすごい仲良くしてくれて、取材に来たりしていたんです。それがわかったら部屋から出ないか出かけて行くかです。割り切っていますね。

娘はあいさつもするんですが息子は一切しない。おもしろいぐらいです。

娘は何か追っかけていますね、ずっと長いこと。

それはもう本人が納得したから受けているみたいですけどね。手紙もらったり何か、結局人柄ですね。

今、裁判所の担当になっているけどちゃんと来てくれます。娘の取材に関しては、もう関係ないけど、ほかの人じゃ嫌って言っているから。その人が来て取材して、結局人かな。

でも、その中の一人で、奈良に今行っている人は好きですけどね、ただね、そんなんがあります。

(1. 17の日の行動)

あしなが育英会のおかげで親も子も同じような立場の友達ができ、今年は特に盛大だったんですけど。去年まではDと一緒に働いていた人と、毎年打ち上げでもないな、震災の日ってすごい忙しいんですけどね、朝5時46分から始まってずっと忙しくて、夕方の5時46分にも東遊園地、6、7年ぐらい前からかな、私はあっちに行ったことなかったんですけどね、神戸市民でもないし、名前も載ってなかったし、大分前から子供は「載せて」と言っていたんだけど、「いや、もうあの小学校に名前が入っているから、あっちもこっちも載せんわ」とずっと言っていたら、去年、子供は自分で申し込んで名前入れてもらったんですけどね。

私はあそこへ行ったことなかったから、行ってみたいという気持ちから、夕方に集まるようになって、5時46分に来て黙禱して終わったら、さあお食事会、このごろは1年間頑張ったねというて。今年は同じような立場の人が7、8人集まって。いつも二人ではやっていたんですけど、それが恒例となって。

追悼式というか、子供さん亡くなったご家族とも毎年、小学校の追悼式とかで一緒になるんだけど、前は本当に涙涙だったんですけど、このごろは1年間また元気に会えたねと言って、そのあとで生まれた子供さんたちもだんだん大きくなっているし、そういう時間をしのびつつ。

年数が気持ちを変えてくれて、あしなが育英会も最近は病氣遺児を支援しているんですよ。

私は余りそのとき言えなかったけど、クリ

スマス会とか、1年に一回年末に親を集めて忘年会みたいなことをしてくれるんですけど、本当にご主人亡くされたすぐぐらいのお母さんとかって、私らのあの当時を見ているようで、その方たちが今度、教会に10年たった人が来てくれた、その人みたいな感じになっていますね。

3年ぐらいいたらその人たちも頑張ってる元気に、こんなこと言ったら悪いけど、亡くなった直後でたまたまあしなが育英会を知って来られた人たちがね、そんな感じですね。

それは私たちが今度ね、大丈夫よと、一生懸命毎日やっていたら。これからは楽しむ方向に向かっていけたらいいと思っています。

メモリアルウォークに参加したいと、いつも思うんですけど、ここが出発地やから。時間が合わないんですね。だから「震災の日に行きたい」といつも見て言うんですけど、結局ほかの追悼式がいっぱいあったり。

NPO法人でEってありますね、Fさんがやっているのかな、希望の灯りの、それこそ銘盤を管理したりしているのがあるぐらいで、あそこも平日でもやっているよと言ってたけど、なかなか。

いつも歩いているのを、出発するのを横目で見て小学校の追悼式に行きます。

行ってみたいねと言いながら、なかなか時間が取れないです。

結構入れるのもあるんです。自分で行事を入れちゃう場合、何か心境の変化があって、最初の7年間クリーニング屋さんに行ったので、その間はずっと仕事に行きました。何か避けて。でもDに戻ったら、クリーニングさんは御家族の人と私とか3、4人で仕事をしているから、そやけどDの中でたくさんの従業員の中で気を使わせるのもしんどいし、休みを取れるので、休みを取って、休んだらじっとするのも嫌で、自分が震災当日けがもしていたし、動けなかった意識があるので、思い切り動くのかなという反動もあるのかしらないけど。

今年は5時46分に芦屋市の津知公園に行って、帰ってご飯食べて小学校の9時半からの追悼式に行って、娘が中学校でお話するというから中学校へ行って、終わったのが3時半ぐらい。そこから三宮に出て、お友達とお茶を飲み、5時46分になって黙禱をし、飲み会に行って夜10時でした。いつもそんなんです。

毎年そんなんです。だから花を送ってくれる人がいつも留守で申しわけないなと思いながら。

式では、ご家族がしゃべるとしんどいですね。

今年はね、幼稚園だった時の同級生の子たちが大人になってしゃべっていたので、でも出たかな。1年生の担任の先生が息子に抱きついて泣き出したから、つられて涙がね、久しぶりに連れて行ったので、大きくなったのをその当時の担任の先生がうれし泣きなのか、何か切ない感じがして。

息子もだから大嫌いなんです。私がせっかく

休みでね、全く行事に参加しないのもあれやし、Gちゃんのお父さんも会えると思ってるのに、行こうと言ったら、9時かと思っただけで9時半だったんです。学校に着いたら9時やったのにだれもいなくてしーんとして、それで、ますますふてくされて、じゃおじちゃんに会ったら帰っていいからと言って、9時半前にHさんが来てくださって会って、そしたら、そこで担任の先生が来たり、隣のクラスの先生が結構取材とってくれたんです。

大学卒業して初めて担任持ったのに、クラスで4年生のときに先生になられて、それでクラスの子を何人か亡くされたんです。初めての担任で、その先生が6年生のときに隣のクラスになって、その先生に担任は持ってもらったことがないけど、学校の取材を息子に申し込んだのを「僕が受けます」と言って受けてくれたりしているから、あの先生は知っているからと言って先生にあいさつしたら先生も喜んでくれて、そうしていたら、「やっぱり追悼式出るわ」と言って、最後は笑顔で帰ってきましたね。

今年は、銘盤もね、去年だから娘が舞子高校へ行って、そのころから言っていたんだけど、私は「もうええやん神戸市じゃないし、小学校に名前が入っているから、そんなに大した仕事をした訳でもなく、ただ死んだだけの人に、あっちもこっちも名前厚かましいやん」と言ったら、娘は毎年朝行くんです。

レインボーハウスの塾生が行きましようということになっているらしくて、神戸じゃない子たちも来ているけど、やっぱり神戸のあの当時のことを知ってもらいたくて行くので、その人たちと一緒に行くと言って、毎年中学校になってから行っているのに、何のために行っているとか、やっぱり同じ震災遺児の子も何人も行くのに、みんなは名前探さすけど、自分だけ名前がないというので。

名前を入れるということは知っていたので、私はそういう考えだけど、「じゃ自分で申し込んで入れてもらったら」と言って、それが去年でしたね。

また、それが15年で高校3年生で銘盤入れるから取材がざっと。

銘盤を入れる日に、取材拒否の人はここに白いリボンをつけてもらったら取材はしないように手配していますからと言って、二人でつけたのに関係なしにざっと。

特に娘だったからだと思っただけでね。その前から取材を受けていて。

最初に来たのが神戸新聞だったのだから、申しわけありません、これつけているのですけどと言って神戸新聞を断ったら怒られるなどと言って、言ったらほかの人もばあっと来て。

神戸に行ってもお父さんの名前があるというたら、つけてよかったです。

母たちはずっと教会でしていたし、一回も行ったことがなかったんですけど、去年つけたん

ですが、つける時期は一昨年12月なんですよ。

母は東遊園地というのはテレビでも見ているけど行ったことないし、名前ってすごいですよね、名前が入っただけで行ってみたいと言うから、でも結構高齢やし、結局、私が車で送り迎えして忙しかったですね。

名前があつたら母はね、自分の息子の名前やからね。キリスト教会で母たちが牧師していたときに、夫を含めて5人亡くなっているんです、教会の信者さんが、それ全部神戸市民なので探してね、なでてね、あれ見ると、ああ名前入れてよかったなと思います。

去年娘は県の公館にも行きました。

その前に何かの記事が新聞に載ったので、芦屋市から電話があつて、市役所の方も会ったこともないのに「娘さんに行ってもらえませんか」というので、娘も何かローソク、竹の灯をつけるボランティアとかいっぱい出ている中の、そこだけはあいていたので、市役所は市役所として、ちゃんと名前を出さないといけないので、もし娘がだめやったらお母さん行くと、芦屋市で遺族1名で。

「娘に行ってもらえませんか」というから、本人に聞いてみたら、「行きます」と言って、本人はほかの行事は全部自分の意思で行く行事やけど、それだけは頼まれて行くのやから寝とくわと言ったり、寝るような雰囲気違わかったと言って帰ってきて、私たちは生中継で家で見ていたけど、いっぱい遺族の一番前の席に座って。

その前に小学校の追悼式を抜けて、そっちに入るという娘のスケジュール、夜中に竹つけて一回家に帰って来て、制服に着がえて小学校の追悼式に行つて、抜けて兵庫県に行くという話で、小学校の追悼式に市長が来られて、市長と議長さんが来られたらみんなの前であいさつをして、せっかくですけど先に献花させていただいて、次の行事に行きますと言って市長が先に出て、娘は自分の時間で行つたら、そこで会ったという。

(娘の体験発表)

娘は、今年渚中学校に行きました。午前中2時間半しゃべった。前の日に最初1時間授業だけだったのに、先生が「もう一つやってください」と言われて、結局2時間半、中学校3年生のときに精道中学校が初めて、それまではよそから講師を招いてやっていたのに、弟が亡くなった子がいて娘とその二人が遺族で、せっかくいるから同じ目線ね、生徒に聞かせてほしいからと言って、もう一人の子も同じマンションなんですけど、初めて二人がしゃべることになって、聞いたんです。

それは新鮮だというか、今年何年かぶりに聞いたらこなれてきていましたね。20分と言われたら、ちゃんと20分でまとめるんだから、

もうちょっと、何かあのときの緊張感はなくなりました。

彼女もいろんなチャンスをいただいて、自分の財産になっています、今後を生きていく上に。

(遺児への支援)

遺児への支援で何が必要かという、孤立しないこと、でも難しいです、孤立したらもうしんどいと思いますね。

難しいんですよ、私たちもたまたま、あしなが育英会で誘ってもらってお友達ができたけど、芦屋市でも母子家庭の集まりとかあって、はがきを年に1回いただいていたんですけど、行くかといったら知り合いが行っていて、「いいんよ」とかって言ったら行くだろうけど、なかなかね、行くまで勇気がいるんだろうなと。難しいですね。

傷のなめ合いと思う人もいるから、同じような人ばかり集まって、そうやって本人が思っちゃうとあれなんですけどね。でも、それもあるかもしれないけど、やっぱりわかり合えるというのは大事な。わかってもらいたいね。

(子供の友達の現況)

うちも両極端です。うちみたいにスムーズではないけど、元気に育っているのもあれば、経済的に大変で大学退学した子もいるし、ヤンキーに化した子もいるし。いろいろ。

私らは元気で働けたからいいけど、やっぱり年金だけじゃしんどいですね。そういう家庭もあるし。

奨学金借りて大学は行きたいけど、お金が続かなくて退学している。

アルバイトで生活している子もいるし、だからみんながみんなってわけではないし、現実はやっぱり。高校中退してね、今どこにいるかわからんようになった子もいるし、兵庫県の追悼式で遺族代表で読んだ子も、今どうしているんやろうというのが、I君というんですね。両親が亡くなっておじいちゃんとかが育てたけれども、そんな子もいるし、逆にヤンキーになったのに、定時制高校に二十歳すぎてから戻って、ちゃんと卒業しているような子も、あの子がこんなになったんやと、ほかの子でもうれしいこともあるし、いろいろですね。うちも真っすぐ育てほしいなと思いつつ。

(これからの生活)

やっとかなって感じです。あと何年かありますけどね、娘を大学に行かせて卒業まで。今はね、1年生なんですけど、1年ダブるから、まだあと4年はかるんですけどね。

(震災当日の状況～最近の状況)

写真や資料を見ながら)

私の兄は高速道路が倒れたのを見て「大変や」って言い出したけど、母は「別に電話もぶ

るぶるは鳴っているから大丈夫なんじゃない」と言って、私の母はその日は仕事に行ったんですって、でも兄は車で何度か来たことがあるから、あの場所を見て電話が繋がらないので、仕事に行くどころじゃなくて、仕事に行かなかった。その日の夜中に夫の名前がテレビに出たんです。早かったからね、おじがそれを見つけて、「名前が出た」と言って大騒ぎになって連絡がつかないという感じだったらしいです。田舎は。夫の父が何かたまたま当日、カメラが取れたんです。書斎でぐちゃぐちゃになっていた中でカメラが取れて、カメラで写真を撮っているんです。それに1月17日と載っているんです。それが今娘の記事、その公園に行ったり、語り部でしゃべらせてもらう。バットとか探してる写真は朝日新聞の記者が。撮った分ですね。

これはおじいちゃんが、まだ中に夫がいる写真で、これはうちの家の写真、お父さんはね、撮っていいのかなと思いつつ、ずっとカメラを構えていた。

これも一部ですけどね2階建てのアパート。これはまだ引っぱり出す前で、これが妹の頭で、これが母です。まだ夫が中に入っています。お父さんがこんな写真写していいのかなと思いつつながら写したのが、今は教材として。

これは、隣のお父さんです。これ教会の。教会はこんな感じで、壁、電柱から電気が入っていて壁に穴があいていました。電柱が向こうに倒れて、教会は建っていたので穴だけがぼんとあいて、壁紙がこんなになって。

お父さんが写っています。これ多分これじゃないかな。これは、お隣の奥さんです。これ解体の日に、この人は三田が実家で解体の日にみんなが集まっていたらしいんですけどね。

これを見て大阪の知り合いの人は探しに来たんです。私が連れていかれると、父は死んで母は入院中と書いてあります。母は重症で入院、父親は死亡と書いてあるんです。

これはインドネシアに行った。これ星野監督を撮って、これは上の子です。これ持って、1年後に中日新聞が撮ったんです。気を使って後ろ姿を。これが初めて中学校で毎日新聞が撮ったんです。これはインドネシアの津波で被害にあったところ。これは中学校の3年間で読んだもの、一日で書き上げたそうです。これは、娘が出ています身長が。これは、中学校3年の時に書いた。パソコンでこれ全部打った。

検山が好きになって、ひいやん新聞みたいなのをつくりだして、それでパソコンを覚えちゃったんです。これが、この記事になった新聞記事です。これ中にね、これの抜粋したのがあります。

プロフィール

| 保護者-7 | | |
|------------------|--------------------------------------|---|
| 項 目 | 内 容 | |
| 訪 問 | 面接日 | 平成23年2月19日(土) |
| | 面接対応者 | <input type="radio"/> 保護者:父親 <input type="radio"/> インタビュアー <input type="radio"/> インタビュアー補助者 |
| 基本属性 | 性 別 | 男性 |
| | 年齢(調査時) | 55歳 |
| | 本人との関係 | 父親 |
| 被災状況 | 被災場所 | 西宮市屋敷町 |
| | 家屋被害 | 全壊 |
| | 家族の状況 | <input type="radio"/> 震災当時、両親と子供4人の6人家族 <input type="radio"/> 母と三男(生後6ヶ月)が家屋の倒壊、家具の下敷きにより 圧死。 |
| 主 な 発 言 | 遺児の 養育な ど | <input type="radio"/> 残された3人の子供は、長男:中学2年生、長女:小学4年生、二男:4歳。 <input type="radio"/> 長男は翌年に進学するが、震災があっても高校に通るとするのが目的だったため、入学後は、達成感と脱力感から高校2年時に退学する。 |
| | 震災遺 児への 支援で 必要な ことな ど | <input type="radio"/> 当時の支援制度、見舞金、新聞社の義援金は受けているが、子供の世話等をしていると情報を得るのがかなり難しかった。 <input type="radio"/> 1ヶ月ぐらい毎日いろんな方面から、炊き出しに来てくれていたのが良かった。 <input type="radio"/> 災害等緊急時の休日は、行政の窓口を開けてほしい。 |

震災遺児等 インタビュー ⑦

日時:平成23年2月19日

(震災時の状況)

震災前はね、女房と子供が4人いたんですよ。震災の時に中学の2年生と小学校の4年生と、それから4歳と6カ月の子が。

震災でね、女房と6カ月の子が死にましたね。

仕事は今の仕事と一緒になんですけどね、あの当時は会社にもいろいろ世話になりましたね。物資とか、1カ月ぐらい西宮の香櫨園小学校の避難所に行っていましたから。震災当時西宮の屋敷町に住んでましてね。地震の次の年に神戸に、親が神戸なんで。もともとは神戸の灘の出身ですわ。

住んでた所は、下2軒、上2軒の文化住宅で下の2軒を借りとったんですよ。壁抜いて2軒つないで、上は上でやっぱり2軒つないで借りてはって、夫婦で2世帯が住んでいた。地震で1階が全部つぶれて、とにかく全壊ですわ。2階もぐちゃぐちゃで原型がなかったですわ。

隣の2階建ての1階の屋根にうちの2階の屋根が、高さが一緒になっとった。その下にいたから、部屋が、手前に4畳半と奥に6畳と同じ形がもう1個あってね。長男が手前の4畳半の押し入れをベッドにして、押し入れで寝とったんですわ。私が奥の6畳の部屋で2階に上がる、表からね、2階に上がる階段の下が押し入れになってるんですよ、半間の、その半間の押し入れの前に横向きに寝とったんですよ。あの時は小野に通ってたんで、朝の5時前にいつも起きてたんです。

あの地震の時間は起きてたんですよ。

5時過ぎに起きて電気つけてファンヒーター入れて、テレビつけて。いつもやったらね、その半間の押し入れの柱に布団の中入ったままもたれるんですよ。温まるまでね。たまたまその押し入れの横にオルガンを置いとったんですよ。形がエイチ型のオルガンで、その横、だから頭に当たるだけなんですわね。たまたまその日、いつもやったら柱にもたれるのが、何も考えんとそのオルガンに頭をこうもたれて座とったんですよ。そうしたら、5時46分、そのときに何かね、どーんという音がして、初めわからないんです。何やる思ったら、北向きに座ってたから、一たん南に家全体がぐわっと揺れたんですよ。次の瞬間に今度北に全部が一ん倒れて、後ぐちゃぐちゃぐちゃとなつて。電気ついとったんで、次の瞬間にここにあった押し入れの柱が前に倒れるのが見えたんです。ぐちゃぐちゃになつて、オルガンのとこ頭置いとうから、上の棚から女房が、ぬいぐるみ作ったやつ、パンヤがね、袋に入つとやつが落ちてきて、こんな傷もそうですわ。こんなも全部避けよ

んのにね、何しあぐら組んでね。地震が1分も2分も続いたんかなと思うぐらいやったんだけど、実際には30秒ぐらいでしたかな。

それは物すごく長く感じましたね。真っ暗なつて。気がいたらちようどね、この辺だけ物が無いんです。ただ、この辺に何かかたいもんがある。すぐ二、三分ぐらいかな、したらね、長男が何か上をね、がしゃがしゃ歩いてお父さんと呼ぶ声がしたんです。お父さんここや言うたら、お母さんのほうへ行けど。向こうの部屋にね、4人寝とったんですわ。

隣の6畳の間にトイレの前入ったら左側に洋服ダンスがあって、プラスチックの衣装ケースがあって、向かいに洋服ダンスがあって、女房の親も前に同居しとったんで家具を置きっ放しでね、洋服ダンスがあって整理ダンスがあって和ダンスがあったんです。

和ダンスの前に6カ月の子が寝てて、その横に女房が寝てて、整理ダンスの前に。その横の洋服ダンスの前に4歳の子と4年の娘と寝とったんですわ。お母さん呼べ言うて、向こう行って呼んどったんやけど声がしません言うて帰って来て。揺れ戻しあるから何か持とくと。もう一遍揺れて。だれでもええから人呼んで来い、呼ぶのは聞こえましたわ。だれかお父さん助けてくださいいうてね。しばらくしたら近所の人に来てくれて。真っ暗やから。

夜が明けるまで辛抱し言うて明るなって来てからみんなでもた互取る音がして、ちようど僕が座ってる前の辺の板が割れて、光が差して来たら、2階の家の人のダンスが1個ここにあるんです。

ダンスの横なんです。その1つ下にもう1個ダンス、衣装ケースですかね、ここここに1個あってね、その下に押し入れの柱があって、だからもしそこにもたれてたら、この状態で真っ二つで。

奇跡的でこのぐらいの差ですわね。こっちにもたれとうかこっちにもたれたかだね。あの時ファンヒーターですぐ消えたからよかったですけど、あれ石油ストーブやったら火事になってますわ。

明るなって、あのとき冬やったのに私は半そでのパジャマで寝とったんで、出たらガラスとかで足の裏切れててね。真っ赤なつて。僕で2時間ちよつとぐらいかな、地震から。出たら屋根の上なんですわ。それで五、六人来てくれたから、女房らここにおると、そうしたら、その人らみんな瓦のけて板割って、空間できたからおりたんですよ。そしたら、呼んでも声聞こえへんし、角材が出とうから動かそう思っても動かないんですよ。自分ではしつかりしとうつもりやったんですけど、後で聞いたらね、半狂乱みたいになつとったと。自分ではしつかりしとうつもりなつたつもりなんですけどね。十五、六人、一時来てくれて、その辺にあったバケツと角材

なんかで、30年以上前の家なんで、土壁をのけてずっと掘って行って、それで一番初めにね、奥さんの声が聞こえる言うて、一番初めに助け出したんが4歳の子で、その次が娘で、その次が6カ月の子を助け出して、最後に女房を出したんですけど、もうそのときは息してなかったですね。大体それで4時間半ぐらい。4歳の子はそんな記憶ないんですけど、娘はね、小学校4年やったんで、初めにね、まだ女房が意識あるときにお父さん呼びなさいと言うてたら、6カ月の子がわんわん泣いてるから、何でもええから声出しなさい言うてたら、その6カ月の子がだんだん声出せんようになって女房もちょっと何かうなり声なってきた、みんなが掘ってて奥さん、奥さんと言うとうとときに、女房声出えへんから、呼ばれとうから返事しなさいいうて娘には言うと思ったんですよね。助け出した後、15分、20分早かったら同じ死んだとしてもまだ意識はあったと思う。最後抱き上げたときにはもうぐったりしてましたからね。その屋根から隣の家の2階に入らせてもうて、横に這ったんですけどね。もうあかんからいうことで戸板で近くにある救急病院に連れて行ったんですけど、連れて行ったときには、6カ月の子は僕抱いて行ったんですけど、体中紫色で死後硬直で、斑点が出てましたからね。見たら、口と鼻に土壁やから、わらとか土とかあんなを泣いて吸いこんで、窒息死なんですよ。だからあれは泣かんかったら助かってますね。6カ月なんでね、わからへんから。

女房まだぐったりしとうだけやったんで、医者に行ったら圧死、もう死んでるいうて。病院の表の駐車場にね、何十人で遺体並べて、そういうところやったんでね。

結局、一番初めに下から上に突き上げたんで、屋根が浮いて、柱と屋根のとまってるところが抜けたみたいで、それから揺れたんで、ここがついとつたらまだ、揺れるだけで割れるぐらいやったんやけど。

浮いた瞬間に揺れたから、屋根がつぶれた上に乗っかっとういうような格好なつとんで。土壁ってこのぐらい、息子が寝とった押し入れの天袋がない押し入れだったんで、上のがこの裏にね、落ちとったんですよね。あれがもし中に落ちとつたら息子も死んどんですけど、外壁が外に倒れて、中の押し入れの上の壁、家の中のほうに倒れたから、息子は無傷ですぐ出れたんですけどね。この大きさが200キロぐらいあるらしいんです。結局、その日の晩にそこの病院の寮に避難させてもうて。4年の子がね、右足が屋根とか家具の間に挟まって、4年生の女の子の足って普通こんなんですよ。それが僕の足より大きくなってね。

腫れてこんななって。夜中になってきたらね、痛い痛い言うて4年生の子が初めね、

赤ちゃんみたいに抱いてね、おしっこさせとつたんやけど、それもできひんようになって。腫れてこの辺まで痛がって。仕方ないんでね、晩に近所の通ってる人手伝ってもうて、戸板で病院連れて行ったら、まず電気がない。水がない。だからレントゲンも撮れないし、触診だけで大腿骨を複雑骨折しとうと。後、シーネ当てて、何か痛みどめをもうてね、ベットも何にもないんでね、段ボール拾ってきて、3枚ぐらいを病院の廊下にひいて、病院から布団借りて寝かせとつた。

痛みはそれで少しは、止まった。

ちょっと寝ててね。僕らは次の日に小学校に避難しましてね。避難して2日目ぐらいに下の4歳の子がぜんそくが出て、やっぱり砂を吸うとんで。すぐ病院、大きいところ入院して、娘はやっぱり向こうおつてもね、ただシーネ、こう足が曲がらんようにね、シーネ当てて包帯巻きとくだけなんで何もできないんです。

痛みどめ飲むかね。そこ行って一週間後ぐらいかな、手当たり次第にその辺の病院に電話したら、ちょうど国がね、周りの地域の病院が被災者を受け入れるようにいう指示が出たところやうて、県立尼崎病院が受け入れてくれるということ。

でも西宮の香櫨園から尼崎、大物までやったら普通車やったら30分かかるんですけど、西宮抜けのに2時間半かかりましたね。

道路がつぶれてますからね。

兄貴の車出してもうて。兄貴は舞子に住んどつたんですけど、来るのにやっぱり四、五時間かかったみたいです。乗せて病院連れて行って、向こうでレントゲン撮ったら骨折はしてないと。ただ、もう少し遅かったらあの時ようなやったクラッシュ症候群、足とかそういう筋肉が圧迫されて、その部分が酸素が行かんようになって壊疽するんですね。

普通人間の体って血液で、全体に酸素が行つとんで、それが酸素が行かんからその部分が腐ってきて、そのガスが体内に回って死ぬんですよ。それがあのときに物すごい多かつたんですよ。

下手すると足つけ根から切るかって、それが何とかそこまではいかんかって。その代り、半年ぐらい、歩けるようになっても松葉づえはついてましたわ。すごかつたですからね。病院で母親と弟が死んだいうのを言うて。

今は全然大丈夫です。結婚して九州の都城にいます。

娘です。今年の新聞は娘の記事がこっち側で、私の記事が左側になってます。

17日の毎日新聞に、右のページが娘の記事で、左のページが私の記事が、わざわざインタビューに来はってね。

赤ちゃんできたとき、滋賀大学行ってね、2年でできちゃつたで休学届け出して子育てする言うから、おまえなめんなよ言うて怒りました

わ。もう辞めてしまえ言うてすぐ辞めさせて。今、行った所が新燃岳のそばなんです。都城山田なんですけどね。

まだ避難はしてないみたいなんですけどね、震災続きや、あいつ。

この前、防じんマスクとか支援物資で送って。ただね、今現在まだ、あそこ災害の指定されてない言うてましたね。

こないだ向こうの市長が国に対して申請したんやけど、明確な何かがつぶれたとかいうのがないでしょ。噴火で例えば家が壊れたとか、道路が壊れたとかいうのがなく、ただ、蒸気爆発みたいな、溶岩出てますけどね。後、砂とか火山灰だけですやんか。まだその認定がされてないね。それがされたら補助金が出ていろんな手当ができるのだけどう話でしたけどね。

先に防災できたらいいのに。

土石流やね、何やいうて言うとなのに。

子供が学校に行ってるときの苦勞はずっとありましたね。

子供3人でしょ。ほんで僕ひとりやしね。そのときね、寡夫で申請して市住、県住、公団、全部申し込んだんですよ。ところがね、65歳以上とか、そういう人が最優先なんで、市住、県住はだめで公団が一応当たったんです。それで、阪急の西宮の下のほうに、平成8年の秋にできる公団があったんですよ。そこ当たったんやけど、子供らがね、あそこは嫌やと。家賃8万で車庫入れたら大体10万高いです。傾斜家賃いうんですか、二、三年したらまた上がっていく。

歳いくほど高なったらちよっとね。反対やったらええですよ。初め10万でだんだん下がってね、歳いったら安くなるんやったら、何とか無理してでもしますけどね。会社と相談して、会社にお金借りて、家ローン組んだらね、11万ぐらいなんで、変われへんしね、同じ10年、20年、30年住んで、やがて土地も、建物は二束三文でもね、そっちのほうにええやろということで、今、大石に住んでいるんですけどね。一戸建てで。

(長男の高校進学)

長男すぐ中学3年やったでしょ。進学やってんけども、神戸に変わったから神戸の高校受ける言うてんけどね、やっぱり偏差値が大分違うんで、だから西宮のほうで高校も受けるということで。

うちのどこやったら、公立いうたら、まだ西宮のほうに安心や。

西宮で受けて通ったんですけどね。

そこもちよっとね、甲山の上なんですよ、学校が。甲山高校って西宮のね、甲山登って、まだ通り超えて逆瀬川と合流するところに高校あるんです。山の上でね。朝にバス、その専属のバスが出て、夕方にまたバスが出て、日

中何にもないんですよ。日中もし帰るいうたら、歩いて3キロか4キロのところに甲山植物園があって、そこからしかバスがないんです。

それで、行っとったんやけど、2年のときに体調壊してね、帰る言うたけど僕仕事行っとうし、一遍歩いて帰ったんかな。一回は迎えに行っってね、ほんで歩いて帰って、昔から行っとうる行きつけの病院行って、あれが大分堪えたみたいでね。通うのんも1年は朝の7時と7時10分のバス。

2年が7時半と40分やったかな。3年が8時と8時10分で2回おくれたら親呼び出しなんです。だから2年生のバスとか3年のバス乗ったらだめなんです。

1年は1年の時間。

2度遅刻したらそのときに親呼び出し。だから毎日ね、灘の大石から阪神西宮まで行ってやってきましたからね。

ただ、電車乗ってね、行くんやけどね、またバスでね。

僕らも大阪の高校行ってましたけどね。歩いて15分ぐらいで駅やったから。そんなんやったらええけどね。

学校をやめるいうて、学校の先生ともカウンセリングの先生とも話したんやけど、震災があって高校に通るといのがいうたら目的やったんで、それが達成されたら脱力感いうんですか、熱がないと。仕方ないですねって退学したんですけどね。

その後、声優なるいうてね。専門学校行くのに家出て、それで住み込みの新聞配達で自分で奨学金100万から借りて、大阪で新聞配達しながら専門学校行って、卒業したらやっぱり声優なるのには東京行って養成所に行ったほうがいいいうてね、東京行ってね、そのときに引越しの金とか生活費とかで大分要りましたね。

去年結婚したんです。もう31ですからね。

娘のほうはね、やっぱりすごい心配でね。子供2人おるから何か。

向こうの親と一緒に住んでるんですけどね。

聞いてたら、ちよっとちやうなみたい。

親とはうまいこと何かやっとうるみたいなんですけどね。主人とどうもうまいこといいみたいで、ちよっと心配なんです。

(子育ての様子)

神戸来て一番困ったんはね、西宮は中学も給食なんです。長男ね、香櫨園小学校で浜脇中学で、娘も小学校行って、中学は神戸だったんでね、神戸は弁当なんです。何で西宮は給食で神戸は弁当なんかがよく分かりますけど、弁当作りました朝。子供が学生のときは大半ちゃん弁当でね。ただ出し巻きだけはね、ちゃんと作っったんです。

だから、今も晩ご飯僕作っとうるんですわ。

あの当時も朝弁当作って、帰ったらうちの社長はね、結構物わかりええんでね。忙しくて、

まともに帰ったたら11時とかね、12時ぐらいになりよったんです。朝6時ぐらいに出てね、これじゃあかんからちょっとはよ帰れるかなと言うて、家からファクス送りよったんやけど、普通の家庭のファクスやったらね、私、運転手48人ぐらい使ったんで、毎日、それをファクスを送るとね、ファクス代だけで2万円ぐらいかかるんです。家庭のファクスで読み取る間ずっとつながって、電話が。地図なんか送るのに5分ぐらいかかるんですよ。

それを毎日最低でも30人ぐらいに送りよったから。電話代がね、1万9,000円とかいくわけなんです。家の電話使わへんのにそんなにかかるとね。会社に相談して、電話代は補助出してもらいましたけど、事務所にあるのと同じ企業用のファクスをうちに置かせてもらって、そしたら電話代が4,500円あるかないかになりました。

やっぱり早いね。だから8時か9時ぐらいになったら帰って。

娘は居ましたけど、おかず作らんのですよ。

中学なってもね。長男も料理好きでね。ほんで、あいつが、娘が小さい時に長男にね、ぼろかす言われてね、それから作らんようになってもてね、トラウマで。もう僕が帰ってからね。ただ、母親がおらんからいうて、でき合いのもん買うんがどうしても抵抗あって。買ってきて移して、食べうのがね。おさしみとか、あんなんは別ですけどね。だから、家帰ってからミンチつぶしてハンバーグ作ったりね。いろいろやりましたよ。いまだにそうですけど、年に2回ぐらい、ぎょうざを400個ぐらいつくるんです。一晩でね全部冷凍にして、うちの親、同じ灘に住んどんで、100個ぐらい持って行くんです。

長男が東京行って6年ぐらいで帰ってきたんかな。それで娘が彦根に大学で行くいうことで弟がね、ちっちゃかったから心配でね、自分のもあんまりうまいこといかなかったんもあって東京から帰ってきて。それでね、弟の面倒じゃないけど、男3人やったら餃子がね、一晩で百二、三十個なくなりましたよ。

だから料理は絶対家で作ってましたね。時々食えんもんもできましたけどね。お父さんこれはあかんって言うてね。本見たりせえへんので、適当に考えて作るんでね。

出し巻きは、卵だけはね、焼いてやらんとね。長男が結婚する1年前ぐらいに体壊して油もんがあかんのですよ。豚も牛もあかん。牛の赤身やったらちょっとやったらええ。鳥も皮はだめ、ももよりもむね肉やないとあかんいうてね。だからあいつの弁当はちゃんと作ってましたね。魚肉ソーセージとキャベツでいためもんして、ハウレンソウとか菊菜とかでお浸し作って、出し巻き作って、大体4

種類ぐらい入れて弁当作ってましたね。

その時は自分の分も作って。子供ら小さいときはね、忙しくて子供の分だけでやっとしてね。

毎日今でも晩ご飯作ってますよ。

下の子は今21です。今年22で、大学の3回生で今度4回生になります。

工業高校行つたのにね、何をとち狂ったんか芸大に行きたい言うてね、神戸芸術工科大学行ってます。ジュエリーとメタル造形クラブ科なんで。デッサンで行きたかったみたいやけどそっち落ちて、造形のほうを通して。去年、伊丹の工芸クラブ展いうので酒器とシュハダいか、いうテーマのんで、とっくり、銅板をたたいて、とっくりとぐい飲みと6点作って、それを出品したら一応入選したんです。

398で96点入選で、そのうちの・・・入選、メダルで去年飾られて、東京でも飾られて、それから余計にがぜんやる気に。

もう今何かつくるのに遅なったら友達とこ泊まったりとかね、週に3日ぐらい帰ってきませんよ。男やから何でもええわ思とんですけどね。

もうバイトせえ言うとのに全然せんでね、去年初めてやり出してね、やり出してから定期代とかふだんの費用は、自分のバイト賃でやるようにしとんですけどね。頼むからしてくれ、それでないともう学校行かれへんで。

震災の遺児の奨学金は、あしなが育英でもうてます。長男のときはね、長男、長女のときは毎日新聞さんとかもうとったんですけど、二男のときはもう無くなつたんで。あしなが奨学金受けてね、じゃないと私の給料じゃ無理です。

中小でね、もらう給料もしれてますからね。年間160万。芸大なんでね、材料費が要りますからね。

特殊技能やから何を目指してんの言うたら、わからんって言うた。大学出て何になりたいの言うたら、この前は入選したときは、何かこういうので出展してばんと売れて、ほんで似たようなもんを作って細々とそれで金もうけできて、それでくえたらええかなとか。

おまえ何を甘いこと考えとると。芸術じゃ飯食えんですよ。

今授業料に追われまくってますわ。

今度4回生で、来年卒業ですかね。だから何か、去年も就活いっこもしてないんですよ。作品作りとか、作ってたみんな同期の人も全然就活やってないんですよ。

だから大学院行つとる人が結構多いみたいでね、この前、どうすんのやいう話しとつたら、自分も大学院行きたい言うて。もう金の要る話はやめて。

被災した後、被災地と被災地以外との違いは強烈に感じましたね物すごい強烈でしたね。大物に娘と二男が入院しとつた。つぶれた家から女房の遺品とか要るもんとか掘り出すのに毎日

行っとなんでね。1日おきぐらいに病院行って。阪神電車が甲子園か、までとまっとなです。後、香櫨園から歩いて甲子園まで行って、甲子園から電車乗るんですよ。ほんならね、パトカー、救急車、消防車、これがもう走り回っとなですわ。西宮はね。ところが川を渡るでしょ、そしたらちょっと瓦が落ちるところがあるぐらいで全然世界がちゃうんですよ。真っ暗の世界から明るいところ行って、病院着いて見舞いで、近くにふる屋があるから、うちの死んだ女房の弟とかがしばらく来てくれとったし一緒にね、ふる屋行ったらね、普通に洗面器に石けん入れてね、ふる屋に来とう人とかおって、ふる入って帰って尼崎で一遍おいて、ご飯食べて帰ろうってセンター街行ったら、ほんま普通なんですよ。すぐ川渡った向こうで何百人と死んどうんやけど、その辺は普通で、長男がね、一遍だけね、お父さんもう帰ろうご飯食べんでええから帰ろうと、どないしたんや言うたら、何か腹立って来たよ。

電車乗ると、川のとこまで行くと、向こうは真っ暗なんですよ。電気全然ないんでね。駅着いたらパトカーなどのサイレンばかり聞こえて、真っ暗のどこずっと歩いて帰って、あの違いはすごかったですよ。

(避難所での生活)

風呂は、自衛隊の人がね、うちの小学校の校庭に作ってくれて、僕ら入れなかったんやけど、長男が一遍入ったいうたかな。だから、尼崎に見舞いに行って向こうでふる入って、帰って来て。毎日もう、僕ね椎間板ヘルニア持っとなわけです。あの地震でね、ひどなってびっこひかな歩けんかってね。だから長男と義理の弟がようね、家から遺品を出してくれてね。その辺のね、情報が入ってこんので。

ただ、見舞金が出るということで一遍だけかな、夙川の駅のほうの教会で見舞金が出るから行ってくださいって言われて行って、あの時10万出たんかな。

義援金かも知れせんわ。全壊なんでね。後で聞いたら、西宮の市役所に行ったら、そこはね、何々町、何々町と分かれてて、名前もちゃんとあって、見せて名前とあれとちゃんと証明書見せてもろっとなですよ。うち市役所のほうはその辺がね、すごいアバウトやったみたいですよ。震災に遭った人に生活支援金で100万やったかな、貸しますいうので、市役所に避難しっとな人は夫婦で100万ずつ借りたりとかね。

だから、1回目は結局大半戻って来てないはずなんですよ。何年かしてから生活の支援金で無利息で貸しますいうので、そのときは僕借りましたけど。そんなのなかったです。僕ら香櫨園のとはそういう話はいっこ

も来んかったんですよ。その代り初めの1か月ぐらい毎日ね、いろんなところから炊き出し来てくれましたから。北海道から石狩なべとかラーメンとかね。あれはすごいありがたかったですよ。寒い時。

学校のグラウンドにね、来てくれて。

店もないし、避難所いうたってずっと朝から晩までそこに居ないから。そっから仕事に通る人もおるし、僕らは仕事のほうは休ませてくれと。その代り今、社長になっとな人が僕の代わりに僕の仕事をやってくれて、僕はもう毎日、何せ潰れた家あれせんと撤去されると困るんで。だから潰れた家から下潜ってね、女房の遺品やら取れるもんね。貴金属類とかね。そんなをね、毎日掘り出したかな。最後にやっぱり順番で潰す日が来たときにね、ユンボでやる人にね、説明したら、すごい優しい人でね、次々行かなあかんはずやのに、もうがっとなすくったら、見てみ言うてめくって来て、手じゃでけへんような。それで結構、女房の貴金属、そんなええもんちやいますけど。

娘がおるからね。

そんなとかね掘り出しましたからね。あれはありがたかったしね。

あの当時では女房が着っとな服、娘が大きになったら着るやろ思っとなるべく出したんやけど、娘のほうが大きなり過ぎて結局あんまり着てないんですよ。

それでもね、ちょっと着たりしよったからね。

今は押し入れに入っとなすわ。毎年防虫剤入れてね。

知らないうちに今度行ったら何にも無くなっとなたっとないう人もあっとなみたいですよ。だから、ちゃんと教えてくれてね、結構ですいうとこまでね、つき合っとなくれましたから。

だから、指輪やネックレスや何やいうのは全部出ましたしね。

義援金で10万もろたんと、初めの生活支援金いうのがうちのところ辺には情報は一切来んかったですよ。

100万円借りられるとかいう第1回目ときは全然情報なくて。

市役所のほうにうちの運転手でおった人が、夫婦で借りたとか言っとなましたね。あれは名前書いたら貸してくれる状態やっとな。夫婦でも一世帯じゃなくって、ひとりずつにも貸してくれたいやっとな言うてましたね。名前書いたら借りれるみたいやね。

僕が借りるときは保証人2人立てて、保証人も銀行に来てもうて、物すごい厳しかったですよ。何か悪いことしっとなみたい。

来て下さい言われてね。それは全部払いましたけど。

今は払っとなない人が大分、残っとなるみたいやけど。

震災のとき相談窓口がありましたけどそういうところへは行ってないです。

子供ら見るほうがね、中心になつとったんでね。2人入院したし、長男と僕だけですから、やっぱりほっとくこともできないしで1カ月ぐらいたって、女房のほうの親が私とこおいでって言われてね、それが舞子なんですけど、向こうも再婚された人と2人やって、娘死んで孫も全部、僕のほうの親のとこ行くと寂しいやろな思って、ほんならちよっとお世話になりますって行つたんやけど、その義理のお父さんとうまいこといかんでね。というのは、まだそのとき墓無かったんで、遺骨は持って来とったんですよ。ほんならね、再婚すんのに位牌とか遺骨があったら邪魔やろと。あんたはどっちみち再婚するんやからと。それをね、地震で女房と子供死んで1カ月程したときに、娘やらおるところで言うてね。

料理は、女房調子悪いとき僕作りよつたんやけど、あんたが作つたら台所が汚なくなるからやめて言う。

でも今はわかりますわ。だから料理しながら片づけますもんね、今やつたら。あの当時はね、作るだけで、後は女房片づけてくれるから。

だから今はこっち側で何か作りながら終わったやつも順番ですぐ洗って、料理は片づけるまでが料理やというんでね。楽しいですよ。

献立を考えるのは順番です。魚、肉、野菜、鳥、みたいな順番にやっています。

食事は健康につながっているんで、なるべく野菜をぎょうさん取るようにはしとんですけどね。子供ら小さいときは野菜なべなんかしてみましたが。野菜だけ、白菜、キャベツ、大根、ニンジン、ジャガイモ、水菜。浅瀬のなべにね、鳥がらスープとコンソメでだし取って、野菜だけ炊く。全部無くなりますよ。

子供は野菜好きですよ。

まだ長男と長女と4人家族のときにね、若いときは自分でちよっと商売しとったんですけど、青ネギありますやん、あれを安かってこうきて、刻んでしょうゆかけて食べるの好きなんです。女房に酒のあてに青ネギ切つて言うて。ほんならね、二、三十分出てこおへんのです。何しとんかな思つたらね、その束をね、全部刻んでボールに青ネギだけ山盛り持って来て。冬やったから、こたつの上に置いて晩の11時ぐらいいかな、小学生と幼稚園ぐらいいやつたかな、起こして、親子4人で11時ぐらいいから各自どんぶり持って、しょうゆとゴマ油置いて、それをどんぶりに入れて。

生です。刻んだとこです。しょうゆかけてゴマ油ちよっとかけてまぜて、4人が、おれは酒飲んどうけど、4人が青ネギ食いながら話しとんねん。おいしいですよゴマ油かけてまぜるとね、しなつとするんですわ。それご

はんの上にかけてもおいしいしね。だから長男ちっちゃいときは串カツ屋行ってね、生レバーなんか注文したらね、白ネギ刻んでくるんですよ。お父さん上のねぎだけちょうだい。ネギ食うの好きやからね。料理はね、いろんなん作りましたけどね。今ね娘がね、ちよっと心配やなというのですよ。二男が、働くんどうするんかなと。それとやっぱり授業料やね。3カ月で38万ぐらいいやから。

13万ぐらいいですかね。だから年間に160万ぐらいいんで。それをね、月13万、14万いうたら給料が半分ぐらいい出してしまう。

それから家のローンでしょ、どこで生活すんねんみたいなね。ローンはまだ後15年かな。ちよっと前やつたら定年ですもんね。55、6いうたら。

うちの会社65年に上げとんです。市の、指導で5、6年前かな、そういうのがあって60から65に上げた。

遺児に対する支援は義援金と毎日新聞さんの奨学金とか、中学、高校からね、うちが受けたんはそのぐらいいですね。高校入るときにいろいろ探したら、10万ぐらいい一時祝い金とか出してくれるのんもあつたけど、結局、毎日新聞の奨学金受けて行きましたからね。

毎日新聞は返さなくてもいい。あしながも借りとったんです。あれは毎月返していけないかんで、それはおまえの責任やでと言うてましたから。

後は娘が4時間ほど母親の声聞いとうでしょ。5年生なってから、神戸の小学校に移って来て、そのときに娘が私はお母さんはひとりでええいうて言うから、再婚でけんようになった。結局いまだに再婚もね、その後ね、神戸の小学校に入ってから、夜中に突然おなか痛い言うてのたうち回るんですよ。ほんで救急連れて行って診るとね、何ともないんですわ。そんなんがね、年に二、三回あつたかな。小学校でも週に1回カウンセリングが来て、診てくれてるけど、婦人科も連れて行きましたけどね。結局原因わからんで。

精神的なものだと思ふんですよ。

心のケアの相談室には一遍行ったことありますけどね。それで病院に連れて行って、ケアの婦人科、小児科の先生に週に一遍ぐらいい行つてましたけどね。結局、何もならんかったですね。学校でも診てもうてましたけどね。そうこうしとつたら下の子がぜんそくでね、体弱くて。ひどいとき年に13回病院行きましたもん。夜中の1時ぐらいいに。2回入院してね、小学校の間ずっとでしたね。5年、6年ぐらいいのときかな、猫を飼いたい言うてね。ちょうど動物病院の先生がね、猫要らんかい言うてくれてね。今もおりますけどね、とら猫を欲しいか言うたら欲しいと。おまえ猫飼つてぜんそく出たらほるよ言うて。それから、ほぼ出てないです。何回か出たけどそんなひどならんかって。それまではもう

ひーひー言うんですわ。息が吸えんでね、ほんで病院に連れて行ってね、吸入器したりね。一番かわいそうやったんがね、夜中の12時ぐらいに行って吸入器2回して、もう大丈夫やろういうて帰って、A病院でね、家帰って30分ぐらいしたらまたひゅーひゅー言い出して、ほんでまた行って、向こうで点滴して、それが2時ぐらいやったかな。それから朝まで点滴して、それでもうちちょっとおかしいいうて、日中なら小児科の先生こうへんいうて、あのおとき小学校の3年生ぐらいやったかな。ほんで、仕事あるんで、知り合いに頼んでついてもうとって。夕方帰ったらまだ点滴しててね。

晩の11時ぐらいになってね、やっぱり入院しましょかいうてね、24時間ぐらいそこに緊急のベッドで点滴打って、挙句の果てに夜中に入院ですわ。あれが一番あの子にはかわいそうやったんですわ。あのおときは、10日入院したんかな。

そんなんで猫飼ったら少しよくなったというのが不思議です、やっぱり飼いたい、精神的なものもあるんやろな。

それと、あれはあれで4歳でね、あんまり母親の記憶ないんやけど、どっかにこう。

もう今は顔は覚えてないで、母親の記憶があんまりない言うからね。

もうね、病は気からで気の持ちようで、あかんと思ったら強なりましたよ。

今、挙句の果てにアスピリンのじんま疹。

だから痛みどめとか風邪薬とか飲んだりするとぶわっと顔がはれてね、下手したら死ぬいうてね。アスピリンぜんそく。

一遍ごっつい熱出て、バファリンの子供用がなかってちょっとだけ飲ましたらば一んはれてね、もうそれから全然。ひよっとすると、何かで手術するとき麻酔でけへんのかも知れへん。

麻酔しても、手術はうまいこといっても麻酔で死ぬかも。健康にいつてもらいたいね、これからも、何があるかわからんからね。

再婚については、今度は反対にもう無理やろうから。

子供はそんなんでしょ。家に金もね、ないから余計にね、再婚したって子供の面倒だけ見さすのにといいものもあるんでね。

そやからね、よっぽどやないとならんやろうし。

淡路島には毎年行ってますよ。冬は日本海の方にね。

ことしも娘は無理だったけど、長男の嫁と4人で金沢行って来ましたからね。金沢の金箔工芸とかが見たい言うてね。それやったらたまには連れて行きたるわ言うてね、行って来ましたけどね。

(行政の対応)

震災直後の行政の対応いうたら香櫨園なん

でね。市役所まで結構離れとんですよ。行くどころじゃなかったんですよ。学校の支援してくれとる人とかはいろんな話しましたけど。こういうのあるよとかいう情報は一切無かったですね。2人入院しとったからね、朝起きたら、長男と弟連れて自分のつぶれた家行って、ずっとそんなんやりましたからね。

避難所にメモは、なったときはいっぱい情報は大切やから思っで行きましたけど、その後学校でね、服、着の身着のままですやんか。全国から古着とか集めたやつが教室にずっとぶら下げて、好きなん選んで持って帰ってくださいとか。医者が来たり整体師が来たり、いうのはやってもらいましたけどね。それ以外の避難所おるときはね、生活云々とかどころじゃなかったですわ。ありがたいことに親がおったんで、親のどこ行ったらいいわいうのもありましたからね。

要望や支援としては、子供さんにはね、やっぱり今、高校無償化とかいうてますやんか、大阪の方でね。あれはあれでいいんかも知れへんけど、あの当時やっぱりね、まず、うちの子が受験やったんですけど、受験とかはああいう地震があったからいうて何もない普通なんですよ。受験自体がね。1年後やったから。結局ああいうのんがあったから勉強できませんやんか。当面、学校もあいててあいてないような状態やったから。1年後にはほかのものと一緒に受験ですやんか。だから神戸にもよう来んかったし、家が神戸で神戸行とったら、ひよっとしたら高校辞めんで最後まで行とったかも知れへんですけど、そういうのもないんです。だから神戸に引っ越しして神戸に住んどうから、学校なんかもそういうのんでやるかっていうのも無かって、本人も神戸じゃ自信がないと。西宮やたら行けると思うというのがあったんで無理に受けたら山の上に、やっぱり高校は作たらだめですわ。いのししが出るしね、それで冬雪が降ったらグラウンド使えないんです。1番上なんでね。そんなとこに学校作たらだめ。

甲山高校いうてね。もっとね、町の中に、交通の便のええとこに作ってやらん。

あんなどこはだめ。

今でも同じ状況ですよ。学校もそのままですからね。何ぼあの辺があげてきたいいうても、バスも常時ないし、1時間に1本でもあればね、帰るいうたらタクシーで帰るか親が迎えに行くか。それで、あのおとき熱出して調子悪いからいうても、結局学校は送ることがないんですよ。反対にお金は持ってきたらあかんいうからお金持たせてないし、だから、歩いてずっと下って行ってバスで帰らなあかん。あれはね、お母さんとかおって、車があつて迎えに行くんやたらええけどね、そうじゃなかったら子供、苦痛ですわあれは。

あれはね、あんまりに、かわいそうやったですわ。ああいう震災なんかで家が変わとんや

ったら、この神戸の高校でももうちょっと受けやすい環境を作ってくれとったらよかったんちゃうかなと。

だからあのときに神戸のほうで受けてたらもっと違った人生になっとったかもしれないなと思いますけどね。

そうですね。震災で各方面に変わられてここに住んでても別のところに、そのために行かなければいけなくなった人たちが、そこで受けやすいような体制をとるべきだと。

だから地震があったときの受験生もかわいそうやったですしね。でも、1年経つとみんなもう普通なんで、結局地方に行けば行くほど受験戦争がないんでね。地震のときやたらまだね、こんな状況やからいうのもあったと思うんですよ。

1年後とかかなともう普通なんでね。だから毎週西宮まで乗せて塾連れて行ってましたから。

あとね、僕らはね、家買いましたけど、家こうたんも結局財産で残るやろ思ってこうたんですけどね。市とか国とかは何もしてくれへんと思うのが正直な話ですね。特に国は。病院を手配してくれた人が1番かなとは思いますがね。

結局、大人ばかりのところに、うちみたいに子供3人ね、残って男手でっていても母子と父子の、差が物すごい激しいですよ。だから何か優遇じゃないねんけど、母子は確かにお母さんだけやからいろいろしたげなあかんけども、父子のほうも、手続きに来はったらええやんと言うけど働かなあかんし。

あの当時やっぱりばたばたして忙しいから、休みも取れんし。土曜日、日曜日は閉まっていますからね。だから震災とか災害時は、日曜日なんかでもそういう窓口を開けてもらって相談できるような、制度をこしらえてほしいなと思うのが正直な話ですね。言い方悪いけど、お役所仕事で土日祝日休みはいいんですけど、大手は会社でも土日休みですけど、中小なんかになると土曜日は絶対出勤ですからね。ほんならもう日曜日だけですやんか。落ちついたときはええんですけど、ああいうときの支援とかいうときは、日曜日でも相談できるような機会は作ってほしいですよ。

そうせんと、行こうと思って平日にしても1日休めないんですよ。だからどうしても中途半端やしね。それと情報がね、特に避難所なんかおったら入りそうやけど、離れると入らないんですよ。避難所にずっとおる人はわかるんですけど。だからご夫婦で避難されて奥さんはずっとおって、ご主人が働きに行くとかいうのやったらいいんですけどね。僕らみたいに全部おらんかったら、全く何がどうなっとなかわからないんです。

子供連れて行ってましたから全くおらんのですね。その辺が市からもうたんは、国からか

な、女房と子供が死んだんで見舞金、それでお墓建てたんですけど。2人の見舞金でお墓建てて。それは、ありがたかったですけど。いまだに毎月墓参り行っとなですよ。

平和霊園って西区の木見、木幡いうところですよ。あそこにね、次の年に建てて、それから毎月墓参り行って。子供らも墓参り行くんが当たり前になっとなでね。

私は一昨年、椎間板で歩けんようになって1カ月入院して、5年ほど前に3カ月入院して、ことし暮れにちょっと調子悪なって三が日寝てました。

立てないんです。腰から足にきてずっと寝て。正月済んでから前行ったB病院に行って、先々週かなブロック注射3回連続で打ちました。

腰椎と腰椎の間に注射するんですわ。

子供ら、事情わかっとうから、よう遊んでくれますよ。買い物とか。今はもう結婚したりしとうから、買い物とかあれやし。自分らの用事よりもまず何か用事ないかって聞いてから、予定組みようから。まず、墓参りは月に1回絶対やし、買い物や何やもよう行くしね。

ただね、娘が出て長男出て、今二男と2人ですよ。ほんなら部屋4つあるんですよ。

それでも16坪しかないんでね。

あの当時タンスの前でよう寝んかったんですよ子供が。自分ら埋まっていますからね。

だからタンスは全部1階に入れて、2階、3階の2間で3人。ほんでおれは2階の和室でおって。でもね、みんな出て行ったら今は2人ですよ。部屋は2つぐらいでええな思いましたわ。

帰るいうてもね、長男あれで娘はね、去年も結婚式の前で4カ月帰ってましたからね。もう早く帰ってくれ言う。金が要ってしゃあないわ。

(天災の恐ろしさ)

去年は出張行っても倒れそうやったわ。

名古屋と東京ぐらい。

名古屋も暑かったですね。背広着て行きよったらね、気失いかけたことあるんですよ。暑過ぎて。だからもうずっと水飲んでね、ホンマに去年は大変やった、それで去年暑過ぎたからことし寒いでしょう。

雪がね、すごいしね。1年続いてほぼ同じ気温になるいうていいますからね。

もうこれからずっとこんなと思いますよ。

異常気象でね。阪神大震災が起こってから、後立て続けに全世界で地震起こっとうでしょ。そしたら今度洪水、寒波でしょ。だから豊岡でも洪水来ましたやんか。

同じ連鎖で、ずっと続いてますから。実際南極の氷も溶けて水位が今2センチか3センチか上がるといいう。

南極の氷溶けて水位が10センチ上がると日本の3分の1は水に埋まる言っとなかな。

何しろ、うち海に近いから確実に埋まるやろ

な。徐々に沈むやろな。でも、異常気象ですよ。だって今、しとしと降る雨ってあんまりないでしょ降りだしたらざーっと降って。昔は長雨いうてね、しとしと降るような、嫌やないような雨やったんですけど。うちの住んでる家の前の川が一昨年かな、川自体は雨降ってなかったんやけど、上のほうで雨が降ってて、鉄砲水出て5人死亡しましたわ。都賀川です。

動画見てたらね、僕、子供のとき阪急の上に住んでて、都賀川の川でよう遊んどったんですわ。あそこは遊ぶとこやったんです。今あまりにも整備し過ぎてね、川歩かせたらいかんと。あそこでバーベキューしてますよ。だから去年の夏暑過ぎて、娘帰って来とうときに孫らをあの川で遊ばせて、娘にちょっとおかず作らせて昼ごはん食べがてらあの川で遊んでました。雨のないときはいいんですけどね。降りだしたらすぐですからね。まさかって思いますよ。あんな一気に来るとはね。実際、鉄砲水10センチあったら立てないんですよ。我慢できるやろじゃなくて、10センチで人間流されるいいますもんね。絶対無理。それがざーっとふえるんやったらね、どうっちゅうことないんですけど、一気に来るぶんはね。天災は怖いですね。阪神大震災はすごかった。僕がおったところは、すぐそばがバスが宙ぶらりんなとったでしょ。あの近くなんです。あれが香櫨園駅の東側なんですわ。僕が香櫨園駅の西側なんですよ。2号線のすぐ下なんでね。屋敷町いうんですけど、そこは86%全壊でした。

隣の家が建て直したとこやって、もってましたけど。うちが住んどったところはいまだに、更地で駐車場にしますわ。

家主さんもね、ちょうど僕らが、住んどった部屋がそのまんま空き地なんです。車今とめてますけど。だからこの辺こうやったないうてわかるぐらい。あの辺も今、区画整理で変わっててね、昔の思い出がなくなっててね。

あの辺はちょっと行けば夙川があります。上行きや甲山でしょ。下行ったら香櫨園の浜で。きれいところですよ。

花見のときね。すごいですね。親の商売の関係で護国神社とかよう行きましたけど。

子供らもね、よくレインボーハウスなんかで故人をしのぶ会とか、地震のときも西宮の体育館で合同葬とかやって、確か皇太子さんが来られる言うとったんやけど、子供ら連れて行きましたけど。もう子供らが、おりたない言うてね。しのぶ会もわざわざそういう境遇の人ばかりが集まって故人の話をしたって、そんなもん傷のなめ合いやから、そんなんでしとんやったら、自分らの生活いうか、考えてやったほうがええ言うて、ああいうのもうちの子全然行かないですね。

辛うじて二男だけはね、レインボーハウスの富士山に登る行事とか、それからちっちゃいときにね、富士山は高校のときには行きましたけど。長男は全然ああいうのは。ドライじゃないけど、忘れはせんけどわざわざ思い出す必要はない言うて。

ただ、神戸にメモリアル震災センターありますよ、防災センター。

あそこはね、娘と二男はね、何回か連れて行ってますよ。4時間半待ってて助け出してすぐ入院でしょ。だから町を全然知らんし、自分ら埋まっとったいうだけしか、後はテレビ見てとかなんでね。だからあそこはほんまうまく作られてるなど。横にできたんは必要なかったなと思えますけど。あれはお金の無駄遣いやろうと。今ほぼ機能してませんもん。

隣の建物ね。

あれ何のために作ったんかな思うんですけど。

この前行ったらね、下が何にも無くなって。何もやってないわいうて、また出ましたからね。

(我が家の防災対応について)

下の子がね、小学校の4年ぐらいやったかな、ごそごそしとうねんね。ほんでおまえ何しとんねん言うたら、地震とか来たときに非常持ち出しグッズってありますよ。

集める言うて集めとって。

それやったら本格的にやろう言うて、アルミのフライトシートいうんですか、防寒にもなって、熱を遮断するいうあれとか、2年間もつ水とか、かんぱんとかね、そういうのを2人で防災センター行ったら昔売とったんで、こうきて、毎年、いまだに期限切れる前に全部使ってからこうきて、今向こう売ってないんですよ。

最初は本館のほうで売ってて、東館ができて東館に移ってお土産と一緒に売とったんやけど、もうなくなりましたからね。

一時期ね、ドライフーズいうてお湯かけたらごはんになるのも置いとったんで全部こうてね、毎年点検して消費期限近かったやつはみんな使って、飲んだり食うたりしてね。それ以外は薬も毎年かえて。いまだにしますよ。リュックサックにね。

ちょっとあつたらね、すごく便利です。

だから手動式の、懐中電灯とかラジオとか。電池もいけますけど、電池無くても回すだけで発電してね。携帯電話の充電もできるとかね。今電気来んかったら充電できませんしね。

だからそういうのも用意して、常に、寝てる近くに置いてる。

それ下の子がやりだしたんでね、いまだに。買えば高いんですよ。

セットとか1万円以上するんですわ。懐中電灯とか入ってね。普通のリュックサックにあちこちのを見ながら買いに行くんもまた楽し

いですね。

防災センター行って、後そんなんこうて、
ケーキこうて帰ったりね、1年ぐらいなんで
1年後にはそれ食べてまた足したりとかね。

水と懐中電灯、ラジオ、あとはライター、
虫眼鏡ね。

ライターとか無かったら虫眼鏡あったら太
陽照ってたら火着きますからね。

だから虫眼鏡もごっついのはうていい
んで、ちっちゃいのでええから、それから
シートがあればね、1回も使ってませんけど
ね、まだ。そういうのは全部用意して、やっ
てます。もう2度と嫌やしな。

こないだちょっと大きいのが来ましたもんね。

先月かね。3階に寝とったんでね、結構揺
れて立ってる物が倒れましたからね。

結構ひどかった。3階やから余計に揺れる
んでね。いつ来るかわからないから、やっぱ
り気は抜けません。

プロフィール

| 保護者-8 | | |
|-------|------------------|--|
| 項 目 | 内 容 | |
| 訪 問 | 面接日 | 平成23年2月12日(土) |
| | 面接対応者 | 本人(9)の日程が合わず、保護者のヒアリングを先に行い、約2週間後に本人ヒアリングを行う。 <input type="radio"/> 保護者:父親 <input type="radio"/> インタビュアー <input type="radio"/> インタビュアー補助者 |
| 基本属性 | 性 別 | 男性 |
| | 年齢(調査時) | 48歳 |
| | 本人との関係 | 父親 |
| 被災状況 | 被災場所 | 西宮市甲東園 |
| | 家屋被害 | 全壊 |
| | 家族の状況 | <input type="radio"/> 母と子ども2人が1階で、父は2階で被災。 <input type="radio"/> 母と長女(5歳)は死亡。 <input type="radio"/> 長男(11ヶ月)は頭部に傷を負ったが、母が覆い被さり無事。 |
| 主な発言 | 遺児の養育など | <input type="radio"/> 二人きりになってしまったため、息子が中学校に上がるまでに2人で何かを残そうと、いろんな場所に出向いては写真を撮るなどした。 <input type="radio"/> 生後11ヶ月で被災したため自分の状況が理解しがたい面もあったため、あしなが育英会の集いに参加させ、自分の状況を分からせようとした。 <input type="radio"/> 自分は仕事から帰るのが遅いということもあり、高齢の母親(祖母)に任せっぱなしだった影響と心労から、母親を老人ホームに入所させることになった。 <input type="radio"/> 祖父母への育児負担が後々、様々な形で残り今現在も続いている。 |
| | 震災遺児への支援で必要なことなど | <input type="radio"/> 直ぐに行政へ相談し、奨学金、義援金の支援は受けることができた。 <input type="radio"/> 報道の情報と行政の情報がリンクしていないこともあり、正しい情報を発信してもらいたいと思ったことが多々あった。 |

日時:平成23年2月12日

(震災当時の状況)

西宮の甲東園1丁目に住んでたんです。妻がこの辺の生まれ育ちで、大学出てすぐ結婚したので。被災したときに、私は32で、妻が上で34となっております。結婚してからちょうど10年目だったんですけど。亡くなったのは妻と上の子で平成の元年の生まれなんです。残ったのが私と下の子で、震災の前年の2月生まれでAという。もうちょいで1歳というときに震災にあった。2月11日ちょうどきのうが誕生日やったんですよ。

妻は専業主婦で、上の子は幼稚園に行っていました。下の子は、伝え歩きがやっとできるかというところで。私が大阪心斎橋のアパレル関係の会社で勤めていましたんで、収入は基本的に私だけ。ただこの近くには妻の実家がありましたので、始終ものを持ってきてもらったりとか、援助をしてもらいながらの生活ですね。だから、私も会社の中で役付やったから極端に収入があったというよりも、極めて平均的な家庭だったと思います。戸建ての借家に住んでたものですから、結果的に2階建てで1階だけがつぶれて2階がそのまま1階に落ちてくるという、よく震災ではあったパターンなんです。

私は、会社に朝早く行くくせもあったんで、私だけが2階で寝起きしていたのと、子供がまだ生まれて間もないことで妻は私ほど早起きでなく。長女も幼稚園にいってるので、ほかの3人は1階で寝てたわけです。震災前でも自分の用事があれば、3時や4時ぐらいに起きてたんです。震災のときも既に僕は、起きてて起こり初めから、覚えてるんです。結果ペしゃんとなってしまっ。妻と上の子は圧死でだめだったんですけど、下の子は、妻が抱いたから、うまいことすき間に挟まったんで、助かったと。はっきり言うて3人とも死んでも不思議じゃないぐらいのつぶれ方だったんで、よくぞ助かったという思いです。

友達が、慌てて僕の家訪ねて来てくれて撮った写真なんか、確かにこんなやったわという。2月1日。

結果、1月17日、そういうことになってしまっ。貸し家とか一戸建てが多いところでしたんで、甲東園というのは。同じようにぐしゃぐしゃとつぶれて、大丈夫だったのはプレハブ式の自重自体が軽い建物やったりとか、普通のマンションとかは、ちょっとひびがいったとか、ゆがんだという程度で。

この辺は、田んぼがあって家があって、ちょっと店があってみたいな感じですね。昔から土地を持っていて、それを処分して自分の家を建てた人が多かったですね。そこへ世帯をもってしばらくは大阪とか別のところに

住んでいた時期もあるんですけど、助かった息子が生まれるに当たって

実家の近くで産みたい、上の子を産んだ病院で産みたいというのがあったみたいで、安心やからということ、震災の2年ぐらい前に西宮に引っ越してきたんですね。無事2月に生まれて翌年どんとなった。地震は、僕ら関西では余りないって思われていたんでね、揺れ始めがあっても終わるやろ思っていたらどんどんひどくなっ。家ががばんと割れてという感じも覚えていますね、何が起こったかという感じ。

1階に家具は置いていましたね。2階にも荷物は押入れがあっ。ものをあげたりとかします。家具は1階がほとんどだったんですけど。がちりつくっている関係上自重が絶対重いんやと。ある程度まではびくともしないんだけど、ある限界を超えたら一気にがんとなっちゃうんでしょね、大丈夫やったとこいうたら、プレハブでポコッと建てたような家のほうが、揺れるけど軽いものですからどうもないという建物は結構ありましたね、地震にはああいうところのほうが安心なんかなと思えましたね。

仮設住宅には、僕自身がね、回りに助けられてスタートしたのがあって。教会がありましたね。修道院ですね、本来女の人しかいないという修道院に入れてもらって、当時亡くなった二人の死体置き場所をどうしようかという話でしたんで、ただ二人一遍若いお母さんとその娘が亡くなったということで、この辺ではうちだけやったもんですから、修道院に出入りしている知り合いの人が、余りに気の毒なんで遺体だけでも置かしたってくれないかと言ったみたいで、そこへとりあえず遺体だけでも置かせてもらって、いつ焼けるかもわからへん状況やと。この子も、ちょっと頭をけがしてたんですね、血を出して。僕らでは見えるかどうかという程度で。ようそれで済んだなというぐらいのけがで、子供だけB病院へ一日預けて。

近所に住んでいた、向こうの両親は全然大丈夫だったんで飛んできてましてね、掘り起こしたけど二人亡くなって、この子だけが何とか助かったつたので、向こうのお母さんが、血も出ているしということで、B病院に預けにいったですね。僕は遺体がどうか、そのときはこないなっていますからね。お母さんに預けたんですね。助かったのがよかったということで、教会にとりあえず遺体と私と、そこで結局1月の終わりまでのほぼ2週間修道院のお堂みたいなところで、家に残っている荷物を少しずつ引き上げながら生活していて、僕だけなんです、だだっ広い、ちょうどこれの倍ぐらいのところに僕と二人。修道院ですから、いすとかがいっぱいあるもんですから、どけてものがおけるようにして、亡くなった二人だけをここに置いて、向こうのご両親も来て、うちの両親が垂水で母が震災の前の年に両ひざの手術をやりまして、

明石のリハビリ何とかという病院におったもんですから、交通が遮断されてるのもあって、うちの親戚筋が全然来れないんです。近くにいた、妻の弟の子供とかが来て。僕は残って、亡くなった二人をどうするかとか、残っている荷物を引き上げてきたりとか、大事なものは、あげてとか、やっと思ったわけですね。中へ潜って行って取ったりするのは危ないって言われましたけども。そういうことをしながら2週間過ごしていたのを覚えてますね。修道院に何でもかんでも荷物を入れられないので、妻の実家にわざわざ自分のつづれた家から修道院のほうをはるかに近いんですけどね。延々と持って行って入れて、取られたらしまいですよ。よく盗難があったんで大事な預金通帳とか印鑑とかは手元にしましたけど、何でもかんでも手元に置けないし、管理もできないので。ここへ入れさせてもらっていて、ここへは3月の半ばぐらいまで置いていた。この子のこともそうなんですけど、僕一人でしか動けない時期がかなりあったんです。会社にも報告していずれは、また行かなあかんとか。身の回りのことで何からやっていくか、とかいうことで震災直後から、結局ちょうど1カ月後の2月17日に、この子を引きとって垂水の実家へ戻るんですね。1月の終わりにまず僕だけが修道院に、貴重品と既に2週間の間で、二人は火葬だけは何とかできたので、お骨になっている状態だったんで。引越し屋を頼みまして、大事なものとお骨を抱いて、実家の垂水に1月の終わりに帰ったんです。その2週間後に2月17日に、1歳の誕生日を迎えたころまでに、僕とここに引き取る事で、公立の幼稚園に行ったり区役所行ってやりつつも、住民票はまだ、西宮に残っているんですよ、行ったり来たりとか。今思うとね、可能であれば行動の記録をきちっと取っておけばすごいことをやっていたと思います。明日はこれをせなあかんとか、あさってはここへ持っていかなあかんとかいうのを一生懸命つけてたノートがこれやと思うんです。お見舞いに来た人、今僕が自分で見ても何書いているかわからないのもあるんですよ。修道院にいたときに、例えば娘がいていた幼稚園の先生とか、うちの会社からも見舞いとかね、状況を見に来ますよね。こっちはぐちゃぐちゃな状況ですから。どれが時間軸で前後やったか覚えてないわけですよ。いつまでも修道院にもおるわけにいかんしということで、そっからやむなく何日間か会社に行って、そうこうしている間に、息子は妻の弟が川西市に住んでいたんで、二人子供もいたんです。二人も三人も一緒やから(A君)預かってくわって。B病院からとりあえず一日二日だね、死体ごろごろ転がっているのに預かってられへんからみたいなことだね、子供おでこ切ってるだけやから。申しわけないけど、けが人

とかいっぱいいるんでベッドを一つつぶすわけにはいかないんでということで、弟がしばらく川西へ、連れていってくわということで、その間にとりあえず直近の荷物とお骨の二つを持って、垂水に戻ったのが1月の終わりです。今度は垂水とまた西宮に戻って荷物がどうか、市役所へ並んで義援金をもらいに行ったりとかそんなことばかりやりましたね。

いろんな情報が、報道機関が先行して、言うんで。実際役所に聞いたら、まだそれは決まっていらないですよと。報道されてるのは知っているけど、役所としてはいつと決まっていらないと。報道がどうしても早く知らせてあげたいというんで、何日ごろなりそうだと1面でも出ちゃいますよね。そうしたら、我々は、期待も入っているものだから、本当にそうだと思うんですよ。例えば鉄道がいつやったら神戸駅まではつながるって、報道されたら、我々は絶対その日がオーケーやと思ってしまうんですね。それでJRに聞いてみたら、何月何日、絶対って約束はできないと。それは報道が先走ってるのやなど。悪意があつてじゃないんでしょうけど、報道もそれは早く希望を持たせてあげたいいうんでやるんでしょうけど、そういうずれはちよくちよくありましたね。被災者証明も、今行ったらくれるとか、言う人もおれば、いや、あくまで一斉にもらえるのはいつからやとかね、メディアも含めて口伝えで聞く話も、情報のごちゃごちゃになるんですね。実際、自分で新聞で見て、出る以上はほんまやろうな思って、聞いたらいやいや、それは向こうも内々では、記者発表するぐらいだから、まず間違いはないと言っても100%と返事をしてはいけなかったときに言われちゃうからやろうな思うけど。いろんな想像はしてたんですけどね。そういう混乱の中で、じゃあ自分が今こういう状況になって、何からつめて、会社のほうも行かなあかん、身の回りもせなあかん、そういうたら妻の実家に・・・中に置いておる荷物はいつまで置いておいたらいいのだからとか、いろんなことが並行で動くんですね、それを自分の中で段取りとか流れをつくっていかなあきません。それは、一人だから、自分の中で自分さえきちっと納得したらできるというのも反面、いろんな人に余りにものを頼んだりし過ぎると、それがうまいこといったかどうか、またその確認をしなければいけないという手間もありますよね。行政に対してのリクエストがどうかいうのは、義援金が出ますよとか、ライフラインがいつやとか、いう情報は受け身として受けて、プラスアルファとして自分は使っただけであって、まず自分の中で何からしていくかというのを、つくっていかんと、区役所行って頼んだら何とかなるかとか、そういう発想じゃないんですね。自分が動いて柱もどける、荷物も持っただけというふうを考えていかないと、めどが立たないっていう状況。人に頼める状況ってその人

自身も大変やという人ばかりなんで。思いもかけず友達が、大丈夫かって来てくれて。尼崎で、水出るからシャワーだけでも浴びに来いやとかね。そういうのは、ありましたけども。

西宮市はガスも当時だめだったんで、結局その二人を1月の終わりに、僕がお骨で持って帰れたというのは、妻の両親が、尼崎市役所に頼みにいったかで、西宮で順番待っていたら何ぼドライアイス入れててもどんどん腐っていきますしね。悲しいが形のあるうちになって、それこそかわいそうやというので。尼崎に持って行って焼いたんです。お骨になって帰ってきたと。それがあったから1月の末に帰れたと。あのまま焼く西宮市内で順番で待っていたら、いつになっていたかわからないですよ。

ライフラインとかというのはよっぽどのがあっても途切れないようにしてくれとかいう、大きいリクエストは自治体とかに対してあっても、当時は僕はこれを言ったって仕方ない。そんな次元を超えているレベルですからね。まちに出てもガスくさいし、市や役所に勤めている人も自分自身被災者でもあるわけですからね。結局自分が動ける範囲で自分が詰めていって、納得していきながら、取捨選択も含めて自分の中で決めてやるしかないという腹はくくっていましたね。死んだ二人を見てますから、それを思えば、僕はちょっと足をけがした程度でしたので、僕が動かないと何も動かないっていうぐらいの自意識というか、自分がやらな、何事も一ミリも動かないっていう気持ちがありましたね。だから、ノートも一生懸命あしたはこれして、準備がこうとか書いているんだと思うんです。2月、3月暖かくなって4月、5月ぐらいで、確かJRがね、最初に通ったのを覚えてるんですけど。あのころぐらいまでは、きちんと思い出せないぐらいですね、いろんなことをやっていましたね。妻は親戚筋が豊中にもいたんで、亡くなったということは知ってたんでね。向こうでもお経をあげたいんで骨を持ってきてくれと言われて、確か家まで行ったんです、また、どないかして垂水まで帰ってきたわけですから。家族失った悲しみというものあるんやけど、それが怒りとか持って行く場のエネルギーがないんで、のほほんと寝てるというわけにいかなかったですね。同じ被災者の方でも、うちみたいに自分の身内や家族に死人が出た被災者と物をなくしたとか家がつぶれただけの被災はあきらかにちがうんです。復興という言葉をよく言われると、僕らにはやっぱり当てはまらないんですね。ものが直った、お金をもらって買いかえた、家建て直したっていうのは、その人らにとってはそれは確かに復興なんです。でも僕ら家族が亡くなった人間には、復興という言葉

がどうしても、入ってこないんです。ほかのものは直ってきますよ、お金も入ってきた、いろんな援助ももらったとか。しかし、死んだ人間が出てしまうとね、その部分で完全に欠落してなくなってしまっている部分っていうの、これは、お金積もうが人間生き返るわけじゃありませんから。悲しい気持ちの横にね、新しいものがどんどんつくっていくという感じのイメージだったんですね。そういうことをやりながらも、例えば妻がかつて持っていた日記帳が出てきたら、捨てられないわけですね。そういう過去のものをきちっと置いて、娘が必ず寝るときにまくらがわりにしていたぬいぐるみとかね、やっぱりそれは捨てられません。置いていけないっていう。だから、僕は、垂水に戻って、子供を育てていくにしても、うちの母が少し震災後おくれて両ひざを削って、歩くのもままならん状態が出てきて、私が世話する言うても、坂もきついとこやし、保育園入れるとといったすごい距離があったものですから、乳母車に乗っけて、ひゃーっと思えば行かれましたうちの母なんてついていけませんよね。これはこれでまたいろいろ家の中でも考えなあかんことやし、どうやっていこうかということで、仕事場も垂水から心斎橋に通わなければいけなくなりましたから。今度は、仕事の中で何をやっていくかという、気持ち的には給料をもらいながらも仕事どころじゃないっていうところもあって。いろんなことが毎日ぐちゃぐちゃになってたんでね。それを少しずつ自分で整理して。子供を寝かしたあとで、夜いつも紙に書いてあしたこうせなあかん、あさってはこれ行かないかん。そういうのが自分の中で整理していかなあかんわけですよ。来週は水木は会社行っている場合ちがうなとか出てきますよね、それなら休まなあかん。その理解は会社も含めて、いろんなところに迷惑をかけつつも助けてもらいながら、いろんなことをどんどん、自分から仕掛けていくこと、言われてて答えなあかんこととかをやっていたのを覚えていますね。それがあつという間に3月、4月まで、まず表向きの動きをとにかく自分の中で納得できる状況を早くつくりたいという感じやったんです。これからの生活のスタートの土台になる状況を早く整えたいという感じになってくるんで、目まぐるしくやっていたね。だから、震災さえなければ、行くことなんか絶対なかったであろう役所とか、会うことなんて絶対なかったであろうという人も、そんなのちゅうちょしてられないですから。そういうことの繰り返しやったですね。自分の身の回りのこれからスタートするのにどうしていくかという、状況をとにかく早く整えたかったということですね。そればかり考えていましたね。

家族を亡くしている怒りとか理不尽さっていうのが、何でやという気持ちになると、よく寝れなかったら電気だけでも消してこうしておけって他人は言いますけど、ろくなこと考え

ません、人間って。それやったら起きて、気の済むようにとにかくやって。本当に疲れたら横になったりね。ぽっと思ひ出すことがあったらパッと電気夜中つけて、忘れんうちに書いておことか。なりますよね、受け身で避難所入って、どうしようって気を抜けておれる人は、ええよなって僕は正直思いましたね。だれかがどうにかしてくれる、とりあえず一週間ぐらいは飢え死なへんから貯金通帳もあるしって、おられる人がある種うらやましかった。子供は垂水に引き取ったけど、僕が会社に行き出ししたりしたら帰って来るのは夜遅いと。その間に子供が病気とか、3月ぐらいに栄養状態が悪くて子供がダウンしたりしたものですから。やっぱりうちの母では食べさすものとか合わへんのかなとかね。下痢したり。

いろんなことをやっぱり考えた。今思えばちょっと過敏になっていたんですけど。5月、6月以降、子供に関して言えば、施設に預けて、母も昭和一けたでね、両ひざやってる状況で、子供の世話が難しい、動き出したら、ちょっとどこ行ったかわからんでは困ると。

それだったらおちおち会社も行かれないというのがあって、乳児院みたいのところへ入れて、僕がその近くにマンション借りて住んで、顔を出すようにしたほうが管理上は安全かなとか。いろんなことを考えましたね。そしたら、それを聞いた妻の両親が、せっかく助かった子を施設に入れるとは何事やみたいなことを、こっちは突き詰めて考えての話だった、適当にふぁっと放りこんだんだと思ってしまいますから。妻の両親は、生前は実家が近かったということもあってね、ちょっと子供の顔見にとか、来ていたんで、この子が助かったからって、僕が垂水に戻っちゃったということは何、向こうの両親からしたらいきなり4人も目の前からいなくなったって考えるわけですよ。そうなるって、どうしてんのかなと、僕なんかよりも自分の娘の産んだ子ですからね、血のつながっている。元気にしているのかな、聞いたら施設に入れるとかいうのが何事やみたいな話になってね。服とか残っていて捨てられないもの、詰めるんですよ。それを持ってコンビニへ行って、自分の実家あてに送ってもらうわけです。そんなことが何回か往復しているだけでもへとへとになるんですよ。かと言ってこれをだれかに頼むとかいうことができないんでしょうね。コンビニの人が驚いてしまって、見る見るすごいでかいのが5つも6つも。これ一個垂水まで送ったら2千円ぐらいかかりますけどいいんですかみたいな。震災でこうこうでって。遺品みたいなものやけど言うたら、わかりましたって。これは移った垂水の家とか。時々戻ると、まだ瓦れきのままだとか。これは妻の実家の中に荷物をとりあえず、かくして

おったときこんな感じで、今思ったら、何でガスレンジなんか持っていったと。

頭ちょっとおかしくなってるんでしょうね。だから、とりあえず持っていけるものはみんな持っていつてるんで。この中でじっとね、2月か3月一人でね、この荷物の中でポカンって。どうしても大事なものを持って帰ろうとしてたんやと思うんですね。これは死ぬ前の日まで嫁がつことったナイロンのバッグやったとか。これはやっぱり持って行きたいとかね。そういうことを考えて、へとへとになってしまったりもしてましたね。

お骨は、今現在は、D寺に入っているんです。C寺。花隈の駅の近く。秋口までここに置いていたんで、ほかに持っていくというのもなかったんで。そういうことをずっとやっていて、震災の直後1年というのは、これから先の土台をどうするかということと、目の前のいろんなことを処理してたということですね。むしろ震災後の2、3年というのが、ほとんど記憶がないんです。だから、直後必死な時期から少しゆるんできた時期に仕事もしていて、何をしてたかっていう記憶が今ないんです。むしろ震災よりもっと以前の家族4人で暮らしていたときのことのほうがよっぽど覚えているわけです。子供がぼちぼち大きくなって2歳や3歳になったで、妻や上の娘が生きてたときは、女の子ということもあって家族4人でうるさいぐらい会話ってやりとりがありますよね。何がつらくなって、2人亡くなって、我々2人だけだと、子供が小さいから会話がないんですね。うー、まー、わーとか言うぐらいでしょ。それが休みの日とかで家におってもいたたまれないんですね、かつては妻とこんな買ってきてとか、夜は一緒にテレビ見てああやこうや言うて。娘は娘で絵を書いたから見てくれとか、うるさいぐらいやりとりしてたそれがぼんとなくなるわけ。そうしたら、目の前おるのは、何やふにやふにや言うてるけど、会話じゃないですわね。とにかく早いこと大きくなって、イエス、ノーとかやりとりができるまでになってくれという感じやった、それだけを待ってていう感じで、小学校入って、イエス、ノーとかこれが食べたいとかいうやりとりができるようになったときに、自分の中で段階が来たかなってほっとしたのを覚えてますね。けがとかつまん病気とか万が一この子に何かあるということは絶対困るっていうね、それこそ、僕首くくってしまうんちゃうかという感じやったですから。それを一生懸命待ちながら、残った子供とは、歩くこともままならんような時期から、うろちょろ外出て遊んでましたね、乳母車引いたりとか一緒に電車に乗って。考えたら危ない話なんですけどね、電車に乗って遠いところへ行って、本人が自分で歩けるようになったらね、リュックサックをしょって一緒にやたら歩き回ったりとかね、だから、きょうも持ってきてるんですけど。震災直後から2、

3カ月の抜粋して張ってますけど。小学校何年生とか、二千何年ぐらいまでのころというのは、子供を写真撮りまくっているんですわ。普通の写真ですよ。それがこのアルバム、百何十冊あるんですよ。これだけでもいろんな時期の写真。写真で思い出したりしてね。だから97年とか98年とかのは、写真の中でしか、思い出せないぐらいなんです。おかしなとつたんでしょね、僕自身が、そこで、楽しみは子供と一緒に何かをしてとか、子供といるのが楽しいというか、それしか楽しみがないという時期やったんでしょね。そういうことを考えながら1年たつたとか。きょうは本来やったら娘の誕生日やとか。お母さんの誕生日やとか。当人がいないということはシーンとして、これは一体何やっていう気持ちになってきますよ。暗くなったり明るなったりの繰り返しでね。自分の写真なんてほとんどないんです。子供が立っている写真、子供と駅おる写真とか、子供が駅のいすちょこんと座っている、駅名見たら姫路とか厄神。小さい子なんで電車好きやったんで、電車を見に行こうか言うたらどこでもついてきよったです、珍しい電車あるで言うたら、三木鉄道見に行ったときの写真とかね。子供がそれを覚えているって、すごい田舎までパパと行ったわって。

断片にでね。すごい田舎をパパとふたりでテクテク歩いているの覚えているって。

子供なんかは、母親の記憶とかね、自分にとってのお姉ちゃんの記憶なんてのは実はないですよ。僕らが一生懸命、おまえのお母さんがどうやったとか、お姉ちゃんがどうやった言うても、ぴんときてないですわ。後から一生懸命すり込まれてるんで。ホームビデオを撮ったやつで。これはお母さんやとか、それでもわからへんと言うんです。写真もいっぱいあるし、見せてあげるけど、悲しいかな、さすがにまだ1歳にもなってないような時期ですから、お母さんと何かしたとか、お母さんの何かの感触が一切ないって。今回、本人がこの聞き取りになったときにね、多分本人が一番何も言えることがないんじゃないかと。

高校2年生、4月がきたら3年生になるんですよ。アルバム見て思ったのが、今でも自分の子供この感じで接してるなど。大きいのはわかっているんやけど、この感覚が残ってしまっている。そういう感じでこれまできていうことですね。

(息子さんとの関わり方)

小中は、教育委員会の奨学金は受けてましたね。お見舞金みたいなものが夏場に出てたんで。わかば奨学金、それは丁重にいただいたり、後は垂水にいたんですけど、当時子供が、よその家に遊びに行ったときに向こうは、

若いママが出てくるのに自分の家は何でこんなくたびれたばあしかおらんねんみたいなことを、ちらっと僕に言うてて、それは当たり前や、自分の母親がいないんやから、ああ、やっぱりそういうもんなんやなど、同じような遺児とか、あしながの、集いとか、ちょっとでも自分の状況というのを、ほかの家庭とは違うというのはいいい意味でもわからせていかなあかんのやろなというところで、そういうところにも顔は出さすようにはしてましたよ、小中とクラブ活動とかもちろん学校の生活というのが大事ですから、そういうことをやって、結局高校入って、中学時代っていうのはうちの母も年齢的に肉体的にもくたびれ果ててしもうて、またこんな子の相手しておったもんですから、ひざや腰が悪くなつてしもうて、手術することになったんです。生活が経済的にも家の中の空氣的にも、ちょっと悪くなつてたんです。ただまあ本人は自分の意識も持っているし、僕とは家事の一つにしても手分けして、じゃあおまえ悪いけど金渡すから、あそこ行ってこれ買ってきてくれとかいうことができるようになってきたんで。こうしよう、ああしようというのが、同格で動けるようになってきていましたから携帯も持たせたりして。

ただ家の中が今度は、世話してくれておつたうちの母がだめになってきて寝たきりに近くなって家にヘルパーを呼ばなあかんようになってきたという状況でね。家の中が落ちつかなくなってきたんですね。だから、そこを何とか乗り切つていこうということで、うちの母は老人ホームへ入れたのが、中学の終わりぐらいでね、そこから、本人も高校の受験も何とか受かって行けてということで、自分の生活をもう一回やっこさ、もしかしたら本人が自分の意識を持つてという意味では、今が一番落ちついたりかもしれませぬね。

勉強がいやになったとかは、なかったと思います。ただ、ひとりの子供として普通にやって、何で僕だけこうなんていう場面はなかった。そういうところは積極的に教えてるので、ママとお姉ちゃんは、この世にはおらんので、D寺へは、よく連れて行ってたんですよ。そういうのは習慣としてね、手をあわせてこうしなさいとか、今でもそういうことで少しづつわからせていって。大みそかとか、お盆とかそういう時に行つてとか、本人にいろんなことを理解はさせますけど、実生活の中でおらんから寂しいなというのはもしかしたら僕には言わなくて、本人の中にはあつたかもしれませんが、それをあからさまに顔に出すとか僕に対して何かふてくされてとかね、寂しいとかって言うことは一切言わないですわ。もしかしたら僕に言ってもしょうがないと、既に本人の中でしまっていることなんかもしれない。何かあつて亡くなったわけだし、これはだれのせいでもないんやからというのは、自分の理解じゃないですかね。そ

こは僕も聞いてみないとわからないです。

支援を受けたのは、公的には、義援金とか、奨学金とか助かりました。子供の場合は、送り迎えが、第三者に頼んだこともないこともないですけど、いろんな形で有形無形で結果的に我々生きてこれる流れはできていたなど思いますね、自分でやることはやっていこうということ、男の子なんで一緒に力を合わせてこの子も大きくなった、中学生になった、高校生になったというたら頼めますよね、一緒にやっていこうって。僕も楽になってきましたし。

一緒にやっていかんと何も動けへんというのは、当たり前やなっていうのがあるかもしれないですね。もっとこんなしたら楽やのになとかいうことはあんまりないですけども。十分そういう話が出るまでに、僕らは行政に対しては非常にきちっといいポジションで、いいタイミングで、補助とか支援を受けてたと思いますよ。

相談窓口については、悩みというよりは、手続とか、こういうことは何かあるんですかっていう、ちょっとアバウトな質問も含めて人がこんな言うてますけど、これはこうこうこういうことができるっていうことですかね。チラシとか新聞にも出てるけど、これは我々にとって当てはまることなんでしょうかって。問いあわせて、それで一つ一つ確認していくということですね。それによって聞いてよかったわって。これ下手したら申請の期限越えておったわとか、やっぱりあるじゃないですか。

現実、そういうのもありましたのでね。だから、聞いておってよかったなど。

震災直後に必要だった支援としては、ありがたかったのは、電話ですね。

あれは、市役所と、西宮北口駅にもありましたね。よくだれそれ無事かって伝言板みたいなのが。僕は伝言板そんなに使わなかったんですけど、自由に使えるっていうのは助かりましたね。当時は家の電話がだめになったけども、公衆電話は比較的きちとつながるのがあったんですわ。外へ出ても震災の直後というのは公衆電話でずらっと並んでるのを覚えていました。

行政に問い合わせはいろいろしましたが、対応は普通じゃないですかね。役所というのは不特定多数の人が来るんで、こっちもある程度丁寧に言わんと気持ちよくやろうと会話せんと。そうすればついでながらとか、いろんな情報を教えてくれたというのはあったんですよ。

幼稚園への入園手続については、区役所に保育園の窓口があるということで、保育所抜きで家にずっと置いておくのが絶対無理やというのはわかっていて。だから、保育園。最

初は、希望者、当時神戸市そういう状況でしたから、かなりきていたので、今から思えばね、優先順位したみたいですね。ある程度集まった段階で。何か都合で言ってくるだけの保育希望なのか、うちみたいに母親が亡くなった、家族もう一人お姉ちゃんに当たる人が亡くなっていると、心労いくばくかなんて、やっぱりランクづけはしたんちゃいますかね。だから、早い段階で泣きつきにいったようなもんなんですけど、何とか入れたってくれと。定員もあるやろうけど、とにかく隅っこに置いて、うちの母がひざが悪くてどうこうって、こっちの状況を全部言うたんです。そうしたらあつけなく入れてくれましたね。自分でも驚いたぐらいで、気持ちもだめやったら、もう次の手は考えるということで、ここで言えることはきちとやうておいていうことで、そうしたら電話がかかってきて、いついつから保育できますって。もう決まったら早いほうがいいんで、じゃあ、あしたからでも行けますかやうて。今度は坂道、うちの母が押すのが怖かったんですけど。大丈夫やろうなっていうの。家に置いておいたらどうろちょろするかわからへんで、家のことができへんとうちの母が言うてたんで。

優先順位があったと思います。僕が垂水に行ったときにはもうパンパンやとやうてましたから。これはあかんかなと思いましたが。だから、候補地としてはここ、第一希望の保育園に入ったんですよ。うちがだめやったら、ちょっと遠いんですけど、お父さん行けますかねってやうから、多分僕が連れていくんじゃなくてうちの母親が連れていくんやと思うんやけど、ちょっと距離があるかなあ、でもそうは言われてられへんしなどは言うた。結果的には、すんなり中に入った感じやうた。

結果、小中は地元の公立の学校行ってますから。小学校あがった。卒業して中学校へあがった。ただ中学になるころから、うちの母が子供も手かからんようになったんで、気が抜けたんでしょね、何でもかんでもいう時期でなくなってきた。

お弁当が要りますからね。

僕もつくってやったりしてたんですけど。うちの母がその辺から肉体的にも無理がきて、腰が曲がらんとか朝起きられへんとかなってきた、これは母ももうあかんかなと思って、老人ホーム入れる話も出てたんで。今度はいよいよ、おまえ自身もしっかりせなあかんし、飯は、帰ったらおばあちゃんがつくってくれるものではなくなるから。自分でつくってそれでしんどくないほうなんで、おれもやるしおまえも家のことやれということで、手分けしだしたんですよ。おかずないねんやたらね。自分で買ってきても食わな何もない。仕事終わって帰って9時10時で、それから晩飯食うかおまえっていう話になってくるわけですね。おばあちゃんも大変やろうけど、家で寝転がって夜寝られへんと

か、睡眠薬を飲んだりしたら、もうろうとして受け答えが変やから、もう限界やなと子供も言うわけですね。自分がしっかりして、早いことおばあちゃんも老人ホームに入れてあげて、そのかわり小まめにきちとうちが顔を出してあげたほうが安定するやろうなど。今入ってびんびんしてますけど、母。あの時期は何やったんいうぐらい。入れてよかったですよ。

親子の会話なかったら絶対成り立たんです。一緒にテレビゲーム欲しいんやったら買いに行こうかと。他人から見たら小さいつまらんことでもね。

やっぱり亡くなった二人にね、残った二人が仲悪いいうたら、子供にも言うたんですけど、お母さん化けて出てくるでって。反面、何でも言うてくれるのもいいけど親がおらな解決ができへんとか、親に全部言わんと不安やっていうのも、これまた困ると。

これは親に言うまでもないわと。これはおれで楽勝でできるっていうのがないと、それはまた困るんやなというのはいつも子供を見て思うてましたね。うちの子供人を信じ過ぎるといふかね、ちょっと助けてやり過ぎたかなと思えるぐらいです。

世間智っていう言葉があればね、悪いこと、ちょっとした小さい失敗とか挫折とかいうのは、本人なりにはあるんでしょけども、僕から見たらまだまだちょっと甘いなっていう、お人よしで、だまされへんかなって。

回りがね、かわいそうかわいそうでやり過ぎたかな、僕を筆頭にです。その反省はありますけど、そういうことも含めて、僕らが生きていく中で、シビアにならずに自分なりにはいろいろなことが確かにありましたけど。行政も含めてね、そんなにシビアになる瞬間がないんです。よくも悪くも今、何でお姉ちゃんおれより先死んだんやと思いつめる場面がないで来てしまったわけです、本人にしたら。でも、それができたというのは、ある意味公的にもある種支援とか、回りにおった人もよかったですでしょうけど。そういう意味では、本当に困ったということはないですもんね。前も何かでこういうのを聞かれたんですけど、本当にこれさえあったらもっと楽やったということなんて、全然ないです。それは、ええ格好じゃなくて本当に自分でやることは自分でやらな気が済まんというか、ちょっと頭にきておったのがあって。その上で、とことんやってみよっていうところでね。やっぱり子供連れてぼうっとなってしまうときとかね。オン・オフで言えば。ぼうっとなってしまうと、親子二人ではたから見たら何かこの流浪の民の二人で、はぐれて歩いとうかつちゅう。危ない親子ですよ。僕らの中では解決しててもね。あの二人は、てくてくリュックサックこのくそ暑い中歩いてって思

いますよ、こんな写真。

じっとしているより、どっかに行きたい。家においてじっとしてっていうのが、いたたまれなかったんでしょね。電車見に行こうか言うたら、うん、見に行こうっていう、そののりですよ。子供にしたら、電車の窓から動いている線路見ているだけできゃっきゃっ喜んどう、それを見てるだけで楽しかったんでしょね、何か救われる言うか。そのときには友達と会って、どうこうよりは、子供とおってじっとしんみりしてるほうがまだ気持ちが落ちついたんでしょね。大丈夫かとか言うてくれるやつもおるわけですよ、夜電話あって、長いこと声聞いてへんけど、あれからどうしてんねんやとか。もちろんありがたいんですけどね。何か自分の中でほっとね、そういう友達がどうこうよりやっぱり子供を見て、じっと何とかかんとかちよっと落ちついてるかな今とかいうのをかみしめたいというのがあったんでしょね、忙しくやりながらも。

相談窓口よりは子供と一緒にいたほうがよかったです。だから、第三者に聞いてもらってケアっていうのは、どうなんかなと、本当にわかってもらおうと思うたら、僕かって震災の話とかやったらね、震災が何がつかつたかというたら、亡くした人の話をいえば、妻やったら結婚するときの話からしていかなあかんようになってくるんですよ。こうこうであるから亡くなってっらいんやというんやったら、亡くなった瞬間じゃなくて、その前にあるいろんな出来事があって、こうなって亡くなったからっらいわけですね、だから、聞く側、亡くなった瞬間からのつらさを聞くんで。そうじゃないんですね。いろいろあって、妻2回流産してやっこさ生まれたのが上の子なんです。もう一人でええわって言うてたのに、妻のほう縁起でもないんですけどね、一人っ子やったらその子が欠けたら、跡継ぎなくなったらがくっとなるからもう一人いるよなって、いみじくもそういうことを言うたんです、うちの妻。もう一人で十分やって言っとなったのが。二人産んで、やっとな家族らしなつたねということで、生活的にもね、30越えて派手さはないにしても、普通の生活で家族らしくなったなと言うてたやさきにどかんとなつたというのは、僕の悲しみはそこですわ。早くに結婚したいいうてもやっぱりままとみたくにずっと10年間やってましたから。それで流産もあり。そこが逆の裏エネルギーになったんでしょね、月並みですけどね、しんどい思いをさせたのに、何もしてやれんまま死なせたいと思うわけですね、娘なんか5歳でしよ。震災後この娘が生きている期間より以上にぼうっとなつたよ。6年も7年も。そう思ったら娘に対して申しわけない思うわけです。たった5歳ちよつとでもね。一生懸命生きておって。もしかしたら死んだことすら理解してないかもしれせん。寝てるときにどかんってますから。そ

う思ったら、僕らぼんやりしてたらあかんっていう、ある種炊きつけになりますよね。くそっていうね、怒りっていうか、持っていきようがないけど、二人が亡くなった事実だけは消化せなしゃあないっていうつらさですよ。震災に対する悔しさですね。

(生きることの大切さ)

悔しさですね、持っていきようのない、消化できひんけど消化させられるみたいな感じですかね。何か異物を入れられて。それは納得できへんに納得させられてしまうっていう。だから、今でも納得してないんやと思うんですよ、いろんなことがあるからそれは子供に対してはまだまだ甘やかしたと言いつついろんなことにくちばし入れたりしますから、間違っても自殺なんか考えんなよとか。要らんこと言うてしまうわけなんです。おまえ死ぬぐらいやったらもう、人に迷惑かけてでも生き延びて最後はちゃんとお返しもってきて済みませんでしたって言うほうがよっぽどええと。そういうことはよう言いますね。子供にしたなら何を急に言い出しよんやと思う。でも、ちょっとわかっていると思うんですよ。生きていく方法なんて何ぼでもあるから。絶望せんでええと。だから今就職がどうとかって本人も世間見て、自分でつらい時代にこれから働かないかん、でも僕はね、樂觀視いうか、何ぼでも別に世間にかかわっていく方法はあるから、就職浪人してしまおうが、大学受けて浪人しようが、1年や2年ぐらいどうっちゅうことあらへんて。おれなんか頭こうなつて5年か6年ぐらいぼうっとしておつたやろと。だから、世間へのかかわり方って何ぼでも方法はあるからと。就職失敗したからどうとかね、そんなんで思いつめる必要なんか。全力は尽くしたらええけど、生きていく中では、たまには失敗ぐらいしたほうが人間強なるいうて。これ思ったら、二人亡くなった顔を見て、何が変わったかって言うたら、そういう意味での怖さがなくなったんですよ。特に、妻もそうですけど、自分の子供の死に顔を見るってということがどういうことかっていうの、この世で何が怖い、別に夜中墓場歩くのも怖くないです。やくざの横通るのも怖くない。やっぱり我が子の死に顔見るのが一番怖いんですよ。これを見たらもうこの世に怖いものないわと思いました。自分が、お金の問題でしんどかるうが、ひもじい思いをしようが、怖くはないんですよ。これぐらいで死ぬわけないわと。あれを思えばっていう、何か焼きが入っちゃったみたいなのがあります。そのことはよく子供に言うんですよ。就職できへんからどうやとか、生きていく方法なんて何ぼでもあるからって。生きてさえおつたら何ぼでもチャンスはあるしって言うたんですよ。その中では、ときには行政とかいろんな

ところに入って行って、情報ももらいとか、そこは自分の努力は必要ですけど、やっぱりそういうところで強く、ときには人に頼ってもいいし、ときには迷惑かけてでもいいから、生き抜いていくということ。生き続けていくということがすごい大事なことやろと。決してあきらめるなど。

経験を残すっていうのは、どう残していくんですかね、記録とかいろんな、例えばそういうのを題材にしたドラマみたいなものをつくられますしね。そういう残していき方っていうのは事実だけを一生懸命伝えるんやったら、例えば僕らでも戦争の体験って今でも、ビデオとかNHKでやったりとかで見ますよね。だから、ああいう伝え方になるんやろうとか。そういう間をとった普通の伝え方しか、なくて、本当の中身のニュアンスっていうのは、やっぱり当人らの中で伝えていくしかないんでしょからね。本当の意味で正確なニュアンスだけを本当にびちっと伝えていくということは、ちょっと僕は限界があるん違うかなと。

僕は、阪神大震災の被災者ですけど雲仙普賢岳の災害が何年前にあったかって知りませんもん、覚えてませんよ、やっぱり人間ってそうなんです。それがあつたんですよ。自分がそんなんになっておきながら、普賢岳であんななつてかわいそうやなと思うじゃないですか。でも、それがいつやったかって、覚えているかという、そこまで覚えてないんですよ、情けない話。人間ってそうなのかな。自分があんなつて、自分のことはきちっと体に刻み込まれてるんで、やっぱり他人のことなんやなつて、そこは自分に対して突きつけるものがあるわけですよ。だからおまえかってそうやろ。そういうことを、なつた当人が自分の中でどう工夫してどれだけ自分の思っていることが100のうち、例えば子供には80は伝えられたとか。その子からさらにその下には60は伝えられたと、結局それしかないんやろうと思う。後は一般的なビデオとかそういう記録ですわね。両だてしなくて、これに決定的なものって、特殊な何か近未来じゃないですけど、脳の何かそのものを入れてしまふとかね、そんなSFみたいなことでもない限りちょっと無理やと思いますね。

本当に自分が忘れたくない、忘れられないものというのは覚えてますよ。僕も、前の日最後に妻と交わした会話とか、娘と交わした会話は、やっぱり覚えてますもん。最後何を言うたかは、ばちっと覚えてます、そんなん忘れようとか覚えようなんか思わなくても絶対に忘れません。そういうもんやと思うんです。

(情報伝達に関する要望)

要望いうたら、せいぜいマスコミ発表と現実の動きのずれですね。何月何日からJRは神戸駅までは行きますとかいうてJR聞いたら、そんなんだれが言うてますとかね。確かにJRの

中ではそうなるやろうというても、公式発表できないだけのことやったとかいうのがあるじゃないですか。そのずれっていうのは、災害のときにみんなが情報にどん欲になっているときには、どうなんかなと思いますよね。結局一番知りたいところが。マスコミが悪いんかもしれないですよ。でも、マスコミはどこに取材して情報を取ってきたかによるんでしょうね。例えば上層部から取ってきて、それを新聞に流しているのか、本当に直している現場から聞いて、大丈夫、いけるっていうたのを拾って言っているのかわかりませんが。現実の動きと報道とかにずれがあったというか、結果的には報道の言ったとおりになったにしてもそれが新聞の上だけで踊っているように、見えてしまったところがあったんで。それは結局、自分で確認していかないとしょうがないやなというところへ、自分を納得させて。代替バスがどうやとか、いろんな情報を自分の中で確認せなしょうがないわけですよ。大体何本ぐらい出ていると思いますよとか。あのへんで出ているって聞いたとかっていったら大概はずれであったりするわけです。先週までで、今週からこの線もうないんですわとか。だから、その情報はうそではないけど、今の情報じゃなくなってしまってるわけですね。この停留所あそこになったんですわとか。そういうのっていうのは、本人らの責任もあるんでしょうけど、あの当時は大事な情報やったですね。そこをいかに正確なニュアンスでね、結果的に代替バスがきょうはこの先2時間後ぐらいしか来ませんいうても、こんだけ並んでたらその2時間後に来たやつも恐らく乗られへのやろうなって計算が立つと、神戸駅からもう青木まで歩こうかになってくるわけで。そういうのはやっぱり判断としてありましたね。

(遺児への支援等)

これからの災害で生じる遺児の方の支援については、少子化っていうことになってくるとね、うちの子供のときでも既に言われてましたけど、一人一人の子供さんに対するケアっていうのは、もっとシンクタンク的な人とか、そういうことを研究されてる方に、これから生まれるというか、もし遺児になってしまうような方がでてきたときに一人一人のケアって、全然浮かばないですけど、何かちょっとハイブローな、きちっとした手当というのは準備しておいたほうがええんかもしれませんね。若い人っていうのが少なくなってきたのは間違いないんで。その人が一人欠けるって、遺児になっちゃうっていうことの社会的に伝播するダメージっていうのが僕らの世代っていったら5人、6人兄弟でおった時代のうちの一人と、今やったら3人子供おったら多くなって言われちゃうような時代の

一人とはちゃうんですから、一人っ子でも全然珍しくない時代でね、大体二人ですわ僕らの回り見てても。だから、そういうとこでいきなり、何十人の中の二人なのか、何百人の中の二人なのかって、おのずとその回りにいくダメージも大変やと思うんで。そういう意味では、思いつきはないですけど、遺児に対する手厚さっていうのは、必要なものは今から用意しておいたほうが、過保護とかそういう意味では分厚さとか二重三重のシフトっていうのはしておいてもいいんちゃうかなと。例えば物余りの時代やいうんやったら、物的なものは、常に子供一人に対してこれだけのものが用意できていると、少子化なんやから一人に対してこれだけのものは用意できるというように物量とかできるんちゃうかなと思うんですけどね。形だけではかなり分厚くできますと。

後は心の問題やね。人それぞれ同じ震災でも受けたダメージとか違うんですね。

僕もそうですけど、子供さんに向けていうことは、例えば一番上だけ生き残って下全部亡くなったという話もありますから。ただ上が全部亡くなって子供だけっていうのは一番悲劇ですからね。一人の人間として生きていくという意味で考えれば、もっと広い意味でいうたら世界じゅう見たらね、もっと子供一人の状況っていうのが厳しい国、生活として厳しい、環境とか衛生の状態で伝染病がどうとかって、生き物として生きていく状況として厳しい国ってのもっとありますよね、衛生が悪いとか。そういうことは別に、一個の人間として生きていく体制を、何かつくってあげてあげるんやったら、遺児になろうが一人だけで暮らさなあかんようになるうがも含めて、日本やったらまだ何かの準備、いろんな想定ごとをもとにした準備ができるんちゃうかなと思うんですよ、例えば税金を使うとか何とかっていう話になるとどうしても、いつ起こるかかわらんために一生懸命命ばかり今使うなという論議も出てくるんでしょうけど。僕は人間一人の生命力っていうのは、そうばかにならんと思う反面ね、子供閉じ込めて放ったらかして殺してしまうような時代でもあるんで、何がどうなのかなっていうのはね、現在育てている親の側の立場の意識の持ち方も含めて、考えていってあげたほうがいいんちゃうかなと思いますけど。遺児に、これから何をっていうのは一番難しいと思います。答えは、100人聞いても100通りちゃうかなと思うんですよ。なってみなわからんという、ちょっと無責任ですけど。僕らでも、結局なってから一生懸命やっただすから。だから、今無事に生きているからですけど、現実は今落ちついているときに考えたことが避難訓練でもそうでしょ。訓練のときはみんなにこにこ笑って滑り台やってますけど、本当にわってなったら、我も我もとなるのが人間やと思いますから。そこを人為的にコントロールする仕組みみたいななんをつくるんやっ

たら、それは何かできるんかなというだけで
すよね。

人間が人間を規制するっていう形になっ
たら、そこに感情とかが入ってなかなかそれを
頼みにしてやれるかというのは、疑問に思っ
てるんです。はなからの仕組みでがちっとやっ
ちゃうかしかないんかなとか。地震はとにかく
一番怖いですね。

遺児にさせないように親全体、家族全体を
守らなければ仕方ないですね。そうなったら
災害っていうテーマよりも、もっと大きい話
になってしまうと思うんですけどね。

結局そういうところで、最後火事になっ
けどそういうことふだんから意識しているか
ら助かったとか、地震が起こったけどふだん
からこういうことをしているから寸前で助か
るといのは、その差になってるんかなと
思うんですよね。

防災訓練は、今はいろんなテクノロジーも
発達してますし、携帯とかね、まちも大体
24時間起きてる時代になってきているんで、
やりようがあるかなと。例えば、テクノロジー
で助かる。そういう携帯とかコンビニの話
って、いろんな方法でまち全体を、防災とか
何かあったときの、まちの機能の維持も含め
て、やれる方法ってあるん違うかなというの
はね。今やったらですよ、かつてできなかった
ことでもできることがあるんちゃうかな。
だから、遺児の方への支援というよりも、遺
児にならないようにということも含めてのこ
とでしょうね、それが一番ですよ。遺児にな
らないような、なることも想定した上で、で
もできるだけならないようにということも込
みでつくっていくようなことじゃないですか
ね。

プロフィール

| 本人-9 | |
|------|--|
| 項目 | 内容 |
| 訪問 | 面接日 平成23年2月27日(日) |
| | 面接対応者 本人の日程が合わず、保護者(8)のインタビューを先に行い、約2週間後に本人インタビューを行う。 ○ 本人 ○ インタビュアー ○ インタビュー補助者 |
| 基本属性 | 性別 男性 |
| | 年齢(調査時) 16歳 |
| | 保護者との関係 子 |
| 被災状況 | 被災場所 西宮市甲東園 |
| | 家屋被害 全壊 |
| | 家族の状況 ○ 母と子ども2人が1階で、父は2階で被災。 ○ 母と長女(当時5歳)は死亡。 ○ 長男(本人、当時11ヶ月)は頭部に傷を負ったが、母が覆い被さり無事。 ○ 震災直後は西宮の教会で避難生活、1ヶ月後、父の実家の神戸市垂水区で祖母とともに3人で生活。 |
| 主な発言 | 進学・就労の状況など ○ 小学校3年生から野球を始めて、高校でも軟式野球部に在籍している。 ○ 進学については、今は全く考えていない。とにかく野球が出来れば良い。 |
| | 震災遺児への支援で必要なこと ○ レインボーハウスには、小学校までは何度か行き遊んだりし、楽しかったという印象。中学に入ってから部活が忙しく、ほとんど行っていない。 ○ 自分自身は「震災遺児」とよばれることに対しては、しっくりこない。 ○ 遺児であることによる困難や不便は感じたことはなかった。 |

震災遺児等 インタビュー ⑨

日時:平成23年2月27日

(震災当時の状況)

震災の時は、西宮市の甲東園に住んでまして、家が崩れて下敷きになりました。母が僕を抱いて亡くなって、僕だけ生き延びました。その時僕は生まれて11ヶ月でした。母と姉はそのまま下敷きになったと聞いています。3人が下の階にいて、下敷きになった。僕は、ここに、すり傷したぐらいですね。

家が全壊ということで、震災後、垂水の父方の祖母の家に行きました。祖母の家は大丈夫だったんです。

(震災後の生活)

当時、父が仕事に行ってる間、僕1人になるんで、川西の親戚の家に預けられました。その後、垂水に引っ越して、そこから保育園です。保育園にいたことは覚えてるんですけどもね。何をしたとか覚えてないです。

垂水には中学3年生まで住んでいました。家は、山陽電車の滝の茶屋駅の近所です。周りの友達に被害を受けた人はなかったです。家には祖母と父と僕の3人で住んでまして、食事は祖母が用意してくれました。

学校で震災の話友達とはあんまりしないですし、震災に関する事は話題になったこともない。

震災後の神戸の街は、小さかったので覚えてないです。物心ついた頃には、もう神戸の街はきれいになって、復興してたみたいなき感じでした。

(お父さんの生活)

父からは、震災の話とかは、何度も聞いたことがあります。震災時に住んでた場所にも行きました。「ここに家があったんや」って父に教えてもらいました。

震災では、母が助けてくれたんで、その分長く生きようとは思いますが、これは別に父が言うたわけではないです。

父とはもう話もあんまりしないですね。3歳4歳ぐらいの頃は、電車に乗っていろんな所に連れて行ってもらったり、行くところ行くところで写真をとってもらいました。家にアルバムがたくさんあります。でも、そういうの全く覚えてないです。まだちっちゃかったのだから。「震災は自分の身に起こったことではないかな」っていうのが、印象です。

以前は祖父母と4人で暮らして、今は父と2人で住んでいます。父は平日の昼間に朝から晩まで働いていて、僕は平日学校に行くと部活も忙しい。休みの日は、もう出かけますよ。買い物とかね。

(震災で受けた支援)

震災の影響で受けた支援、例えば学費のこととかについては、父から聞いていないので分かりません。

(あしなが育英会の支援)

レインボーハウスから誘いとか、連絡や「イベントします」とかっていうお知らせはありましたね。あしなが育英会の行事には、小学校の時に、お誘いがきて、父に勧められて何回か行っていたんですが、思い出としては、遊んでるだけだったんで楽しかった。震災があったからレインボーハウスの行事も参加していたって意識はなかった。スキーとかみんなでだったりとか、集いとか、集会所みたいなのも参加しました。中学入ると部活があるんで時々しか行かなくなりました。レインボーハウスに来ていた人達との交流は、高校に入ってから、もう全くないです。今もお誘いは、毎回がきとか手紙で来るんですが、今はもう半年に1回行くか行かないかです。

(相談窓口の利用)

悩みごとの相談は友達とかにもしてないです。なんか、そんな大ごとな悩みにならないんで。部活のことだけなんでね、悩みっていうのも。

小学校、中学校まではなんかあったらお父さんと相談してっていう感じで、友達とか、学校の先生とかっていうのは、なかったです。

父からいろいろ悩みとか、胸の内を相談されるようなこともないです。

(震災遺児であることによる影響)

学校で防災教育は、受けないです。1月17日が近づいてきたら、もうすぐ震災の日という話は、先生からはあります。1月17日は当日高校では黙祷はないです。小学校の時も、震災の行事とかは、学校では、なかったですね。ちょっと先生がお話されるぐらいです。高校では避難訓練とか、1月17日に震災の話については、先生からもたまに話をしてもらって程度です。

震災の話先生がされても、震災で親が死んでると言うてないんで、先生にも、高校入ってからなんとも言えないです。小学校とか中学校の時は、先生も母がいない理由は、知ってます、もちろん。高校では、言っていないので知らない。

1月17日が近づいてきたらテレビとか新聞で、特集をよくやっていますが、それに対しては、もう意識して見えています。

カウンセリングを受けたことはないです。

震災遺児って言われることに対してどう思うかと聞かれても、別に分からないです。

今まで生活してきて、遺児であることによる困難とか不便とかは感じたことはありません。

(将来の災害への備え)

地震はいつ来るか分からないんで、それは怖いですね、確かに。地震でちょっと揺れを感じたりして震災を連想してしまうとかいうのは、別にないです。垂水の家いた時、震度3の地震があって、その揺れは感じましたけど。別に、僕もおやじも平気でした。人並みに怖いであって、特別おびえてるってわけではないです。

部屋に家具を置かないとか言うのがありますが、僕の家では、置きまくりです。震災に対して非常袋とか、備えとかいうのは、家では特にしてないです。

(墓参り)

A寺への墓参りは、今も月に1回は絶対行きます。父は多分毎週行ってると思います。その内月1回は僕も部活が休みの日に行きます。それは、行くものだというような月のスケジュールの1つになっています。もうほとんど行ってるんで、なんかもう普通に。

(親戚との交際)

父方の祖母はふるさとに行って、祖父は垂水の家にいます。

母方の祖母は大阪に住んでいます。親戚で集まったりするのは毎年1回だけ、正月にみんな集まります。父は行ってないですけど、僕だけ毎回参加しています。そこでは母や姉の話はないです。普通に近況報告みたいな、雑談みたいなんです。当日会って当日帰る。お年玉目当てで行ってるんです。

川西の親戚とは、今は全く会わないです。僕がまだちっちゃくて、父が西宮の片づけをしてる時に、母の弟さんのおうちに預かってもらったのは聞きましたけど、覚えてないですもん、顔も。年に1回集まる時に来てる方ではないです。

今も、父方の祖母には僕が部活休みの日は、垂水に会いに行ったりしています。結構、いろいろとお墓参りも行き、祖母の所にも行き。年1回親戚の所に行き、家族の行事は部活が重ならなければちゃんとやってる。

(震災に関する会話)

父とは震災の話はよくしています。父からいろいろ話を聞いて。父は、僕のちっちゃいころの写真見ながら、いろいろ言うてきたりします。「この写真撮った時はどうやったんや」とか言って。いろいろ連れて行ってもらったことは、聞きます。お姉ちゃんのことは頭は賢い子やっただけです。

祖母とは震災のことはあんまりしゃべってないんですが、話したら多分話してくれると思います。

結構、ちっちゃいころからそんなに話はしなかったです。小学校6年から中1ぐらいの時に。それからは、もうお父さんと2人で暮

らしてたんで。

友達の間でも、震災の話はしないです。友達には、垂水の友達と高校の友達です。母が震災で亡くなったっていうことは、僕の友人はかなり知っています。自分から話したっていうことです。友達の中で小さい間に親が亡くなったっていう人は、なかったです。

インタビュー調査とか、アンケート調査に答えたことは、1回だけアンケート調査に答えたのがあります。兵庫県のアンケートです。その他の取材は、あんまり受けてないです。僕自身は、小学校の時に一度だけ取材受けたことがあります。主に父が話してたんです。内容は覚えてないです。

インタビューされたりとか、アンケートとかっていうのに対しては、特に実感湧かないんです。インタビューに対しては、別に聞かれたことを答えるぐらいしかできないです。いやとか抵抗とかいうわけではないです。そんなに話たくないということは、ないです。当時のことを覚えてないんで、分からないですよ。地震があったっていうことも記憶にないっていう感じなんです。自分の身に起こったことよりは、他の人から聞いて知る出来事みたいな印象です。インタビューに関しては、知ってる範囲でなら答えるという感覚です。

(最近の生活ぶり)

最近でも買い物とかに、父と一緒に行ってます。荷物持ちですけどね。「買い物するからついて来い」と言われて、いつもついていきます。洗濯とかも父さんがしています。僕は料理は作ったりはしないです。生活の面では、父と特に不便と言うこともなく、過ごしてきたという感じなんです。

今は部活で忙しいと言えば忙しいです。授業はかなり早く終わります。1時限が普通は50分。6時限で14時には授業が終わるんで、部活は18時から19時ぐらいに終わります。

部活休みの日とかは、なんかもう。寝たりとか。

今は、学年末テストですね。

父のこれからを心配することは、ないです。

(今後の進路)

将来の進路については、震災のことを意識して考えると思いますが、まだ全然決めてないです。

野球ができればいいんで、あんまり将来のことは考えてないです。卒業しても、野球を続けていきたい。それは、父とも話しました。父は別に何も言うてないです、聞き流す感じで。将来に対しては不安とかはなく、大丈夫です。学校で進路希望調査はやりましたが、「考えてない」という方に全部〇をしました。

野球を始めたのは、自分でやりたいと言って始めたんです。小学校の3年から4年ぐらいです。

それからずっと中学校も続けて、高校は最初、硬式野球部に入ろうとしてたんですけど、軟式の監督に来てって言われて、軟式に入ります。父も仕事中に電話が来るんで、それで僕入りました。

父が応援に来るのは大会ぐらいですよ。今はそれに一生懸命って言う感じです。主将だから、大変ですね。

高校卒業してからは、神戸を離れてどっか遠くへ行こうというのは、別に特にはないですね。住みなれたところに、まだおりたいと思っています。

プロフィール

| 本人-10 | | |
|-------|----------------|---|
| 項 目 | 内 容 | |
| 訪 問 | 面接日 | 平成23年2月9日(水) |
| | 面接対応者 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 本人 ○ 保護者 10(祖母:父方)と一緒にヒアリングを受ける。 ○ インタビュアー ○ インタビュー補助者 |
| 基本属性 | 性 別 | 男性 |
| | 年齢(調査時) | 19歳 |
| | 保護者との関係 | 孫 |
| 被災状況 | 被災場所 | 神戸市灘区烏帽子町 |
| | 家屋被害 | 全壊 |
| | 家族の状況 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 母方の祖母宅で被災。 ○ 母が死亡、本人と祖母が閉じ込められる。 ○ 父は兵庫区の自宅にいて無事だったが、妻が亡くなり自分と3歳の長男が残され、仕事のこともあり精神的に不安定になり、父方の祖母(当時50歳)が3歳の遺児を引き取り、神戸市東灘区で育てる。 |
| 主な発言 | 進学・就労の状況など | <ul style="list-style-type: none"> ○ 小中学校での保護者参観では、普通は母親が来ているのを見てやっぱり周りとは違うという感覚はあった。 ○ 友達から母親のことを聞かれた時は、本当のことを言うと空気を悪くすると思い、震災の話はしなかった。 ○ 大学生になって恩返しの意味もあり、今あしなが育英会の手伝いをしている。 |
| | 震災遺児への支援で必要なこと | <ul style="list-style-type: none"> ○ レインボーハウスが心の支えとなった。 ○ レインボーハウスは、育ての親という感覚で大変世話になった。 ○ 同じ立場の友達が多く、自分だけじゃないと思い何でも言えた。 |

プロフィール

| 保護者-10 | | |
|--------|------------------|--|
| 項 目 | 内 容 | |
| 訪 問 | 面接日 | 平成23年2月9日(水) |
| | 面接対応者 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 保護者:祖母(父方) ○ 本人(10)と一緒にヒアリングを受ける ○ インタビュアー ○ インタビュアー補助者 |
| 基本属性 | 性 別 | 女性 |
| | 年齢(調査時) | 66歳 |
| | 本人との関係 | 祖母(父方) |
| 被災状況 | 被災場所 | 神戸市灘区烏帽子町 |
| | 家屋被害 | 全壊 |
| | 家族の状況 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 母方の祖母宅で被災。 ○ 母が死亡、本人と祖母が閉じ込められる。 ○ 父が精神的に不安定になり、父方の祖母が3歳の遺児を引き取る。 |
| 主な発言 | 遺児の養育など | <ul style="list-style-type: none"> ○ 苦労はなかった。 ○ 遺児には勉強はできなくても、あいさつと靴を揃えることだけを教え、あとは朗らかに楽しく生活するよう心がけた。 ○ 勉強が嫌だったら働いたらいいよと言っていたら余計上の学校へ行くようになった。本心では上の学校へ行ってほしかったが、逆のことを言っていた。 |
| | 震災遺児への支援で必要なことなど | <ul style="list-style-type: none"> ○ レインボーハウスが遺児にとって心の支えとなったようだ。 ○ そこでは、育ての親という感覚で大変世話になった。 ○ 同じ立場の友達が多く、何でも言えたようだ。 ○ 必要なものを強いて言えば、金銭的な面であるが、実際は、神戸市、レインボーハウスや日本学生支援機構などから奨学金を受け、大変助かった。 |

震災遺児等 インタビュー ⑩

日時:平成23年2月9日

(本:本人、保:保護者)

(震災時の状況)

本 僕は3歳の時に灘区の烏帽子町で被災したんですけど、震災当日朝5時半頃に母方の祖母の家に行っていて被災しました。住んでいたのは兵庫区なんです。

保 この子の母親が、その日、4時半に起きて子供を連れて5時半に母親の実家に行ったんです。着いて、呼び鈴鳴らしたら、「こんな早くだれだろう」と言って母親のお母さんが起きてきて、久しぶりやから、お母さんが台所でお茶入れようと思って、この子の母親が台所を越えたこの辺で、しゃべっていたんです。それで、この子が、おばあちゃんのことを「おかあ、おかあ」と呼んでたんですけど、「おかあ、来たよ」というような感じで、おばあちゃんの服を持っていたらしいです。

母親がこたつについて、こっちに来てお母さんに話をしかけたら地震が来て、母親はびっくりして逃げたみたいだけど、冷蔵庫が倒れてきて下敷きになって亡くなったんです。おばあちゃんはこの子を抱いて台所の流しの横で崩れてきたものの、隙間に一体になって4時間か5時間下敷きになってたんです。昔の木造の文化住宅で、家は崩れて、上の屋根や柱や壁の下敷きになって出られなかったんです。おばあちゃんは東京都文京区で本屋さんをしていて、この子の母親の弟さんと二人で住んでいたんですが、神戸に引っ越してきて間もなくのことだったんです。この子は神戸市兵庫区の雪御所のマンションに住んでいたんです。母親と一緒に祖母を尋ねていって、15分ほどで地震に遭ったんです。

私はその日、家がガタガタになって、お昼までかかって片づけていたんですが、昼時に息子が現れて、この子を抱っこして、顔蒼白でじっとうずくまって、ものも言わないんです。「あんたどうしたん」と何遍も聞いたんですが、「妻が、妻が」と言って、震えてずっと何も言いません。「Aちゃん(奥さん)どないしたん」と聞いたら、「いや、置いてきた」と言うんです。「どこへ置いてきたん」と聞くと、「もう埋まって出てけえへん」と言うんです。嫁さんの名前を何遍も呼んでも返事がなかったそうです。それで5時間ほど経ってから、車で来ようとしたようですが、家の近所の烏帽子町のアパートの近所が燃えて、車が燃えてきたんです。それで飛びおりて、この子抱っこして、そこの国道2号線も家もみんな倒れて車は通れないから、灘区からこ

こまで歩いてきたんです。だからあそこはもう大変でした。

私はまさかそんなこととは思わないから、みんな兵庫にいたると思っていました。兵庫にいたら被害はなかった。

父親は気が変になっていたんで、「この子をあの父親の元に置いとったらあかん」と思って、「仕事も行かれへんし、子供を連れて行ったらあかん」と言ったんです。そしてあつちは「おれが育てる」と言って、もめたんです。結局、子供は自分の嫁さんの分身ですからね。離したくなかったんです。だけど、長い目で見たら、この子一人ですと家にいるわけにはいかない。だから私が「同じ育てるんやったら、もう今日引き取っとく」と言ったんです。息子は寂しかったんでしょうね、自分の嫁さんは亡くなっていないし、せめてこの子にいてほしかったみたいだけど、「ご飯も朝、昼、晩とちゃんと食べささないかんし、こんなに3歳の小さい子、どないしてあんた一人で置いとくの」と言って、私が強引に引き取ったんです。それから1年ぐらい口きかなかったです。

結果は引き取っというてよかったんです。まだその時私は50歳で、この子は3歳半。「まだ今ならいける、育てあげられる」と思ったから引き取ったんです。私、子供4人育てたからね。この子で5人目だからね。4人の子育ては済んでたから、「大丈夫や」と思って引き取ったんです。この子は案外育てやすい子でしたね。

地震の時は、恐怖があったろうと思います。子供は自分の親が亡くなっているから、そんなこと一言も言わないけど、忘れさせるために城崎に連れていったり、淡路へお弁当持って親戚の人と皆で連れていったんです。私も寂しい思いをするし、この子自体かわいそうやからね。それを余り身近に感じさせないように、その当時は、1年くらいそんな心配ってあちこち連れていったんです。また地震が来たら怖いと思って、赤穂の国民宿舎に1カ月ほど滞在したり。

息子は、やっぱりその3年後に結婚して、今もう子供が二人おります。親が違ったらやっぱり何ぼええ嫁さんでも、子供ができたならこの子の性格が変わってくるだろうと思います。ひがみも出てくるだろうし。

まだその時は私が働ける年だったし、バイタリティがあったんです。2個も3個も仕事してました。姉の店を手伝ったり、お昼は大学の方で仕事してたんで、収入の面では困らなかったんです。学校やからボーナスもまあまああるし、勤務時間は4時半までなんで、晩に帰ってこの子にご飯作ってあげられるし。仕事の間はそこの保育所へ預けてました。

今から考えたら、私もそれが生きがいだったかもしれない。父親の元に残していたら後悔していたかもしれないね。その時の判断はよかったと自分で思っています。それで、連れて帰らせないように、養子にして自分の籍に入れたんです。父親もこの子がかわいいんで、遊びに行ったり来たりはさせてます。この子をどこか連れていったり、スキーに連れていったり未だにしています。だから親子の愛情はあるんです。だけど、毎日の生活で育てようと思ったら、ちょっとね。ひがみが出てきたらいかんからね。

本 僕自身ケガは大丈夫だったです。家が全壊はしたんですけど、ケガはしてなくて、当時3歳だったので、母とどこかへ行ったとか、そういうことは覚えていないんですけど、地震の起こった瞬間とかは覚えています

小学校や中学校では、保護者参観とかがあると、普通はお母さんが来ているから、それを見て「やっぱり周りと違う」という感覚はありました。震災が起きて母を亡くしたのがもうちょっと上の年だったら「すごい悲しいな」とか思ってたと思うんですけど、僕は小さくて、3歳で祖母と住んでいるのが当たり前になってたんで、悲しいとは思わなかったんです。でも、友達との何げない会話で、「おまえのこのお母さんは」とかやったら、「母を亡くしたことを言っているのかな」とか、「母のことを話すと空気を悪くしてしまうんじゃないか」と思って、話を避けるようなことはしていました。

保 私らは東灘区にずっと住んでいたんです。

(レインボーハウスとの関わり)

保 この近所にレインボーハウスができたんです。精神面では、それで助けられたようなところがあります。そこは親がいない子とか、両親がいない子とか、親がいないという同じ立場の子がいる施設ができたからね、心の支えになってね。しょっちゅう行かせてました。こころでみんなと同じようにしていたら、ちょっとひねくれていると思います。だから育ての親と言うか、そんなような感じで、そこのおかげも半分以上あるんです。みんな親切な方だったし。この子も小学校の時からずっと向こう6年生まで小学校から帰ってきて通っていました。そこで明るくなって。

本 やっぱり学校の友達も友達なんですけど、レインボーハウスのあしなが育英会の友達は、また違った。

保 同じ立場だから、何でも言えますわね。他の学校のお友達とまた違います。お父さんがおり、お母さんがおり、この子にしたらどっちもない状態だから。

本 小さい頃はレインボーハウスで遊ばせてくれて、震災遺児の子と色々な集いという形でスキーに行ったり、キャンプに行ったりしたんです。小さい頃は、余りどうも思わなかったんですけど、自分史というプログラムがあって、それぞれ遺児の子は、死別体験を話す。小さい頃は「自分を話そう」とみたいな簡単な題名だったんですけど、その亡くした両親のどちらのことを話したりするんです。小さい時は、みんなと遊ぶほうが楽しかったんで、面倒くさいなど思ったんですけど、大きくなってからそれをまたやってみて、自分とよく似ていることを思っていたりする人もいて、何か安心できるというか、「自分だけじゃないんやな」と思うことができました。

保 この子は今、あしなが育英会の手伝いをしているんです。今度は自分の恩返しみたいなことで。震災のあったハイチへ行ったり中国へ世話しにいったり。向こうで1週間ほど病気になったこともあります。それで1週間遅れて、あっちこっち見学して帰ってきました。あちこちで募金活動とかの支援をしています。

本 ハイチでは、阪神・淡路大震災の遺児の子とハイチの地震の遺児の子と交流するというプログラムやったんです。それと孤児院というか、施設が何個かあって、そこに募金したお金を届けるというのに行ったんです。

保 あしなが育英会の活動にはしょっちゅう行っています。活動しているところが新聞にもようさん載って、神戸市外大に行っているの、あそこの募金も大分集まったみたいですよ。

本 大学では活動しないで、大学の近所の名谷とかで、あしながの学生募金というのをやっています。

中学校までは集いとか皆と交流して楽しいことばかりで遊んでたんですけど、今度は「何か自分もできることがあるんじゃないか」ということで、あしなが育英会の人たちも誘ってくれたので、高校の時、中国の四川に行かせてもらいました。

保 この子を引取った時は、勉強せんでもええから、あいさつと、靴そろえて入ってくることだけ教えて、「あとは何にもせんで

ええ」と言って引き取ったんです。あとは朗らかに楽しく生活しようと言って。勉強なんか心の問題やから、「勉強なんか無理してせんでええよ」と言って。そう言ったら余計勉強してました。

5人目としてこの子を引き取ったけれども育てる上での苦労は全然なかった。返って楽しかった。娘も嫁に行くし、男の子3人も独立して出ていきましたでしょう。ちょうど私1人になった時に、この子がそういう環境になったから、寂しくなくて2人でちょうどいいと思ってたんです。

今のところは真っすぐ素直に育っています。よく家でもお話もします。学校から帰ってきて、この子も言うしね、「今日はこうやったああやった」「ああそう、よかったね」と。用事して面倒くさい時は、「はあはあ、分かった」と言うけど、後で「気の毒やな」と思う。「ちょっとちょっと話聞いて」と言ったりして。そんなんでもうつぶんが晴れてました。だからコミュニケーションはとれていると思っています。

私がここで「知らん、知らんそんなん」と知らん顔をしていたり、この子のことを思わなかったら、横道にそれでも怖いしね。この子にとって、話を聞いてもらう人は私しかいないから、「私がしっかりして聞いたげなあかな」というのは、引き取った時から思っていましたから。今もそのとおりで

本 あしながに行きだしたのは、小学校よりまだ下です。保育所ぐらいから。震災が起きてその年ぐらいに、もう1回目の集いが始まりました。まだレインボーハウスが建っていない時です。レインボーハウスが建ったのは99年(平成11年)です。

保 よかったと思って。近いから歩いてね。

本 行き始めたきっかけは、あしなが育英会のローラー調査です。

保 地震で親が亡くなった子の家に1軒ずつ調べにくるんです。

本 そのあしなが育英会で、病気とか、交通事故の遺児やった大学生の奨学金もらった人たちと職員さんたちで、しらみつぶしに震災遺児を探すと調査です。

保 震災遺児を探してたんやね。それでまたまいい方が東京から来て、行くようになったんです。あしなが育英会は、レインボーハウスができるまでは、もともと事務所が深江じゃなしに、東灘の2号線の東灘警察の斜め前の角にあったんです。そこへ私も

何回か通って、そのうち「レインボーできるから、来させますか」と言われたので、「喜んでお願いします」と言ったんです。そこの方がしょっちゅう家に訪問に来てくれてたんです。この子がいなくても私と長いことお話ししたりね。だから、その面では幸せでしたね。悩みもいろんなことも聞いてくれるし。

育て方が大変やったらね、どういうふうにしたらいいか、いつでも相談に乗ってくれるんです。何か行事があった時は、私も邪魔させてもらっています。この子が行く時、何か大きい行事には私も大概ほとんど行っています。そういう行事には新聞記者も来るしね。レインボーハウスの「今月の集い」とか、「あしながの集い」、お餅つきとかもほとんど行きました。私も「おばあちゃん、喜んどうるやろ」「あんたのためやで」「あんたもううれしいでしょう。おばあちゃん行っとつたら。」と言って一緒に行ってたんです。行くと、ご父兄の方がいろいろ来ておられるから、お話ができるんです。「震災の時どうやったか、こんな苦労した」とかね。「お父さんが逃げていっておらへん」とか。だから「自分だけではない、まだうちはちょっとでもましかな」とか、支えられるわけです。相手もうちの苦労を聞いて、「ああ、うちはまだましかな」とか思ってね。私も他の人の話を聞いて、「うちはまだこれやったらましかな」と、お互いに寄り集まった時にお話し合いをするんです。大概、おじいちゃん、おばあちゃんが遺児を引き取ってますね。親亡くしているから。

だけど、レインボーハウスに行っている子は、みんな明るい子です。暗いような子は1人もいないわ。返ってここの所の方が悪いみたい。レインボーハウスにいる子はものすごく皆いい子です。親孝行だしね。家思いだし。変なことを言ったり、考えたりするような子は1人もおらへん。

レインボーハウスで、私の心も癒してくれました。レインボーハウスに行っていなかったら、やっぱり自分だけ悲劇の主人公になっていたかもしれないです。いろんなことを聞いたり、それで強くなったりしましたね。レインボーハウスがあったから、明るくここまで来たんです。年に2~3回寄り集まりがあるんです、大きい行事が。大みそかとかね。集まって、ご父兄はご父兄ばかりでお話ししたり、子供は子供たちと2階へ上がって遊んだり、おもちゃで遊んだりするんです。だからストレス解消にすごいなるんです。

本 今は阪神・淡路大震災の遺児のほとんどが成人されていて、それでレインボーハウスに残っている学生は僕を合わせて、あと5

人ぐらいです。一番下で高2とかそんなんです。他は病氣遺児、尼崎の列車事故の人たちとかですね。

保 何か集まった時に、自分の寂しさとかそんなんもみんな言うんです。「かわいそうな子も一杯おるねんな」と思って話を聞かないとね。お話は私も大概聞くんです。結構その子もレインボーハウスへ来たら明るいしね。いろんなことに参加しています。JRの遺児も、何かあったらたくさん集まります。

本 レインボーハウスに通って、やっぱり広い視野を持つというか、海外のことでもそうですし、自分とこの阪神・淡路大震災だけではなくて、海外にも目を向けたりするようになりましたし、やっぱり相手を思いやるというか、そういうのも自分なりにちょっと分かるようになってきたのかなと思います。

保 この子は、すごく成長したなと思います。それもレインボーハウスのおかげだと思っています。感謝しています。だからこの子だけ行くより私も顔を出してごあいさつしたり、皆さんとおしゃべりしたりする中で、この子がこうして向こうに行ったら明るく大きなるだろうと思ってました。職員さんと話をするより、同じ境遇の方が集まるから、そんな方とお話ししていた方が打ち解けやすいんです。職員さんといっても、やっぱりね、お話ししたって、分かる人と分からない人といらっしゃるし、同じ立場の人の出入りが多いからね。子供たちも、うちと同じような立場のご家族もおりますので安心して帰ってこれるんです。

(災害後の支援について)

保 行政での支援としたら、欲出したらいろいろあります。強いて言えば金銭的な面だけです。そんなんもこの子が奨学金で何とか自分で返して、レインボーハウスも奨学金出してくれてるしね。神戸市からも出ているから、そんなんでありがたく思っています。奨学金の試験は毎年東京かどこかへ行って受けたんですけど、それが通ったらまた1年間その奨学金を受けるみたいです。経済的な面、学校の面とか、そんなことは、この子は「自分で払う」と言って案外きちりしてます。アルバイトして振り込んだりね。定期代も親から取らないですし、定期代も自分のスキー行ったりするのも自分がアルバイトして行っている。

本 あしなが育英会の奨学金で、最初に高校3年の最後に東京に受けにいったって、それで合

格したのもずっと4年間はもらえるんです。試験を毎回やるのはないです。日本学生支援機構とあしなが育英会の奨学金を借りてます。

保 自分の名前で借りてるから、定期代もこの子が全部、社会人になっても自分で返済していくんでしょ。親の名前で借りてるわけじゃないからね。保証人は私だけど、本人の名前でないと借りられない。だから、定期代から授業料から、小遣いから全部家から一銭も出してません。高校の時はお小遣いをあげてましたけどね。この子も欲のない子なのか、「おばあちゃん、もう出さなくてええで」と言うんです。

本 お金をくれるというか、給付してくれる形のものも幾らかあったと思うんです。わかば基金とか。

保 中学校の時、わかば奨学金をいただいてました。そういう制度の紹介は神戸市から送って来たんです。震災の子供たちは登録されているみたいですね。それで何も言わないのにそういう「申し込んでください」という書類が来て、それで申し込んだら、わかば奨学金が幾らかいただける。そんなのが神戸市と2回ほどあったかね。わかば奨学金は中学の時に2~3年いただいた。そんなんで大分助かりました。

震災の前後を比較すると、後の方がよかったわね。いろんなこと、精神面でも、経済的な面でも。まず奨学金で助かる。窓口へ行ってお金借りなくても、3年間他の手当が一時あったしね、だからまあ、違いますね。

それはこの子の親がいたにこしたことはないけどね。親の片方が両親がいない子に対する支援のお金が助かりました。育てる上でもね。あと私が芦屋大学に長く勤めていて、今もその共済の年金とちょっと蓄えがある分で生活しています。姉が商売していたから、それからの収入と両方で子育てしました。パパには一銭ももらってない。

私の家は大丈夫だったんです。半壊だけで。今も住んでいる北青木第二住宅です。

仮設に住んでいたこともちょっとあった。

本 六甲アイランドの仮設住宅に入居してました。震災後、父と暮らしている時期があったんです。その時ほんの少しだけ入居しました。

保 1年も行ってないかな。だけどあんな怖い思いしとるのに、覚えていないというのが不思議やね。

本 地震が起きた時のことは、覚えています。

それから地震が怖いという思いは、めちゃくちゃ今でもあります。暗がりや怖いとか、そういうのは小さい頃でもほとんどないですけど、やっぱり揺れは、ちょっと揺れてもウツとなりますね。ちょっとした電車とかの揺れでもびっくりすることがあります。そんなことがあると、「やっぱり覚えているのかな」というのは感じます。揺れ以外はないですね。

保 災害への対応としては、やっぱりお互い協力して手助けすることですわね。人間関係いうんですかね。

それから、こころのケア、それが一番大事だと思います。何がなくてもこころのケアが土台でしっかりしていたら、これから生きて頑張ろうという気持ちになるんです。私がそうでした。たくましく、こう落ちかけていてもグッと上がってくるんです。こころのケアでいろんなお話し合いしたり、近所の方としたりお互いにお話のやりとりを聞いていたらかなり違います。

その次は、家族関係ね。親子やったら親子関係。一番大事なのは、家の中の雰囲気ですね。親子関係、私はあほみたいなことばかりして育てたんです、挫折せんように。たまによその家の普通の家庭の子とどこかへ連れて行ったりしてました。この子が外に出て、学校でもお話ができるようにするためには、自分がどこでも連れていけないといけない。まずそういう思い出を作ったり、人間関係ね、まず家族の人間関係、外の近所の人間関係。外の近所の人間関係が悪かったら、やっぱりこの子も感じとして、家の子供も分かると思います。だからうちも人がよく出入りするんです。近所の人が来たり、お友達が来たり。

私自身が大体暗いのが嫌いなんです。それで、けんかしても、1時間も経たないうちに、私の方がお茶持って行ったり、「これ食べる？」と言って持って行ったり。そうすれば、この子も機嫌直っているし。どっちも落ちていってたら、雰囲気が暗くなるでしょう。だから私、家の雰囲気も外の雰囲気も暗いのが嫌いなんです。友達同士でもけんかしたら、何か気になるでしょう。どこかで残っているでしょう、「あの人とけんかしたけど、顔を合わせたら嫌やな」と。だから「おはようございます、どないしてんのん」と自分から言うんです。向こうがどう考えていても、その一言でスツとするからね。

だからこの子でも、ブスツとしてても、お話しして何か持って行ったら、会話できるもんね。

本 祖母が言ったように、その人間関係もそう

ですし、やっぱり金銭面とかで親もちゃんという人たちと同じように、高校へ行って勉強したかったら高校へ行けたり、その上で大学で勉強したかったら大学に行けるような奨学金とか、親を亡くしてしまった人たちに勉強できる機会をもらうことが僕は必要だと思います。僕は今、大学の1回生ですけど、大学への進学は最初から考えていました。

保 こちらも「勉強嫌やったら働いたらええ」と言ったら、余計上の学校に行くようになって。本当は行ってほしかったんですけどね。うちは反対ばかり言うんです。中学校の時に、「高校もやめて、学校には行かずに働いたらええねん」と言ってましたから。

だから父親からも私からも何も支援しなくても、勝手に行ってくれたから、朝早く6時ごろ起きてご飯をちゃんと食べさせて、朝、昼、晩ご飯だけ作っただけですね。「お金もあげる」と言っても受け取らないし。

「何の就職するのん」と聞いたら、「まだ分からへん」と言ってます。教師の免許をまず取るということで、今そんな部門に入っているみたい。

本 一応教員、教職課程を取っているんですけど、やりたいことが決まっていなくて、いろいろ一杯やりたいことがあって、「どれにしようかな」と本当に好きなやつを選んでみたいと思っているからです。ガツリ地震の勉強しようとか、そんなこと思っていないんですけど、やっぱり震災を経験してるんで、他の人と関わったりしたりする職業につけたりしたらいいと思っています。一応外国語大学に入って、レインボーハウスからも海外の被災地に行かせてもらったんで、外国に対する思いもできたので、何か外国語を使って人と関わるようなことをしたい。

小学校の時に、あしなが育英会で阪神・淡路大震災の遺児をシアトルマリナーズに連れて行って、イチローとか佐々木と会うという企画があって、震災遺児が何人か行って、その中で抽選で選ばれた子だけ会いに行けたんです。僕は会えなかったんですけど。

外国には小学生の時から興味がありました。中国とかハイチとか行きましたが、第二外国語は中国語です。

保 来年行く言ってたね。中国留学か。

本 まだ決めてないです。

今では、交流をするのもスムーズに溶け込める状況です。

(今後の地震対応)

保 地震に対する備えとしては、家具が倒れてもいように、何も置いてない部屋を一つ作っています。地震の経験からそんな気がして、三つ部屋があるんですが、地震が来て倒れても大丈夫なように、タンスはタンスばかり向こうの部屋に固めて、一つの部屋は空っぽにしてるんです。荷物を置くこと自体が怖くなって、阪神・淡路大震災の後からそうしてるんです。寝ている時に、「これやったら落ちてきても死ぬことはないやろう」と思う物はちょっとこっちの辺に置いてますけど。私が一人こっちへ寝て、子供とおじいちゃんはそのちで寝ているから、2人の部屋には何にもないんです。私の部屋は、人形ケースと本箱ぐらい。「あんなんで死ぬことないから」と思って。だからちょっと距離は離して、引いていますけどね。そんなんやっぱり考えます。それで、ここにおいて地震が来たらどこに逃げようとか、考えますね。

震災の時、こっちの壁とこっちと、ちょうど両方に家具を置いて、その間に布団をひいてたんです。地震が来て、「ほんま揺れとうわ」と思って起きて、両方にタンスがあったから、「これ何の下敷きになんねやろ」と思って、端にいたらあかんから、真ん中にいました。大分揺れたよ。地震がやんでから表へ出ても、上が崩れてきたら怖いと思って、じっとしていた。ベランダに出て、そこで死んでた人もいたんです。逃げたつもりがベランダの壁が倒れて、こっちへ来て下敷きになってね。どこにいたら助かるということが分からないもんね。よく考えたら「トイレは大丈夫や」と言うけど、トイレはトイレで狭いから怖いでしょう。この前でも地震が来たと言うから、「地震のことも考えとかなあかん」と思ってます。「持ち物は着の身着のまま、取れたら取りに帰ったらええし」と思って、そんなものは用意してないんです。

だからこの子とおじいちゃんが寝てる部屋には、何も置きません。倒れても当たるような物は、「この距離やったら置いてもええな」と思って、ちょっと低いのは置いてるけど、この子のパソコンとか、これぐらいやからね。それでちょっと離しているからね。

私の部屋は人形ケースぐらいだから、そんなんでは死なないだろうと思う。それはよく最初から考えていましたね。起きている時なら地震が来たらどこでも逃げられるけどね、寝てる時は分からないからね。

本 今もレインボーハウスでいろいろと活動し、これからも続けたいと考えている。

(レインボーハウスでの活動)

本 また明日も他の人の前でお話をする機会とかあるんです。震災で体験したこととか、その後支援してもらったこととかを他の人にも伝えて、ちょっとでも何か考えてもらえたらな、と思います。

保 子供が経験を発信しようとするのは、精神的に苦勞しているからではないかと思いません。親が目の前で亡くなっているし。だから地震来たり、ハイチの子が親亡くしたいいうことが、自分の気持ちの中で分かるんじゃないでしょうか。年齢は違うけど自分も同じような立場だったからね。ハイチに行った時にもそのようなことを感じたんだと思います。

本 中国の四川に行ったのも、被災した遺児の子たちといろいろ交流したいと考えたからです。

保 新聞で見たらボールを持って遊んでました。

本 年齢が低い子たちとは、遊びを通して交流してきた。遊んであげる対象は、年下が多いです。

保 病気遺児とか、交通遺児で小さい子、3歳とか、5歳とか、小学校の子ですね。その子らにとっても、同じ境遇のお兄さんがいたら心強い。この子も体験しているから、やっぱり気持ちが分かるだろうし。

本 同じような年の19歳、20歳ぐらいの子たちも結構います。

保 遺児の子供たちはたくさん集まってきますよ。

本 奨学金をもらっている子供たちとか一杯いるんです。

保 クリスマス会とかおもちゃの時なんかの大きい行事の時は、若いお母さんもたくさん来てる。3歳、4歳の子供の親が亡くなって、片親になった、そんな子の守りとかで遊んでいますね。

この前の震災遺児の忍ぶ会は1月の15日だったんです。今度は参加者が少なかったけど、いつもはすごいんです。

本 忍び話し合う会とって、よくレインボーハウスでやっているんですけど、みんな震災遺児も大きくなったので、いつもに比べたら参加者は全然少なくて、参列者はもちろん多いんですけど、震災遺児が余り来ない。自分の仕事もあるだろうし。

保 一緒に来ているいろんな関係の人が200人ぐらいね。いろんなお世話する方とか。新聞社の人も来てるしね。いろんな方が一杯来ています。そんな人らを入れても200人ほどで、今度震災遺児の子はちょっと少なかったみたい。大分前、11年かな、天皇皇后さんがレインボーハウスに見えた時に、この子と私も写真撮ってもらったんです。この子もこんな小さい時、1週間前に分かって、「ちょっと代表で出てくれる」と電話がかかってきたんです。皇后さんとうこうしておしゃべりして、「もう死んでもええわ、思い残すことないわ」と思いました。やっぱりきれいわ。この子と名前呼ばれて足震えたわ。まだ額に写真を飾るとるけどね。1週間前から分かっているから、もうお話どのようにするかなと思ってね。自分で考えないかんでしょう。でもね、聞かれても分からないんです、あがってしまっ、ポーッとしてるから。

本 レインボーハウスで、僕がまだ小学生とか幼稚園ぐらいの時に、自分がまだ遊んでもらう側での思い出っていうのは、震災遺児のお兄ちゃん、お姉ちゃんもそうですし、その頃は病気遺児の奨学金をもらっているお兄ちゃん、お姉ちゃん、病気遺児、自殺、交通事故というお兄ちゃん、お姉ちゃんが面倒を見てくれたんです。やっぱり、今から考えたら、小さい子供、僕らみたいなのを相手するのはしんどいやろうと思うんです。僕もやってしんどかったの。僕、毎日のようにレインボーハウスに行って、構ってもらってました。やっぱり悲しくなかったのも、母を亡くしたのがまだ小さい頃で、そんなに感覚がないというのもあったんですけど、レインボーハウスがあって、悲しむ暇もないような、そのぐらい楽しかったからだと思います。

保 この子の場合にはよくかわいがってもらったからね。いまだに小さい子にBと呼ばれているんですよ。職員さんとか、学生さんが何人かレインボーの寮に住んでいたんですけど、小さい時は、いつも抱っこされて、よくかわいがってもらいました。今度は自分がしないといけない立場になってきているからね。よく面倒見ているみたいだね。「今度は自分が恩返しみたいに、ちゃんとしたげなあかんよ」と言ってるんです。

本 小さい頃、いろいろよくしてもらって楽しかったから今も行っている。

(相談窓口の活用)

保 行政の相談窓口は、知っていました。わかば基金の案内は神戸市から来たんです。

申請用紙と神戸市の奨学金のこと。その時に申し込んで、「言うてくれはって助かったな」と思って感謝の気持ちでした。

(今現在困っていること)

保 現在困っていることとか、不便に感じることもとか、心配なことは、別にないんです。私が去年、65歳でちょっと体を悪くしたんです。乳がんになって。おかげさんで初期やってね。「この子が大学4年生になるまで生きとかないかな」と思って、頑張っている途中です。この子がもう大きくなってたら別に心配ないけども、まだ大学1年生だから、「卒業するまでは元気でおったげないかな」と思って、乳がん発症して1年やけど今病院通いしているんです。「まだあと10年ぐらいは生きとったげなあかな」と思ってるんです。

今の心配と言ったら、それぐらいですね。それでお金の要らん大学に入ってくれたからね。

私学だったらどうしようと思ってたんです。400万も500万も借りないといけないでしょ。今なら1年で54万ぐらいですもんね。半期で26万ぐらいだからね。「やれやれや」と思って安心してます。

本 困っていることは、今現在は特にないですね。

学校が公立なんで、収入が低かったら授業料の減免があるんですけど、それが通って、それで今、授業料払っていない状態なんです。公立の大学なんで、そういうのがあって今、安心しているんです。

保 また奨学金の試験があるの。

本 試験というか、査定みたいなのがあって、前期、後期、前期の査定が終わったら、また後期もやらないかん。一回一回やらないかん。

それをクリアしたら、また減免とかが可能となる。

保 友達も割りにいい子ばかりでね。この子が一番頼りないぐらい。

県からも市からもいろいろしていただいて、よかったと思っています。

プロフィール

| 本人-11 | | |
|-------|----------------|---|
| 項 目 | 内 容 | |
| 訪 問 | 面接日 | 平成23年2月13日(日) |
| | 面接対応者 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 本人 ○ 保護者(11)(祖母母方)と一緒にヒアリングを受ける。 ○ インタビュアー ○ インタビュー補助者 |
| 基本属性 | 性 別 | 女性 |
| | 年齢(調査時) | 16歳 |
| | 保護者との関係 | 孫 |
| 被災状況 | 被災場所 | 神戸市兵庫区水木通 |
| | 家屋被害 | 全壊 |
| | 家族の状況 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 2階建ての文化住宅で被災。 ○ 両親と3人家族であったが、母親は家屋の下敷きになり即死。 ○ 父親は、足腰など骨折し6ヶ月入院。 ○ 遺児(生後4ヶ月)は、父親に抱かれて無傷。 ○ 母方の祖母に引取られ神戸市中央区で11年居住、そこで育てられる。 |
| 主な発言 | 進学・就労の状況など | <ul style="list-style-type: none"> ○ 美術系の高校に進学した。 ○ 学校生活としての悩みはあるが、震災遺児となったことで困ったことはない。 |
| | 震災遺児への支援で必要なこと | <ul style="list-style-type: none"> ○ レインボーハウスに行くことに当初抵抗があったが、小学1年生から通うようになった。 ○ 勉強については、保護者が分からないことを兄姉のように教えてもらったりして大変お世話になった。 |

プロフィール

| 保護者-11 | | |
|--------|------------------|---|
| 項 目 | 内 容 | |
| 訪 問 | 面接日 | 平成23年2月13日(日) |
| | 面接対応者 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 保護者:祖母(母方) ○ 本人(11)と一緒にヒアリングを受ける。 ○ インタビュアー ○ インタビュアー補助者 |
| 基本属性 | 性 別 | 女性 |
| | 年齢(調査時) | 62歳 |
| | 本人との関係 | 祖母(母方) |
| 被災状況 | 被災場所 | 神戸市兵庫区水木通 |
| | 家屋被害 | 全壊 |
| | 家族の状況 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 2階建ての文化住宅で被災。 ○ 両親と3人家族であったが、母親は家屋の下敷きになり即死。 ○ 父親は、足腰など骨折し6ヶ月入院。 ○ 遺児は、父親に抱かれて無傷。 |
| 主な発言 | 遺児の養育など | <ul style="list-style-type: none"> ○ 突然、乳児を養育することになり、震災直後の乳児の産着、おむつ、ほ乳瓶、ミルク、風呂など大変苦労した。 ○ 震災時、遺児は生後4か月で母親の死亡を知らないまま成長した。 ○ 母親のことは、あしなが育英会と相談し、小学3年生の時に告げたが、全く動揺する様子が見受けられなかった。 |
| | 震災遺児への支援で必要なことなど | <ul style="list-style-type: none"> ○ あしなが育英会が、ローラー作戦で遺児の把握調査にやってきて、それ以降、大変世話になっている。 ○ 県教育委員会の遺児育英資金には大変助かっている。 |

震災遺児等 インタビュー ⑪

日時:平成23年2月13日

(本:本人、保:保護者)

(震災当時の様子)

保 私は震災時は中央区におりまして、ここには、11年前に越して来ました。遺児の家族は兵庫区の水木通に住んでいました。

中央区は郵便局の社宅でしたので割と大丈夫でした。神戸市道原田線より上(北側)は大丈夫でした。そこから下(南側)は、つぶれました。火事とかも起きてました。

兵庫区の水木通の方は全部つぶれてましたね。遺児の家は水木小学校の近くなんです。大開駅の天井が落ちて、地下がつぶれた所で、よっぽど被害がひどかったですね。

行って見て、もうびっくりしました。まだ上沢の北の方は火事が燃えてましたんでね。全部まだ燃えてなかっただけよかったですかなと思いましたがね。兵庫区の家は2階建ての文化住宅で、1階におりましたんで、1階がつぶれて母親が亡くなったんです。

遺児は、父親がお腹の下に入れてかばったと言っていましたね。まだ4カ月でしたのでね。その代わりお父さんが腰と足をケガして、6カ月ぐらい入院してたと思います。

子供を引き取った時には、ちょっと事情があって娘とは行き来してなかったんで、赤ちゃんの用意がうちに何もなかったんです。それが一番頭に残ってます。服も、ミルクも、オムツも何もない。でも近所の人が助けてくださってね。いろいろ服とかいただいたんです。ミルクはA病院がすぐ下にあったんで、小っちゃいミルクをいただいて、それでしばらくしのぎました。お店に行っても、開いたけど人数制限で、もうほとんど何もないような状態でしたんで、ミルクとか買えなかったです。だから近所の人、オムツとか救援物資をもらってきてくれて、それですごく助かりました。まだ娘の遺体を出してもらってなかったんで、私は動けないので、近所の人に頼んで、服とかいただいたきました。助かりました、ほんとに。郵便局の社宅の中に、子供さんが小っちゃかった家族がたくさんいらっちゃったんで、全部お古いただいて、女の子だけど男の子の服を着せたりして、それで助かりました。それから徐々に救援物資が来るようになったんで、近所の人、来るたびにオムツ持ってきてくれたり、ミルクくれたりとかで助かりました。

遺体を火葬するまで2日間かかったんで、しばらく動けなかったんです。その間どうしてたのが覚えてないんですが、私の母も近くにいたので、ずっと遺児を見てもらってて、その間ずっと私はこの子供(娘)の方に付き添ったりとかしてたんで、その

間のことは、どうしていたのか分からないんです。

もう無我夢中で大変でした。1年以上、しばらくは落ちつくどころじゃなかったです。

遺児に母親が亡くなったことを周りから聞かされたら嫌なので、いつごろ打ち明けるのがいいか、いろいろなカウンセリングを受けました。

あしなが育英会に行っていましたから、その方も「そろそろ言うたらいいん違うんか」とか、そこに来てらっしゃる方にも、「はよ言いや」とか「早い方がええで」とか言われてました。電話でカウンセラー受けたこともあります。小学校低学年の間に言おうかなと考えてました。大きくなってから言っ、ショックを受けたらかわいそうかなと思って、3年生の時に言いました。

割とあっさりした子だったんで、大丈夫かなとは思ってました。いや、言う方はドキドキしてましたよ。どうしようかと思っただけど、本人は大丈夫だったかな。

(遺児途中から参加)

(子育ての思い出)

保 今から振り返って見ると、あつという間でしょう。途中で困ったなって思ったことはなかったですね。ただ、ちょっと勉強ができないのは困ったけど。勉強を一緒に見たことは、ないんじゃないかな。

本 まず分からないんですよ。

保 昔と教え方が違うでしょ。私らの子供の時とやっぱり時代が違うから、勉強を見ることもできなかったです。

本 そこはあしなが育英会にちょっと行ったりして、そこの人達やその他の人達に教えてもらったりしてました。

育英会は、そんなに遠くないです。バスに乗って六甲道駅へ行って六甲道から甲南山手へ、甲南山手から徒歩で5分~10分ぐらい。

保 当時は小さかったんで、レインボーハウスから迎えに来てもらったんです。小さい子は車でパーッと集めながら行ってましたね。

本 でもそれも小学校3、4年ぐらいまでです。

保 そこでお勉強とかも教えてもらいながらやってきました。育英会の方たちがすごい心の支えになりました。

本 行ってよかったです。

保 まあ、レインボーハウスには同じような子
たちがたくさんいるんで、お兄ちゃん、お
姉ちゃん、大学生なんか、結構優しい子が
多かったですね。その点は助かりました。
いろいろ相談できたし。育英会に行ったら
みんなで最後にお父さん、お母さんの話を
するそうなんですよ。

本 もう覚えてないけど。

保 この子はそういうこと全然分からずに行っ
てたんで、いつもボーッとしてる感じだっ
たんですよ。そんなのがしばらく続いて、
「そろそろどうですか」っていう話はあっ
たんです。その話をしに私も行って、相談
にのっていただいたことはあったんです。
父兄参観日で小学校に行った時に、他の子
供から「あの人おばあちゃん？」って言わ
れたことがあったんですよ。「いや、これ
いかんわ」と思った。もうちょっと若づく
りしないとね。だから嫌でしたね、参観日
は。幼稚園の行事、あれも嫌やったなもう。

(困ったこと、うれしかったこと)

保 遺児に対して特に何か今までで、困ったこ
とは、特にないですね。苦労は、してたか
なあ。あったでしょうね。

本 苦労したのは、勉強ですよ。進路は、まだ
ちょっと分かんないです。育英会から外国
行ったりしてる人もあるって言うんですが、
私は無理ですよ。

保 未だに行っていないですね。

本 でも大学生になって、留学とか、うちの友
達も今年からウガンダへ行くんで。

(レインボーハウスでの思い出)

保 あそこにもレインボーハウスができたんで、
そこへ行くのかな。
レインボーハウスから春や夏休みなんかにス
キーとか、あっちこっち連れて行っていた
でなくて、私は行けない分助かってます。

本 スキーは滑れますね、一応。

保 いろんな体験をさせてもらって、そんなに
寂しい思いっていうのはなかったです。

本 メンバーともしっかりと仲よくやっています。

保 メンバーの家を自分の家みたいやと言っ
てます。

本 よく行くもん。きのうも行ったし。
最初は震災の関係の子供だけだったのが、

今は事故や病気でお母さんお父さんを亡く
した子供とか、病気とかでの遺児もいます。
その中には、小さな子も来てます。増えす
ぎてもう、誰が誰だか分からん。今度は見
てあげる方になる。妹や弟がいるみたいな
感じで、上はお兄ちゃん、お姉ちゃんもい
るし。

保 もう震災による遺児で一番下なのはこの子
らですからね、後はみんなそれ以上ですし。

本 もうほとんど小さい子しかいないんですよ。

保 上の方は、結婚したりしてるし、結婚した
人でも来たりしてますよ。

本 子供連れて来てるんです。

保 憩いの家のような感じです。

本 すごい小さい子から来てますが、一杯小
学生がいます。

保 近くにあつてすごい助かってます。一番最
初は、あしなが育英会から大学生の人が震
災児を1軒1軒訪ねて歩いて、聞き取り調
査みたいなのをされてたんです。私は電話
するようなことを知らなかったんで、その
人たちから聞いて行くようになったのかな。
あれは、中央区に住んでいた時だから、こ
の子が生まれて1年か2年ぐらいの時かな。
あの時に全国のあしなが育英会の大学生が
ローラー作戦をみんなでされた。バラバラ
であっちこっちでね。そういう人らを1軒
1軒、聞き取り調査をやりました。聞き
取り調査がなかったら行くのが遅れてたか
もしれません。あしながさんというのは聞
いてたけど、レインボーハウスができてると
いうのは知らなかったんです。

レインボーハウスに行き始めたのは、小学
1年か2年の頃だと思います。それまでは
「どんどこなんやろか」と思って、やっぱ
り抵抗があったんですよ。

本 最初は、多分迎えに来たんやろ。だって
「知らんおじさんに連れて行かれる」と思っ
て行った気がする。

保 初めてだったからね、どんどこかって不
安だったんかな。どういふとこか、何をして
るか分からないし。行くのは土曜日とか日曜
だけ。平日は行ってないです。

本 そこへ行ったらおもしろいから、楽しい
から行くっていう感じです。

保 行くとなかなか帰ってこなかったです。

本 7時ぐらいまでいたんじゃないかと思
います。多分お昼を食べて1時頃ぐら
いから行ったかな。覚えてないけど。

保 向こうには食べるものが何かあるね。

本 食堂があるもん。食事を作ったりする
ところもありますね。今の伊藤所長さん
とは、きのう会って来ました。

保 あそこは塾生さんがいらっしゃる
んで、ご飯はいつも何か用意してく
れるね。

本 その寮の卒育式がきのうあったん
です。50人以上いるんじゃないです
か。ウガンダとか海外の留学生の人
たちもいるんです。外国の人とも接
して普通に話せる、日本語も分か
る人なんです。たまに分からない人
もいるけど。

保 だからいろんな所に行って、友人
とかあんなに多いですね。そういう
面は恵まれててよかったです。私
が分からないんですよ、誰が誰か
ってというのが全然。

本 同年代が少ないんだよね。今は
圧倒的年下ですけど、小学生、中
学生、高校生、もう大学生になっ
てるんで、多分あまり上もない
と思いますね。あまり来なくなっ
てる人もいます。

保 育てていく上では、もうある
ものでやってたんで、「こんなのが
あったらよかった」というのは
あんまりないです。やっぱり困
ったのは、地震当日(1月17日)
です。お乳でしたでしょう。哺乳
瓶がなかったんですよ。その日の
晩は夜中じゅう、ずっと泣いて
ましたもんね。

お父さんとこの子は、救出されて
17日にB病院に運ばれたんです。
お父さんはそこからC病院へすぐ
搬送されて、この子だけ連れて
帰って来たんですよ。その晩は、
地震すごくて、恐かったからA
病院で夜中1日過ごしたんかな。
翌日かな家に帰ったのは、帰っ
てその日の晩かな、夜泣きして
泣きやまなくて、ずっとおんぶ
してました。B病院で小っちゃ
い哺乳瓶だけもらってたんで、
それで何か飲ましてたんだと思
うんですけど、その後しばらく
D祭典に話めてたんで、2、3
日どうしていたのか分かりませ
ん。

この子の母親の娘が、お父さん
とけんかしてたんで、それで行
き来してなかったんですけど、
なくなる前、2日前が成人式だ
ったんで、その時に家に来てお
父さんと仲直りして、やっと「
行き来できるようになるかな」
という時に地震になったんです。
その時にこの子も連れて来て
たんです。

B病院でこの子に会った時には、
毛布1枚でくるまれて来たん
ですよ。

この子自身はケガも全然何もな
しでした。病院に運ばれてケガ
がないかどうか見てくれたん
でしょうね、オムツに毛布1枚
だけにくるまれて来たんですよ。
何もなかったから本当に困
った。知り合いの小さい赤ちゃ
んがいる所に行って、服もらっ
て。病院から帰り道にもう即
行行って、服着せてもらったん
です。

自分の子供3人の子育てが終
わってたんで、また赤ちゃん育
てるのは4人目です。赤ちゃん
の食べ物とか大変でした。生
後4カ月でしたから、まだミ
ルクだけでした。ガスが復旧
するまで1か月ほどかかった
かな。ミルクのお湯はどうし
たかな。ポットはなかった。卓
上コンロがありましたけど、ど
うしてたんでしょうね。お水
は給水車が来てもらいに行き
ました。部屋は4階でしたんで、
重たいのを持って上がりました。
お風呂は、E産婦人科さんが
赤ちゃんを入れてくれるとい
うことを聞いて、おんぶして
入れてもらいに行きました。春
日野道の北にあるんですけど、
毎日行きました。ちょうど近
所の人がコートか何か服を
くれて、当時、私は46歳
でした。

この子はもう最初から私が母
親代わりだったんで、違和感
はなかったようです。本人は
親を知らないし、私は当然の
こととして育ててきました
のでね。この子が私を呼ぶ
のは、最初「お母さん」です
よ。本当の事を言っただけ
からは「別にかまわないよ」
と申したんですけど、そのま
まになってます。(本当の母
親の)写真をよく「お姉
ちゃん」と呼んでました。私
は仕事をしてましたんで、お
ばあちゃんに3歳ぐらいまで
見てもらってました。

本 でも一緒に住んでたよな。ここ
に来ても住んでたよな。

保 そうそう。助かりました、ほん
とに。おばあちゃんがいるから
余計におばあちゃんでお母
さんでっていうのが、自然な
形で入っていたんやろね。

本 寂しいとか思ったことは、余
りないです。

保 家族として全部そろって
ますからね、おばあちゃんも
いてお父さんもお母さんも
いて、お姉ちゃんもしばらく
ここにいましたんで、ここ
に来てから出ていったんで、
今は3人になりましたけど、
結構大家族で、ここに6人
おりましたよ。3人になったら
寂しいですね。お姉ちゃん
というのとは亡くなった娘
の妹です。亡くなった娘は
長女です。長女と次女と上
に長男がいるんです。妹は
当時中学3年生かな。遊び
友達のような感

じにはなれないかな。

本 犬飼ったのは、ここ来てからやね。

保 9歳半やから、9年前。おった方がいいかなと思って。

本 1年か2年ぐらいですね。
9歳だと元気すぎるよ。

保 犬がいると、私が癒されてます。子供言うことかかないから。この子のしつけは、私なんですけどね。全然だめですよ。

本 私は今までメチャまじめに生きてきたと思うけど。

保 自分でそらね、思うようにならへんけど。でも人に優しくしてくれる子やったらそれでいいかなというのはあります。おたくやんね。

本 おたく違うし。

保 若い子のこともちょっと知識を得ておかないと、全然あかんかな。ほんまについていけない。

本 私は今どきの子にはついていけないわ。この前友達としゃべってたら、意味分らない言葉を使いだして、何か言われても、「ああん」とかしか答えられなかった。次元が違うんですよ。多分もう言うことが分らないと思う。

保 まだこれから頑張らないと。就職難もなくなったらいいですけど、ちょっと無理。

本 なくならない。後2、3年ぐらいですよ、高3。今は何かになろうとかいうのはまだ分からない、考えていない。

(学費について)

保 主人は、50歳で退職したんです。友達の仕事を一緒にすると言っていたんですけど、それもやめてしまって。今郵便局のアルバイト、非正規社員をやっているんです。

退職は震災の影響は関係なしに個人的にしたんです。

だから大変でしたね、それから10年間ボーナスもないし。私はパートですけど一応仕事はしておかないと、しんどいのは一緒なんですわ。

郵便局の社宅に住んでましたから、それでこっちに引っ越してきたんです。

ここは岩板が強いんですよ。だからそんな

につぶれた所はなかったです。多少ゆがみはあるか分からないけど、どこもつぶれたところはなかったです。やっぱり六甲道あたりが、すごかったです。

この部屋は、何軒か探してたんですが、6人いたんで、部屋数があるので5階だけ決めました。

育英会の奨学金は助かってます。今もいただいています。くすのきをいただいているんです。

本 あと県からやろ。

保 うん。神戸新聞と、それだけです。それでも授業料高いですから助かりますもんね。

本 あしなが育英会は返さなきゃいけないんで、利用していないんです。

保 県のは返す必要がないんで、助かってます。私立に通ってまして、学費が高いんですよ。

本 高いですよ。ここからは、バス乗って電車乗って、乗りかえもして。交通費もかかる。

保 ほんと助かりました。高校はあと2年。

本 もう大丈夫かな。

(今後の進路と学校生活)

本 高校出た後は、どうだろう。

保 専門学校か。

本 専門学校は行きたくないな。

保 今勉強しているので、美術系の方かな。

本 高校で絵画を学んでいるんです。

保 美大になると、ちょっと授業料が高い。それがちょっとね、頭痛いですね。

本 絵を描くの好きで入ったけど、今ちょっと課題とかが多いんで、もうやばいです。月曜に1つ仕上げて、火曜にもう1つ仕上げて、金曜までにもう1つ。無理ですね。

保 時間があるのに、しない。

本 きのうしようと思ったけど寝てしまった。課題を持って行かなかつたら、次の日に出すのもあったり、提出が遅れると点数が下がったり。美術の一教科がものすごいやばいんです。だから大学受験とかセンター系、数学が1年生でなくなるんで勉強で受ける系は多

分無理です。そこで数Ⅰしか習ってないんで、数Ⅱは知らないみたいな感じになってしまっし。

保 それがないから入ったんと違うの。

本 ほとんどそれなんだけど。数学嫌いだから。全然やらない教科もある。理科やってないです。
専門学科なんで、まだ選択授業はないんですけど、普通科は音楽とかそういう系があるんですけど、やっぱり美術ばかりなんで、美術あわせたら副教科が3教科ぐらいしかない。

保 自分が行きたいって言ったから、行かせてるんだから頑張っつて。

本 いや最初F高校に行こうと思ったけど、あそこはチャライから。

保 あと2年やから。

本 2年生でコースの選択をするんで、もっと専門的になってきて課題も増えるから。だから文化祭前が本当に徹夜で。文化祭で大きい絵とか展示をするんです。

保 3年生はすごいです。
見に行く方としては楽しいんです。1年生は全然分からなかったけど。

本 3年生になってくるとやっぱり表現したいこともすごい出てるんで。

保 3年生の絵がすごい楽しみです。どんなの描くんかな。

本 体育祭は体育科もいるし。

保 楽しみでございますよ。

本 すごくいい学校だね。

保 こんな絵が描けるようになったらなと、楽しみにしてます。
中学校からずっとお弁当作っています。

本 食堂もあるんですけどね。

保 食堂もあるけど、弁当は作ってます。
いいかげんお弁当ばかりは嫌やけど。
中学もほとんどお弁当でしたね。

本 中学は学食とかなかったんで。

保 神戸は給食がないもんね。

本 西宮とかなら給食があるけどね。

保 いいですよ、給食。うらやましい。毎日同じものばかり作ると嫌になる。

本 朝は7時40分ぐらいに家を出ます。
ギリギリに着くんで、学校に着いたら8時半ですね。そこからは靴箱に行って、教室に行ったらもう40分です。45分にチャイムがなるんです。

(支援制度に対する希望)

保 赤ちゃんをどうするというは、あまり考えていなかったのではないかと思います。
沐浴を病院がしてくれたのは、助かりましたね。親とのいさかいのない、娘と行き来してる親だったら服とかオムツとか用意してたでしょうけど、うちは本当に何もなかったんで、それだけは本当思いましたね。
近所から分けてもらうにしても気が引けます。いざという時のための非常用ベビー用品がどこかに置いてあるとしたら助かりますね。
民間の救援物資からたくさんいただきました。近所の友達が行ってミルクとオムツ、あれはほんと助かりましたね。

本 多いもんね、創価学会の人。

保 全国からの救援物資には、服も全部ありました。
あれは助かりました。震災の当日、娘がまだ埋まってるっていうのに自衛隊が来たのがすごく遅かったんですよ。「もっと早く来てくれてたらたくさんの方が助かったん違うのかな」というのは思います。うちの場合は即死でしたんで、無理ですけどね。私が行った時はまだ埋まってる人がいたんですよ、助けてる人が。自分は手伝うことができなくて、近所の人、周りの人が一生懸命助けてたけど、あれ見て「救援に来てくれるのがやっぱり遅かったな、もっと早く来てくれてたらな」っていうのは感じましたね、あの時。19日に娘の遺体を出してもらって、21日に帰ってきたんですよ。それから斎場に行くのが23日。それまでずっと娘は祭典で預かっていたいました。県外なら早く茶毘にふせるって言われたんですけど、ただヘリコプターで運ぶ必要があったので。

本 ヘリコプター。

保 それは嫌だということで、ずっと順番待ってたんです。それは仕方がないもんね、あんまり多かったんで。兵庫区はどれぐらいやったんかな、分からないけど。困ったってそれぐらいでしょうかね、あと赤ちゃんのこと。

ケガされた方のことを聞いてたら気の毒だなと思うんですけど。

(救出時の様子)

保 赤ちゃんは最初はもう血だらけだったんですよ。顔中血だらけでね、「いやあの子ケガしてるわ」と思ったら、お父さんの血が付いてたのかなと思うんやけどね、ケガはしてなくて、C病院で見てもらったら大丈夫でした。一番最初にテレビでパッとこの子が出たんです。そしたら血だらけで、「この子ケガしてるわ」と思ってたんやけどけがはしてなかった。

本 そりゃ焦るわ。

保 お父さん大きい人やったから、かばってくれたんでしょうね。

本 そうなんや。

保 お母さん先起きてご飯の用意をしてたって言うてたから。そこに一緒にお父さんの方の弟もいたんですが、その子も亡くなりました。

本 Gだっけ。

保 うん。娘は、梁が落ちてきて下敷きになった。2階の人がこの子の泣き声で助けてくれた。今までずっとその声で助けてもらってたというふうに聞いてたんだけど、助けてくれた人がどなたかは分からないんです。赤ちゃんとお父さんは一緒に病院に運んだというふうには聞いて探しに行ったりしてたんですけど。

泣いてたのがよかった。B病院も電気が切れて真っ暗だったんで、探しても分からなくて。主人と一緒に行ってたんですけど、「私もう1回見てくる」と言ってたらこの子が泣いたんですよ。でその声の所に行ったらいいました。泣き声で分かったんです。ギャーギャー泣いてた。お腹すいてたんやろ。B病院なら産婦人科があるのにミルクぐらいくれたらいいのにね。小っちゃい哺乳瓶にコーヒー牛乳を入れて飲まされていました。

本 何でコーヒー牛乳だったらあるの、コーヒー牛乳あるんだったら牛乳もあるやろ。

保 あるっていうかミルクあるやん、産婦人科あるのに。

本 コーヒー牛乳って。

保 とりあえず何か飲ませましよう。生後4ヶ月でそんな飲んで大丈夫だったかな、あそこ産婦人科あったのにと今から思

うと不思議です。でも上(5階部分)がつぶれてたからね。ミルクがないなんてぜいたく言ったらいかんな。でも病院まで連れて行ってもらってよかった。道路事情も悪かったのに。とりあえずお父さんと子供はくっつけとこうというんで、「一緒に運んだ」って近所の人が出てきて。だからよく分かった。今思ったら助かりました。だから「亡くなった娘が何か私に預けたかな」というふうに思います。あれで火事になってたらもったいないですよ。北の方が火事だったから。ちょうどその辺は火事はなくて、家がつぶれただけだったんで助かりました。

本 うんそりゃそうやろ。

保 長田の方とか。ほんとうに助かったかな。うん。でもこんな話は他ではできないでしょ。だからあしなが育英会なんかあった時とか、そういう時でないとなりの人とかに話できないんですよ。

(震災についての話)

保 震災当日のことをこの子に話すことはないです。

本 ないね。取材の時とかに知ることが多いと思う。多分詳しく知ったのが中3、読売新聞の取材でその時に、話を始めて聞いてオーとびっくりしたんです。

保 日頃言っていないですね。

本 その次の神戸新聞でも、オーと驚きました。

保 言えない、言わないですね。聞かれたら言いますけどね。聞かなかつたら言わないですね。

本 うん。

保 聞かないし、まだ生後4カ月だったから、記憶がないんです。

本 記憶はないですね。

保 何にもないもんね。だからいろいろ、あしなが育英会でも、1年に1回のつどいの日なんかでも、「何か書いてくれ」と言われるんだけど、何書いていい分からないし、覚えてない。だからいつも断ってました。

本 あっ、はいはい。あの時か。

保 うん。

本 しのび話し合う会か。

保 うん。言われるけどね、何を書いていいか。

本 他の子書いているのにな。

保 分からないと言って。

本 1個上の震災遺児は書いてるんですよ。
「ああ、こういうもんや」と思っても書かない。

保 ただ聞いただけの話だから。書けて言ってもなかなか書けない。私にしたら悲しい場面が出てくるから、しゃべりたくなかったね、まだ言っていないこともたくさんあると思う。

本 もう分からん。

保 向かいあつてはそういう話はしないです。
この子を育てながら、涙したことはありました。この子がいない時。誰もいない時。お父さんはお父さんで隠れて泣いてるし。別々に分かれて泣いていた。主人とは話しませんよ、震災の話はしないです。

本 多分したくないでしょうね。

保 16年たっても悲しい思いは、あると思います。お墓に行ったらやっぱり泣いてるな。

本 もう分からないんです、見ようと思っても。

保 やっぱりね、何か違うな。特に1年か2年ぐらいの間音信不通やったでしょ、だから余計あると思うんですよそれが。やっとこれからと思った時に、でも成人式のことになかったらもっと悲しかったかもしれない。「お姉ちゃん16日の日は一日中すごい喜んでた」って言うてましたね。よかったのかな。うれしかったんやろね。けんかと言っても親子だから、顔を合わしたらすぐわだかまりがなくなってしまう。そんなに話し合いはしなかったですけどね。この子も今年17歳だから、後3年ちょっとぐらいで亡くなった娘と同じ年になる。中学生頃が一番似てましたね、お母さんによく似てるんです。することなすこと似てるんです。

本 ちょっと似てないよ。

保 そう、どこが。

本 分からへん。逆にお姉ちゃん（母親の妹）の方が似てるんじゃないの。

保 うん、似てたよ。小っちゃい時ね。

本 そうでしょう。

保 うん、娘同士はよく似てたんで。
この子はやっぱりないです。若いのがな。

本 私は家出しないもん。

保 全然もう記憶もないもんね。長女とはまたちょっとタイプが違うかな。

本 性格似てないでしょ。

保 似てない。

本 そうでしょう。むしろ逆でしょ。

保 うん。

プロフィール

| 保護者-12 | | | |
|--------|------------------|---|-----|
| 項目 | | 内容 | |
| 訪問 | 面接日 | 平成23年2月18日(金) | |
| | 面接対応者 | <input type="radio"/> 保護者:男、女…母方の兄夫婦 <input type="radio"/> インタビュアー <input type="radio"/> インタビュアー補助者 | |
| 基本属性 | 性別 | 男性 | 女性 |
| | 年齢(調査時) | 62歳 | 60歳 |
| | 本人との関係 | 伯父 | 伯母 |
| 被災状況 | 被災場所 | 神戸市東灘区 | |
| | 家屋被害 | 全壊 | |
| | 家族の状況 | <input type="radio"/> アパートが崩れ落ち、両親、末弟(三男)、父方の祖母が全壊した建物の下敷きになり、死亡 <input type="radio"/> 長男(中学1年生)、二男(小学5年生)は軽いケガ | |
| 主な発言 | 遺児の養育など | <input type="radio"/> 両親、末弟、祖母が亡くなり、母方の兄の家に引き取られる。 <input type="radio"/> 震災後すぐに豊岡の学校に転校したが、学校の先生、友人に恵まれたこともあり、子供たちは震災の影響もなく成長していった。 <input type="radio"/> 小学生だった二男は親戚の家に来たということもあってか、何事にも最初は遠慮がちで伯母は苦労した。 | |
| | 震災遺児への支援で必要なことなど | <input type="radio"/> 各種申請等の手続きにかなり時間がかかった。手続きは必要と思うが、災害時の場合、もう少し迅速にできないかと思う。 <input type="radio"/> 銀行に関しても、名義人(両親)が亡くなっている場合、子供のために手続きを簡素化できないか。 <input type="radio"/> あしながの行事等いろいろ誘いはあったが、豊岡から神戸までというのは少し遠いため参加できなかった。災害で遠方に行った者のために、その地区で遺児たちが交流できる場が設けられるとよい。 <input type="radio"/> 義援金、支援金、以外で、有志からの物資等の支援は大変ありがたかった。 | |

日時:平成23年2月18日

(保(男):保護者(男性)、保(女):保護者(女性))

(震災直後の状況)

保(男) 私は、あの当時単身赴任でNTTに勤務しておりましたね、地震の時間帯は、高砂の社宅で、朝方だったんで会社もどうなってるのかなあと、明石へ行ったんですけど。その朝は何かマイカーで駆けつけたんですけども、そんなに停滞、渋滞してる状態じゃなくて行けたんですけどね。途中、がれきとかは目の当たりにするような状況でして会社へ行ったら、ガスの警報が鳴ってたり、職場もぐちゃぐちゃで、テレビは棚から落ちてるし、机はひっくり返ってるし、明石のあたりでも結構。そんなんで私の妹が神戸の東灘区岡本にいてましてね、まさか亡くなってるのは夢にも思わないし、仕事でばたばたしておって、途中電話も入れたんですけどね、全然応答もない状況で、どこかに避難してるんだろうなあというぐらいの気持ちでおったんです。

結局、何回か電話したんですけども、全然つかまらなくて。家に連絡入ったのが先でしてね。妹の主人がタクシー会社に勤めてましてね、そちらからこちらに電話が入ったのが一報でして。近所の方経由で、タクシー会社から電話あったのかな。

保(女) Aちゃんがタクシー会社に電話したって、初めにしたときには、まだ何もわからないっていうことで。3時ごろかな改めてこの人の妹になる人、城崎におられるんですけども、タクシー会社に電話したときには連絡が着いておって、4人亡くなってると思うんで、すぐ確認来るようになっていうことで、電話してくれて、それからは大慌てでねえ、みんなで用意して、家にはおばあちゃんが病気でおりまして、私は残ってほかは全部行ってもらって、主人は明石から商船大学へ行ってもらって、そこで落ち合うように連絡をして。

保(男) 明石、夕方の5時前ぐらいに出たんですけどね、山麓バイパスでずっと渋滞で、全然動かなくて、着いたのが日付変更線を超えた感じでした。真っ暗でね。電気も何もないし。商船大学まで車では行ったんですけども、仕事のほうも、災害復旧や何かで、ばたばたしてましたが、とりあえずこんな状態だからということで、商船大学へ行ったんですけど、裏道通っても、電柱は倒れたりしてるし、渋滞の中で、6時間以上かかってたどり着いたんですけどね。行ったら、たまたまみんなこっちから行った家族、親戚とかも既に着いてまして。商船大学の講堂だったかな、遺体がかなり運びこまれている状態だったですね。

保(女) 本当だったらもっと早いこと連絡が着いたんだろうけども、アパートに入っておりましたんでね、みんなつぶれちゃってるから、物すごい体格のええ人が、まさか下敷きになっておるとは思わへんしね、ほかの人は歳いった細い人が腰打ったんだ、骨が折れておるかもわからへんっていう人が次々、助け出されたり出てきたりで、この子たちの親は物すごい体格のええ人だったんです。だからまさか、ほかの人は、つぶれても何とか生きてるのに、出てこないなんて思わへんし。子供だけは助けられて、ちょうどベッドと本箱のすき間がちょっとできたかな狭いアパートでしたんでね、広がったらべっちゃんっておるかもわからへんけど無傷みたいなんで、二人は入り口のほうに寝ておったからすぐ助け出されて、あと4人はだめだったんですけど。ここが里だから、妹さんが亡くなったんだから、すぐに豊岡に連絡しないといかんけど豊岡しかわからないし、豊岡のB(苗字)しかわからないんで、電話局に連絡をかけたんですけども、わからないっていうことで。

子供たちも親ばかりが連絡していたから、番号わからへんですがね。

小学5年と中1とが残りましたんでねえ。

こっちの電話番号なんて、お母さんばかりが連絡しておったから、まさかそんなことあると思えへんから、子供じゃわからないで、連絡するのが結局は遅うなっちゃったんですけどね。17日に亡くなって、18日の午後3時ごろに、だから一日以上たってね。

(後見人の手続)

保(男) 二日目ぐらいですね。とりあえず、商船大学で検死や何かが終わって、遺体もどこかで火葬もせんなんけども、どうしようかなというところで。

たまたま、その父親の姉さんが、加古川の県営団地に住まれてたんで、加古川でお世話になろうということで、そこで葬式もあげてね。検死が終わって、遺体をキリスト教会のほうに預けさせてもらってね、子供たちだけ連れてこちらに帰ってきたんですけども。まだ中1と小学校5年生だったんで、すぐ学校の手続もせなあかんしってことでね。着の身着のままの姿で連れてきましたんで、着るもんだとか、親権の関係も出てきますんでね。それがなくてどうしようもないんで、裁判所で後見人の手続をしたんですけど。

それがまず第一かなと。だから、今後震災とか災害が起きたときに、身寄りがある場合はいいんですけども、ない場合は本当に大変かなと思いますね。

だれかが後見人に就任して、そういうことを代行してやってあげるといことは本当に大事なことかなと思っただけ。

だから、アンケートにも書いたんですけど

も、それをかなり意識しておく必要があるんじゃないかなという思いはありましたね。加古川に、父親の姉さんがおられるんですけどね、住宅事情も含めて考えると狭いでしょう、団地では。

(遺児の引き取り)

保(女) 向こうでどうするて聞いてやったんですけどね、おれ、おじちゃんそこ行くわいうことで、連れて帰ったんですけど。

保(男) しょっちゅう、親と一緒に来たりしていた関係もあって。加古川のほうが近いんだけど、二人も住むという面で大変だったと子供心もあったんでしょけども。

保(女) 走ったらしかられるしって言うのは言っていましたけど。

(但馬での学校生活)

保(男) これが、高校のときに長男が震災の体験を発表したものなんです。平成10年ぐらいに高校生フォーラム。学校の先生にも手を加えてもらったりはしてたと思うんですけどね、甲南大学だったかな、私たちが傍聴に行きました。

保(女) 今は、長男も結婚して子供も二人。家はなくなっちゃってるし、家族が二人だけになっちゃったから、自分の本当の心を話せる家族というのが絶対欲しいに決まってるから、はよ結婚すると思ったら、結局早く結婚しました。まだ次男は大阪で仕事してて、ひとりなんですけどね。

学校の受け入れは、全然大丈夫で、すぐに何の抵抗もなかったですよ。即いろんなものを買わないといけないけども、先生も呼びかけてくれてね、ほかの生徒さんに。家で使えるような物があつたらっていうので、1年生で入ったから、上の子たちの済んでる子で集めてみたり、教科書でも、それから服、体操服とか、あと名前が違うのが入ってるけどええかって言って回してもらったりしました。そういう意味では余り不自由はなかったように思っています。

保(男) 皆さんに仲ようしてもらって。

保(女) 友達なんかもね、すぐできて。その子たちの親は、みんなまだ若いから、私らとは相当、年齢差がありましたんでね。私たちの子供たちもみんな大きくなって、学校も縁がなくなっちゃった。小学校っていったら、子供会とかいろいろあるしどうしようと、私は気持ちが複雑でしたけどね。

保(男) やっぱ、甥たちのお父さんやお母さん

と私たちとは相当年齢が離れてるから。

保(女) 八つ違とったから。

保(男) そういうとこ入ると違和感はやっぱ感じますよね。

保(女) 学校で弁当箱持たしても、はし忘れてみたり、即学校に電話かけて、割りばし、使わせますって教頭先生が言ってくれたり。学校も事情はよくわかってくれて、気遣ってくれた。

保(男) 災害ということについて、まだ珍しい状態で関西のほうでね、ああいう大きな災害があったのは、今みたいにまだ景気もむちゃくちゃ悪い状態でもなかったからね、ほんまに恵まれてる時代だったかなあと、いう思いはしますね。

義援金とか、いろんな団体とか、本当に温かい、支援があったような気はしますね。ただ、あしなが育英会なんかもしょっちゅう案内もいただいたりしたんですけどね、こっちから行くのが結構困難でね、お誘いもいただいたんですけども、結果的には行けなかったというのがありますね。

(県弁論大会への出場)

保(女) スピーチは、弁論大会が高校の中で、高校生フォーラムがあって、但馬大会でね、震災だけじゃなしにその子の発表する何かがあったんでしょし、その中で最優秀の人が神戸に行くらしく、兵庫県大会に、あの子入っちゃって、今度神戸行くので練習するからと遅くまで一生懸命練習して行ったんですけど、いろんな所から物すごい上手な人がいっぱい出てきて、Gテレビとかいろいろ取材も来てたんですわ。それで太刀打ちできないし、この子のスピーチが終わったから帰る準備して結果発表を聞いてたら、最優秀賞に入っちゃって。

保(男) まさかと思うし、審査員の人も励まして選んだ分も大分あるん違うかなって思いましたけどね。そういう意味では周りの友達とか恵まれてたんかなという気がしますね。こちらは震災の影響はほとんどなかったし、震災があった地とかなり離れてますんでね。だから、復興も目の当たりにしてないし、がれきの状態を毎日見てるのではないので。

保(女) 二日ほどだもんな、こっち連れて帰っちゃったから。

(但馬での生活ぶり)

保(男) だから、そういうこともあったんかなあと。そりゃ、親と家族やみんな失った寂しさ

っていうのはあったんでしょうけども、まあこっちのまた違った環境の中でね、神戸の人とはまた違った生き方でずっと成長してきたから、そういう意味では、よかったんか悪かったんか、ちょっとわかりませんけどね。

保(女) こっち来て、よその家だから、それこそ5年の子は、こういうもんだったら食べれるって言うから、つくるんですけど、食事のたびに、ありがとうございますって言って。そんな一々言わんでもええんだって言うても、お礼を言っていました。やっぱり親戚っていう感じ思っていたのかな。ハンバーグは好きだと言うから、大きなハンバーグを作ったら、おなかこわしちゃってね、割と胃腸は弱い子だったみたいで。本当に、おなかをすかしておったら色々悩まないかんし悲しい思いをさせたくなくて、大きいのを作ってしまった。

保(男) 子ども二人がこの2階でね、この新しい家じゃなくて、古いほうのときだったんですけども、二人一部屋で。

まだ私の親も生きてた時代だったんでね、かなり大家族の中で。二人は一緒に育ってきたんでね。学校もちよいちよい悪いことをして、呼び出しくらったり。今は普通の子ですが。

保(女) 学校にも溶け込んで生活できたということです、兄貴のほうはサッカー、弟のほうはバスケットを、でも結構弟もやんちゃで、豊岡の中学校を卒業して、舞鶴の高専に行つて。上はしっかりせないかんってね、下なんかは兄ちゃんの後ろに隠れておる感じで、新聞社とかテレビとかいろいろと入ってこられたけども、ほとんど上が対応していました。

(ロータリークラブなどの支援)

保(男) ちっちゃいときから弟はそういった意味では存在感が少ない。兄の方は、どうしてもね、みんな矢面に立たなあかんから。

お父さん側の親戚関係と、納骨猪名川に入ってますけど、そういうところで一緒に納骨式したり、こうした集まりのときにちょっと寄せてもらっても、だれがだれかわからへん状態で行かせてもらったから、この子にどういう関係でとか、中1でしたけど、一生懸命思い出しながら、でも結構通用したし割と覚えておって、助かりました。

我々もこの震災を契機にして、いろんな支援をしてくれる方があって、大阪のロータリークラブだとかね、そんなところからも支援をいただいたりしてね、時には例会への出席の依頼があったりしてね。甥と一緒に行かせてもらいました。

節目には支援へのお礼で出かけていかなあか

んということ、私も大分あちこち行かせていただきました。

(役所手続の煩雑さ)

保(女) 子供達を育てる上での苦労よりも、何せ手続がねえ、主人は単身赴任で家にいなかったので動かれへんですし動けないけども、みんな膳本類がいるとか、だから、やりとりが、すごいしにくいし、とりあえず取ってきてって言って、無理して東灘でまとめて何通か取ってきてもらって、それを利用しようと思ったら、これはだめですって言われ、向こうは急いでおっての処理だったんだかねえ、一番最後が半ペラっていうんかねえ、折り返しになってない膳本は無効ですって。手続するのにすぐには行かれへんし、せっかく取ってもらったのが全部だめだし、何ぼでも手続遅くなるし、向こうしかできないっていうのが、困りましたけどね。いろんな手続は本当に必要でしたんで。

保(男) 平成13年3月までは神戸で仕事をしてましたんでね。東灘区役所なんかもしょっちゅう行ける条件はあったんでね、罹災証明もらったり戸籍謄本もらったりで結構行きましたね。

保(女) こっちの市役所では全然だめだから。神戸には、行けない状態だし郵便ですてもらったらいいですって。一々何ぼいるやわからへんし、スムーズに出来ないのかと思うのはよくありましたけどね。

保(男) 今ではある程度改善はされてるんですけどね、あの当時まだまだ。

保(女) そうって言うたら、それは例がないです、だめですって言われて、何もならへんがなと思ったりね。

(マスコミ取材への対応)

保(男) こうして、特にこちらは家内、子供たちもおいっ子たちもおったんでね、まあやっぱり取材っていったら、みんなこっち来るんですよ。だから新聞社とかテレビ局とか、そういう対応は、みんな家内が一手にやってくれてたんで、大変だったんだろうなと。

保(女) 私は現地に行っていないでしょうが。ここで、パーキンソンのおばあちゃんがおったしね、動けない。そういう状態でどうでしたか、こうでしたか言われたって、伝聞で聞いた感じのことしかわからないし、それ以上細かいことでもそこ違ったわねって言われたって、そんなもんわからへんがねって。1回目はいいんだけど、2回目、3回目違う新聞社とか

なったら二番せんじ三番せんじ、だれもそんな読めへんで、そんなん要らんって言うてるのに、三日間連続でE新聞なんかねえ、割と細かくっていう感じに言われたって、わからへんですがな、私行ってないから。2月10日ごろにはF新聞がすぐ入ってきました。受けるまでずっと言うてきますからね。御飯食べておっても何しておっても、電話かかってきて。

保(男) だから、取材を受けた者でないとわからないと思うけども、テレビ関係もそうなんですけどね、やっぱり一つの山いうんかね訴えたい部分つくるわけですよ。そやけども、普通の生活してる人間の家族っていうのはね、そんなに山あり谷ありのドキュメンタリー番組的な生活などしてないんでね。

保(女) そういう生活してないのに。だからもういいですって言うてるのに、いやいやまあ、普通にこうやって暮らしておるのが、やっぱり被災した人たちの励みにもなるし、知らんところでもこういうふうにちゃんと生活しておるっていうのが見てもらえたらいいんだとか、いろいろと言われるけども、本当にどうしてもスポットライトをそこに持って来るから、いや、こっちの家庭の事情もあるんだって言うてね。

保(男) 子供達もやっぱり嫌だったでしょうね。

保(女) だから、あれからずっとまだ尾を引いてましてね、結局結婚式だとか、それから就職のときの節目節目にはね、入ってくるんですよ。そういう意味では、かなり抵抗を持ってたんじゃないかなと思います。まあこっちはしゃあないなと思っててもね、結局、結婚式のときには何にもその情報も出さずに、ひっそりと。

保(男) 就職のときまではずっと取材対応がありましたね。

保(女) そうそう。結婚はいつするかわからないけども、就職はわかるしねえ。卒業式とか。そんなん、計算したらわかるから。

保(男) こちらとしては世話になってるから、みんなに恩返しができるば、それも一つかなと思って対応はしてきたつもりなんですけども、子供達にしたら逆にプレッシャーに感じたと思いますね。ただ、心のケアの支援を受けたことはなかったですね。

保(女) 学校であったかも、そこら辺は聞いてないですけどねえ。

保(男) まあ、何かはあったんでしょうけどね。

保(女) 私らが、見る範囲内では全然そういうのはなかったですね。

(学校での出来事)

保(男) やっぱり神戸とこっちの豊岡という、ある程度地域的なカルチャーは違うんでしょうね。その辺、カルチャーの違いに戸惑いはあったんかもわかりませんがね。ゲームソフトの関係だけ注意受けたん違ったかいな。

保(女) 6年生のときに向こう(神戸)から持って帰ったゲームソフト、大事なもんは出てこないんですね、お金とかは出てこなくて、ゲームソフトとか着物とか、ばっかりは持って帰ったんですけど。

そのゲームソフトを、小遣い欲しいとか言われへんから、小学生で私らも小遣い必要だけど、あげるということは言わなかった。お小遣いが欲しいなど自分で思っておるときに、そのゲームソフト買いますっていう店があったんだと思うけども、それを売って、何百円ですけどね、お金にかえてっていうのが学校にばれちゃって校長先生から呼び出しで。担任の先生が、こういう田舎の学校で都会の子が入ってきて、そういう感じに学校の中をかき乱す感じになったら困るって言われましたけどね。やっぱり、小遣いが要ったんでしょうね。

保(男) 金は、一切渡してなかったしね。だから、金渡したのは卒業後でしたね。

保(女) 二十歳。

保(男) もう大分過ぎとったかな。

(お金の管理)

保(女) 若い子に、渡したら、欲しいもんは車とか女の子との遊びに使うに決まっておるし、いろんな人たちの支援だからっていうのんで、お母さんらも一生懸命ためたんだらうけど、何にも出てこなくてね、それはお父さんが郵便局の保険に入っておったから。

保(男) 保険と、義援金ですからねえ。まあ、それを二人に渡し引き継ぎという形で。

保(女) 大学でも行くって言ったらどうしようなんて思ったりして。大学行かんと高専に入ってたんだし、上は行けないので就職するとなつて、でも、すぐには渡さずに後渡しで。

保(男) それが一番、私と妻の二人で意見が食い違う部分だったんですけどね。

保(女) はよ渡せっていうのと、だめだって。普通に性格を見とったらわかるし、また何するわからへんし。

保(男) 心配な部分は、いつまでたっても残るんですけどね。

保(女) でも結婚すると、ある程度のお金がいるけども、若い子で20歳過ぎで独身だったら、こういうふうにみんな一生懸命ために支援してくれたお金をばあっと使ってしまったら何にもならへんし、何ぼこういう人が支援してくれたんだって、色々箇条書きに書いてこれも一緒に渡したけども、そんなもんああそうって見たら終わりだし。

保(男) 義援金でも結構な額があったんですよ。神戸市の災害弔慰金でね、世帯主が500万だったかな。

保(女) 弔慰金世帯主が500万か250万。

保(男) 250やったんかな。あとは父親の保険金、そんなに多いことないんですけども。

保(女) 大学行っっていったらパッと消えるし、このお金はとったりしたけど、それは要らなかったし。
支援を受けたのはライオンズクラブとかロータリークラブ。それから、個人の人もおられました。
支援金だから一括じゃなく何回かに分けて。

(相談窓口について)

保(男) 学費の足しにしてくださいとかね、当時はまだかなりいただけだと思いますね。
親権の関係とかで神戸市の窓口で相談に行ったことはないですね。家族と一緒に食べていけるんだというぐらいの思いしかなかったもんでね、だから、そんな真剣に悩んだという覚えはないですね。
そのほかのことでも相談窓口へ行ったことはなかったですね、今まで話したように経済的な悩みもなかったですし、精神的な不安というのもなく、子供が横道にそれる、そういう心配はしましたけども、いつ自分たちの子と同じように、いろいろ手を煩わすんだろなあとという思いはあったんで、それは計算済みだったんでね。だから、まだ本当によき時代だったのかなあとという思いはありますね。
支援については、全くわからないことばかりでね。ただ子供たちがこれから成長していく上で、さっき言ったように大学なんかでも行くとしたときにその辺のお金がどうかなあと、おやじの保険、あとが義援金か弔慰金ですかね。まあ、そんなんで出したらええん違

うぐらいの思いしかなかったし、そういう意味では心配は特になかったです。

(権利関係の手続)

保(女) 当時、行政の対応で弔慰金受ける手続が、書類出しても4回返ってきたときがあってね、ちゃんとそろわないというかねえ。一個でも欠けてもだめだからって。何遍、どうするんっていう思いがありました、一回ねえ、私はできない、主人の名前でないとだめとか、弔慰金かな。おばあさんと、この子たちのお父さんお母さんと、それから1年生の子供とね、その間柄いうんか、手続するのがみんな違いましたで、親は一緒でしたんだと思いますけど、おばあちゃんと孫と親、3種類に証明する必要があるということで私からの請求は、血がつながってないで。

ややこしいときがあってね、出しても出してもだめっていうときがありまして、もう知らんわ、こんなんっていう思いをしました。もっと簡単で柔軟であればよかったなあと。

保(男) どっちにしても権利関係っていうのは、いつの時代になっても多分一緒だと思いますね。

保(女) 後見人の手続をするのも、勝手にできへんし、裁判所の手続になりますって言われて裁判所に行っって。

保(男) 身元を含めて皆、調査するんでしょうね。

保(女) 調査員が身辺を全部いろいろと調査して、それからの認定になりますって言われて、一カ月半ぐらいかかったんかな。

保(男) 何するにしても、権利関係は、本当に手続大変ですわ。

解任だって結構難しいんで、結局やったかやってないかわかりませんけども。甥たちに、おまえら解任の手続せえ言うてね。法的には多分20歳で自動解任になるんでしょうけども。

保(女) 裁判所から、また呼び出しがありますって言われたんだっけ。

保(男) 戸籍謄本にこう書いてあるやつを消す手続は、やっぱり解任の手続をせんと、消えないみたいですね。
結婚を機に管理してたお金も引き継ぎしようということで。25歳で。

保(女) 26ぐらいかな。

保(男) こっちも管理するっていうたって、だんだん記憶も消えていくし、きれいにしておこ

うか言うて。

(上の子の結婚)

保(女) 結婚して、子供ができたらねえ、やっぱり、そんなむちゃくちゃに使ったりせえへん。まあちょっと下が心配ですけど、そしたら即車買ったもんな。兄の方は、奥さんにきっちり与管理されてるだろうし。

保(男) 奥さんが高校の同級生そんな縁で。

保(女) 奥さんも近くの人だから。

保(男) 神戸に戻りたいというのは、なかったんでしょうねえ。だから、フォーラムのときに発表した、強い家をつくりたいということで最初は就職したんですけども、途中で景気がこんな状態ですからね。

保(女) もう今はね、そうそう。

保(男) 建設業も全然だめで今は別の仕事についているんですけどね思いはあったんでしょうけども。生活も安定してきて、墓も何とかせなあかんああとということで、今ちょっと計画進めておる。

保(女) 写真も何にもあらへんですがな。こっちはってないですねえ。ほんで、やっぱり写真も要るしって言われて、その前にうちのね、6年の11月に結婚式があつてね、長女の。それで来てくれたんですわねえ、二人。まあ主人の妹だから妹夫婦で来てもらって、この子、男の子も連れてきたんかな、そのときまだ学校行きじゃなかったから。ほんで、この生き残った二人は学校だったから来なかったんだと思う。学校で休み、土曜日とか日曜日だけ何か来てへんな、あの子たちは来てへん、死んだ人だけ来てね、こっちに。だから、結婚式の写真のとこを撮ってもらって、写真屋さんに細工をしてもらってね。まあおばあちゃんのははないから。何かもらっとう人もあったのか忘れたけども。平成6年には、亡くなった人だけは来て、今度7年に長男が結婚したときには、みんな死んじゃってるし、この残った二人が結局出席で、39と42でしたんでね、亡くなったときが。

保(男) 平成7年を境にして、その前後も結構いろいろと冠婚葬祭ばかりしてありましたわ。つながりがあるのかなと思うぐらい。

保(女) その周りがあつて、ちょうどこちらの子供がそういう年齢に達してるのどで。

保(男) 事情もね。

保(女) だから、そういう冠婚葬祭が入ってくるし、この手続が何回してもややこしい、できへんし、学校のは、ねえ、あれをせんなんして病人は、なかなかよくなることはないしねえ。で、8年におばあちゃんは亡くなりましたけどね。何だかむちゃくちゃで10年ほどが経過した。

お客さんというんか、神戸の学校の先生たちもやっぱり来られるし、あの子たちが気になるし、それから近所の人とか知ってる人ですけど、ちょっと線香をつけていうのんで。

そういうのんで来られたり、ずっとひっきりなしに、で、新聞社が入ってくる、次々変えて入ってくる。今度はGテレビが入ってくる。Hは来られたけども、お断りしましたけどね。だから、冠婚葬祭プラスそれがずっと家に入ってきてたのだったから、私もどっこも行けずに。

(震災時の話題)

保(男) 子供達の間で震災の話は、余り聞いたことないなあ。

保(女) そりゃ私らの前ではしゃべってへんかもしれんけど、二人一緒に寝とったんだし、それはわからへんわねえ、言っておるかもわからへん。

一家団らんの間とかにもなかったですねえ。ひっきりなしに新聞社みたいな人が来て、その当時のことをずっと聞かれる、その話はどうなったかなという感じで子供達二人で話をするとか、そういうことばかりに気持ちは行っとったのか、二人で改めてそういう発散の仕方っていうのは余りなかったん違うかな。

保(男) だからまあ、結構私は二人おいつ子泣かせたのは、かなり記憶にはいっぱいあるんですけどね、しかって泣かしたちゅうのも結構あるんですけども。まあどっちにしても二人だけだと、身寄りの一番濃いのは二人だけなんで、二人でやっぱり協力していかなこれからもだめだちゅう話は何回もしたんですけども。

今は別々に場所も違いますし、連絡も盆と正月ぐらいかなあ、みんな自分の生活で精いっぱいかなあという感じが今の状態ですね。

保(女) 盆、正月はずっと、ここで皆。顔合わしてこの前正月も、来て泊まって帰ったとこですけどね。今度はまた盆になあなんて言って帰りました。

保(男) 二人とも血液型がB型なんで、それもあるのかなあという感じはしますけどね。割と大らかな感じはありますけど。

保(女) A型ほど悩まないみたいな感じがありま

すわねえ。

(子供たちの就職)

保(男) 義援金とか奨学金の支援については、私が経験した中ではちょうど高校なり高専を卒業して就職の支援は、必要なあとという気はしますね。

なかなか景気が悪いとない。それはみんな一緒ですからね。その被害に遭った、災害に遭った方だけを特別に手厚くというのではないんですけども、なかなか就職も決まらない。だからあちこち、お願いしたりはしましたけどね。なかなか、本人の適性もあるんですけども、難しいなあと思いましたね。我々が就職した当時を考えると、こんなことで悩むことなかったのという思いがあったんですけども、今回この子たちが就職するときには、時代の流れもあったんでしょけども決まらなくてねえ、だから、長男のときも結果的には先生が、最後知り合いのところ頼んでくれて、そして就職できたという感じなんですよね。だから、高専なんかでも、高専さえ出たら、どこでも就職は行けるのかなあと思ってたけど、それもなかなか。そういうのは大変な状態なんでしょうけども、物心両面においても、何とかひとり立ちしていけるような就職先を見つけてやるというのがあれば一番いいかなと、周りにおるもんとしてはね。結果的に二人とも就職できたんで、やれやれですけども。

就職もできずにフリーターでということになると、そっちのほうの子の進路のほうが多くなっちゃうのかなあという気はしますね。今の時代は極端なんでしょうけども。これでは将来的に希望や展望を見出すような時代では、ないなあと思って。我々が育ってきた時代が良過ぎたんかもわからないんですけどもね。

もうちょっと政治はしっかりしてほしいなあ。みんなそれらは常識的に思うことですよ。行政なんかもそういう意味では大変な時代になってきたなあと思いますね。

(一般の方の支援と神戸の学校からの支援)

保(女) でも、何にも言っていないのに、学校のほうからの力とかいろいろとどういふ関係かはわからないですけど、物の支援とかもですし、現金のね、こっだけみんなだてましたから何か使ってくださいとか、何回でも来ましたからねえ。ありがたいから、まあそれはそのときで仕分けしたらいいと思うけども、何も言わなくてもすぐにあちこちからねえ、学用品とかでも、三日、四日したら即学校行きました、あの子たちもすぐ行きましたわ、手続済んだら。教科書もないし何もないけども、とりあえず来てもらったらいって感じでしたんで一週間もしてない。だから、あと先生の方で、色々揃えてくれたりはしましたし、

学用品とか、そういうもんは、まあ買えるもんは買いに行きましたし、着る物とかも身に合うもんを買ったり。そしたら、神戸の学校の先生がね、どっと送ってきたと思ったら、学用品、ペンとか鉛筆とか下敷き何だかんだそういうもん要る、向こうでもてんやわんやだから、ちょっと落ちついたけども、あの子たちも担任だった先生がいろいろと工面してくれたと思うんですけど、送ってきてもらって。でもこっちは、なしにおられへん、揃えて買っちゃってるし、だからダブルで、結局は無駄遣いじゃないけど、これもあるんかみたいなぜいたくな感じになってしまいましたけど、あれで、すぐ支援がねえ、何にも言っていないけども、何かしらすぐにあちこちから東京のほうからとかね。全然知らんところから、みんなで町内会でこういうふうな感じでとか、サークルか何かわからないけども、集まりましたからって、どおんと大きなダンボール箱が二つも来てね、何が来たんかしらと思ったら、これでも使いますかっていう感じでねえ、いろいろ、それこそ支援ですねえ。

保(男) 物的な支援ですね、お金とかじゃなしに、今でも災害に遭ったら私が言うような支援があるんかどうかわかりませんが、まだやっぱり平成7年当時っていうのは、社会の仕組みががっちり機能してたんかなあ、今は自分のことばかりで、とにかく生活もね、当時から見たらかなり仕組みがぐらぐらと来てるんで、まずやっぱりそういう社会の仕組みがきっちり機能するようなことができてないと、災害でも支援を受けられる、支援をするという状態にはなかなかならないんかなあという気がしますね。最近いろいろと聞くと、学校の給食費も払わないとかね。どんな時代なんかなと、ちょっと想像できない、ちょっとわからない状態なんですけれども。行政も困ってはるんでしょけども、個人情報も壁もありますよね。それもいいほうに使うんじゃないかって、リジェクトベースでの個人情報を盾にとったね、そういうやり方ちゃうんか、まあそういう、一たんがたがたに崩れて、また立ち上がる時代になってくるんかわからないんですけども。やっぱり社会の仕組みがある程度機能して、みんなが支え合うということが前提じゃないかなあという気がするんですけども。いずれにしても、ちょっと景気が上向かないとなかなかねえ。

(但馬へ転校してきた他の遺児のこと)

保(女) 震災のときに但馬に転校してきた子の話は、余り聞かないですねえ。中学校おったかもわからへんけども、そこまで私らがねえ、どのぐらい入ってきているという情報は何も入ってきてないし、こっちも学校に行つてわざと聞いてないし、でも、う

ちの場合は被害が一番大きいですからって、新聞社かテレビ局か知らんけども、何でうちはっきり来るんですかって言ったときにね、受けてもらえないところが多いって。そんなもんそらそうだわって言ってあげたんだけど、でもやっぱり、ほんまに何も悪いようにはせえへんけども、やっぱり暴かれたくないって、そういうふうにみんなガードしちゃうから受けてもらえないし、まあ悪いですけど、おたくは但馬っていうかこっちのほうでは一番被害が大きいおうちだから、お願いしますわ、みたいなんで何日もねばられたら、まあしゃあないわなってなっちゃうし、どうぞって言ったら二回も三回も同じことばっかり繰り返して、オウム返しみたいになって。

F新聞が済んだら今度はねえ、何でE新聞で、次はI新聞だとか、順番に本当にいろいろと、同じことばっかりをねえ。子供に聞くことも私もだし、それから子供達二人だけちょっと聞きたいわとかねえ、そういうときには、家の人はどうしてくれとるか、悪いことしておるかとか、そりゃそういうこと言っておるかと思っただけ。ちょっと来ないでくださいって言われたときは、ああ、そうかなと思ったり。

(育てるに当たっての配慮)

保(男) ただまあ、我々は当たり前かなあと。例えばそういう被害に遭って、だれかが面倒を見るとするのが当たり前かなあとと思うんで、けども家族の理解がないとね、これは難しいことではありますね。だからまあ、特に我々は妹の子やという関係はありますけどね、家内にしたらまた全然それは違うんですよね。だから、大分そういう意味ではしんどい思いはしたんじゃないかなという気はしておるんですけどね。

おいっ子たちにしてもおじちゃんやおばちゃんやいっても親ではないんやからねえ、そりゃ遠慮もあるんでしょうし、どこかにやっぱり一つの距離は出てきますよね、まあ、こっちはそちらをそういうことも計算しながら、いろいろとしかったりはしてましたけど。子供にしたら、やっぱりしかられるし、余り言わんとこうかなあと感じじゃなかったですか。特に、おじちゃんは怖い存在で認識、多分してたんじゃないかなあとという気はしますけどね。

保(女) そうそう。やっぱり子供だし、自分が親がわりにしかってやらんとっていうおじいちゃんもそういう気持ちで最初から何話するにもね、意気込んでたっていうんか、力が入ってあったから。

保(男) 特に神戸におるときは、家族で結構あっちやこっちに遊びに行ったり、そんな環境だ

ったんですよ、けどもこっちに来てからはそんなもん全くなかったですからね。こっちも単身赴任で仕事、だからこっちおつても家内一人でどこかに連れていくというてもそんなの物理的にできませんし、だから、どこにも連れて行ってやったこともないし、こっちでのおじちゃんやおばちゃんとの思い出ちゅうのは、食べることぐらい。

保(女) だから食べ物はっきりと。いつもよく食べたわってという思いはあるでしょう。

保(男) 食べ物は不自由せずに何でも食べさせてやりたいというね、家内の思いもあったんでしょうし。

(但馬からの遺児交流旅行への参加)

保(女) 正月もこの前も来て、正月は色々食べられてすごいうれしいわって言って、そりゃあれだけ食べたらなあ、本当に、喜んで帰りますわ。その食べ物にお金使うぐらいですか、どこにも連れて行けなかった。まあ、病人がおつてねえ、今みたいにショートステイでっていうのが当たり前みたいな感じじゃなかったからね、あの時分は、まだそういうところに預けるのは、親放っておるって言われる時代でしたんでねえ、だから一回もそんなもん行かずだし、ずっと、家におつたから、どこも行かんと、やっぱり行きたかったんでしょね。

神戸からいろいろと誘いが来ましたが、こういうのがありますからって土曜日の午後ありますからっていっても、平日でもだしねえ、そんなもん加古川だったらびゅって行けるけども、こっちだったらもう一日、そんなもの休んで行かされへんし、やっぱり土曜日にしたって何かのときにしたって、小学生と中一とで勝手に二人だけっていうのは心細かったし、だれかついて行かれないし、どこも行かず。弁論大会ぐらいですね。ほかにクリスマス会、あしなが育英会のああいうのんとかは行ったんだ。

保(男) ああ、行ったかな。で、九州行ったんは兄、弟だったんかいな。

保(女) 九州。弟君がそうそう。

保(男) 熊本のほう。

保(女) あれ、I新聞の関係で三日だか四日だかねえ、阿蘇のほうのおうちにホームステイみたいなんで、アグネス・チャンとか、来るときに参加しませんかって、迎えに来ますからとか最初は言っておられたから、迎えに来てくれるんだったら行けるわなあって言って、行きますにして、そしたら近づいてきたら、

やっぱり伊丹空港まで来てください、そこから飛行機でねえ、そこまで行かれへんいうのだったんだけど、結局は。

保(男) 送っていったな、車で。

保(女) 本当に。何にしたってね、向こうまで行く足がねえ、神戸とか姫路でもだし何せそこまでが行けない、ローカル線だし。遠いところ来ると。

保(男) 毎年、慰霊祭を神戸でやってるでしょう。あれも最近、私全然行ってないんですよ。おっ子たちは行ってるみたいですけどね。やっぱり遠いから行けないと思って。

保(女) 神戸のおばさんたちとちょっと会ったり、加古川のおばさんたちと会ってきたよっていうのは聞きますけど。加古川に住んでおったら、こういういろんなことの催し物でも何でもだし、それから友達が勢おったんだろうし、サッカー部に3人ともサッカーしておったのかな、そういうののつき合いとか友達の交流もずっとあったかもわからないけど、そういうもん何もなくなっちゃったしねえ、電話して何やかんや交流するとかもなかったと思います。こっちでのお友達ばかりが続いておるのかな。

保(男) やっぱり距離の壁は大きいですね。

保(女) そうそう。それは本当ねえ。

保(男) 私も最近、月に一廻ぐらいは神戸に行くんですけども、遠くに感じるもんね、車がありゃこそ、行けるぐらいで、電車に乗り継いでって、なかなかもう、便利悪くて、最初の頃は、甥たちを連れて行ってたんですけども、今は。

保(女) 神戸で。ああ、それが弟だけが。兄ちゃんのほうは行ってないわ。

保(男) 行ってないな。

保(女) あの子はサッカーの試合とか何やかんややな。

保(男) サッカーの試合とか。

保(女) 6年生時分だったかな、あれ。

保(男) そういった支援も、いろんなところからいっぱいお誘いはあったけども、なかなかこっちのほうからだと遠いからね。

保(女) 兵庫県でもね、一番北だでねえ。

保(男) 神戸の人やったら割と容易に参加できることでも、こちらからといたらね、やっぱり向こうに行くまでのことを考えちゃうから。

保(女) こっちは何にもないし。

保(男) 傷をいやす意味ではそういうのも必要だったんかもわからないけども、振り返って今はどうかなあというのは、子供たちに聞いたら思いはあるかもわからないですけども。

(友達との交流)

保(女) 聞かなわからんけど、私も日々生活一生懸命、そればかりに追われておったから、また手紙が来て、神戸は遠いなあっていう思いでねえ、こっちはおばあちゃんが寝ておったから、そういう面では子供たちは寂しかったかもわからないですわね、こっちの思いだけで、仕分けしちゃうから。

子供達の心の支えになっていたのは、やっぱり友達やろうな。

保(男) 友達、女の子ゆうんか、そんなのは、かなり支えになったんじゃないですかね。

保(女) 友達で、異性と。

保(男) 同じ世代で、親よりもかえって。親がおったとしてもね。

保(女) 親おっても友達のほう優先して、家から離れてちょっとでもそういうグループでっていう、別に親が亡くなったからじゃなしにでもそういうふうにするから、そういう年齢に入っちゃっておるものに今親が生きていても、余り親とは過ごさないだろうと、話していて、どんどん離れてね。ちょうどあの子らはそういうふうになっちゃったんだけど。

保(男) 5年生の子は、まだ半分そういう思いはあったんかなと。母親恋しい思いはあったんだろうなと、その当時はね。

(病気になったこと)

保(女) よう病気したし、胃腸弱うて、おなかも壊すし下痢して。

保(男) ちょっと食べたら、すぐなったもんな。

保(女) インフルエンザも2人ともしたんちゃうかな、この震災の行事に出かけた時。

保(男) 震災記念の日に。

保(女) 17日にちょうど休みになるって、金曜日から行かかってこの人は向こうおったんだし、私が4時半ごろの汽車で、赴任先に行く

ってということで、学校からちょっとはよう帰ってきなさいよって言って、帰ってこさせて「何かえらい」「えらい、えらいつてどないなん」「何かちょっと熱っぽい」言うし、「もう4時半の汽車乗らなければならないのにあんた」、なんて感じで、ほんでそれこそ頓服持ってたから飲ませたら、「何か楽だわ」って言うから、それって言って連れて行って、結局インフルエンザになっちゃったんやな。式典には行けなくて弟のほうで40度、また向こうで超えちゃって。寮でね、私は近くの病院探して行く、上はこの人と一緒に式典に行くっていう感じになっちゃって、インフルエンザだって言われたし、式典も終わったし帰らなければ仕方ないなあて言ってたら薬が効いてきて、楽になったもんで弟のほうで、せっかく神戸来たんだし、自分も行きたい所や見たい所があって、またそっちに行きつ戻りつ、こんなことばかりしておりますた。

ほな帰ろうかで帰りかけたら、車の中で長男のほうで、何かえらい言うてきて、熱が出てきて。学校公欠で休んで、あれ行った日かな。何か公欠で休めましたよ、こんなに行くときは。兄ちゃんのほうは一週間ほどインフルエンザで休んで、弟のほうは休まずに行きましたよ、ずっと学校。上はずっと休んでた。だから、病気になったときはお母さん、看護婦さんしてましたんでね。ちょっとおしり見せやって言って私が座薬入れたりなんかする。やっぱりお母さんっていう感じでしたね。

保(男) まあ、16年もたっちゃったもんねえ一昔以上前ですもんねえ。二人がこっち戻ってきても当時の話は、全くしないですね。

保(女) 墓の心配をしているぐらいで、墓はね、こっちで造成地にいつごろそれできるんだか、こっちは雪が多かったから、ちょっと延びるん違うなんてこの前も来て言うておりましたけど。今年中にもしそこが当たって、場所確保できて、ちっちゃいのもでも墓をこっちに戻せたら、17年の法事でここ来てちょうど節目になるから、みんな顔合わしたりしてええけどなああって、この前しゃべっておったとこです。そういう話はしてもこういうときのことは言えへんです。二人がおっても、そういう話よりも今の生活ですね。子供が上が3歳何ぼかなあ、だから、むちゃくちゃしておって、下が1月17日で1歳ですけど、それも5時46分じゃなしに、夜中に生まれて、忘れたらあかんっていうので。1月8日ごろにおなか痛くなって生まれるかわからへんって言うてたのがおさまって、17日まで持って、17日の朝方生まれて、忘れるないことだって言うて。

保(男) 今、東灘の岡本行っても、もう震災前の面影ないですもんね。みんな新しいおうちばっかりだしね。小学校5年とか中1までそこにおったというだけの思い出その後は全くないですもんね、こちらで生活したため、その当時のこと思い出さずといたら、震災の日に催される記念式典に参加をして、小さいころの思い出に浸ると、あと猪名川に墓参りに行ったり、そういうときぐらいかなという思い出ですね。

私らも、いろんな経験今までしてきたんだけど、これから先に生かせるって何があるんかなってのは、あるんですけどね、震災だけじゃなくて、やっぱり考えられる順、危機管理の意識だけでも持っておかなあかんのかなあと。豊岡も結構台風だとか震災以外にもね、私たちも経験はあるんだけど、自分一人で出来る部分は少ないと思うんですよ、だから、家庭でできることをいったら、例えば電気が消えたとかそういうときに何か備えるぐらいかなあと、電気が消えたら全く何にもないですもんね。

(災害への対応)

保(女) こちらのほうは自然にまだ恵まれてるんで、水だとかは確保できたとしても、電気がとまっちゃったら、ふろも入れないしねえ。どっちにしてもやっぱり地域のつながり、人間同士かなあという気はするんやけども、このごろ自信がなくなってきちゃってね地域でもだんだん高齢化して子供も少ない。いろんな経験を積んだ年寄りがどんどんふえているにもかかわらず、なかなかうまいこといかないんですよ、ふだん近所でいろんな話をする機会も少なくなっちゃってるしね、けどもやっぱり基本は、人間同士だろうと思いますね。

保(男) だからきずなを強いものにする努力をしないと、こんな時代だからもういいわということでは、もっともっとひどくなるんじゃないかなあと。だから、元気なうちはなるべく外に出ていく、友達やそういうね、地域の中である程度できることをするというかなあという気は、私は個人的に思ってるんですけどね、そういう経験をした者としては、これからもそういう気持ちで生きていきたいなあというぐらいですね。

人とつながりは、難しいんですけども災害のときは、それが力を発揮するわけで地区の役員なんかすると、常々そう思いましたね。役員は、二年程やってたんですけども。たまたまやるときに台風23号でかなりの水害があって。

そういうときもやっぱり災害の経験というのは、私どっか頭の隅にあったんでしょね。是非とも早くその復興をして、安心な地域を

つくらなあかんということで、何とかこれ進めなあかんという思いで、あの当時まだ55歳ぐらいだったんですけどもね、何とかせなあかんあということと走り回ったという記憶は残っておるんです。だから、助けてもらったお返しはこういう部分でもね、できたらいいなあということで動いた部分は記憶に残っておるんですけどね。

(地元の受け入れ)

保(女) 人の言葉の温かさっていうんかねえ、そういうもんがなかったらやっぱり閉じてしまうで、しゃべりやすいように、側が気使ったり、声かけてくれようすることは、この子たちが来たときにこの子たちの連れのお母さんたちが、友達になってあげなさいとって、すぐに声かけてくれた。来てすぐだけでも、一緒に遊ぼうとか小学校の子はねえ。

保(男) 但馬では珍しい存在だったんでしょうからね。

保(女) そういう声かけてねえ、連れに誘おうっていう感じでしてくれましたんで、子供のお母さんたちが、行っただけな連れになってあげよっていう感じがあったかもわからへんですねえ。
豊岡は周りの環境に大分恵まれてたってまあ来たところはここだし、しゃあないっていうのんで後はそういう人たちねえ、慰められるっていうんか、いやされながら。そら余り惨めな感じは見なんだからね。があつとしかられておるときにはいじけておったけども。

保(男) 今16年以上たったんですけども、まあ若いころ現役で仕事して、今みんな会社も退職してますけどね、たまに会うとやっぱりそういう話が話題になってね、あのときの子どう、大きくなったとか言うてね、こっちは特に意識はしてなかったんやけども、やっぱり肩に力が入ってそんな顔色だったのかと思って。

保(女) そうそう、職場がNTTでねえ、組織が大きいから、いろんなところにみんなおるんですがね、だからそういうこと、みんな知れちゃってるから、会うたびそういう感じで言われるからねえ、また大昔やないけど。いろいろと何々会とかで今度こういう集いがあるから顔見せてくださいってのはがきが来たりする。役員だから行きますけど、私は全然行かへんです。行ったら、もうそればかり言われるで、行けへんわ。

保(男) まあまだ記憶がしっかりする、当時の、状況がみんな鮮烈にまだ記憶にあるんかもわからんですけどね。

まあ恵まれてたんかも、我々も含めてまだ若く良き時代やったんかなというふうに感謝はしてるんですけどね。

保(女) もし、加古川で暮らしていたら、またどういう生活が待ってあったかもわからない。たまたまこっち来て、神戸とかあっちの友達なんかともつながりがなくなっちゃったのと、今まで、顔見知りですっと生活してきた人とのつながりはなかった、そういう寂しさは遠いからあったけども、地域的な、こういう子を取り巻く生活には余り不自由はしてない。だから、加古川ではそういうつながりは、神戸にすぐ行けるから、そういうのんは続くかもわからないけども、地域がやっぱり公園住宅とか、詰まったとこだったら、地域とのつながりはちょっとまた違うかもわからない。一長一短があるで、どっちを取るかで、最終的にはあの子たちがどう思ったって聞かなわからへん。

(但馬での生活)

保(男) 冬は雪がよく降るし、歩いて学校に行ったり、お寺のほうに遊びに行ったり。

保(女) お寺の合宿でね、ここはお寺がそういう受け入れをしてくれるから、夏休みなんかは、お盆終わった後に三、四日合宿でね。修業せんなんですわ。朝はようから、テレビもなし何もなし、登校日もお寺から学校に行って、またお寺に帰って。裸で掃除させられたり、スイカ種飛ばし大会だなんて言って、そんなん写っておったり、ここのお寺なんかも。取材とかはあれですけど、修業的になっていうんかねえ、この地域の子供たちにいろんな座禅をさせるとか、普通なかな家ではさせないことを、昔からのみたいなのをここのお寺は、するんですわ。あの子たちはそういうことも経験した。

保(男) 小学校も2km先ぐらい歩いていかなあかんし中学になったら自転車で行くでしょ。そういう意味では、神戸とは違った環境でもあるしね、だからどういう思いで大きくなったんか、確かに寂しさはあったんでしょうけども、また別の環境で、違ったことを考えながら生きてきたんではないかなというふうには思うんだけどね。

保(女) ふるさとから遠く離れているから寂しさは湧くわなあ、ふるさととつながらへんもんねえ。

保(男) 完全に別世界じゃなかったかなあと思いますね。

保(女) よかった面もあるけども、多感な年齢の

ときに被災地で、何もないところで、これでも4人で食べようとか、そういう辛抱をしながら乗り切ってきたという思いは植えつけられないからねえ、ごちそうは何がええって言って、おなか壊すでって言われる、そういう物質面では、みんなで協力したり辛抱はさせてないから、いいような悪いような、そうかといって向こうと同じような感じにはできへんしねえ。

保(男) だから、そういう意味での不自由さというのは、余り感じた状態では過ごしてないと思いますね。

保(女) 周りも全然被害はないし、だから、ああいう経験をしてるんで、あんた家のお子さんらはすごいしっかりしたええ子さんばかりになるわって、世間の人はそういうふうに言われるけど。
近所の人とか知ってる人とか。そんなことあらへん、全然そんなん見てへんのに、そりゃあの、地震が起きたときにはね、二日ほどは連れのうち世話になって、つぶれてへんところをねえ、そこのおうちで世話になってここ迎えに行っ、こっち夜中帰ってききましたけども。あのときにも、着の身着のまま、夜中だったで5時何ぼだったから。着るもんも取り出されへんし、だから大人のジャンパー、フードつきの、1月だったで、ぼんぼんした大人のを何かで縛って、そういう感じで連れて帰ってこられたから、下はパジャマで。そんなんでこっち夜中帰ってきたって着るもんあらへんしねえ。とりあえずは、ズボンはずきあげて、買い出しに行っ、まず着るもんをね、下着から合うもんをとりあえず買わにやどうしようもないわって言って次の日からその奮闘でしたでねえ。

保(男) ことしに雪は結構ありましたね。

保(女) 事件ではないけど、被災する場所場所で、いろんな体験が変わってくるでねえ。耐える思いっていうのが種類が違うし、物質的か精神的か、ほんとのことは本人らに聞かんとねえ。とにかくどうしようもないんだから食べさせて、おなかすかしたらろくなこと思わんしって思ったりして。

保(男) まあ、こちら食う心配だけはさせまいという思いはあったんだよね。

保(女) だから都会の人ばかりのインタビューじゃなしに、こういうふう聞かれるんだしたらもう全然違うでしょうな。
やっぱり実際にその中で暮らして耐えての人の話と、こっちは全然レベルが違うのでねえ。

反対に話にならへんみたいな感じになる。全然ウエートが違う。

保(男) そういう人は本当に辛かったらうなと思いますね。

保(女) 家、アパートだったからつぶれて。

保(男) もう本当にべっちゃんこでしたもんね、2階建てで、下は完全にべっちゃんこで。どっちも連れていったんかな、Cだけ連れていったんかいな。

(被災した家の片付けと立ち会い)

保(女) 始末するときD君は修学旅行の前だったから、行かれへんし、そのときは公欠で休んだんかな。全部更地にしなければならぬというので、夜の8時ごろに二階に住んでた人から電話かかってきたんかな、「あした来てください、いろいろと、探しもんしてもらって、後は全部解体されますから」っていうので、電話いただいて、どうするんって言って、また妹さん夫婦とかおじいちゃんも、「わしも行く、やっぱり通帳とか見てみんなんし」って、言われてたんだし、長男も家のことを知ってるのは家のもんしかわからないし、要はわからんけども、大体この辺にこうだったっていうことをねえ、そのときにですわ、公欠で行かせてもらったんかな。中学校、確かな、お父さんはあっちから行ったんか、私はそのときもここで留守番で。
下の子は修学旅行の前だったから行かなんだと。

保(男) ビデオテープやら持って帰ってきたんだけど、結局使いもんになりませんでしたね、泥だらけでね、ビデオデッキの中に入れてもガラガラって全然うつらへんしね。

保(女) そうそう、着物とか引っ張り出して、だが、だれも着れないし。とりあえずはと思っで持って帰ってきたけど。

保(男) 結局、何にも出てこないしでね、ごみばっかりで。

保(女) おじいちゃんも、すごい意気込んで行ったけども、みんな探し回ったけど、結局大事なもんは出てこなくて、すごい疲労こんぱいで真っ黒なほこりで、あかなんだわって言って帰ってきたぐらいのが印象だった。すぐにねえ、更地にされちゃった。

保(男) 財産的な大切な物はほとんどなかったね。

保(女) 後で大分、近所から聞いたりして調べたけど、結局。

保(男) もう全部、あのときはいろんなねえ、泥棒だ何だかんだとあったしね。

保(女) まあ、それも運だろうと言って。

保(男) だれが何するわからへんし、簡単に出たしねえ、あの時分は向こうは。

保(女) 向こうは今も簡単なのに、こっちなんかそのときでも贖本でもさ、ペラペラの1枚の輪っかになったのはいいけども、輪になってへん1枚のびろっとなっておるのは、これは使えませんかといって受理されなかったのに、向こうなんか簡単にばっばと出る状態で。

保(男) 最初に話が出たように、権利関係でもうちよつと便宜を図ってくれたらいいのということ、結果的にはどうなったか、今かえて難しいほうがいいのか。

保(女) 銀行協会か、何とか協会に電話して調べてもらうっていうか、何の連絡もないし。

保(男) やっぱり今になったらもっと難しなおるね、個人情報の関係で。全くそんなことは捜査令状か何かないと。だから、どんな仕組みをつくってもやっぱり一長一短でね、そりゃまあ、当事者になればいろんなことが出てくるんでしょうけど、難しいなあと思うのが一番ですね。

保(女) 向こうだったら全部が支援待ちでねえ、こういう感じでここは受けておる、うちは何でだという感じで食いが落ちるかもわからないけども、こっちなんかほとんどおらへんし、こっちだけだったら別にそんな、来るな言うても、支援のこれがあるんだから、手続してもらっておかんと、何要るやわからへんし、向こうで全部の被災者の中でとは、気分は違うわねえ、手続がもうちょっと簡単だったらと思いはしたけど。それだけ距離がね、ある程度おくれそうですね。

(被災地で片親だけの生活を想像したとき)

保(男) だから家族で親も生きてたら、もっと深刻な部分はあったかもわからないんでね。

保(女) そうそう、親が一人死んで一人だけ残って、子供も何人か残るかだったら、こんなこと言っておられへん、向こうで生活をしなければならぬだろうし、悲惨だったかもわからないけど。

保(男) 当事者といっても第三者ですわね、我々は、だから割り切れるんですよ、そういう意味では、しゃあないがなど。

保(女) しゃあないがな、まあそうだったんだし、そういう思いばかりで、実際向こうで親と子と生活しておいたら、あした食べる御飯からだもんねえ、こんなこと言っておられないだろうし、住む家もなし。

保(男) どうしてもということであれば、また本人に。

保(女) 聞くのと一緒で、そういう感じか、後はわからないけど。私らが総合的にどうだったなんて聞いたことないしねえ。

保(男) 大きくなったなあっていう感じで今は。

保(女) まあねえ、盆、正月でも顔見せるわっていつて帰ってきてくれることがあるんだから、行きっ放しじゃなしに普通の家の子供でもなかなか帰ってこないのに、まあ帰ってきて義理か何か知らんけども顔見せるんだから、良かったって思うわけ。

保(男) 参考にならへん感じで、申しわけないです。あと本人じゃないと本当に、当たらず触らずみたいな過保護になりすぎて、やっぱりああいう年齢だったしねえ。余り近寄って、興味本位みたいな感じにはできないし、やっぱり距離をちょっと置くけども世話しなければならぬしねえ、そういう状態で悪いこととして名前が挙がったりしたらそれこそ注目の子らだったのになあと、そういうことをすごい気にしましたけど。ちょっとはあったけど、学校から電話がかかってきた、そういうことはあって、本当になあと思いながら過ごしましたけど。大きなことは、なかったから。

保(男) 6人家族がおって、おまえら二人だけ生き残ったってこれもやっぱり運命だと。親のかわりや、弟のかわりに生きるというその運命なので、頑張っていけど。

保(女) そうそう、地震で死なずに生き残ったことは選ばれた子だというのはよく言っておりましたが。

保(男) まあそんな話をしながら。本人の生の話をまたどうしても聞きたいということであれば、いつでも。

プロフィール

| 保護者-13 | |
|--------|---|
| 項目 | 内容 |
| 訪問 | 面接日 平成23年2月20日(日) |
| | 面接対応者 ○ 保護者:母親 ○ 本人1:長男…本人 13-1 ○ 本人2:二男…本 13-2 3人一緒にヒアリングを受ける。 ○ インタビュアー ○ インタビュアー補助者 |
| 基本属性 | 性別 女性 |
| | 年齢(調査時) 53歳 |
| | 本人との関係 母親 |
| 被災状況 | 被災場所 西宮市鳴尾町 |
| | 家屋被害 全壊 |
| | 家族の状況 ○ 父と3人の子供(当時長男:小5、二男:小2、長女:幼稚園)が家屋の下敷き。 ○ 子供3人は救出できたが、父は梁の下敷きになり死亡。 |
| 主な発言 | 遺児の養育など ○ 近くには父親の両親がおり、母親と3人の子供は1年ほど一緒に生活をする。 ○ 母親が仕事に行っている間は、父方の祖母が家事全般をするようになるが、それぞれがストレスを抱えたことから、近くの文化住宅に引っ越す。 ○ 引っ越した後は、家に親がいないということもあり、長男が怒りっぽくなった。 ○ 母親(保護者)、子供3人は父親が亡くなったという悲しみを抑えていたのではないかと。 ○ 後に長女が18歳の時に自殺した。 |
| | 震災遺児への支援で必要なことなど ○ あしなが育英会が、ローラー作戦で遺児の把握調査にやってきて以降、大変お世話になっている。 ○ 今は個人情報の規制が厳しくなっているため、もう少し緩和するなどして、遺児になった子供が精神的にも救われるようにしてもらいたい。 ○ あしなが育英会以外に、県の募集で旅行やゼミの誘いがあり、気晴らしになるので参加させたりしたが、下の娘は孤立しがちであった。 ○ あしなが育英会は、1人にさせないというのがあるので、そういったノウハウが必要。 ○ 奨学金は、学校の紹介でわかば奨学金を受けることができた。 |

プロフィール

| 本人-13-1 | | |
|------------------|----------------|--|
| | 項 目 | 内 容 |
| 訪 問 | 面接日 | 平成23年2月20日(日) |
| | 面接対応者 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 本人 ○ 弟(13-2:遺児) ○ 保護者(13:母親) 3人一緒にヒアリングを受ける。 ○ インタビュアー ○ インタビュー補助者 |
| 基本属性 | 性 別 | 男性 |
| | 年齢(調査時) | 27歳 |
| | 保護者との関係 | 子(長男) |
| 被災状況 | 被災場所 | 西宮市鳴尾町 |
| | 家屋被害 | 全壊 |
| | 家族の状況 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 父と3人の子供(本人当時小5男、小2男、幼稚園女)が家屋の下敷き。 ○ 子供3人は救出できたが、父は梁の下敷きになり死亡。 ○ 母は、震災当時新聞配達をしていて無事 ○ 妹は、精神的に病み 18歳の時に自殺 |
| 主 な 発 言 | 進学・就労の状況など | <ul style="list-style-type: none"> ○ 大学卒業までは、あしなが育英会のヘルパーに参加していた。 ○ 現在は就職しているが、将来のことは考えていない。 |
| | 震災遺児への支援で必要なこと | <ul style="list-style-type: none"> ○ ローラー作戦で訪ねてきたあしなが育英会は、遺児にとって本当によかった。 ○ 同世代の遺児たちとも仲が良くなり、何でも言える環境だった。 |

プロフィール

| 本人-13-2 | | |
|------------------|----------------|---|
| | 項 目 | 内 容 |
| 訪 問 | 面接日 | 平成23年2月20日(日) |
| | 面接対応者 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 本人 ○ 兄(13-1:遺児) ○ 保護者(13:母親)と3人一緒にヒアリングを受ける。 ○ インタビュアー ○ インタビュー補助者 |
| 基本属性 | 性 別 | 男性 |
| | 年齢(調査時) | 24歳 |
| | 保護者との関係 | 子(次男) |
| 被災状況 | 被災場所 | 西宮市鳴尾町 |
| | 家屋被害 | 全壊 |
| | 家族の状況 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 父と3人の子供(当時小5男、本人:小2男、幼稚園女)が家屋の下敷き。 ○ 子供3人は救出できたが、父は梁の下敷きになり死亡。 ○ 母は、震災当時新聞配達をしていて無事 ○ 妹は、精神的に病んで18歳の時に自殺 |
| 主 な 発 言 | 進学・就労の状況など | ○ 大学卒業後、就職活動をしているが、非常に厳しい。 |
| | 震災遺児への支援で必要なこと | <ul style="list-style-type: none"> ○ ローラー作戦で訪ねてきたあしなが育英会は、遺児にとって本当によかった。 ○ 同世代の遺児たちとも仲が良くなり、何でも言える環境だった。 |

震災遺児等 インタビュー ⑬

日時:平成23年2月20日

(保:保護者、本1:本人1、本2:本人2)

(震災当時の状況)

保 ここは震災後建ったところで、もとはA市場だったんです。私ら住んでいたのは、道路挟んですぐ前でした。それで当時、私と主人と、二人と、その下に女の子が一人ということ。5人家族でした。

本1 僕は小学校5年のはずなんで、10歳。

本2 僕が8歳ですね、小学校2年生。

保 下の娘が、幼稚園の年長になるかな。震災の時母親の私は、自転車で新聞配達してましたんで、配達の中で、当人らはまだ家で寝てました。配達から戻ってくる途中、信号待ちしてるときにぐら一つと、すごいねるような形で揺れたんですよ。信号も道路も全部停電して、まだ暗かったんで。空がすごい変な光り方したんですよ。紫色に。それで怖くて。

雲が紫っぽい色で、多分、電気か何かの関係らしいんですけどね。変な色で、すごい怖くなって。眼鏡慌ててかけて、車、トラックとかがとまったんですけども、そろそろ走り出したんで、気をつけて渡って、もう一軒配ったんですよ。そんなひどくなってると思わなくて。真っ暗なビルの中を、3階に上がって1軒配って、出てきて、角っこの木造が、ぺっちゃんこにつぶれてたんで、びっくりして、家に慌てて、もう足が震えて自転車乗れないんで、押して帰ってきて。そしたら、うち、2階建ての三戸一の古い家だったんですけど、跡形もなく、こんなになるのかというぐらいぺっちゃんこで。写真ありますけどね。

本2 僕は寝てたんですけど。起きてすぐ布団かぶったんで。ほとんど覚えてない状態ですね。

本1 僕は直前に起きたような覚えはあるんですけど。2階で寝てたんで、けがとかみんななかったんですけど、生き埋めみたいな感じになって、動けなくなって、30分か1時間ぐらい動いてない。

保 1時間。もっと、明るくなってからやね。

本1 出たら明るかった。しばらく動けない状態だって、消防隊の人も来て、助けてもらった。

保 近所の人とかがいっぱい来て。この辺で、全壊の家って少なかったんですよ、案外と。うちの家、三戸一のうちの家がもうだめで。道挟んで、その隣の家も古い家だったんですけど、2階建ての。そこもつぶれて。だから、亡くなったの、うちの主人と、隣の2階建ての下で寝てらしたご夫婦二人ぐらいじゃないかな、この町内では。後は聞いてないんで。

ぺっちゃんこでびっくりしたんですけど、呼んだら声があったんで。で、主人の声がなかったんで、お父さんはって言ったら、この子ら2人はちょうど和だんすの下敷きみたいな感じで動けない状態だったんですよ。ちょうどすき間に入ってたんですけども、動けなくて。主人と私と一番下の子が3人手前側の部屋で寝てたんですね。女の子はちょうど助かって、何か声はしてたんですね。動けてたんで、その子は。

おしっこしたって言ってたかな。外にはもう出れないんですけど、すき間に、三戸一分のはりが落ちて、ちょうど主人はその落ちた端っこにいたんで、だめだったんですけども、娘は、隣に寝てたんで、すき間に入って大丈夫だったんで。近所の若い男の子が入ってくれて、一番最初に娘を連れて出してくれて、消防隊の人も来たけども、お父さんを先に出生てもらったのよね。

本1 先や。僕らが先や。

保 みんなでのけて、若い人と一緒にやりましたけど、それで何とか引き出した。

声は元気やったんで。はりが乗かってたんで、主人出すのちょっとひまかかったんで、何とか引っ張り出して、もう救急車とかなかったんで、消防車の後ろのところに畳の上に乗せたまま乗せて、落ちるんでお母さん乗とってくださいと言われて。消防車側に、上に乗かって重しになって、畳ごと、近所の医院に運んだんですけども、ショック死って言ってた。で、そのまま連れて帰ってきた。主人の実家、すぐ近所なんです。歩いて2、3分で。そこにとりあえず主人運んで、私たちがそっちへ。

(避難生活の状況)

保 主人の実家は一軒屋なんですけども。しばらくは、怖いんで、中学校の体育館にいました。

子供らも怖かったみたいで。余震とかありますでしょ。体育館に4、5日はいたよね。

実家との間を行ったり来たりしてたような。寝るときは体育館で寝てたような気がするね。昼間ちょっと来たりとか。その間にお葬式出して。家のほうもすぐに取り壊して、という話があったんで、荷物を出すと言うか。後は

主人の実家の2階のほうに、何か月いたかな。

本1 1年弱ぐらい。

保 1年もいないな。狭いのもあって、このマンションのすぐ横なんですけど、文化住宅を借りて移って。

本1 当時のことは、一応、覚えてます。とにかく慌ただしかったというか。学校が始まったのが、震災あって一月ぐらいたってからでしょうね。

本2 一月も。

本1 あった。でもそれぐらいやったような気がする。電気とかガスとかって、電気はついたよね。

保 電気はすぐついた。

本2 水道も割と早く、少しは流れた

保 ガスが一番後やったな。おふろとかがちよつとね。

本1 当時のこと僕はほとんど覚えてない。断片的にはあるんですね。水道がちょっとしか出なかったとか、避難所に行って何をもらったとか、そういうのはちょっとずつ覚えてるんですけど、何をした後、何をしたらとか、そういうのが全然わからなくて。

お葬式もいつやったかとか全然覚えてないんで。内容もほとんど覚えてない。全然、わからないです。弟覚えてる。

本2 ある程度やけど、でもほんとうに慌ただしかったなというのが一番ですね。

保 避難所には、結構多かったね。割と最初のほうは、余震があったので大体いっぱいになってたかな。でも、全壊というのは少なかったんで、2、3日ほどかな、だんだん減って行って、最後までいたのは全壊のどこなんで、うちの三戸一のお隣2軒。
お隣がおばあさんと4、50代の娘さんの二人暮らしで、その隣が、御夫婦二人ですね。避難所るときは子供も何人かはいましたね。すごい寒かったんで。あんまりおれないですね。文化住宅に移ったのが1年ぐらいたってからです。

本1 私は学校行きだしたら同じ生活が始まる、という感じでした。

本2 家変わって引っ越しとかあったんで混乱はしましたけど。

保 私は新聞配達は朝して、後は家にいたんですけど。主人亡くなってからは、主人の会社のほうに入ったんで、働きだして朝出勤するようになりました。

本1 生活の変化は、大きかったですね。

本2 そうでもないよ。

保 大分おばあちゃんここでね、ご飯。

本1 学童は行ってない。

本2 僕も全然なしでしたね。

保 娘はしばらくだけ、学校入ってからね。おじいちゃんとおばあちゃんの存在大きかったですね。それまでにも近くなんで、毎日おふろもらいに行ってたんで。家族はおじいちゃん、おばあちゃん含めてみたいな感じでしたね。今は、おじいちゃんは亡くなったんですけど、大分歳なんで、甲子園の駅のほうに主人のお姉さんがいるので、今そっちへ行ったり来たりで。

(あしなが育英会活動への参加)

保 あしなが育英会には助けていただいて、お世話になりました。

本2 旅行というか、集いというか。遺児どうし集まって旅行に行くみたいなのは、年に2、3回か、大体参加したんですけど。

保 夏のキャンプと冬のスキーと。間にいろいろ、クリスマス会もあったし。今は会館が建ってますけども、最初はなかったんで、Bやったかな、保養所を借りたりしてましたね。そういう集いで、家族みんなまで参加して、後、ポートピアホテルも無料招待で行きました。私も、相談したりとか、同じような境遇のお母さんたちと、話したりしてきました。なかなかね、そういうのって話す機会がないのでよかったです。私の実家は、案外近いんですよ、大阪の西淀川なんで。そこに母親おりますし、第二人いるんで。相談というのもあれなんですけども。相手はいたんで。全然ということはないんですけども。おじいちゃん、おばあちゃんにしても、主人は一人息子だったんで。お姉さん二人いるんですけども。やっぱし、跡取りって思ってます。それで、亡くして、相当ショックだったと思います。

(母親の就業)

保 子供もまだちっちゃかったですし。そういう意味では、しんどかったですね。仕事も、新しい仕事で入ったんで。事務だったんですけども、会社に入ったことがなかったので、おたおたしてましたけどね。会社の人はいいい人だね。

本2 母は、疲れて帰ってくるわけですよ。文化住宅に行く前に、おばあちゃんのとこにいたときに、そのときは家中、結構大変なことになってたなという印象があるけど。仕事に行くようになってすごい疲れて、見るからにてんばってる感じなわけですよ。おばあちゃんが特にすごいショック受けて、泣いたりするわけですよ、何かもうみんなストレスがすごいたまっていたような覚えはありますよ。文化住宅に引っ越したときはすごい個人的にもうれしかったですね。

本2 おばあちゃんの気持ちもわかるけども、どうにもならない。

保 実家は狭いところに、ぎしっという感じがあるんで。今まで二人やったところに、4人入ってるわけなんで、スペース的にも、結構厳しいものがあるし。息子を亡くしたショックも大きいし、そういうのがないまぜになって、泣いちゃったりするんです。今まで二人で暮らしてた中、私が仕事でいないから家事全般おばあちゃんにかかってくるわけで。食事とかね大変でした。

本2 大変やけど言えない、家族の雰囲気もわかったわけで。文化住宅へ行って、スペース的にも若干広くなったかな。

保 広くなってるよ。二部屋になってるから。まあ、私もやっぱり気使うんで。仕事は地震の後、会社のほうが気を使ってくれて、なるべく早いほうがいいだろうってことで、2月15日付だったのかな。一月足らずで。私としては、春4月からぐらいのつもりやったんですけど、会社のほうが早くなれたほうがいいのか早く来てくれみたいな感じで、かえって気使ってた思ってますけど。来てくれて言われて、よかったのか悪かったのか。一月だったんで。お葬式したりとか、家の後片づけとか、何だかんだあったんで、本当にもう、毎日わーって。一杯、一杯。

本2 精神的に不安になったのは、母親が仕事に行くようになったっていうのが一番

大きかったんですね。それ以外は、不安とかもなかったような気がします。

本1 僕は大きくなってはるはずなんですけど。中学、高校ぐらいの記憶はあるんですけど、何と想ってたかとか余り残ってなくて。

保 これが5年生のときで、中学入る前ぐらいかな、ちょっと不安定やなっていうのは感じましたね。すぐ、結構怒りっぽくなって、いらいらしてるなっていう感じはして。ちょっと大丈夫かなという感じですね。それと、次男は結構太ったね。ストレスが食欲のほうに行っちゃったみたいで、おばあちゃんのとこにいてる間に相当太ったよな。

本2 あの時かな。

保 何て言うのかな、あの時は結構、余り泣いたりとかいうのはなかったんですね。私も抑えてた部分があるし、それは余りよくなかったのかなって後にして思ったんですけど。子供たち3人も、けがとかなかったんですけど、割と、お父さん亡くなって悲しいってこう、泣くとかっていうのがほとんどなかったんで、あの時は案外大丈夫なかなっていうふうに想ってたけど、考えてみると、大分抑えてたんかな。もっと出せばよかったんかなというふうに思いました。

本2 泣かなかったですね。

(子供の学生生活)

本1 4人暮らしになったときには中学生ぐらいでした。クラブは入ってたんで。

本2 学校では地震の話とかはしなかったですね、学校の中で親亡くしたのも僕だけやったんで、似た境遇の子もいなかったし、担任の先生は知ってるんで、クラスの間も大体知ってるんですよ。知ってるけど、まあ言わんほうがええんちゃうんかみたいな感じになってたんで。震災の話は余りしない感じになってましたんで。

高学年になったら、もうそういう感じやったような気がしますね。でも、全然気にしてない子というか、別に地震があっても、被害がなかった子とかいるわけですよ。地震楽しかったね、ぐらいのテンションの子も。そういう子が怒られたりとかあったのかな。何かそんなんで。同じ体験をしたにもかかわらず、影響とか、受け取り方が全然違うというのがありましたね。中学入ってからでも、地震のときどうやったみたいなのがたまに出たりするんですけど、すごい揺れて楽しかったぐらいの。

保 私はあしながのほうで、結構子供たち積極的に出てたので、そちらのほうで。出せるところがあるっていう安心感がありましたけどね、あしながの活動はすごく大きかったですね。ちょうど同じ年ぐらいの子が多かったんで、向こうで友達もできてっていう、ただ、一番下の女の子のほうは、同い年の子が少なかったんで、それも女の子がいなかった、何かちょっとなじみにくかったんでね。そういう部分でしんどかったですね。一番下のは。集いとかも一人で参加するのって不安じゃないですか。知らない子ばかり。男の子二人は年も近いし、二人で参加したら同じ部屋に行ったりとかもあるわけ、同じ行動なんで参加しやすいですけども、下の女の子は一人なんで別になっちゃります、男女別、部屋も別になってしまう。あの頃はいろいろどこかの県で誘われて、募集があって、旅行とかゼミとか、あしなが以外にいろいろあったんです。気晴らしになるかなと思って、参加するようにしてたんですけどね。一回、船で二泊三日のがあって参加したんですけど、孤立してしまっただけで、かわいそうやった。後から話聞くと、一人で行ったんですけど、かえってよくなかったな、みたいな。あしながさんは大丈夫やったんですけどね。今まで、交通遺児とか扱ってらっしゃるんで、対応の仕方っていうのをある程度配慮して、一人にさせないというのがあったんですけども、ほかの分だと、なかなかそこまで行き届いてない感じがあったのでね。誘われたのはどこかの県やったと思うんですけど。震災遺児ばかりだったと思うんですけども。そういうノウハウっていうのは大事なかなと思います。指導したり、一緒に行ってくれる人の力量で、できてないとかえってつらい。帰ってきたときの様子を聞くと、つらかった。3日間しんどかったなって、ばーっと自分出してだれとでも仲よくできる子はいいですね。私は、今もずっと仕事を16年続けています。仕事はよかったと思っています。

(ウガンダでの活動)

本2 あしながの活動は高校生2年生のときですね。アフリカのウガンダです。それはすごいよかったです。これは、誘われたんです。職員の方で、こういう活動してるからというんで、よかったらやってみないかっていうので誘われました。それでせっかくなから、なかなかできなさそうですし、1週間行きました。よかったなというのは、海外に行くのがそ

もそも初めてだったんで。英語圏やったんですけど、何とか、学校で習ったことやとかで、ぎりぎり、わからんなりに、ある程度話せたんで、そういう意味でコミュニケーションができたっていうのがよかったですかね。あと、全然知らない国に行けたというんで、ホームステイとかもさせてもらったんですけど。向こうの遺児家庭の家に一泊か何か、そういうのだったんですけど。生活が全然違いました。ジャングルみたいな中にある木がいっぱい、うっそうとしてるような熱帯雨林みたいな中の、ちょっとした村みたいなところで。子供はいましたね。地震ではなくて、エイズの遺児がたくさんいる学校で、その支援であしながが行って活動を始めてたんですけど、向こうに建物を建てるというので、募金活動を始めて、その募金の呼びかけ人みたいなことでやってたんですけど。あしながには、小学校の頃から、高校終わるぐらいまでずっと行ってましたね。

(あしながのヘルパー体験)

本1 僕の場合は大学行ってからです。高校まではずっと受ける側だったんですけど、大学生になったら今度ヘルパー側にまわっていくんで、子供らの相手をしたりとか、プログラムを企画したりとか、しばらくはやってましたね。やってみようと思ったのは、今までやってもらった分どっかで返さなあかんというのが一番で、なおかつ、弟のほうやらなかったんで、そっちのほうへまわらなかつたんで、その分もいっしょにやらなあかんのかなっていう感じでやってましたね。

保 あしながは二人にとってよかったですね、お友達もできたし。

本1 ヘルパーをする際気をつけたことは、子供達に普通に接するように頑張っていましたけど。下手につくらんと、あるがままに、つきあっていくというのが大事ななって思っていましたけど。何か特別扱いみたいなのはしない、自分がされたいややつたんで、できたかどうかわからないですけど。

保 すごい成長でしたね。募金活動もやって。弟のほうは広報のお手伝いということです。

本2 結構いろいろやってたもんで、あの時は。ある程度やって、しんどくなっちゃった。広報でもうこんだけやったんやからええやろと思って。ウガンダ行ったことは、すごい大きいプラスですね。

保 大丈夫かなって、急に決まったし。予防接種がぎりぎり。いっぱい打ちましたね。

本2 一人で行くわけでもなかったし。大学生の同じような呼びかけ人みたいな方と、4人で行ったのかな。それまでもいろんな集いとかで連れて行ってもらってるんで、特別不安とかはなかった。海外が逆に初めてやから、なめてたみたいな。殺されることはないと思って。

(ストレスの発散)

本1 当時相談相手とかはいなかったような気はしますね。何か、暴れてたっていう。

保 そこがはげ口なんですよ。

本1 特に何かたまってたんかなって思いますけど。

保 壁たたいたり。

本1 覚えはないですけど、たまってることがあったんかもしれないですね。直後はなかったですね。そういう、相談できるみたいな。何をどう相談していいかっていうのもわからないし。

保 家で、お父さんの話は余りしなかったかな。最初の頃は本当にてんばってたと言うか、よよっと泣いちゃうと次の日仕事に行けない。みんなこう、きっちきちっていう感じは。張り詰めた感じがありましたね。

本2 自分がこういうふうに思ってたつらいみたいなのも自分でよくわからないんで、何か大変な感じっていうのはあるんですけど。毎日学校行って、帰ってきていうので、とりあえずそれで精いっぱいと言うか。

保 あしなが行ったときに、どう思ってるかなんて突き詰めて話を聞いて割と吐き出すっていう作業をしてくれたんで、家では特にしなかったですね。もっとしてればよかったかなって思いますね。相談と言ってもつらいだろうなと思っちゃうんですよね、話をしても。楽しい話じゃないですからね、自分が聞かされてもなあっていうのが。受けとめるほうも、解決策があればいいけど、話すだけでも違うっていうのは聞くんですけども、話されるほうも、気分悪いや

らなって思っちゃうとなかなか話せない。こういう聞き取り調査みたいなのがもうちょっとあったほうがよかったかなっていう気がしますね。話すのいやって言う人もいるでしょうけど、なかなか機会がないと話せないというのもあるので、とりあえず聞いてもらおうとちょっと出せるかなっていう、整理、自分の中でできるかなっていうのがありますけどね。そういう意味で聞き取り調査、全然なかったですもんね。

本2 自分が何を思ってるかなんて理路整然としゃべるのは無理でしたね。あしながさんも、そういうプログラムで話したりとか、自分はどう思っているのかみたいな、考える機会与えたり、逆に言ったらそこでしかなかったとか。

本1 壁たたくということも一つには、ストレス発散やね。

保 なるべく早くそういう吐き出す作業っていうのが大事かなっていう感じですね。親も我慢するところ我慢してる。子供って結構気を使ってるんだなあって思いましたね。わからないようにすごく気を使ってる。だからもっと吐き出してやれば。突然なんで、実感がなかなかわかなかった。現実感が。特に生活ががらっと変わったんで、ふだんと全然違いますでしょ。本当に現実感なかったんで、受けとめるっていう、急にいなくなっちゃったんで。けがとかもしてなくて、普通に生活してると、主人がいなくなったっていうのが、ひょこっと帰ってきてもおかしくないという、きのうまで元気やって、亡くなるなんて想像もしてないでしょ。すごい丈夫な人でしたから。できることするしかない、目の前のことするしかないっていう感じなので。何か現実感なかったですね。

本1 今も僕はないですけどね。何か、突然いなくなっちゃって帰ってくるっていう感覚じゃなくて、もとからいなかつたような感覚ですけどね、僕からしたら。いなくて当たり前っていう感じでしたから。前からそうだった。

(支援金等の活用)

保 義援金とか、経済的な支援は震災後たくさん受けました。育英資金とかもそうですし、学校、学費免除とか、ライオンズクラブの支援金、結構たくさん受けました。経済的には、大黒柱がいなくなっちゃって、自分が働かざるを得ないですよ。年金とか、生命保険とかがあったので大分助かりました。こ

この家を購入できたんですけども、それがなかったらずっと途方に暮れてたと思います。住むところも。

この家を買ったのは、A市場があって、震災の前から取り壊してマンションが建つというの聞いてたんですよ。市場も老朽化して。震災で倒れたわけではないんですけど、生活圈変えたくなくて、学校とかも変えたくなくて、自分が働きに出るので、近所の知った人、おばあちゃんとも近いんです。ここが建ったら買おうっていうの、すぐ決めて。震災3年後ぐらいかな。

本2 私が小学生やから。

保 おばあちゃんの家に1年ぐらいいて、文化住宅にも1年ぐらい。建たら、すぐ入りましたね。

本1 中学校は文化住宅から通ったような気がするけど。ちよっと覚えてない。高校はここから通ってた。

保 あの辺の記憶が本当にあやふやで。住むところは、保険があったので、大丈夫だったんですけども。それがなければ、もう大変だったと思います。同級生のお母さん方とか、全然知らなくてつながりがないと、子供の様子も全然わからないじゃないですか。特に親しい人は余りなかったんですけども、何かあたら教えてもらえる。顔見知りだから、見てもらえるっていう安心感がありますから。もし、おばあちゃんとこがなくて、何もなければ、実家のほうとか行かなくちゃいけなくなりますもんね、頼るところがなければ。仮設は、公園にありましたから、この地元でていうのが大事やと思いますね。仮設で遠いとこ移っちゃうと、本当に大変って聞きますもんね。

仮設に入るかなっていうのもあつたんですけども、おばあちゃんたちに反対されて。

家があるのに、そんなみつともないとか。

(諸手続のこと)

保 行政とかじゃないんですけど。結構あつたのが、預金を、亡くなったときはすぐ引き出すていうのを聞いてたんでね、うちの母親が、おじいちゃんか何かの預金、後で引き出すの大変やつたと言うの聞いてたんで、それは出したんですけど。一件、株の投資信託で主人の名義の分があつて、忘れてたわけじゃないんだけど、満期になったんで引き出そうと思ったら、手続がややこしいんですよね、亡くなっ

ちゃうと。子供の取り分もありますでしよ。金額は、言うほどはなかつたんですけども、子供の後見人を立てて、手続をしなくちゃいけないて言われて、すごく大変でしたね。

主人の名義なんで、私一人のじゃなくて、子供各一人ずつ、後見人を立てて、署名して、その書類の書式もわからないんで、簡易裁判所かな、行って、書いてきてくださいつて。わからない、すいませんが教えてくださいつて言つたら、こういふうにして書いてくださいつていうひな形をくれたんですけどね。まあ、何と面倒くさいね。

あれ、もうちよっと何とかならないかつて思いましたね。ひな形あつて、ぱぱと書けるようなんだつたらいいんですけど、それもなかなか出してくれなくて。それを銀行に申請するのが、仕事行つてると休みを取らないといけないいんで。休みを取るのもなかなかね。3人いるとそれぞれ、子供小さいと学校のほうの行事あるんで、それで休み使っちゃいますでしよ。なかなか休み取りにくい。

(精神保健医療の充実)

保 行政に対しては、カウンセリングのほうかな。二人はあしながで、よかつたんですけど、下の子が、しんどかつたんで。当時、相談窓口が余り分らなくて。下の娘の場合は、精神的にしんどくなつて、18で亡くなつたんですけども。16から不登校で、精神的なケアって言うんですかね。病院も行きましたし、何度も自殺図つて、紹介してもらって行つたりしましたけど、そういうのすごいおくれてるなつて思いましたね。結局、自殺してしまいましたけども。

C病院に行って、治療かしたんですけどね、青春外来あるからつて言われて、D大も行つたんですけども、D大に一日かけて行って、「うちに来られても入院もできませんよ。」みたいな断られ方つていう、「青春外来、そんなんありません」みたいな、言われ方だつたんですね。

精神病って言うか、そういう治療すごいおくれてるつて思いましたね。一生懸命受けても、結局、だめでしたから。入院もするところも限られてるし、大変やつたんでね。

小学校の高学年ぐらいから、ずつと休みが続いて、中学には行つてましたけども、結局高校は、通信でしたけども行けずに。

急には進まないんですけどね、だんだんと薬飲みだしたりとか、リストカットしたりとか、家出したりとかつていうのがあつて。病院にかかつたけれども、だめで、自殺を図って、何度かして、大けがして、入院して、退院しても結局だめでした。震災直接ではないんですけども、やっぱし、いろいろあつたのかなつて。

大分前から原因があったのかなって思はずっとあります。思いますよね、やっぱし娘にもそういうケアがもう少しあればなあって、あの子にももうちょっと吐き出す場があればなあって。それだけではないんでしょけどね。すぐではないんで。後からだんだん、いろんな問題が出てきたんですけどもね。
あの子も、みんなね、大変やったもんね。

本2 一番大変やったんはお母さんやね。

保 最初は、そんなことなかったんですよ。小学校のときは普通に元気に行ってたんで。気がつかない。何か悩んでるんやらかとか思ったのは、高学年、中学校のあたりですかね。病院行きましたね。最初は近所の先生にかかって、薬もらったりしてましたし、C病院に行ったのは、薬たくさん飲んで、結局、救急車で運び込んで、だめかと思いましたがね、いっぱい飲んで。
中学卒業してからですよ。

(娘の死)

保 18歳で亡くなったんですけど、その前1年間ぐらいはちょっと、薬を飲んで、病院に運び込んだのが1回、2回かな。で、1回はマンションから飛びおりましたんですけど、屋上から飛びおりて、奇跡的と言うか、助かったんですよ。助かって、D大に救急のところまで一月ぐらい入ってたんですけどね。その前も、自殺のおそれがあるので、薬飲んだりとかして、結局、神戸の病院紹介してもらって、入院しばらくしてたんですけど、そこも2、3カ月、本人はおるとか言って入ったんですけど、結局、1週間かそこらで退院してきてしまって、それから飛びおりて。それで助かって、薬をいっぱい飲んでたんでね、治療のための薬、だんだんきつくなって、性格変わっちゃみたいなの。
薬の影響というのもあったんで、ちょっと怖くなったんですけどね。飛びおりして、D大に入ってるときは、精神的な薬を全部飲まなかったんで、治療の薬があっただけ。もとに戻ってる感じがあったんですけども、退院してきてやっぱり、体が案外、飛びおりの割には元気で。骨折したんかな。腕の骨折と、腰の骨折、脾臓は破裂で、脾臓ってなくても大丈夫やったみたいで、本人も出てきて、しばらくしたら松葉づえで歩ける。本当に驚くぐらい、体力的にはすごい丈夫な子やったんで。一月ほどで退院できてね。これからまた、やり直してできるかなって、薬も抜けて、もとの性格が戻っ

た感じがして、やれるかなって思ってたんですけど、結局、しんどかったみたいで一月ぐらいで、今度は自分の部屋で、首つって。私ももっと調べていろいろ行けばよかったのかなあと思いますけど、あの当時は、一生懸命、精神科も受け、いろいろしたんですけども、結局、これっていうケアはなかなか受けられなくて。

D大でも、体の治療と同時に精神的な治療も受けるっていう体制があればもう少しと違うかったと思いましたがね。

そういうのは全然なかったですし、「はい、退院してください」という感じで。救急のところに入院させたんですけど、本当はもっと入院させておきたかったというのもあるんですけど、近くに自殺のおそれがあるのを受け入れてくれているところがなかなかなくて、遠いところも紹介されたんですけど、娘がじゃ、帰るって言って。そっち行ったほうがいいかなって言ってたんですけど。ずーっとそばにいてやれるっていうのできないですし、もしも、おつてもどうかなって、本人元氣なんだろう、外とかも行きますからね。何がどうなるかわからんですけど。本人は、D大に入院している間は、すごい落ちついてましたけどね。

施設がもっと充実してほしいなあとは思いますがね。親が何か思っても、どこをどうしたらいいかっていうの難しいですもんね。

通ってても見つけれない。

相談したときに、そこでだめだったら、ほかにというような話がほしかったですね。悔やまれますね。何かができるっていうことでもないような状況だった中で。

本2 そうですね。どうしていいのかよくわからないっていうのが、いろいろしているんですけど、状況がよくなっていかない。

どうなんだろうっていうのもあるし、何が起こったのかっていうのも、病気なのか、何なのかっていうのも、病院に行ってもだめだというのやったら、どうしたらいいのか。

保 カウンセリング、勧めてもらったんですけど、本人、もう受けないっていう。

無理に受けさせたらどうなのかな。だから精神の医療も行ったんですけど、やっぱり先生との相性というのは大きいんで、3、4ヶ所行きましたけども。タイプによって違うみたいでしたから。次男も、やっぱりちょっと精神的に不安定な時期があったんで、通ったりしてたんですけど。お兄ちゃんよかったから、その子もいいっていうわけでもないし、医者との相性とかもありますしね。

タイプがありますから。難しいですね。これっていう、一つに決められないみたいなの。体のほうだったらすぐわかりますけど、後か

ら出てくるっていうのもあるのかなって精神的なものは難しいです。
震災での、主人のほうは何とか乗り越えたかなっていう気はしますが、娘が亡くなったっていうのは、なかなか難しいですね。主人のときは、子供たちもいるし、気張って頑張りぬいたみたいな気持ちもあるけども、また違いますね。
亡くなって丸3年になります。

(現在の家族の様子)

本1 今3人、家族でそろう時間は結構あります。

保 一緒に家で御飯食べて、テレビ見たりっていう時間は夜に結構あります、3人で。今は、気持ちの面でも3人でばらばらになったりとか、割とないです。
娘のことは、話さないことはないんですけど。

本1 ちょくちょくって言うか。

保 時間はかかりますよね。
亡くなって、10年ぐらいは気持ちの整理にかかりますかね。

本2 僕は何とも言えないけど。

保 お父さんの方は。

本1 またちょっとパターンが違うと言うか。震災の時は、災害やから、どうしようもなかったわけやけど、今回の場合は、何とかできる余地があったというか、でもまあ、やれるだけのことはやったのかな、みたいなものもあったし、自分の場合やけど。出来る範囲のことは、やれたとは思いますが、でももっとやり方あったのかな、何かしたらよかったのかなというのがあります。

ああしたらよかったのか、こうしたらよかったのかっていうのもやし、歯がゆかったのが大きいですね、それだけ病院行ってもあかんのかなっていうので。やってないわけではないし、むちゃくちゃ頑張っていたんですよ、その時、思うんですよ。

保 その時は一生懸命やってたんだけど、後から考えたらほかのやり方があったのかなっていうことですよ。

本1 でも、しょうがない。

保 しょうがないっていや、しょうがないですけど。

本1 ここでどうしたらいいんだみたいなのはあったけど、でももう、どうしたらいいかわかんからとりあえず任せよみたいな感じになってたし。

保 そうですね、何をすればいいのかっていうとね、なかなか。
小さいときは管理できますけど、ある程度年齢になると、インターネットとか、わからないですから、怖いですよ。だから薬とかもそういうの通じて、本人勝手に取り寄せたりしてましたのでね。すごい怖いですよ。この頃携帯だめっていうわけにいかないし管理なんかできませんよね。
職場へ行ってもそういうことは話せないですね。難しいですね。
話してどうなるっていうものではないですし、今さらっていう感じ。
集いの記事は見て思うことはあるけど、そこ行つてというところまでは、まいりかなって。

(今後の生活設計)

本2 僕は就職ですね。今、就職活動中です。肩身が狭い。

本1 僕は、将来の展望は、前から全然なくて。これがやりたいとか、あれがやりたいとか、結婚したいとかなくて、困らせてるんですけど。何かしたいわけじゃないんで、だれにも迷惑かけん程度に稼いで、無難に過ぎていけばいいのかな、ぐらいですね。何かやりたいこととかあればいいんですけどね。なかなか見つからない。
マイナスに考えることはないですね。淡々と生きてるっていう感じがずっとしてますね。人生観なんですかね。楽しいことするためにがんばらなあかんとか、それが全然なくて。別にそういう方向性出さへんでもいいんじゃないでしょうかね。

結婚とか、どう思ってるかしらないですけど。別に、いいんじゃないと思うんやけど。

保 息子達には普通に結婚して、自立してくれるのを一番望んでますけど。就職が決まって、結婚して、それぞれが、自立していつてくれればね、それだけです。

仕事もできれば、定年まで続けて。まあ、自分で楽しみを見つけて。

震災からこっちはそうですね。やり残しがないように。

趣味はいろいろあるんですけど、やりたいことは我慢しないでやろうっていうふうに。

本1 山行つたで、最近。

保 山の方はスキーに。スキー初めて。初体験。

スキーやってみたいなって思って。とりあえずやってみて、おもしろかったです。息子二人と三人で。ハチ北のほうへ楽しかったです。

本2 私らもまあ、それなりに楽しかった。

保 私が行こうと言ったんですけど。

本2 やったことないって言ってたんで。いいんじゃないかっていうふうに。私らはあしながのでやったんで。それと修学旅行とかでも。

保 やりたいと思ったことは、明日どうなるかわからないっていうのがあるので、できるときに。今大事にしないとね。
三人揃って居れるのもあと何年かわからないので。とてもよかった経験でしたね。

本1 母がにこにこ元気であるっていうのは、私たちにとってもとても心強いですよね。

本2 県に対して要望としては、病院の件があります。もし、これで何か変わったりしたら、それはすごいありがたいと言うか、あったらありがたいですね。

保 あしなが育英会みたいにせっかくそういうノウハウを持ったところがあるので、それがね広がっていくといいですね。
私の場合は、割と就職とか、住むとことかは恵まれてましたけども、あしながで一緒にいるお母さん方は、就職とか大変みたいですからねえ。経済的にも大変みたいです。

うちはまだ恵まれてるなっていうの、感じましたけどね。けがもなかったんで。主人は亡くなったんですけど。ほかの、足けがされてっていうとこ、すごい大変そうでしたし。

ずっとけがを引きずっているような後遺症とか。話し聞いてたら、ひきこもりになったとか、うちはちいちゃかったんですけど、ある程度の中学、高校ぐらいで震災にあって、そのショックっていう方も結構いますから難しいみたいです。そういうときに、対象外って言うんですか、ある程度大きくなると。難しいですよ、その遺児っていうのが、18までとかなってしまると、中途半端な、18、19、大学生ぐらいはもう大きいから大丈夫だろうっていうふうな、じゃないですよ。その辺が。線引きっていうか、やっぱり一番不安定な時期やと思ってね。子供のケアも大事ですけどね。

(被災者支援)

保 途中から、だから、あしながのほうで出てこられる方は大丈夫だと思うんですね。そうやって、仲間ができて、お互いにね、話してっていう。出て来れない所はやっぱ、あしなが以外のそういうようなケアは行ってないんじゃないかなって思いますよね。出てこないことにはね、強制的なわけじゃないんで、ケアのしようがないですから、訪ねていって話聞くというのがあればいいですけど。あしなが以外でそんなの。

本1 めったにないと思うけどな。

本2 なかったような。

保 ないですね。だからそれでもれてしまうと、うちはずっとここにいるからまだいいですけど、他県に行ってしまうとかっていうと、全然、奨学金もないですし、もともと奨学金があっても、学校のほうでも、ちゃんと紹介、うちは割と紹介してもらって、若葉奨学金も受けましたけど。ほかの方も聞いてると、受けてない、知らないとか、ある程度、震災直後はまだいきわたってますけど、何年かして、上のほうになってくると、先生方もご存じない、ちゃんと把握してない、担任が変わるってちゃんと引き継ぎできてないとかいうの聞きますから、そういう面で年が経てば経つ程薄れていくんでね。

そういうのがあったと、引継ぎが出来ればいいですけど、出来ていないと漏れてしまう。

(震災の影響で不便だったこと)

保 回りでもこの辺は被害はまだ少ないほうなんでね、神戸とかと比べると。震災直後でも私、甲子園なんて行ったら普通だったんでびっくりしたんですけどね。一週間ほど体育館おりましたでしょ、で、その間にうちは、家が全然だめで、靴とかも全部埋まっちゃったんでね、取り出せないんで、甲子園のスーパーに買いに行ったんですよ、服とか。もう普通ですもんね。だから、すごい落差を感じまして。ええって思いましたね。普通やって。

みんなと同じ状況でいるのと違いますよね。避難所にいるときは配給もちゃんとあったし、そういう面では余り不便はなかったですね。

本2 学校は、ほかがどうかかわからないんですけど、特になかったように思いますね。担任も知ってましたし、特に不自由はなかったように思いましたね。

(回りの人からの期待)

本1 学校でどうこうというのはなかったですけど、当時思ってたんは近所の人らから、震災やったから頑張りやっというのをよう、聞かされて、おばあちゃんとかからも、普段よりもしっかりせなあかんとか。

プレッシャーがすごいついていうことと、何か変な事出来ない。下手な事出来ないなっていうか、目立った事が出来なくなるって言うか。何かあったら震災があったからだなっていうふうに言われるのはいややし、特別な子って思われるのはすごいいややなって思いますし、どっかに相談に行くのは、あったっていうの知ったとしても、そこに行くっていうのがちょっと抵抗があるじゃないですか、行きたいと思ったとしても。必要な人ほど行かへんっていうのはずっと思ってた、ヘルパーしたときとかも、来ている人はまだ全然いいけども、来てない人ほど深刻なんやなっていうのをずっと思ってた、だから、行政の話やないですけど、そういうところがあるだけやなくて、そこから行ったほうがええかなっていうふうに思いますけどもね。出てくる人らはまだ大丈夫やと思います。

保 本場にきつかったら、なかなか行けないわね。

本2 一番多いのはそういうとこですね。

保 あしながさんはすごいローラー作戦で、今のとこ訪ねてきて、探したっていう、今うるさいでしょう。個人情報。個人情報がもうちょっと何とかならんかなって思いますよね。

保 あしながさんが来られて、全然そういうの知らなくて、主人のほうの実家にいるときに、探して、訪ねてこられて「来ませんか」みたいな。「そんなんがあるんですか」っていう感じですね。じゃあ、そんなんあるんなら行ってみよかっていう。それで出向いていったから、きっかけができたっていうことです。

本2 そもそも知らないし。

(今行っている地震対策)

保 地震対策は、余り、今のところには。

本2 寝てるところに置かないとか。

保 ありますけど、とりたてて、言うことはないですかね。

本2 このマンションが崩れる地震やったら、もう対策してもだめかと思っている。

本1 家具倒れても大丈夫かな。